

Oracle® Balanced Scorecard

管理者ガイド

リリース 11*i* for Microsoft Windows

部品番号 : B15942-01

2005 年 4 月

Oracle Balanced Scorecard 管理者ガイド, リリース 11i for Microsoft Windows

部品番号: B15942-01

原本名: Oracle Balanced Scorecard Administrator Guide, Release 11i for Windows

原本部品番号: A95236-08

原著者: Claudia Castro

原協力者: Christine Monk, German Arcinegas, Manuel Puyana, Patricia Perdomo, Henry Camacho, Kris Sudharsan

Copyright © 1999, 2004, Oracle. All rights reserved.

制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかるとして使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（*redundancy*）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle は Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。その他の名称は、Oracle Corporation または各社が所有する商標または登録商標です。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

目次

はじめに	ix
このマニュアルの構成	x
ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティについて	x
外部 Web サイトのドキュメントのアクセシビリティについて	x
その他の情報のソース	xi
インストールおよびシステム管理	xii
研修およびサポート	xiv
データベース・ツールによる Oracle Applications データの変更の禁止	xiv
オラクル社について	xv
 1 概要	
情報の参照先	1-2
 2 BSC 設定	
BSC 設定へのログイン	2-2
データベースの設定	2-3
システムの構成	2-3
新規システムの追加	2-4
APPS データベースの登録	2-5
システムの変更	2-5
システムの削除	2-5
システムの移行	2-6
データベース・リンクの作成	2-6
移行の実行	2-7
OBSC セッションの管理	2-9
セッションの監視と終了	2-9
 3 パフォーマンス管理デザイナー	
パフォーマンス管理デザイナーの概要	3-2
ロール	3-2
構成	3-3
以前のリリースからの変更点	3-4
モジュール別の機能詳細	3-4
用語	3-11

スコアカード・システムの設計の概要	3-13
概念から戦略へ、戦略から設計へ	3-13
設計からプロトタイプへ	3-14
プロトタイプから本番へ	3-16
スコアカード設計時の考慮事項	3-16
アーキテクトとの同期化	3-16
設計プロセスでの含意	3-17
エンド・ユーザーにとっての含意	3-17
パフォーマンス管理デザイナの使用	3-18
パフォーマンス管理デザイナへのログイン	3-18
スコアカードの作成	3-19
スコアカードの内容の更新	3-25
スコアカード・ビューとカスタム・ビューのスコアカード別構成	3-30
カスタム・ビューの作成と更新	3-31
カスタム・ビューの作成	3-32
カスタム・ビューの構成	3-34
カスタム・ビューへの指標、ラベルまたはカスタム・ビュー・リンクの追加	3-35
カスタム・ビューへの起動パッドの追加	3-37
KPI ライブラリの定義	3-46
KPI デザイナの概要	3-46
KPI デザイナへのログイン	3-47
KPI グループ	3-48
KPI グループの作成	3-48
KPI グループの更新	3-48
KPI グループの削除	3-48
KPI グループの作成と変更: アーキテクト	3-48
グループ・プロパティの編集: アーキテクト	3-50
グループの削除: アーキテクト	3-50
KPI	3-51
KPI の作成	3-51
KPI 作成の概要	3-51
単一系列 KPI の作成	3-52
複数系列 KPI、シミュレーション・ツリー KPI および損益 KPI の作成	3-52
KPI グループ内の KPI のコピーと移動: アーキテクト	3-54
ソース・システムからの KPI のコピー: アーキテクト	3-55
KPI のプレビュー	3-56
What-If シミュレーションの作成と構成	3-56
シミュレーション・ツリーの作成: アーキテクト	3-57
損益指標の構成: アーキテクト	3-62
KPI の更新	3-64
KPI の主要属性の更新	3-64
KPI のディメンション・セットの更新	3-65
KPI のカラー・プロパティの更新	3-66
指標のカラー・プロパティの構成	3-66
パフォーマンス管理デザイナの KPI デザイナ・モジュールにおける KPI のカラー・プロパティ の定義	3-66
カラーしきいの定義	3-69
指標のプロトタイプ・カラー定義の定義	3-70
警告カラーのカスタマイズ	3-72
KPI カラー・ドライバおよびデフォルト・メジャーの変更	3-73

複数系列 KPI、シミュレーション・ツリー KPI および損益 KPI の更新	3-73
複数系列 KPI の更新	3-73
シミュレーション・ツリー KPI の更新	3-74
損益 KPI の更新	3-75
KPI の削除	3-77
KPI へのメジャーの追加	3-77
KPI のメジャー構造の決定	3-77
メジャー・リポジトリから KPI へのメジャーの追加	3-79
KPI に追加したカスタム・メジャーの更新	3-82
メジャー選択の変更	3-82
複数系列 KPI のメジャーの更新	3-83
ネストした分析グループに属しているメジャーの更新	3-84
シミュレーション・ツリー KPI の更新	3-85
損益 KPI の更新	3-86
Oracle E-Business Intelligence Suite のメジャーの更新	3-87
指標からのメジャーの削除	3-88
ネストした分析グループの作成:アーキテクト	3-88
分析グループの作成	3-89
分析オプション	3-89
データ系列の作成:アーキテクト	3-90
KPI メジャーへのディメンションとディメンション・セットの割当て	3-91
KPI のカスタム・メジャーへのディメンションの割当て	3-91
KPI 用ディメンション・セットの作成と変更	3-93
カスタム・メジャーへのディメンション・セットの割当て	3-95
複数系列 KPI でのカスタム・メジャーのディメンションの更新	3-96
分析グループによる KPI 内でネストしたカスタム・メジャーのディメンションの更新	3-96
シミュレーション・ツリー KPI でカスタム・メジャーに使用するディメンションの更新	3-97
損益 KPI でカスタム・メジャーに使用するディメンションの更新	3-97
KPI で E-Business Suite のメジャーに使用するディメンションの選択	3-98
E-Business Suite のメジャーのディメンション・オブジェクトの表示または非表示	3-99
E-Business Suite のメジャーのグラフ表示とカラー設定に使用するデフォルトの ディメンション・オブジェクトの設定	3-99
E-Business Suite のメジャーのデフォルト・ディメンションに対する「表示別」の設定	3-100
E-Business Suite のメジャーのディメンションの特性表示	3-101
KPI の追加属性の定義	3-101
グローバル KPI 設定の定義	3-101
活動期間	3-102
カレンダーの定義	3-103
カスタム・カレンダーのプロパティの変更	3-104
カスタム活動期間の構成	3-105
カスタム活動期間のプロパティの変更	3-110
BSC アーキテクト -KPI デザイナにおける KPI 計算の定義	3-112
KPI に対する計算の有効化	3-113
「ユーザー・ウィザード」メニューでの「期間累計」計算	3-114
デフォルト入力方法としての「年累計」計算	3-114
ベンチマーク	3-114
会計年度と会計月	3-116
原因と結果	3-117
カラーの構成:アーキテクト	3-118
警告カラー	3-118

142% を上回るカラー感度の定義	3-123
100% を上回るパフォーマンスの表示	3-123
142% を上回るカラー感度の定義	3-124
評価およびコメント機能	3-124
評価とコメントの削除機能と編集機能	3-124
単一のコメントおよび評価の削除	3-125
コメントおよび評価のバッチ削除	3-125
コメントと評価の更新	3-127
指標のディメンションのキー項目の定義	3-127
その他の KPI プロパティの定義: アーキテクト	3-128
ユーザー・ボタンの指定	3-128
ユーザー・ウィザード	3-129
指標のカラー・プロパティの構成: アーキテクト	3-132
リンクの定義: アーキテクト	3-134
Excel へのエクスポート	3-136
見積: アーキテクト	3-136
KPI での予測の無効化	3-136
カスタム・ヘルプ	3-136
マスター指標と共有指標の変更	3-138
パフォーマンス管理デザイナーにおけるメジャーとディメンションの作成	3-144
メジャーの作成	3-144
メジャー定義関連の定義	3-144
「メジャー・デザイナー」へのログイン	3-146
メジャーのリスト	3-146
新規メジャーの作成	3-147
メジャーの主要属性の作成	3-148
メジャーの追加属性の作成	3-148
アクティビティ	3-149
メジャーへの総計メソッドの割当て	3-150
メジャーの予測メソッドの定義	3-151
メジャーのプロトタイプ値の定義	3-152
メジャーの書式の定義	3-153
メジャーの軸タイトルの定義	3-153
メジャーのスケールの定義	3-154
メジャーの計算の定義	3-154
「期間累計」計算について	3-155
メジャー・フォーミュラの作成	3-161
総計メソッドとフォーミュラ	3-162
総計メソッド	3-163
フォーミュラの作成	3-164
メジャーのデータ・ソースの更新	3-166
データ・ソース・グループの作成	3-167
メジャーのプロパティの更新	3-167
ディメンションの作成	3-168
用語	3-168
ディメンションの作成	3-168
ディメンション・オブジェクトの作成	3-169
ディメンションへのディメンション・オブジェクトの割当て	3-172
ディメンション・オブジェクトの更新とディメンションへの割当て	3-172
ディメンションの更新によるディメンション・オブジェクトの組み込み	3-172
ディメンション内のディメンション・オブジェクトの更新	3-172

ディメンション・オブジェクト関連の更新	3-173
ディメンション・オブジェクトの移動	3-175
スコアカードの追加プロパティの構成:アーキテクト	3-176
その他のシステム・レベル・プロパティの構成	3-182
一般システム・プロパティの定義	3-182
システム名の編集	3-182
システム・イメージの構成	3-183
システム通貨の定義	3-184
パフォーマンス計算の定義	3-184
円グラフに表示するスライス数の定義	3-185
円グラフに表示するデフォルトのスライス数の設定	3-185
要約レベルの定義	3-185
「詳細表示機能」の有効化	3-186

4 メタデータ・オブティマイザ

メタデータ・オブティマイザと設計プロセス	4-2
メタデータ・オブティマイザの構成	4-2
構成オプションの設定	4-2
保留中のアクションについて	4-3
最適化モードの定義	4-4
メタデータ・オブティマイザの実行	4-5
増分結果文書:mdresult[n].txt	4-5
表構造文書:system[n].txt	4-7
入力表の名称変更	4-9
文書の生成	4-10
データ・フローまたはダイアグラム文書:systree[n].xls	4-10
表の移入	4-11
概要	4-12
BSC の計算機能	4-12
通常の計算済 KPI	4-12
事前計算済 KPI	4-12
実績データとベンチマーク・データに使用する個別の積上表	4-13
マテリアライズド・ビュー	4-14
マテリアライズド・ビュー・アーキテクチャの有効化	4-15
メタデータ文書	4-16

5 BSC ローダー

BSC ローダーの使用	5-2
BSC ローダーへのログイン	5-2
ディメンションの保守	5-2
ディメンション値、入力表の順番によるロード	5-2
ディメンション表の保守	5-2
ディメンション値の表示と更新	5-2
ディメンション・オブジェクト表へのディメンション値のロード	5-4
ディメンション・オブジェクト表のデータ・ソースの定義	5-4
ディメンション・オブジェクト表へのデータのロード	5-6
ディメンション・オブジェクトのロード結果の表示	5-7
ディメンション・オブジェクトに関する無効なレコードの表示	5-7

BSC 入力表のロード	5-7
入力表のデータ・ソースの定義	5-9
入力表へのデータのロード	5-10
入力表のロード結果の表示	5-11
入力表に関する無効なレコードの表示	5-11
Excel ファイルからのディメンション・オブジェクトおよび入力表のデータのロード	5-13
ディメンション・オブジェクト表と入力表の自動ロード	5-14
カレンダーの保守	5-15
データの削除	5-16

6 BSC の移入と配置

BSC への実績データのロード	6-2
実装システムの作成（実績テスト・データを使用）	6-2
実装ステージでの KPI の更新	6-2
本番ステージでの KPI の変更（実績本番データを使用）	6-3

7 セキュリティ管理者

セキュリティ管理者の概要	7-2
職責の定義	7-2
スコアカードへのアクセス権の付与	7-2
グローバル・リスト値	7-3
ディメンション値のフィルタリング（グローバル・リスト値）	7-3
ディメンション値のセキュリティ（項目値）	7-3
KPI のセキュリティ	7-3
セキュリティ管理者の使用	7-4
セキュリティ管理者へのログイン	7-4
セキュリティ・モジュールの概要	7-4
「セキュリティ」画面で使用可能な機能	7-5
スコアカードへのアクセス権の管理	7-5
スコアカードへのアクセス権の付与と取消し	7-5
アクセス有効日の設定	7-6
スコアカードへのアクセス・レベルの設定	7-7
指標へのアクセスの管理	7-8
スコアカード・アクセス詳細	7-9

A Oracle Applications のセキュリティ

Oracle Applications における職責とユーザーの定義	A-2
--	-----

B コンカレント要求の予定作成

C マルチ・ユーザー機能

マルチ・ユーザー環境での作業	C-2
アーキテクトにおける複数ユーザーとの作業	C-2
複数ユーザー間の変更の同期化	C-3
複数のユーザーがアーキテクトまたはマネージャで作業する際のロック・メカニズム	C-3
変更をビューワに移入する際の同期化メカニズム	C-3
変更を指標に適用する際のパブリッシュ・メカニズム	C-3
マルチ・ユーザーへの変更内容の通信	C-3
様々なレベルにおけるアプリケーションのロック	C-4
システム、スコアカードおよび KPI レベルのマルチ・ユーザー論理	C-4
システム・レベル	C-4
スコアカード・レベル	C-5
重要な経営指標レベル	C-5
ディメンション定義	C-6
マルチ・ユーザー環境におけるモジュール別のグローバル動作	C-9
システム・レベルのトランザクション	C-9
モジュール別トランザクション	C-9
BSC ビルダー	C-9
KPI デザイナ	C-11
メタデータ・オプティマイザ	C-12
現行セッションと強制終了するセッションの確認	C-13
セッションのクローズ	C-14
ローダー	C-14
管理者でのセキュリティ	C-15
ビューワにおける複数ユーザーとの作業	C-15

D バランス・スコアカード・ポートレット

Oracle Portal を使用した Oracle Applications の構成	D-2
BSC ポートレットの構成	D-2
PHP でのポートレットのカスタマイズ	D-3
Oracle Portal でのポートレットのカスタマイズ	D-4
BSC 指標グラフ・ポートレット	D-6
Oracle Portal から BSC ポートレットをカスタマイズする際の特別な考慮事項	D-8
「BSC 指標リスト」ポートレットのカスタマイズ	D-9
「BSC カスタム・ビュー」ポートレットのカスタマイズ	D-10
指標ポートレットのカスタマイズに関する特別な考慮事項	D-11
バランス・スコアカードについて	D-11
新規および既存の職責への BSC ポートレットの追加	D-11

索引

はじめに

『Oracle Balanced Scorecard 管理者ガイド リリース 11i for Microsoft Windows』へようこそ。

このマニュアルは、次の実務上の知識を前提としています。

- ビジネス・エリアに関する原則と実務上の慣習。
- Oracle Balanced Scorecard。

Oracle Balanced Scorecard の使用経験がない場合は、Oracle University で提供されている Oracle Applications 研修クラスの 1 つ以上に出席することをお勧めします。

- Oracle Applications の GUI。

Oracle Applications の GUI の詳細は、『Oracle Applications ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

Oracle Applications 製品情報の詳細は、「[その他の情報のソース](#)」を参照してください。

このマニュアルの構成

このマニュアルには、Oracle Balanced Scorecard を理解して使用する上で必要な情報が記載されています。このマニュアルは、次の章で構成されています。

- 第1章「概要」
- 第2章「BSC 設定」
- 第3章「パフォーマンス管理デザイナー」
- 第4章「メタデータ・オブティマイザ」
- 第5章「BSC ローダー」
- 第6章「BSC の移入と配置」
- 第7章「セキュリティ管理者」
- 付録 A「Oracle Applications のセキュリティ」
- 付録 B「コンカレント要求の予定作成」
- 付録 C「マルチ・ユーザー機能」
- 付録 D「バランス・スコアカード・ポートレット」

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。オラクル社のドキュメントには、ユーザーが障害支援技術を使用して情報を利用できる機能が組み込まれています。HTML 形式のドキュメントで用意されており、障害のあるお客様が簡単にアクセスできるようにマークアップされています。標準規格は改善されつつあります。オラクル社はドキュメントをすべてのお客様がご利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に連携して技術的な問題に対応しています。オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/accessibility/> を参照してください。

ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティについて

JAWS（Windows のスクリーン・リーダー）は、ドキュメント内のサンプル・コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかし JAWS は括弧だけの行を読まない場合があります。

外部 Web サイトのドキュメントのアクセシビリティについて

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関しての評価や言及は行っておりません。

その他の情報のソース

マニュアル、研修およびカスタマ・サポート・センターなど、様々な情報のソースから選択して、Oracle Balanced Scorecard の知識と理解を深めることができます。

このマニュアルで他の Oracle Applications マニュアルに言及している場合は、リリース 11i バージョンのみを使用してください。

オンライン・マニュアル

Oracle Applications マニュアルは、すべてオンライン（HTML または PDF）で利用できます。

- **PDF マニュアル:** 製品の各リリースの最新 PDF マニュアルについては、Online Documentation CD を参照してください。この Documentation CD は、OracleMetaLink から入手可能で、頻繁に更新されています。
- **オンライン・ヘルプ:** 製品の最新 HTML オンライン・ヘルプについては、Oracle Applications ヘルプを参照してください。オラクル社は、パッチとして適用可能なオンライン・ヘルプを提供しています。これをシステムに適用して、実装およびエンド・ユーザー向けマニュアルを更新できます。オンライン・ヘルプを適用するためにシステムを停止する必要はありません。
- **リリース・ノート:** 使用可能な新機能のリリース別の説明は、リリース・ノートを参照してください。リリース・ノートは、OracleMetaLink から入手できます。
- **概要ドキュメント:** 機能の更新、インストール情報およびダウンロード可能な新規マニュアルやマニュアル・パッチなど、リリースに関する情報は、概要ドキュメントを参照してください。概要ドキュメントは、OracleMetaLink から入手できます。

関連ドキュメント

Oracle Balanced Scorecard は、他の Oracle Applications 製品とビジネス情報および設定情報を共有します。したがって、Oracle Balanced Scorecard の設定および使用時には、他のマニュアルを参照する必要があります。

マニュアルをオンラインで参照するには、HTML ヘルプ・ウィンドウの展開可能メニューから「ライブラリ」を選択する方法、メディア・パックに同梱されている Oracle Applications Document Library CD から読み取る方法、システム管理者から提供される URL を Web ブラウザで使用する方法があります。

マニュアルの印刷版が必要な場合は、Oracle Store の URL から購入できます。Oracle 製品ご購入の各種お問い合わせに関しては、日本オラクル正規代理店もしくは Oracle Direct にお問い合わせください。

全製品関連のドキュメント

『Oracle Applications ユーザーズ・ガイド』

このマニュアルでは、GUI を使用したデータ入力、問合せ、レポートの実行およびナビゲーションの方法が説明されています。また、ユーザー・プロファイルの設定、レポートおよびコンカレント・プロセスの実行と検討に関する情報も記載されています。

このユーザーズ・ガイドにオンラインでアクセスするには、いずれかの Oracle Applications ヘルプ・ファイルから「Oracle Applications のスタート・ガイド」を選択します。

インストールおよびシステム管理

『Oracle Applications 概要』

このマニュアルでは、Oracle Applications リリース 11i の概要、機能、テクノロジー・スタック、アーキテクチャおよび用語が紹介されています。Oracle Applications のインストール前に最初に参照しておくに役立ちます。また、このマニュアルでは、ビジネス・インテリジェンス (BIS)、言語とキャラクタ・セットおよび Self-Service Web Applications など、Oracle Applications 全体の機能の概要も紹介されています。

『Oracle Applications のインストール』

このマニュアルでは、Oracle Applications 製品のインストールを管理する手順を説明しています。リリース 11i では、インストール・プロセスのほとんどが Oracle Rapid Install を使用して処理されます。これにより、多数の必須ステップが自動化され、Oracle Applications と Oracle テクノロジー・スタックが最短時間でインストールされます。このマニュアルには、Oracle Rapid Install の使用手順と、インストールを完了するための必須タスクのリストが記載されています。このマニュアルは、各製品のユーザーズ・ガイドおよびインプリメンテーション・ガイドと併用してください。

『Oracle Applications のアップグレード』

Oracle Applications リリース 10.7 またはリリース 11.0 製品からリリース 11i にアップグレードする場合は、このマニュアルを参照してください。このマニュアルには、アップグレード・プロセスの説明と、データベースおよび製品固有のアップグレード・タスクのリストが記載されています。リリース 11i には、リリース 10.7 (NCA, SmartClient またはキャラクタ・モード) またはリリース 11.0 からアップグレードする必要があります。10.7 より前のリリースからリリース 11i には直接アップグレードできません。

「概要」ドキュメント

インプリメンテーション・ガイドおよびユーザーズ・ガイド、パッチの適用手順、新規または変更された設定手順、ソフトウェア更新の説明は、製品の「概要」ドキュメントを参照してください。リリース 11.5.8 以降のほとんどの製品については、「概要」ドキュメントを Oracle MetaLink から入手できます。

『Oracle Applications の保守』

このマニュアルは、AutoUpgrade、AutoPatch、AD Administration、AD Controller、AD Relink、License Manager など、各種の AD ユーティリティを実行する際に役立ちます。このマニュアルには、操作手順、スクリーンショットおよび AD ユーティリティの実行に必要なその他の情報が記載されています。また、Oracle Applications のファイル・システムとデータベースの保守情報も記載されています。

『Oracle Applications システム管理者ガイド』

このマニュアルには、Oracle Applications システム管理者を対象とした計画およびリファレンス情報が記載されています。セキュリティの定義、メニューとオンライン・ヘルプのカスタマイズおよびコンカレント処理の管理の方法が説明されています。

『Oracle Alert ユーザーズ・ガイド』

このマニュアルでは、Oracle Applications データのステータスを監視するために定期アラートとイベント・アラートを定義する方法が説明されています。

『Oracle Applications 開発者ガイド』

このマニュアルには、Oracle Applications 開発スタッフが従っているコーディング標準が含まれています。『Oracle Applications フォーム・ベース製品のユーザー・インタフェース標準』に記載されている Oracle Applications ユーザー・インタフェースの実装に必要な Oracle Application Object Library コンポーネントについて説明されています。また、フォームを Oracle Applications と統合できるように、カスタムの Oracle Forms Developer フォームを作成するための参考情報も記載されています。

『Oracle Applications フォーム・ベース製品のユーザー・インタフェース標準』

このマニュアルには、Oracle Applications 開発スタッフが従っているユーザー・インタフェース (UI) 標準が記載されています。Oracle Applications 製品の UI と、この UI を Oracle Forms でビルドされたアプリケーションの設計に適用する方法が説明されています。

その他のインプリメンテーション・ガイド

『Oracle Applications 製品アップデート・ノート』

このマニュアルは、Oracle Applications のアップグレードとインストールに関するリファレンスとして使用してください。リリース 11.0 とリリース 11i の間の変更履歴が Oracle Applications 製品別に記載されています。この 2 つのリリース間におけるデータベース・オブジェクト、プロファイル・オプションおよびシード・データの機能の追加、拡張および変更が含まれています。

『Oracle Workflow 管理者ガイド』

このマニュアルでは、ワークフロー対応プロセスを含む Oracle Applications 製品に必要な設定手順を完了する方法と、実行時ワークフロー・プロセスの進行を監視する方法が説明されています。

『Oracle Workflow 開発者ガイド』

このマニュアルでは、新規のワークフロー・ビジネス・プロセスを定義して、既存の Oracle Applications 埋込みワークフロー・プロセスをカスタマイズする方法が説明されています。また、ビジネス・イベントとイベント・サブスクリプションを定義およびカスタマイズする方法も説明されています。

『Oracle Workflow ユーザーズ・ガイド』

このマニュアルでは、Oracle Applications ユーザーがワークフロー通知を表示して応答する方法と、ワークフロー・プロセスの進行を監視する方法が説明されています。

『Oracle Workflow API リファレンス』

このマニュアルでは、開発者と管理者が Oracle Workflow にアクセスできるように提供される API について説明されています。

『Oracle Applications フレックスフィールド・ガイド』

このマニュアルには、Oracle Balanced Scorecard の実装チームおよび Oracle Applications 製品データの保守担当ユーザーを対象とした、フレックスフィールドの計画、設定およびリファレンス情報が記載されています。また、フレックスフィールド・データに関するカスタム・レポートの作成に関する情報も記載されています。

『Oracle eTechnical Reference Manual』

各『Oracle eTechnical Reference Manual』(eTRM) には、データベース・ダイアグラムと、特定の Oracle Applications 製品のデータベース表、フォーム、レポートおよびプログラムに関する詳細説明が記載されています。この情報は、既存のアプリケーションからデータを変換する際、Oracle Applications データを Oracle 以外のアプリケーションと統合する際および Oracle Applications 製品のカスタム・レポートを記述する際に役立ちます。Oracle eTRM は、Oracle Metalink から入手できます。

『Oracle Applications Message Manual』

このマニュアルには、すべての Oracle Applications メッセージの説明が記載されています。リリース 11i の場合、このマニュアルはドキュメンテーション CD-ROM から HTML 形式で使用できます。

研修およびサポート

研修

オラクル社では、お客様とそのスタッフが Oracle Balanced Scorecard を生産的に短期間で習得するために必要な、すべての研修コースを提供しています。これらのコースは機能を順番に習得できるように編成されているため、担当のジョブや職責の分野に該当するコースのみを受講できます。

研修の環境を選択できます。オラクル社の多くの教育センターで Oracle University が提供するいずれかのコースに参加する方法、お客様ご指定の施設に講師が出向いて研修が受けられるよう手配する方法、Oracle University のオンライン研修ユーティリティである Oracle Learning Network (OLN) を利用する方法があります。さらに、オラクル社の研修担当者がおお客様のニーズにあわせて標準コースを調整したり、カスタム・コースを作成することもできます。たとえば、お客様の組織体系、用語およびデータを、お客様の施設で行われるようにカスタマイズされた研修セッションで例として使用できます。

サポート

オン・サイト・サポートからセントラル・サポートまで、オラクル社の経験豊かな専門家チームが Oracle Balanced Scorecard の実行に必要な支援と情報を提供します。このチームには、お客様の技術担当者やアカウント・マネージャに加えて、お客様のビジネス・エリア、Oracle サーバーの管理、ハードウェアおよびソフトウェア環境をよく理解しているオラクル社の多数のコンサルタントとサポート・スペシャリストが含まれます。

データベース・ツールによる Oracle Applications データの変更の禁止

特に指示されている場合を除き、SQL*Plus、Oracle Data Browser、データベース・トリガーまたはその他のツールを使用して、Oracle Applications データを変更しないことをお勧めします。

オラクル社は、Oracle データベースへの情報の作成、記憶、変更、検索または保守に使用できる強力なツールを提供します。ただし、SQL*Plus のような Oracle ツールを使用して Oracle Applications データを変更すると、データの整合性が損われたり、データの変更を監査できなくなるおそれがあります。

Oracle Applications の表は相互に関連付けられているので、Oracle Applications を使用して表を変更すると、一度に多数の表が更新されます。しかし、Oracle Applications を使用せずに Oracle Applications データを変更すると、1 つの表のある行を変更した場合に、関連する表で反映させる必要のある変更が行われなかったことがあります。各表をお互いに同期させていないと、誤った情報を検索したり、Oracle Applications で予測できない結果が生ずるおそれがあります。

Oracle Applications を使用してデータを変更すると、その変更が有効であるかどうかは Oracle Applications により自動的にチェックされます。Oracle Applications は、情報を変更したユーザーを記録することもできます。データベース・ツールを使用してデータベース表に情報を入力すると、無効な情報が記憶されることがあります。また、SQL*Plus や他のデータベース・ツールを使用したときは、変更履歴が残らないため誰が情報を変更したのかを追跡できなくなります。

オラクル社について

オラクル社は、Oracle Applications のみでなく、データベース管理、アプリケーション開発、意思決定支援およびオフィス・オートメーションといった統合ソフトウェア製品ラインの開発と販売を行っています。Oracle Applications は、財務会計管理、サプライ・チェーン管理、製造、プロジェクト・システム、人事管理および顧客関連管理のための 160 を超すソフトウェア・モジュールの統合セットです。

オラクル社の製品には、メインフレーム、ミニコンピュータ、パーソナル・コンピュータ、ネットワーク・コンピュータおよびパーソナル・デジタル・アシスタント向けがあり、組織はコンピュータ、オペレーティング・システム、ネットワーク、データベース管理システムの違いを問わず 1 つの統一されたコンピューティングおよび情報リソースに統合できます。

オラクル社は、情報管理において世界で有数のソフトウェア・サプライヤであり、ソフトウェア会社としても世界第 2 位の会社です。オラクル社は、145 か国以上で、データベース、ツールおよびアプリケーション製品を、関連するコンサルティング、研修およびサポート・サービスとともに提供しています。

概要

Oracle Balanced Scorecard (OBSC) は、Oracle Corporate Performance Management ソリューションのコンポーネントです。このアプリケーションを使用すると、組織における全社的なパフォーマンス管理フレームワークを構成、管理および配置できます。OBSC の柔軟な設計機能により、特定の測定ニーズと戦略的計画を厳密に反映した戦略マップ、ダッシュボードおよび重要な経営指標 (KPI) を新しく構成できます。

OBSC を使用すると、組織のあらゆるレベルの役員と従業員がパフォーマンスを測定し、設定された関連目標および計画と比較できます。そのために、OBSC ではパフォーマンスの目標に達していない領域に注目できるように、信号の 3 色を使用したレポートが表示されます。

また、OBSC の機能は強力な整列ツールでもあります。すべてのレベルの従業員は、同じパフォーマンス・メジャーを使用できます。このメジャーは同じグラニュル・データとともに送られますが、関心領域に関連するようにフィルタリングされ、整列されます。このため、従業員は組織全体の戦略計画の達成に対する各自の作業とパフォーマンスの貢献度を理解できます。

また、OBSC には、KPI 間のナビゲート機能や詳細データへのドリルダウン機能も用意されており、パフォーマンスの目標を達成できない根本原因を見いだすことができます。さらに、組織全体の情報伝達が改善され、KPI に関連したチャット・ボード・タイプのディスカッションを行って、パフォーマンス管理と戦略のトピックに関する知識のリポジトリを作成できます。

情報の参照先

第2章では、このソフトウェアを正常に実装した後にシステムを設定する方法を詳細に説明します。

第3章では、スコアカードと KPI の構成について説明します。OBSC には、これらを構成するためのパフォーマンス管理デザイナーが組み込まれています。このツールは Oracle の Self-Service Application Framework テクノロジーを利用しており、地理的に離れた場所で作業する設計者が同時に作業を進めることができます。クライアント / サーバー・コンポーネントを各自の PC にインストールする必要はありません。

パフォーマンス管理デザイナー (Performance Management Designer: PMD) は、OBSC アーキテクトの全面的な置換えを意図した新規ツールです。アーキテクトはクライアント / サーバー設計コンポーネントであり、一部の重要な KPI 構成機能を備えています。OBSC を十分に理解しているかどうかにかかわらず、第3章を読んで BSC アーキテクトと PMD で使用可能な機能を理解することをお勧めします。OBSC を十分に理解しているユーザーの場合は、PMD で使用可能な構成機能がアーキテクトからは使用不可になっていることに注意してください。

E-Business Suite ユーザーも、PMD を使用してライセンス取得済の Oracle Business Intelligence モジュールからのメジャーをスコアカード・プロジェクトに表示できます。これらのメジャーは、すでに対応する Oracle アプリケーションのデータソースにマップされています。この機能の詳細は、第3章を参照してください。

パフォーマンス管理デザイナーには Web 対応の管理ツールも組み込まれており、システム管理者はデータを OBSC の入力表にロードし、このツールへのアクセス権を持つユーザーの権限を作成して管理できます。データを OBSC の入力表にロードする方法の詳細は、第5章「BSC ロダー」を参照してください。また、OBSC のセキュリティ管理方法の詳細は、第7章「セキュリティ管理者」を参照してください。

第4章では、メタデータ・オブティマイザについて説明します。このコンポーネントは、カスタム KPI の送信に必要なすべての表をシステムに作成します。また、構成および本番段階で KPI を変更および更新する方法など、OBSC システムの配置方法の詳細は、第6章を参照してください。

付録 A および B では、OBSC で Oracle Applications の機能を利用する方法について説明します。この2つの付録では、主に職責を作成して OBSC ユーザーに権限を付与する方法と、Concurrent Manager を使用してデータのロードを自動化する方法について説明します。

最後に、Oracle Portal を使用してスコアカードとレポートへのアクセスをパーソナライズする方法の詳細は、付録 D を参照してください。

このツールを使用して、ローカル・マシンにシステムを登録し、ソース・データベースとターゲット・データベースの間でデータを移行します。

この章の項目は次のとおりです。

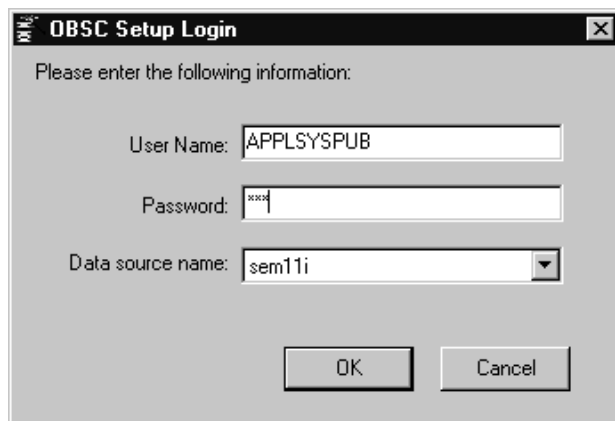
- 2-2 ページ [「BSC 設定へのログイン」](#)
- 2-3 ページ [「システムの構成」](#)
- 2-6 ページ [「システムの移行」](#)
- 2-9 ページ [「OBSC セッションの管理」](#)

BSC 設定へのログイン

BSC 設定にログインする手順は、次のとおりです。

1. Windows NT シェルから Oracle BSC 設定を起動します。図 2-1 のようなログイン・ウィンドウが表示されます。

図 2-1 「設定へのログイン」ウィンドウ



注意： BSC 設定に接続する場合のユーザー名とパスワードは、デフォルトでそれぞれ APPLSYSPUB と PUB に設定されています。

2. 「データ・ソース名」では、この BSC システムが常駐するデータベースを選択します。これは、インストール・プロセス中に定義したデータ・ソース名と同じです。システム名 > データ・ソース名 > サービス名 > Oracle Database という関連に注意してください。したがって、「データ・ソース名」では Oracle データベースを選択します。ユーザー名とパスワードは、適切なパラメータの APPLSYSPUB/PUB パスワードにデフォルトで設定されています。別の Oracle システム・パスワードを使用する場合以外は変更しないでください。ログインに失敗する場合は、次のような理由が考えられます。
 - サーバー上のリスナーが停止している。
 - データベースが停止している。
 - サービス名が定義および設定されていない。
 - 不正なパスワードが使用された。
 - ユーザーに管理権限が付与されていない。
3. 完了後に「OK」をクリックしてメインの「設定」ウィンドウを開きます。「システム構成」タブが開きます。

データベースの設定

「システム構成」タブでは、コンピュータに新規バランス・スコアカード・システムを登録できます。これにより、BSC アーキテクトからデータベースに接続して設計フェーズを開始できるようになります。「登録済システム名」は、データベース内でそのシステムを指すポインタです。

新規 BSC システムを登録する前に実行する手順は、次のとおりです。

1. 『Oracle Balanced Scorecard Installation Guide』の「BSC アーキテクトのインストール後タスク」の説明に従って、サービス名とデータ・ソース名を定義していることを確認します。
2. 2-3 ページの「システムの構成」の手順に従います。

システムの構成

「システム構成」タブで既存のバランス・スコアカード・システムを登録、変更および保守できます。

図 2-2 「システム構成」タブ

The screenshot shows a Windows-style dialog box titled 'Setup'. It has two tabs: 'System Configuration' (selected) and 'System Migration'. On the left, under 'Choose action', there are three radio buttons: 'Add' (selected), 'Modify', and 'Delete'. On the right, under 'Choose registered system name', there are several text input fields and a dropdown menu. The fields are: 'Registered system name' (containing 'Sem11i'), 'Description' (containing 'Sem11i'), 'Data source name' (containing 'sem11i' and a dropdown arrow), 'Service name' (containing 'sem11i'), 'GWYUID' (containing 'APPLSYS PUB/PUB'), 'FNDNAM' (containing 'APPS'), 'NCA Connection' (empty), and 'Server id' (empty). Below these fields is a checked checkbox labeled 'APPS database'. At the bottom right are 'OK' and 'Cancel' buttons.

「登録済システム名」はデータベース内の BSC システムの識別名で、パーソナル・コンピュータ上の共有 BSC システムの登録に使用されるためにこのように呼ばれます。これは単にそのシステムへのポインタです。登録済システム名はパーソナル・コンピュータに固有であり、そのコンピュータに保存されます。「登録済システム名」は、アーキテクトまたはマネージャを起動するたびに「プロジェクトのオープン」ウィンドウに表示されます。

バランス・スコアカードの「設定」では、新規登録名の追加、登録名のプロパティの変更および登録名の削除ができます。

新規登録名を追加してシステム名のプロパティを変更すると、データベース内では変更されず、すべての変更はこのウィザードを実行しているローカル PC 上で行われることに注意してください。登録済システム名は、データベース内でのバランス・スコアカード・システムのポインタです。

新規システムの追加

新規システム名を追加すると、そのシステムが登録され、「プロジェクトのオープン」ウィンドウに新規の 1 行が追加されます。

注意： Oracle Applications で使用できるスキーマは、データベースごとに 1 つのみです。

Oracle Applications データベースを使用している場合は、「システム構成」タブでデータベースを登録できます。このタブでは、次のように「APPS データベース」チェック・ボックスが自動的に選択されます。4 つのフィールドが表示されています（「サービス名」の下）。

図 2-3 「システム構成」タブ

The screenshot shows the 'Setup' window with the 'System Configuration' tab selected. On the left, under 'Choose action', the 'Add' radio button is selected. On the right, under 'Choose registered system name', there are several text and dropdown fields. The 'Registered system name' field contains 'Sem11i'. The 'Description' field contains 'Sem11i'. The 'Data source name' is a dropdown menu showing 'sem11i'. The 'Service name' field contains 'sem11i'. The 'GWYUID' field contains 'APPLSYSPUB/PUB'. The 'FNDNAM' field contains 'APPS'. The 'NCA Connection' and 'Server id' fields are empty. Below these fields, the 'APPS database' checkbox is checked. At the bottom right, there are 'OK' and 'Cancel' buttons.

「GWYUID」フィールドには、ゲートウェイ ID が入力されています。APPS データベース名は「FNDNAM」フィールドに表示されます。「NCA 接続」(URL) および「サーバー ID」フィールドはオプションです。

注意： Oracle Applications データベースで新規システムを起動する場合、バランス・スコアカードの「設定」で実行する必要があるのはこの手順のみです。

Oracle Applications データベースから別のデータベースにソース・システムを移行する場合にのみ、この章の他の項を参照してください。

APPS データベースの登録

ソース・システムを Oracle Applications データベースから別のデータベースに移行する場合は、APPS データベースを登録します。

1. 「追加」ラジオ・ボタンを選択します。
2. 次のフィールドに入力します。

システム名：マシンに登録するデータベース名です。ここで指定した名称は「プロジェクト名」ウィンドウに表示されます。このシステム名は、空白を含めずに 15 文字以内で指定する必要があります。

摘要：システムの摘要を入力します。この摘要は 80 文字以内で指定する必要があります。

データ・ソース名：適切な Oracle サービス名に接続するデータ・ソース名を選択します。データ・ソース名を確認するには、「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」→「管理ツール」→「データ ソース (ODBC)」の順番にナビゲートします。詳細は、『Oracle Balanced Scorecard Installation Guide』を参照してください。

サービス名：この表示フィールドには、データ・ソース名の接続先サービス名が表示されます。Oracle Net8 Easy Config にナビゲートすると、構成を確認できます。詳細は、『Oracle Balanced Scorecard Installation Guide』の「BSC アーキテクトのインストール後タスク」を参照してください。

3. 完了後に「OK」を選択して新規システムを保存します。

システムの変更

登録名を変更すると、コンピュータ上で定義済のバランス・スコアカード・システムについて前述のプロパティをすべて変更できます。

登録名を変更する手順は、次のとおりです。

1. 「修正」ラジオ・ボタンを選択します。
2. 「登録済システム名」ドロップダウン・リストから、プロパティを変更する登録済システム名を選択します。
3. 「摘要」、「データ・ソース名」および「サービス名」フィールドで、必要なプロパティを変更します。フィールドの説明は、前項を参照してください。
4. 「OK」を選択して変更内容を保存します。

システムの削除

登録済システム名を削除すると、その名称はデータベースに登録されているコンピュータと「プロジェクトのオープン」ウィンドウからのみ削除されます。実際にバランス・スコアカード・システムがデータベースから削除されるのではなく、BSC システム・ディレクトリがクライアント・インストールから削除されます。このアクションにより、生成されたすべての BSC ドキュメント、またはこのディレクトリにあるシステムが削除されることに注意してください。

登録済システム名を削除する手順は、次のとおりです。

1. 「削除」ラジオ・ボタンを選択します。
2. 「システム名」ドロップダウン・リストから、削除するシステム名を選択します。
3. 「OK」を選択して、選択した登録済システムを削除します。

システムの移行

システムを移行すると、ソース・システムからターゲット・システムにデータ、システム表およびメタデータを移行できます。次の3つのデータ移行方法から指定できます。

- **全システム**: このオプションを使用すると、システム全体（ソース職責でアクセス可能なすべてのタブおよび KPI）をターゲット・システムに移行できます。
- **タブ別**: このオプションを使用すると、ソース職責でアクセス可能な特定のタブに属している KPI のみを移行できます。たとえば、「財務」または「マーケティング」タブ上の KPI は移行せず、「業務」、「品質」および「売上」タブ上の KPI を移行できます。移行できるのは、選択したソース職責でアクセス可能なデータのみです。
- **KPI 別**: 特定の KPI を指定して KPI レベルに直接移動できます。この場合も、移行する KPI へのアクセス権を持つソース職責を指定する必要があります。たとえば、財務担当役員が市場シェア、売上高および単価の各 KPI へのアクセス権のみを付与されている場合は、その KPI のみがターゲット・システムに移行します。

いずれの場合も、すべてを一度に移行するには、すべての KPI へのアクセス権を持つ「管理者」職責をソース職責として使用します。システム移行を実行すると、ターゲット・システム内のデータはすべて上書きされます。ターゲット・システムでの KPI は、ソースと同じディメンションおよびデータセット構成で同じタブに表示されます。

システム移行には複数の制限が適用されます。

- 移行を実行する前に、ソース・システムとターゲット・システムが存在する必要があります。これは、ソース・システムとターゲット・システムの両方に、システムの実行に必要なシステム・オブジェクトがすべて含まれている必要があることを意味します。これには、メタデータ表、ビュー、順序、シノニム、パッケージなどが含まれます。データベース・リンクも移行前に作成する必要があります（2-6 ページの「データベース・リンクの作成」を参照）。
- システム移行は、必ずターゲット・データベースから実行します。つまり、移行を実行するには、ターゲット・データベースに接続します。移行プロセスではデータ・ソースからデータがプルされます。

注意: 移行プロセスを実行する場合は、ソース・システムに接続中または使用中の他のユーザーがいないことを必ず確認してください。このプロセスを進める前に、ユーザーがソース・システムとターゲット・システムの両方からログアウトする必要があります。また、このプロセスを実行するには、「設定」からログアウトしてログインしなおす必要があります。

データベース・リンクの作成

ユーザーが移行を実行する前に、システム管理者が次の手順に従ってデータベース・リンクを作成する必要があります。

1. SQL*Plus を開きます。
2. ターゲット・システムに接続します。ターゲットは APPS スキーマに接続しているエンタープライズ・データベースなので、次のように入力します。

```
connect Apps/Apps@Appsschema
```

3. スクリプト `bcsdblk.sql` を実行します。このスクリプトは BSC ホーム・ディレクトリ (`d:\ORANT8\¥OBSC¥DB¥Admin¥sql` など) にあります。このスクリプトを実行するには、ユーザー名 `SYSTEM`、パスワード `MANAGER` でログインし、ソース・システムのスキーマ名、パスワードおよびサービス名を使用して次のように実行します。

```
@<OBSC_home_directory_path>¥OBSC¥DB¥Admin¥sql¥bcsdblk.sql <schema name> <pwd> <service name>
```

前述のように、このスクリプトではソース・システムのスキーマ名、パスワードおよびサービス名を要求されます。ソース・システムへのデータベース・リンクは `BSC_SRC_DBLINK` です。

4. 次の問合せを実行して DBLINK をテストします。

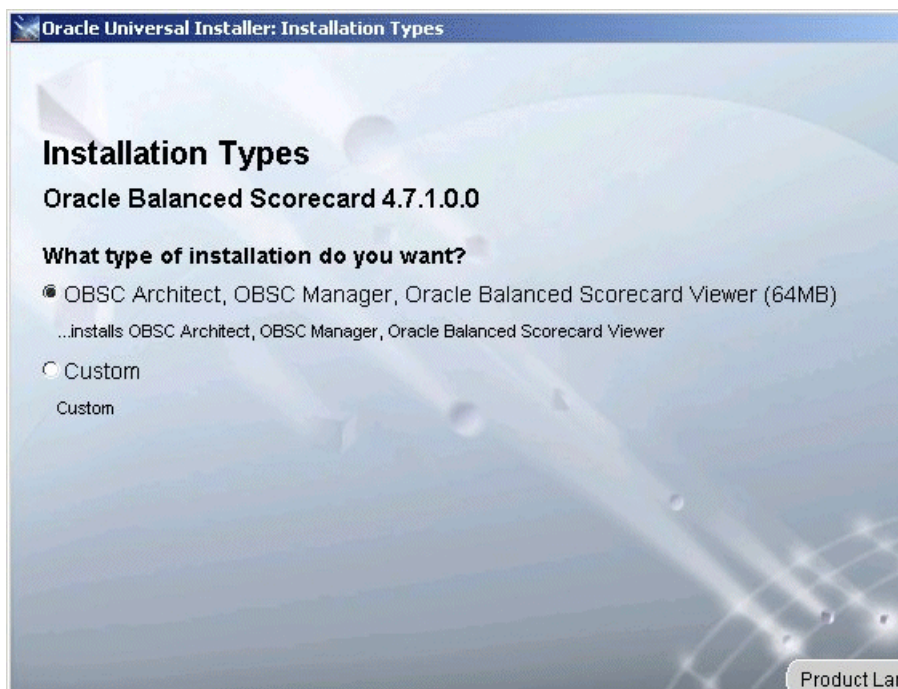
```
Select count(*)
from all_tables
where owner='BSC';
```

移行の実行

システム移行を実行する手順は、次のとおりです。

1. BSC 管理者としてログインし、「システム移行」タブをクリックして図 2-4 のように手前に表示します。

図 2-4 「システム移行」タブ



2. 「ターゲット・システム名」プルダウン・リスト（図 2-5）からターゲット・システムを選択します。ユーザー名とパスワードを求めるプロンプトが表示されます。両方を入力して「OK」を選択します。

図 2-5 「ターゲット・システム名」リスト



3. 「ソース・システム職責」および「ターゲット・システム職責」プルダウン・メニューを使用して、マップする職責を 1 つ以上選択します。マップする職責を選択するたびに、「>」ボタンを選択してマッピングを割り当てます。1 つのソース職責を複数のターゲット職責に、または 1 つのソース職責を 1 つ以上のターゲット職責にマップできます。移行対象の KPI は、ソース・システムで対応する職責に割り当てられていたのと同じ方法でターゲット職責に割り当てられます。

図 2-6 「職責マッピング」フレーム

The dialog box titled "Responsibility mapping" contains two dropdown menus on the left. The "Source system responsibilities" dropdown is set to "BSC Administrator", and the "Target system responsibilities" dropdown is also set to "BSC Administrator". To the right of these dropdowns are two buttons: a right-pointing arrow ">" and a left-pointing arrow "<". On the right side of the dialog is a table with two columns: "Source responsibility" and "Target responsibility". The table contains one row with "BSC Administrator" in both columns.

Source responsibility	Target responsibility
BSC Administrator	BSC Administrator

- 図 2-7 に示すラジオ・ボタン・リストからフィルタリング方法を選択します。システム全体、タブ別（スコアカード）または指標別にフィルタできます。「タブによるフィルタ」または「指標によるフィルタ」を選択すると、選択したソース職責でアクセス可能なタブまたは KPI のリストが図 2-7 のように「フィルタ」ペインの右側に表示されます。各 KPI の隣のチェック・ボックスを使用して、移行対象を選択します。

注意： 選択したソース職責について指標が重複している場合は、一意の指標リストが表示されます。

図 2-7 「フィルタ」フレーム

The dialog box titled "Filters" has three radio buttons on the left: "All system", "Filter by tab", and "Filter by indicator". The "Filter by indicator" option is selected. To the right is a list box containing four items, each with a checkbox: "KPI 1 Customer Perspective" (checked), "KPI 2 Customer Perspective" (unchecked), "KPI 3 Customer Perspective" (unchecked), and "Profit and Loss Statement" (checked). The "Profit and Loss Statement" item is highlighted with a mouse cursor.

- 図 2-8 のように「ターゲット・システムの上書き」チェック・ボックスを選択します。これにより、移行が実行されます。このチェック・ボックスを選択しなければ、何も実行されません。このチェック・ボックスの目的は、システム・データが上書きされる旨をユーザーに警告することです。

注意： BSC 移行プロセスでは、常にターゲット・システムが上書きされます。一部の指標のみをソース・システムからターゲット・システムに移行する場合は、BSC ビルダのコピー機能を使用してから、新規指標に対してメタデータを実行してください。

図 2-8 「ターゲット・システムの上書き」チェック・ボックス

A single checkbox labeled "Overwrite target system" which is checked.

- 「OK」を選択します。ソース・システムがターゲット・システムに移行します。

OBSC セッションの管理

バランス・スコアカードには、特定の時点でオープンしているセッションを監視する機能が用意されています。

「ホーム」ボタンをクリックしてバランス・スコアカード・セッションをクローズすると、そのセッションはバランス・スコアカードについてはアンロードされますが、セッションのブルでは引き続きアクティブであり、他のビュー・ユーザーによる再利用を待機しています。この動作によりシステムのパフォーマンスが向上します。

次の拡張機能により、これらのプロセスの実行中に OBSC セッションをより効率的に管理できます。

- 非アクティブ状態が 20 分続いたビュー・セッションは、システムにより自動的にクローズされます。
- バランス・スコアカード・マネージャは、特定のシステムでのすべてのビュー・セッションを検討してクローズできます。

メタデータ・プロセスと移行プロセスは排他モード（その時点では他のセッションはオープン不可）で実行されるので、メタデータ・オブティマイザの実行またはデータの即時移行のために、バランス・スコアカード管理者がビューのオープン・セッションを強制終了する必要がある場合があります。そのために、バランス・スコアカードには管理者向けにバランス・スコアカード・セッションを監視して強制終了する機能が用意されています。

セッションが終了すると、システムに変更が発行される時点でユーザーは通知を受け取ります。データ整合性の問題を引き起こす可能性があるため、設計セッションは終了できないことに注意してください。

BSC ビューで作業しているユーザーは、バランス・スコアカード管理者がセッションを終了すると次のメッセージを受け取ります。

セッションは終了しました。ポータルから再ログインしてください。

メタデータ・プロセスまたは移行プロセスがすでに開始されている場合は、これらのプロセスが完了するまで、ユーザーは BSC ビューに再アクセスできません。

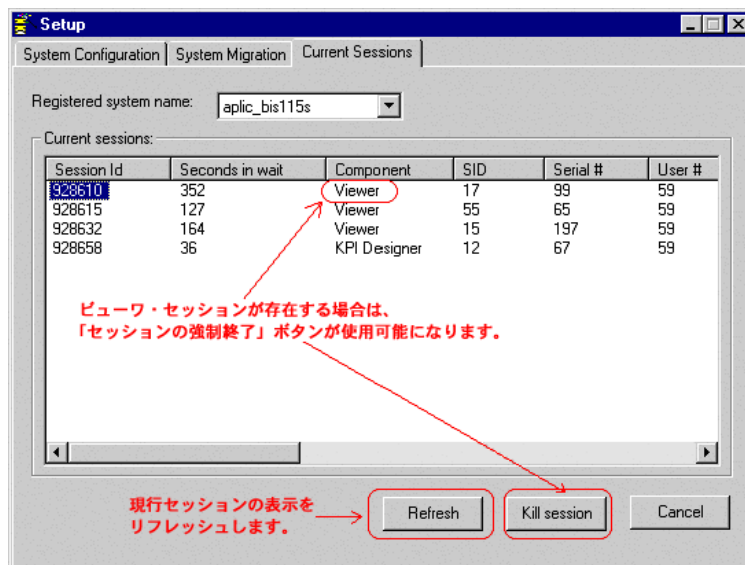
セッションの監視と終了

特定のシステムの現行セッションを確認して強制終了する手順は、次のとおりです。

1. OBSC 設定で「現行セッション」タブにナビゲートします。
2. セッションを変更または終了する OBSC システムを選択します。
3. 選択したシステムにログインし、有効なユーザー名とパスワードを入力します。OBSC ビュー・セッションの終了権限を付与されているのは、「バランス・スコアカード・マネージャ」職責を持つユーザーのみです。
4. 1 つのユーザー名に複数の職責を割り当てている場合、そのユーザーは「バランス・スコアカード・マネージャ」職責を選択する必要があります。それ以外の場合は、このプログラムの実行が許可されていないことを警告するエラー・メッセージが表示されます。

現行セッションは、ビュー・セッション（HTML）またはデザイナー・セッションです。デザイナー・セッションは、ビルダー、KPI デザイナ、メタデータ、ローダー、移行などのセッションです。ビュー・セッションは終了できることに注意してください。デザイナー・セッションは終了できません。

図 2-9 バランス・スコアカード・セッション



パフォーマンス管理デザイナー

パフォーマンス管理デザイナーにより、以前は Oracle Balanced Scorecard アーキテクトで使用できた一部の機能が置き換えられています。このリリースでは、パフォーマンス管理デザイナーを使用してメジャー、ディメンションおよび KPI を設計し、構成できます。この機能は、Oracle Balanced Scorecard アーキテクトでは使用できなくなります。

パフォーマンス管理デザイナの概要

パフォーマンス管理デザイナは、パフォーマンス測定およびスコアカード・システムをビルドするための中心的設計ツールです。新規のパフォーマンス管理デザイナ・ツールにはウィザードとモジュールが組み込まれており、設計者はメジャー、ディメンション・オブジェクト、KPI およびスコアカードを作成できます。このツールには、BSC KPI デザイナおよび BSC ビルダーという BSC アーキテクト・ツールのモジュールで使用できた機能のすべてが変換され、段階的に組み込まれています。

このリリースには、以前にリリースされていたスコアカード作成機能と、メジャー、ディメンション・オブジェクトおよび KPI を作成するための新機能が組み込まれています。この新機能により、ビジネス・フローが設計者向けに最適化されます。また、パフォーマンス管理デザイナには新たに Web ベース・テクノロジーが導入されているため、パフォーマンスとグラニクル・ロックにも複数のメリットをもたらしています。

パフォーマンス管理デザイナには、データ・ローダーおよびセキュリティについて、旧リリースのローダー・モジュールおよびセキュリティ・モジュールにかわる新規の管理モジュールも組み込まれています。

ロール

次の表に、パフォーマンス管理デザイナでスコアカード・システムの設計に使用できるロールを示します。

表 3-1 パフォーマンス管理デザイナの新規職責

ユーザー	ユーザーのビジネス機能	Oracle Applications の職責	アクセス先
設計者 *	スコアカード設計タスク (スコアカードの作成、スコアカードの内容の定義、KPI の作成と構成、メジャーとディメンション・オブジェクトの作成など)	パフォーマンス管理 デザイナ	メジャー・デザイナ ディメンション・ デザイナ KPI デザイナ スコアカード・ デザイナ
管理者	本番システムのデータおよびセキュリティ管理タスク (表のロード、データの検討など)	パフォーマンス管理 管理者	データ・ローダー セッション管理
セキュリティ管理者	セキュリティ管理タスク (スコアカード、KPI およびディメンションの保護、ユーザーの定義、職責の割当てなど)	パフォーマンス管理 セキュリティ管理者	セキュリティ
ユーザー	スコアカードの表示	パフォーマンス管理 ユーザー	BSC ビューワ

バランス・スコアカードの既存の職責

バランス・スコアカードの設計者、管理者およびユーザーは、前述した新規の職責に移行する必要があります。古い職責は、下位互換性のためにのみ引き続き機能します。

表 3-2 バランス・スコアカードの既存の職責

既存の職責	移行後の職責	説明
バランス・スコアカード・デザイナ	パフォーマンス管理 デザイナ	以前の「バランス・スコアカード・デザイナ」職責は、「パフォーマンス管理デザイナ」職責で置き換えられています。
バランス・スコアカード・マネージャ **	パフォーマンス管理 デザイナ パフォーマンス管理 管理者	この職責は、下位互換性のために引き続き機能します。「バランス・スコアカード・マネージャ」は、従来どおりすべての設計および管理モジュールとその他の BSC アーキテクト・モジュールにアクセスできます。また、プロトタイプ・データと本番データの両方にアクセスできます。機能上、「バランス・スコアカード・マネージャ」職責を置き換えるロールは、設計タスクの場合は「パフォーマンス管理デザイナ」、データ管理およびセッション管理の場合は「パフォーマンス管理管理者」です。
バランス・スコアカード管理者	パフォーマンス管理 管理者	以前のリリースでは、この職責はロード・プロセス用の特別なプロシージャを実行するために使用されていました。この職責には、Oracle Applications とコンカレント・マネージャのプロセスへのアクセス権が付与されていました。下位互換性を保つために、この職責は使用可能ですが、このタスクに使用する適切な職責は「パフォーマンス管理管理者」です。

* バランス・スコアカード・デザイナは、常にプロトタイプにある KPI およびスコアカード情報へのアクセス権を持ちます。つまり、設計者にはビューで本番データを表示するためのアクセス権はありません。

** バランス・スコアカード・マネージャは、プロトタイプ・データと本番データの両方にアクセスできます。

構成

次のモジュールは、パフォーマンス管理デザイナの一部です。

- **メジャー・デザイナ:** メジャー（旧称はデータセット）とその全プロパティの定義に使用します。
- **ディメンション・デザイナ:** ディメンション（ディメンション・グループ）、ディメンション・オブジェクト（旧称はディメンション・レベル）およびディメンション・オブジェクト関連の定義に使用します。
- **KPI デザイナ:** KPI グループ、単一のシリーズ KPI の作成と、KPI に対するメジャーの関連付けに使用します。このモジュールには、メジャー別のディメンション選択も組み込まれています。パフォーマンス管理デザイナを通じて、KPI レベルでプロパティを設定できます。たとえば、主要属性の定義 / 更新、KPI のデフォルト・メジャーまたはシリーズの選択、KPI のディメンション・セットの作成、KPI のカラー・プロパティの定義、KPI へのメジャーの割当て、E-Business Suite からの事前定義済メジャーの割当て、各 KPI のメジャーに対するディメンションの割当てなどです。
- **スコアカード・デザイナ:** スコアカードの作成と内容の定義に使用します。
- ロダー
- セキュリティ
- セッション管理

以前のリリースからの変更点

次の表に、このリリースで導入されたモジュールを示します。

表 3-3 既存のモジュールを置き換えるモジュール

新規モジュール	旧モジュール
KPI デザイナ	ライブラリ
メジャー	システム
スコアカード	スコアカードのリスト
パフォーマンス・メジャー	新規: メジャー、ディメンションおよび KPI の各モジュールが組み込まれています。このリリースでは、スコアカードに変更はなく、単にアプリケーションのコンテキストが広くなり、レポートおよびパフォーマンス・メジャー・モジュールがパフォーマンス管理デザイナの下位に位置するようになっています。

次の機能も、以前のリリース以降に変更されています。

- KPI の「データセットの割当」メニューは、パフォーマンス管理デザイナ・モジュールの「メジャー・デザイナ」で置き換えられています。
- KPI の「ディメンションの割当」メニューは、ディメンションの作成と関連の定義のためにパフォーマンス管理デザイナの「ディメンション・デザイナ」で置き換えられています。
- KPI の「分析オプションへのディメンションの割当」メニューは、パフォーマンス管理デザイナの KPI デザイナ・モジュールの「ディメンションの選択」メニューで置き換えられています。

モジュール別の機能詳細

次の表に、このリリースのパフォーマンス管理デザイナで使用可能になり、アーキテクトで引き続き使用可能な機能を示します。

表 3-4 モジュール別の機能詳細

機能	アーキテクト	PMD
一般システム・プロパティの定義		
システム名の編集	BSC ビルダー	該当なし
システムのシステム・イメージ（ロゴ）のカスタマイズと追加	BSC ビルダー	該当なし
スコアカード別のシステム・イメージ（ロゴ）のカスタマイズと追加	BSC ビルダー	該当なし
拡張システム・プロパティの定義		
システム通貨の定義	BSC ビルダー	該当なし
パフォーマンス計算の定義（デフォルトは 100% 超）	BSC ビルダー	該当なし
円グラフのデフォルトの定義	BSC ビルダー	該当なし
KPI グループと KPI ライブラリの作成		
KPI グループの追加	BSC ビルダー	PMD: KPI モジュール
グループ・プロパティの定義	BSC ビルダー	PMD: KPI モジュール
グループ名の編集	BSC ビルダー	PMD: KPI モジュール
スコアカード・ビューの位置グループ名	BSC ビルダー	該当なし
グループ摘要の入力	BSC ビルダー	PMD: KPI モジュール
グループの削除	BSC ビルダー	PMD: KPI モジュール

表 3-4 モジュール別の機能詳細（続き）

機能	アーキテクト	PMD
スコアカード・レベルのプロパティと内容の定義		
テンプレートによるシステムの初期化	BSC ビルダー	PMD: スコアカード・モジュール
スコアカード（タブ）の作成	BSC ビルダー	PMD: スコアカード・モジュール
スコアカード間の階層の作成	該当なし	PMD: スコアカード・モジュール
スコアカード名と摘要の作成	BSC ビルダー	PMD: スコアカード・モジュール
スコアカード名と摘要の編集	BSC ビルダー	PMD: スコアカード・モジュール
スコアカード・オーナーの定義	該当なし	PMD: スコアカード・モジュール
スコアカードの移動（上下）	該当なし	PMD: スコアカード・モジュール
スコアカード階層の再編成	該当なし	PMD: スコアカード・モジュール
スコアカードの削除	BSC ビルダー	PMD: スコアカード・モジュール
スコアカードの内容の選択		
1 つのスコアカードに属する複数 KPI の選択	BSC ビルダー	PMD: スコアカード：「スコアカード項目の選択」
マスター・タブの定義	リリース 5.0 では使用不可	PMD では 1 つ以上のスコアカードに対して KPI を割当て可能
スコアカード間で指標を共有可能に設定	BSC ビルダー	PMD: スコアカード：「スコアカード項目の選択」
スコアカードにまたがるメジャーを表示 / 非表示に設定可能	ユーザー・ウィザード	PMD の「スコアカード項目の選択」- 「KPI プロパティ」
スコアカード別の共通「表示別 / ディメンション・レベル」		
スコアカード別の「リスト」ボタン / 共通の「表示別」の定義	BSC ビルダー	該当なし
「ディメンション / 表示別」フィルタのスコアカードの定義	BSC ビルダー	該当なし
デザイン・モードによるスコアカードの表示	KPI デザイナ	PMD: スコアカード・モジュール
指標（KPI）の作成		
単一棒指標の作成	BSC ビルダー	PMD: KPI モジュール
複数棒指標の作成	BSC ビルダー	該当なし
損益指標のコピー	BSC ビルダー	該当なし
シミュレーション・ツリー指標の作成	BSC ビルダー	該当なし

表 3-4 モジュール別の機能詳細（続き）

機能	アーキテクト	PMD
プロパティ指標（名称、摘要）の編集	BSC ビルダー	PMD: KPI モジュール
他のグループへの KPI のコピー	BSC ビルダー	該当なし
グループ内の他の位置への KPI の移動	BSC ビルダー	該当なし
グループからの指標の削除	BSC ビルダー	PMD: KPI モジュール
KPI のプレビュー	KPI デザイナ	PMD: KPI モジュール
ソース・システム（ライブラリ）からターゲット・システムへの KPI のコピー	BSC ビルダー	該当なし
ビューの作成		
デフォルトのスコアカード・ビュー・テンプレートの作成	KPI デザイナ	該当なし
ツリー・ビューの有効化 / 無効化	KPI デザイナ	PMD: スコアカードの「ビューの管理」
スコアカード・ビューの有効化 / 無効化	KPI デザイナ	PMD: スコアカードの「ビューの管理」
詳細ビューの有効化 / 無効化	KPI デザイナ	PMD: スコアカードの「ビューの管理」
カスタム・ビューの有効化 / 無効化	KPI デザイナ	PMD: スコアカードの「ビューの管理」
戦略マップ・ビューの有効化 / 無効化	KPI デザイナ	PMD: スコアカードの「ビューの管理」
ビューの構成		
スコアカード・ビューの作成	KPI デザイナ	該当なし
グループへの接続線の追加	KPI デザイナ	該当なし
ドラッグ・アンド・ドロップによるグループの処理	KPI デザイナ	該当なし
戦略マップ・ビューの作成	KPI デザイナ	該当なし
指標の追加	KPI デザイナ	該当なし
区分線の追加	KPI デザイナ	該当なし
ラベルの追加	KPI デザイナ	該当なし
接続線の追加	KPI デザイナ	該当なし
ズーム・イン	KPI デザイナ	該当なし
ズーム・アウト	KPI デザイナ	該当なし
フロント・サイズの拡大 / 縮小	KPI デザイナ	該当なし
ボックスのドラッグ・アンド・ドロップ	KPI デザイナ	該当なし
カスタム・ビューの作成	KPI デザイナ	PMD: スコアカードの「ビューの管理」
イメージのインポート	KPI デザイナ	PMD: スコアカードの「ビューの管理」
SO 別ホットスポットの処理（KPI）	KPI デザイナ	PMD: スコアカードの「ビューの管理」
カスタム・リンクの追加	KPI デザイナ	PMD: スコアカードの「ビューの管理」

表 3-4 モジュール別の機能詳細（続き）

機能	アーキテクト	PMD
他のビューへのカスタム・リンクの追加	KPI デザイナ	PMD: スコアカードの「ビューの管理」
起動パッドの追加	KPI デザイナ	PMD: スコアカードの「ビューの管理」
起動パッド摘要の追加	KPI デザイナ	PMD: スコアカードの「ビューの管理」
ラベルの追加	KPI デザイナ	PMD: スコアカードの「ビューの管理」
カスタム・ビューのオブジェクトのドラッグ・アンド・ドロップ	KPI デザイナ	PMD: スコアカードの「ビューの管理」
大きいビューにあわせてページ・サイズを拡大 / 縮小 / 調整するためのオプションの許可	KPI デザイナ	該当なし
ビューのその他のレイアウト・プロパティ	KPI デザイナ	該当なし
指標要素の構成		
KPI への E-Business Suite メジャーの追加		
EBI Suite から KPI へのメジャーの追加	該当なし	PMD: KPI モジュール
KPI のメジャーに使用するディメンション・オブジェクトの選択 / フィルタリング	該当なし	PMD: KPI モジュール
KPI のメジャーに使用するデフォルトのディメンション・オブジェクトの定義	該当なし	PMD: KPI モジュール
ディメンション・オブジェクトのデフォルトの表示別の定義	該当なし	PMD: KPI モジュール
追加したメジャーによる KPI のプレビュー	KPI デザイナ	PMD: KPI モジュール
メジャーの作成		
メジャー（データセット）の定義	データセットの割当メニューは使用不可	PMD: メジャー・モジュール
一般プロパティ・メジャーの定義	データセットの割当メニューは使用不可	PMD: メジャー・モジュール
メジャーの名称、摘要、タイトル	データセットの割当メニューは使用不可	PMD: メジャー・モジュール
拡張プロパティ・メジャー（データセット）の定義	データセットの割当メニューは使用不可	PMD: メジャー・モジュール
メジャー別数値書式の定義	データセットの割当メニューは使用不可	PMD: メジャー・モジュール
スケール（自動 / ゼロから開始）の定義	データセットの割当メニューは使用不可	PMD: メジャー・モジュール
データセットの計算の定義	データセットの割当メニューは使用不可	PMD: メジャー・モジュール
拡張プロパティ・メジャー（データ・ソース）の定義	データセットの割当メニューは使用不可	PMD: メジャー・モジュール
積上プロパティの定義	データセットの割当メニューは使用不可	PMD: メジャー・モジュール
積上対象の勘定科目タイプ（残高、統計）の定義	データセットの割当メニューは使用不可	PMD: メジャー・モジュール

表 3-4 モジュール別の機能詳細（続き）

機能	アーキテクト	PMD
予測メソッドの定義	データセットの割当 メニューは使用不可	PMD: メジャー・ モジュール
メジャー間のフォーミュラの定義	データセットの割当 メニューは使用不可	PMD: メジャー・ モジュール
メジャーのデータ・ソース特性	データセットの割当 メニューは使用不可	PMD: メジャー・ モジュール
データ・ソースの作成	データセットの割当 メニューは使用不可	PMD: メジャー・ モジュール
データセットへのデータ・ソースの割当て	データセットの割当 メニューは使用不可	PMD: メジャー・ モジュール
表の最適化に使用するソース・グループの定義	データセットの割当 メニューは使用不可	PMD: メジャー・ モジュール
メジャー表示プロパティの定義	データセットの割当 メニューは使用不可	PMD: メジャー・ モジュール
指標へのメジャーの割当て	データセットの割当 メニューは使用不可	PMD: メジャー・ モジュール
データセット / メジャーと分析オプションとの 関連付け	データセットの割当 メニューは使用不可	PMD: メジャー・ モジュール
KPI ビューでの複数の分析オプション（メジャー） の組立て	データセットの割当 メニューは使用不可	PMD: メジャー・ モジュール
分析グループの作成 / 変更	KPI デザイナ	該当なし
データ系列の表示プロパティの作成と定義	KPI デザイナ	該当なし
複数の系列に使用するメジャー（データセット）別 グラフ・プロパティの定義	KPI デザイナ	該当なし
その他のメジャー / 指標属性の定義		
ベンチマークの関連付け（KPI レベル）	KPI デザイナ	
活動期間 - 時間の関連付け（KPI レベル）	KPI デザイナ	
KPI 別の計算セットの定義	KPI デザイナ	
プロトタイプ・プロパティ（データセット）の定義	使用不可	PMD: メジャー・ モジュール
メジャー別のプロトタイプ範囲	使用不可	PMD: メジャー・ モジュール
プロトタイプのランダム・データ・スタイルの定義	使用不可	PMD: メジャー・ モジュール
プロトタイプ・カラーの定義	使用不可	PMD: メジャー・ モジュール
ディメンションの定義 / 追加	使用不可	PMD: ディメンショ ン・モジュール
ディメンション・レベルの定義	使用不可	PMD: ディメンショ ン・モジュール
ディメンション・グループのプロパティの作成と 定義	使用不可	PMD: ディメンショ ン・モジュール
ディメンション・セットのプロパティの作成と定義	使用不可	PMD: ディメンショ ン・モジュール

表 3-4 モジュール別の機能詳細（続き）

機能	アーキテクト	PMD
指標 / メジャーへのディメンション・セットの割当て	使用不可	PMD: ディメンション・モジュール
分析オプションへのディメンション・セットのドラッグ・アンド・ドロップ	使用不可	PMD: ディメンション・モジュール
ディメンション・レベル間の関連の定義	使用不可	PMD: ディメンション・モジュール
ディメンション・レベル・プロパティの定義	使用不可	PMD: ディメンション・モジュール
比較におけるディメンションのデフォルト・プロパティの定義	使用不可	PMD: ディメンション・モジュール
その他のディメンション・レベル・プロパティ（非表示 / 表示可能）の定義	使用不可	PMD: ディメンション・モジュール
グループまたはセット内のディメンション・レベルの順序変更の許可	使用不可	PMD: ディメンション・モジュール
カラー・プロパティの定義		
指標レベルのカラー・プロパティの定義	KPI デザイナ	PMD: KPI モジュール
データセット別カラー・メソッドの定義	使用不可	PMD: KPI モジュール
指標別カラー・トリガーの定義	KPI デザイナ	PMD: KPI モジュール
「表示別」特性の定義	KPI デザイナ	PMD: KPI モジュール
システム・レベルのカラー・プロパティの定義	KPI デザイナ	該当なし
カラー警告のカスタマイズ（システム）の変更	KPI デザイナ	該当なし
100% を上回るカラー・パフォーマンス・メソッドの定義（作業環境）	KPI デザイナ	該当なし
グラフのカスタマイズ（分析オプションによる指標のコンテキスト内）	KPI デザイナ	該当なし
グラフ・タイトルの定義	KPI デザイナ	該当なし
グラフ・サブタイトルの定義	KPI デザイナ	該当なし
X 軸ラベルと Y 軸ラベルの定義	KPI デザイナ	該当なし
スケール・プロパティの定義	KPI デザイナ	該当なし
データセット（メジャー）別の各種グラフ / 系列の定義	KPI デザイナ	該当なし
線	KPI デザイナ	該当なし
棒	KPI デザイナ	該当なし
面	KPI デザイナ	該当なし
スタック	KPI デザイナ	該当なし
グラフ・タイプ別のカラー・プロパティの定義	KPI デザイナ	該当なし
比較グラフ・タイプ・プロパティの定義	KPI デザイナ	該当なし
円グラフ・プロパティの定義	KPI デザイナ	該当なし
円グラフのデフォルト・スライス数の定義	KPI デザイナ	該当なし

表 3-4 モジュール別の機能詳細（続き）

機能	アーキテクト	PMD
特殊タイプの指標 / ビューの作成		
シミュレーション・ツリーの作成	KPI デザイナ	該当なし
損益の作成	KPI デザイナ	該当なし
拡張機能（指標レベル / メジャー・レベル）		
KPI 間の原因と結果の定義	KPI デザイナ	該当なし
活動期間の定義	KPI デザイナ	該当なし
複数カレンダーの定義	KPI デザイナ	該当なし
（積上カレンダー、比較カレンダー）	KPI デザイナ	該当なし
KPI の（メジャー別ではない）計算の定義	KPI デザイナ	該当なし
KPI のベンチマークの定義	KPI デザイナ	該当なし
ユーザー・ボタンの定義（指標レベル）		
Excel への指標のエクスポートの有効化	KPI デザイナ	該当なし
指標に対する予測オプションの有効化 / 無効化	KPI デザイナ	該当なし
指標の関連リンクの定義	KPI デザイナ	該当なし
指標間のオプションを表示 / 非表示に設定するためのユーザー・ウィザード機能	KPI デザイナ	PMD: スコアカード・モジュール
指標別にメジャーの表示 / 非表示を切り替える機能	KPI デザイナ	PMD: スコアカード・モジュール
その他の要素（ディメンション、計算など）の表示 / 非表示を切り替える機能	KPI デザイナ	該当なし
会計年度の定義	KPI デザイナ	該当なし
キー項目の定義	KPI デザイナ	該当なし
情報指標ウィンドウ（共有、マスター特性）	KPI デザイナ	該当なし
管理モジュール		
メタデータ・オブティマイザ	VB OBSC アーキテクト: メタデータ・モジュール	
ローダー	使用不可（Excel からのロード以外）	PMD: データ・ローダー・モジュール
スコアカード、指標およびディメンション・レベル別のセキュリティ	使用不可	PMD: セキュリティ・モジュール
スコアカード別セキュリティ	使用不可	PMD: セキュリティ・モジュール
指標別セキュリティ	使用不可	PMD: セキュリティ・モジュール
共通のディメンション・レベル / スコアカード別セキュリティ	使用不可	PMD: セキュリティ・モジュール
設定モジュール	VB OBSC 設定モジュール	
セッション管理		PMD: セッション管理

表 3-4 モジュール別の機能詳細（続き）

機能	アーキテクト	PMD
アップグレード機能	使用不可	該当なし
移行機能	VB OBSC 設定モジュール	該当なし
マルチユーザー機能：グラニュル・ロック機能	全モジュール	全モジュール

用語

次の表に、このリリースのバランス・スコアカードで変更された用語を示します。

表 3-5 バランス・スコアカードの用語

旧用語 (アーキテクト)	新用語 (PMD)	コンテキスト	モジュール	意味	ルール
ディメンション (ディメンション・レベルとも呼びます)	ディメンション・オブジェクト	システム・レベルで定義	「パフォーマンス・メジャー」タブ：「ディメンション」サブタブ	KPI またはスコアカード別の表示別レベル：例：リージョン、州、郡市区。	1 個のディメンションに 1-n 個のディメンション・オブジェクトがあり、1 個のディメンション・オブジェクトが複数のディメンションに属することができます。
ディメンション・グループ	ディメンション	システム・レベルで定義	「パフォーマンス・メジャー」タブ：「ディメンション」サブタブ	ディメンションは、オブジェクトの性質に関係なく 1 つ以上のディメンション・オブジェクトの集合です。通常、設計者はディメンションを KPI またはレポートのコンテキストで使用する関連ディメンション・オブジェクトのセットとして作成します。例：ディメンション 1: リージョン、製品タイプ、顧客タイプ。例：ディメンション 2: 製品タイプ、顧客タイプ。	1 個のディメンションに複数のディメンション・オブジェクトが含まれ、1 個のディメンション・オブジェクトが複数のディメンションに属することができます。
ディメンション・セット		KPI レベルで定義	「パフォーマンス・メジャー」タブ：「KPI」サブタブ	ディメンション・セットは、複数のディメンションの集合です。ディメンション・セットは、設計者が KPI のメジャーに割り当てるオブジェクトなので、各 KPI にメジャー・レベルで表示されるディメンションのセットを表します。	1 個のディメンション・セットに複数のディメンションが含まれます。KPI の各メジャーには 1 個のディメンション・セットが割り当てられます。

表 3-5 バランス・スコアカードの用語（続き）

旧用語 (アーキテクト)	新用語 (PMD)	コンテキスト	モジュール	意味	ルール
KPI (指標とも呼びます)	KPI	システム・レベル で定義	「パフォーマンス・メジャー」 タブ: 「KPI」 サブタブ	KPI には複数の関連分析オプションが含まれます。 例: 売上成長率。	1 個の KPI は 1 個の KPI グループにのみ所属でき、1-n 個の分析オプションが含まれ、複数のスコアカード間で共有可能です。
分析オプション (分析オプションの 組合せ)		メジャー表示名	KPI レベルで 定義	「パフォーマンス・メジャー」 タブ: 「KPI」 サブタブ	分析オプションは、KPI コンテキストでメジャーを表現したものです。単独で、または分析グループ内に表示できます。 例: 売上 1 個の KPI には 1-n 個の分析オプションが含まれ、1 個の分析オプションは 1 個の KPI にのみ属し、分析オプションは 1 個のメジャーまたはディメンション・セット、あるいはその両方に関連付けられています。
分析グループ	該当なし (BSC アーキテクトのみ)	KPI レベルで定義	BSC アーキテクト (KPI レベル) で定義	分析グループは、複数の分析オプションの組合せを表します。関連分析オプションの分類に役立ちます。 例: 売上、トン数、金額。	1 個の分析グループに 1-n 個の分析オプションを含めることができ、1 個の KPI に最大 3 個の分析グループが含まれ、各グループは依存させるか独立させることができます。
データ系列	該当なし (BSC アーキテクトのみ)	KPI レベルで定義	BSC アーキテクト (KPI レベル) で定義	1 個の KPI の 1 個の分析オプションの組合せに複数の系列を含めることができます。1 つのグラフに同時に複数の系列を表示できます。例: 広告の効果、売上、広告費	1 個の分析オプションの組合せに複数の系列を含めることができます。複数のデータ系列に同じディメンション・セットが含まれている必要があります。

表 3-5 バランス・スコアカードの用語（続き）

旧用語 (アーキテクト)	新用語 (PMD)	コンテキスト	モジュール	意味	ルール
データセット	メジャー	システム・レベル で定義	「パフォーマンス・メジャー」 タブ: 「メジャー」サブ タブ	すべてのメジャー には1個のデータ セットが添付され ています。データ セットは、生成さ れる表のデータ・ ソースまたは列に 関連付けられてい るデータ・モデル 内のオブジェクト です。	分析オプションの 組合せとデータ セットには、1対 1の関連がありま す。複数のデータ セットが同じデー タ・ソースを指す ことができます。 1個のデータセッ トは1個のデー タ・ソースまたは 1つのフォーミュ ラ (2個のデー タ・ソース) を指 します。
データ・ソース	ソース列	システム・レベル で定義	「パフォーマンス・メジャー」 タブ: 「メジャー」サブ タブ	すべてのメジャー (データセット) は、表の列である ソース列 (デー タ・ソース) に 関連付けられてい ます。	1つのソース列を 複数のメジャーに 使用できます。1 つのソース列を他 のソース列間の フォーミュラとし て使用できます。

スコアカード・システムの設計の概要

この項では、パフォーマンス管理デザイナを使用してスコアカード・システムを設計する際の標準的なビジネス・フローについて説明します。このビジネス・フローは、次の各部で構成されています。

- 概念から戦略へ、戦略から設計へ
- 設計からプロトタイプへ
- プロトタイプから本番へ

概念から戦略へ、戦略から設計へ

通常、このフェーズでは、社内のビジネス・コンサルタントと戦略的経営チームが戦略を分析し、特定の戦略的目標と戦略に影響する様々な組織単位間での追跡に必要な方法を設定して、戦略を定義します。

これは概念的なフェーズであり、戦略達成のために追跡する必要のあるクリティカルな目標、指標およびメトリックを明確化します。また、スコアカードで表される、戦略に影響する主要なロールやビジネス単位の貢献度を追跡するための最適な方法を明確化します。

図 3-1 戦略から概念へ、概念から設計へ

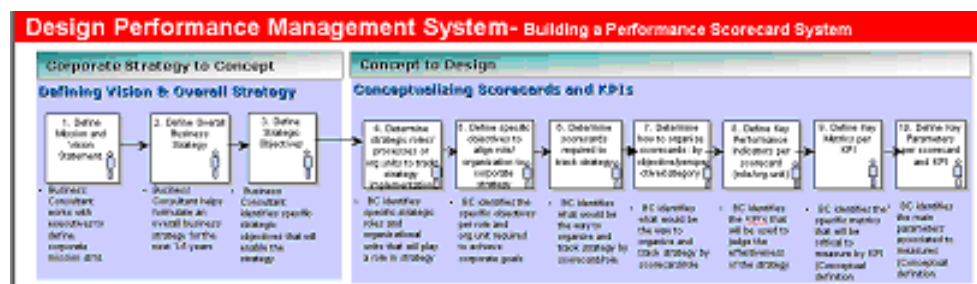
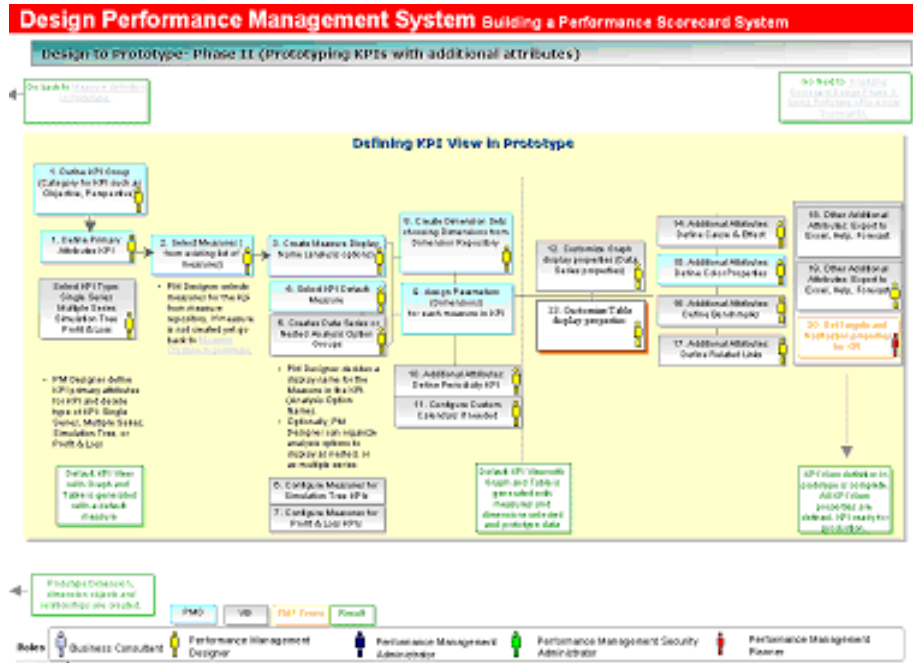
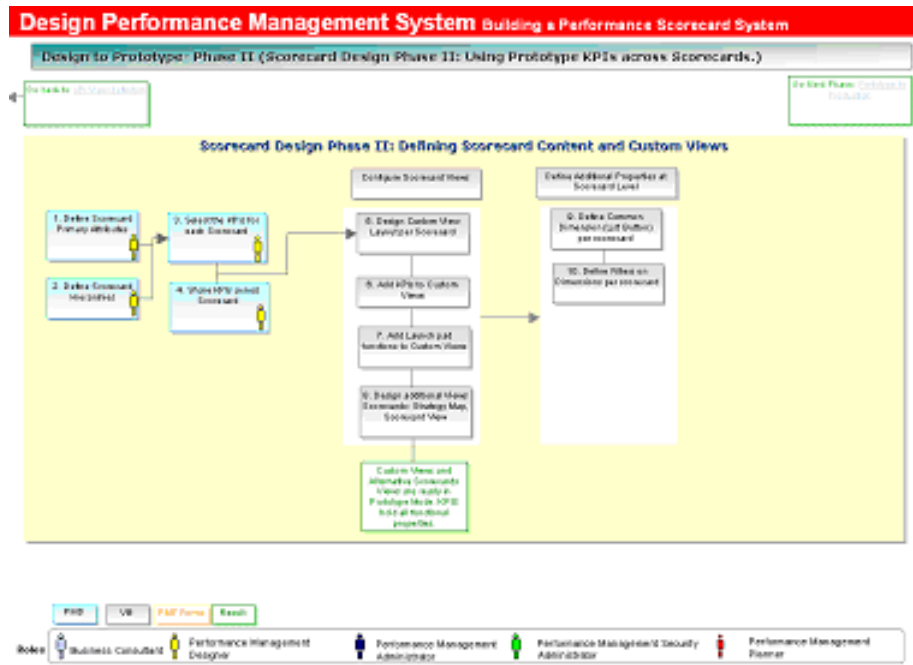


図 3-4 KPI の定義



KPI、メジャーおよびディメンションを定義した後、設計者は最初に作成したスコアカード構造に戻って、内容、つまり各スコアカードに反映させる必要のある KPI とメジャーを選択します。

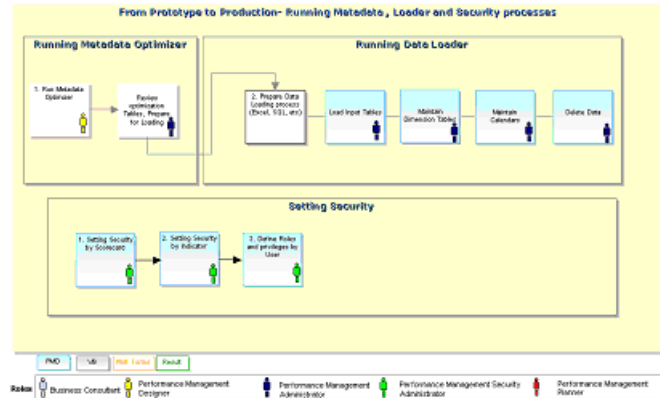
図 3-5 スコアカードの定義



プロトタイプから本番へ

スコアカードのオブジェクトがすべて定義され構成された後、「パフォーマンス管理管理者」および「パフォーマンス管理セキュリティ管理者」職責がメタデータ・プロセスとローダー・プロセスを実行して、ユーザー職責別にデータのロードとセキュリティの設定を開始します。

図 3-6 プロトタイプから本番へ



スコアカード設計時の考慮事項

この項では、パフォーマンス管理デザイナを使用する際の一般的な考慮事項について説明します。

アーキテクトとの同期化

スコアカード設計者は、BSC アーキテクトとパフォーマンス管理デザイナの両方を使用してスコアカードを設計する必要があります。

前項で説明したビジネス・フローは、標準的な構成フローの主要ステップと、設計者が両方のツールとどのように対話するかを示しています。

パフォーマンス管理デザイナで行われた変更は BSC アーキテクトにも反映され、BSC アーキテクトで行われた変更や構成はすべてパフォーマンス管理デザイナにも反映されます。

BSC アーキテクトからパフォーマンス管理デザイナに完全に移行されたモジュールは、同期化やグラニューロックの問題を回避するために使用不可になっており、パフォーマンス管理デザイナでは明確な設計フローが提供されるため、機能が重複することはありません。

BSC アーキテクトで使用不可になり、パフォーマンス管理デザイナの新規モジュールで使用可能になっているモジュールは、次のとおりです。

KPI とオブジェクトの作成および構成

- KPI の「データセットの割当」メニュー
 - メジャー（データセット）の作成と更新
 - ソース列（データ・ソース）の作成と更新
- KPI の「ディメンションの割当」メニュー
 - ディメンション・オブジェクト定義
 - ディメンション定義
 - ディメンション・オブジェクト関連の定義

スコアカードの作成とスコアカードの内容の選択

- スコアカード作成
- スコアカードの移動
- スコアカードの削除
- スコアカードの並替え

Oracle Balanced Scorecard マネージャで使用不可になり、パフォーマンス管理デザイナを介して使用可能になっている管理モジュール

- ローダー・モジュール
- 管理者（セキュリティ）モジュール

設計プロセスでの含意

パフォーマンス管理デザイナ設計者に提案される設計プロセスは、BSC ビルダーおよび KPI デザイナという各ツールの構造により提示されていた以前のプロセスとは異なる場合があります。

新しいパフォーマンス管理デザイナ・プロセスでは、次の主な想定が設計者に役立ちます。

- スコアカード・フレームワーク外部で KPI を作成して構成するための中央リポジトリ。
設計者は、KPI 構造の計画を作成し、KPI にメジャーとディメンションを割り当て、KPI をプレビューしてから、後の段階でスコアカードに割り当てることができます。（以前のリリースでは、各 KPI をスコアカードに割り当ててから、KPI デザイナにアクセスして構成する必要がありました）。
- 階層構造とスコアカードの内容を構成するためのスコアカードの中央リスト。
- メジャー（データセット）とすべてのメジャー・プロパティを定義するための中央リポジトリおよびインタフェース。
- ディメンション、ディメンション・オブジェクトおよびディメンション・オブジェクト関連を作成および構成するための中央ディメンション・リポジトリ。

パフォーマンス管理デザイナでは、グラニクル・ロックの問題を最小限に抑えて同時に複数の設計者が作業できます。これにより、ある設計者はメジャーやディメンションを独自に作成するように選択し、別の設計者は相互をロックせずに KPI 構造で作業できます。

さらに、パフォーマンス管理デザイナに組み込まれているメニュー体系では、実際のロールに基づいて設計フロー、データ管理フローおよびセキュリティ管理フローという明確なビジネス・フローを使用できます。設計者と管理者がより効率的に作業できるように、新規の職責と個別のモジュールが用意されています。このため、グラニクル・ロックの問題が防止され、モジュールごとのプロセスを容易にする新規インタフェースを使用する必要がありません。

エンド・ユーザーにとっての含意

このリリースにおけるエンド・ユーザーにとっての含意は最小限で、このリリースの主な焦点は設計機能に置かれています。このため、パフォーマンス・スコアカード・ビューは機能の大幅変更の影響を受けていません。

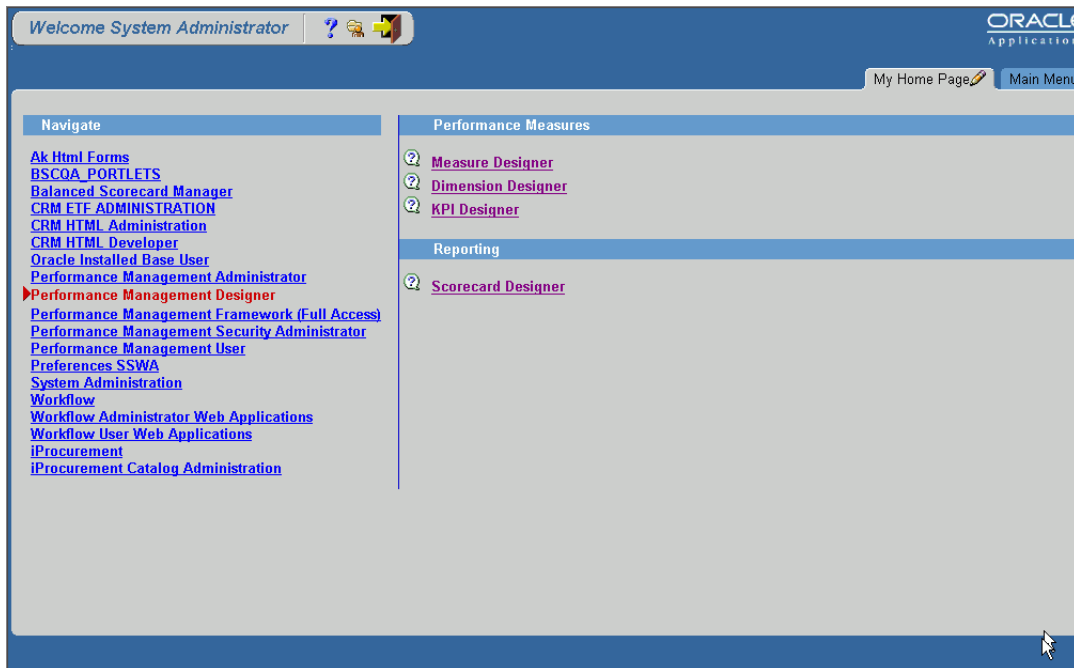
パフォーマンス管理デザイナの使用

この項では、パフォーマンス管理デザイナの使用方法について説明します。

パフォーマンス管理デザイナへのログイン

このマニュアルの「ロール」の項で説明したパフォーマンス管理デザイナでのロールに基づいて、新規の職責が4つ追加されています。

図 3-7 パフォーマンス管理デザイナの新規職責



パフォーマンス管理デザイナ・モジュールにアクセスする手順は、次のとおりです。

1. 「パフォーマンス管理デザイナ」職責を選択します。
2. 使用可能なモジュールを1つ選択します。
 - メジャー・デザイナ
 - ディメンション・デザイナ
 - KPI デザイナ
 - スコアカード・デザイナ

スコアカードの作成

パフォーマンス管理デザイナーの「スコアカード」タブにアクセスする手順は、次のとおりです。

1. 「パフォーマンス管理デザイナー」 職責を選択します。
2. 「レポート」 → 「スコアカード・デザイナー」を選択します。
3. 「スコアカード」 タブをクリックします。「スコアカード」 タブで次のタスクを実行します。
 - スコアカードの作成
 - スコアカード階層の作成
 - スコアカードの主要属性の編集
 - スコアカードのオーナーの作成
 - 新規階層へのスコアカードの移動
 - 階層内のスコアカードの順序変更
 - スコアカードの削除
 - 「スコアカードのリスト」 ウィンドウでのナビゲート
 - 「全て拡張」 および 「全て縮小」 リンク
 - 「フォーカス」 アイコンを使用した単一スコアカード階層の表示
 - 検索の実行
 - 設計モードからのスコアカードのプレビュー
 - 「スコアカードのリスト」 ウィンドウへのその他の情報列の追加

次の図に、「スコアカードのリスト」 ウィンドウを示します。

図 3-8 「スコアカードのリスト」 ウィンドウ

The screenshot displays the 'Scorecards' window in Oracle Performance Management Designer. The interface includes a top navigation bar with 'Reporting' and 'Performance Measures' tabs. Below the navigation bar, there is a search section with a 'Search' button and a 'Go' button. The main area shows a table of scorecards with the following columns: Focus Name, Owner, Preview, Update, Move, Reorder, and Delete. The table lists several scorecards, including 'Supply Chain Scorecard', 'Procurement Scorecard', 'Driving Procurement ROI', 'Product Development Scorecard', 'Sales Management Scorecard', and 'Human Resources Scorecard'. Each row has icons for preview, update, move, reorder, and delete. At the bottom of the window, there is a footer with copyright information and a privacy statement link.

Focus Name	Owner	Preview	Update	Move	Reorder	Delete
▼ All Scorecards						
Supply Chain Scorecard						
Procurement Scorecard						
Driving Procurement ROI						
Product Development Scorecard						
Sales Management Scorecard						
Human Resources Scorecard						

「スコアカードのリスト」ウィンドウには、システムに存在する全スコアカードのリストが表示されます。このリストには、スコアカードの作成順序とスコアカード間の階層が反映されます。

「スコアカードのリスト」ウィンドウは、次の要素で構成されています。

- 検索: テキスト文字列に基づいてスコアカード・リスト全体を検索できます。
- 「全て拡張」および「全て縮小」リンク: 全スコアカードのリストを階層形式またはサマリー形式で表示できます。
- 「フォーカス」アイコン: このアイコンは、依存スコアカードを持つスコアカードの隣に表示されます。
- スコアカード名: リストは、スコアカードの作成順およびスコアカードに対して定義されている階層別に編成されます。
- プレビュー: スコアカードを表すカスタム・ビューのデフォルトのスコアカード・ビューをプレビューできます。
- 更新: KPIの内容を選択して主要属性を更新したり、特定のスコアカードのビューを管理できます。
- 「移動」アイコン: このアイコンは各行に表示されます。「移動」アイコンを使用すると、スコアカードを階層形式のスコアカード・リスト内で新規の位置に移動できます。
- 「順序」アイコン: このアイコンは各行に表示されます。特定の階層内で「順序」アイコンを使用すると、1つのブランチに属しているスコアカードを並べ替えることができます。
- 「削除」アイコン: このアイコンは各行に表示されます。「削除」アイコンを使用すると、スコアカードを削除できます。

新規スコアカードを作成する手順は、次のとおりです。

1. 「スコアカードのリスト」ウィンドウで「スコアカードの作成」をクリックします。
新規スコアカード・ウィンドウが表示されます。
2. スコアカードの名称、オーナーおよび摘要を入力します。名称の入力は必須です。3-22 ページの「[スコアカードのオーナーの作成](#)」を参照してください。
3. 「続行」をクリックして親スコアカードを選択します。階層内にスコアカードを作成しない場合は、「最上位レベル」を選択します。「最上位レベル」を選択すると、依存性のないスコアカードが作成されます。

スコアカード階層の作成

「スコアカードのリスト」ウィンドウで、複数のスコアカード階層を作成できます。階層を使用すると、設計者は組織体系または戦略的体系を反映した論理グループにスコアカードをまとめることができます。

注意: 階層を作成するには、2つ以上のスコアカードが必要です。スコアカードが存在しない場合は、「スコアカードのリスト」ウィンドウで「スコアカードの作成」ボタンを選択して作成できます。

すでに一連のスコアカードを定義済であれば、各スコアカードが「スコアカードのリスト」ウィンドウに階層なしの単純なスコアカード・リストとして表示されます。既存の2つのスコアカード間の階層を定義するには、「移動」および「順序変更」アイコンを使用して階層構造を作成します。既存のスコアカードと新規のスコアカードの間の階層を定義するには、「スコアカードの作成」ボタンをクリックしてから親スコアカードをクリックします。

次の例に、スコアカード階層の標準的なケースである部署階層を示します。

図 3-9 階層形式の「スコアカードのリスト」

Oracle Performance Management Designer

Home Logout Help

Reporting Performance Measures

Scorecards Launchpads

Scorecards

Search

* Search Scorecard Name Go

Create Scorecard

Expand All | Collapse All

All Scorecards > Corporate Scorecard

Focus Name	Owner	Preview	Update	Move	Reorder	Delete
▼ Corporate Scorecard						
▼ Marketing Scorecard						
Eastern Division Scorecard	Colby, Ms. Sharon					

Create Scorecard

Reporting | Performance Measures | Home | Logout

この例では、スコアカードのリストでスコアカードの依存性を表すことができます。設計者は、スコアカードごとに必要な数の階層レベルを作成できます。

1. 「スコアカード・リスト」で「スコアカードの作成」をクリックします。
2. スコアカードを作成して「続行」を選択します。
3. 表示されるウィンドウで親スコアカードを選択します。

図 3-10 親スコアカード

Oracle Performance Management Designer

Home Logout Help

Reporting Performance Measures

Scorecards Launchpads

Scorecards > Create Scorecard > Select Parent Scorecard

Select Parent Scorecard

Cancel Apply

Expand All | Collapse All

Top Level

Select Focus Name	Owner
▼ Top Level	
○ Supply Chain Scorecard	
○ Procurement Scorecard	
○ Driving Procurement ROI	
○ Product Development Scorecard	
○ Sales Management Scorecard	
○ Human Resources Scorecard	

Cancel Apply

Reporting | Performance Measures | Home | Logout | Preferences

Copyright 2003 Oracle Corporation. All rights reserved. Privacy Statement

スコアカード階層ごとに作成できるサブレベルまたは依存性の数に制限はありません。

階層内の各スコアカードは「スコアカードのリスト」に表示され、「更新」列を使用すると設計者はスコアカードの内容を更新できます。

作成したスコアカードごとに、対応するオーナーと詳細を定義できます。

スコアカードの階層または依存性を変更するには、次の項を参照してください。

- 新規階層へのスコアカードの移動
- 階層内のスコアカードの順序変更

注意： どの階層でも、親として指定できるスコアカードは1つのみです。1つのスコアカードを同じ階層に2度表示することはできません。

スコアカードのオーナーの作成

スコアカードの作成時、またはスコアカードの主要属性の編集時に、各スコアカードにオーナーを割り当てることができます。

1. 「オーナー」フィールドの値リストからオーナーを選択します。オーナー名を入力するか、%と部分文字列を入力して値を検索できます。作成できるオーナーは、スコアカードごとに1人のみです。

スコアカードの作成時に割り当て可能なオーナーは、バランス・スコアカード職責が割り当てられている Oracle Applications ユーザーです。すべてのユーザーが E メール・アドレスを持っていることが前提となります。この E メール・アドレスは、スコアカードをオーナーにリンクするために使用されます。

注意： オーナー・リストには、バランス・スコアカード職責を持っているかどうかに関係なく、Oracle Applications のウィンドウを通じて作成されたユーザー全員が含まれます。実装の次のステップでは、システム管理者として各オーナーに適切なバランス・スコアカード職責を割り当てる必要があります。

2. 「適用」をクリックして作業内容を保存します。

「オーナー」列には、オーナー名とアクティブ・リンクが表示されます。このリンクにより、エンド・ユーザーは名前をクリックして割り当て済のユーザーに E メール・メッセージを送信できます。

注意： スコアカード作成中のオーナーの選択は、各ユーザーに対して定義されているセキュリティ・アクセスにリンクされません。つまり、設計者は、ユーザーに付与されているアクセス権に関係なく、任意のユーザーをスコアカード・オーナーとして割り当てることができます。設計者がオーナーとユーザー別セキュリティの間に一貫した計画を持っていれば、オーナーには各自のスコアカードへのアクセス権が付与されますが、オーナーの定義時にはセキュリティ・アクセスは検証されません。これは、理論上、オーナーは権限に関係なくどのようなユーザーでもよいからです。

新規階層へのスコアカードの移動

親スコアカードに1つ以上の依存スコアカードがある場合は、「移動」アイコンを使用して階層を変更できます。

1. 新規階層に移動するスコアカードの「移動」アイコンを選択します。
既存の全スコアカードを示すウィンドウが表示されます。
2. 新規階層に移動するスコアカードを選択します。選択したスコアカードが新規階層の親スコアカードになります。

注意： 同じスコアカードに複数のユーザーが同時にアクセスできるため、移動対象として選択したスコアカードまたは新規の親として選択したスコアカードが、移動処理中に削除される場合があります。その場合は、スコアカードのリストをリフレッシュして選択を繰り返す必要があることを示すメッセージが表示されます。

3. 「適用」ボタンを選択して、「スコアカードのリスト」を新規階層でリフレッシュします。

注意： スコアカードを移動する場合は、次の制限に注意する必要があります。親と子のスコアカード間の循環参照は作成できません。選択したスコアカードをそれ自体に割り当てることはできません。

階層内のスコアカードの順序変更

「順序」アイコンを使用すると、階層内のスコアカードの順序を変更できます。スコアカードを階層の上位または下位に移動できます。スコアカードを別の階層に移動する場合は、「移動」アイコンを使用する必要があることに注意してください。

1. 階層の親スコアカードを選択し、「順序」アイコンを選択します。
その親に属しているスコアカードがすべて表示されます。スコアカードに依存スコアカードがなければ、「順序」アイコンは使用不可になります。
2. スコアカードを選択し、上ボタンと下ボタンを使用して階層内での順序を変更します。
3. 「適用」ボタンを選択して、「スコアカードのリスト」を新規の階層順序でリフレッシュします。

注意： 階層の第1レベルのスコアカード（親スコアカード）の順序を変更する場合は、スコアカードのルート・レベル（「全スコアカード」）をクリックして「順序」アイコンを使用します。

スコアカードの削除

1. 削除するスコアカードの「削除」アイコンを選択します。
削除の確認を求めるメッセージが表示されます。
2. 先に進んでスコアカードを削除する場合は「OK」をクリックします。

「スコアカードのリスト」ウィンドウでのナビゲート

この項では、「スコアカードのリスト」ウィンドウで階層のナビゲートに使用できるその他の機能について説明します。

「全て拡張」および「全て縮小」リンク

「スコアカードのリスト」ウィンドウの上部に表示される次のリンクを使用すると、パフォーマンス管理デザイナおよびビューワのスコアカード・ユーザーの階層ツリーを表示できます。

- 全て拡張: スコアカードのリスト全体と階層が表示されます。
- 全て縮小: 第1ブランチ・レベルで要約されたスコアカードのリストが表示されます。

拡張および縮小機能は、各ブランチ・レベルでも使用できます。各スコアカード名の隣に青の三角形として表示される「+」および「-」アイコンを使用します。

「フォーカス」アイコンを使用した単一スコアカード階層の表示

処理するスコアカードのリストが長い場合は、「フォーカス」アイコンを使用して単一のスコアカード階層を表示できます。この機能は、エンド・ユーザー用のビューワと同様にパフォーマンス管理デザイナでも使用できます。

「+」および「-」アイコンを使用すると、階層と各スコアカードの詳細を拡張または縮小できます。

また、表示される軌跡を使用して、階層の親スコアカードまたは完全な「スコアカードのリスト」に戻ることもできます。

検索の実行

検索機能を使用すると、テキスト文字列に基づいて任意のスコアカードおよびオーナーを検索できます。検索が完了すると、指定したテキスト文字列またはその一部を含む全スコアカードが画面に表示されます。スコアカードを検索するには、スコアカード名を完全に入力するか、%と部分文字列を入力して全スコアカードのサブセットを検索します。たとえば、A%と入力して検索すると、Aで始まる全スコアカードが戻されます。

設計モードからのスコアカードのプレビュー

設計者は、「スコアカードのリスト」画面から各スコアカード行で使用可能な「プレビュー」ボタンを使用して、バランス・スコアカード・ビューワにナビゲートできます。「プレビュー」ボタンを選択すると、設計者に割り当てられている追加の職責に応じて新規画面が表示され、ビューワにアクセスできる適切な職責を選択できます。このウィンドウは、セキュリティの観点から、設計段階で処理されるデータがプロトタイプ・データとして表示され、機密である実際の数値が表示されないようになっています。

注意：「プレビュー」ボタンをクリックすると、スコアカードのデフォルト・ビューが表示されます。

「スコアカードのリスト」ウィンドウへのその他の情報列の追加

スコアカードに関して他の関連情報を表示する必要がある場合は、「スコアカードのリスト」ウィンドウで列を追加作成できます。

列を追加作成する場合は、次のルールを考慮してください。

- この列は、システムで作成済の全スコアカードまたは新規スコアカードに適用されます。
- 特定のスコアカードのこの列に情報がなければ、「スコアカードのリスト」の表には空のセルが表示されます。
- この列の情報の最大許容文字数は 50 文字です。
- このオプション列の内容の作成または変更は、Oracle Applications のウィンドウで行います。

たとえば、スコアカードに関して組織、戦略的グループまたは他の情報を含める場合は、その情報を追加の情報列に表示できます。この機能は、Oracle Applications のウィンドウで使用可能です。

1. Oracle Applications にシステム管理者としてログオンします。
2. 「メイン」→「システム管理者」を選択します。Oracle Applications ウィンドウが表示されます。
3. 「機能」ボックスで「プロファイル」→「システム」を選択します。
4. 「システム・プロファイル値の検索」ウィンドウの「プロファイル」ボックスに BSC% と入力して「検索」を選択します。
5. 「BSC: スコアカード情報列」プロファイル・オプションで「サイト」を「YES」に設定します。
6. 「ファイル」→「上書き保存」を選択します。
追加列のデフォルト名は「追加情報」です。
7. 「追加情報」列ヘッダーを変更するには、次の手順で操作します。
 - Oracle Applications にシステム管理者としてログオンします。
 - 「メイン」→「バランス・スコアカード管理者」を選択します。Oracle Applications ウィンドウが表示されます。
 - 「カスタム参照」を選択します。
 - 「内容」フィールドに、「追加情報」列ヘッダーの新規タイトルを入力します。

注意： 追加列の作成機能と列ヘッダーの名称変更機能は完全にオプションであり、前述した手順に従って **Oracle Applications** ウィンドウで行う必要があります。このウィンドウを使用しないと、「スコアカードのリスト」には従来の列である「スコアカード」と「オーナー」のみが表示されます。

列ラベル・ヘッダーの変更は、「スコアカードのリスト」ビューにのみ影響します。

8. 作業内容を保存します。

スコアカードの内容の更新

スコアカードを更新するには、次の方法があります。

- 3-25 ページ「[スコアカードの主要属性の編集](#)」
- 3-25 ページ「[スコアカードへの KPI の割当て](#)」
- 3-27 ページ「[KPI の選択](#)」
- 3-29 ページ「[ビューの管理](#)」

スコアカードの主要属性の編集

スコアカード名や摘要のようなスコアカードの主要属性は、「更新」アイコンを使用して編集できます。

1. 編集するスコアカードの「更新」アイコンを選択します。
2. 「主要属性」サブタブをクリックします。
3. 必要に応じて次のフィールドを編集します。
 - 名称
 - 摘要
 - オーナー
4. 「適用」をクリックして作業内容を保存します。

スコアカードへの KPI の割当て

次の図に、設計モードの「スコアカード」を示します。

図 3-11 設計モードの「スコアカード」画面

ORACLE Performance Management Designer

Home Logout Help

Reporting Performance Measures

Scorecards Launchpads

Scorecards > Update Supply Chain Scorecard

Update Supply Chain Scorecard

Cancel Apply

Primary Attributes KPIs Views

Add KPIs

KPI Name	KPI Group	Analysis Options	Remove
Supplier Effectiveness & Reliability	Supply Chain Blueprint		
Capacity Planning & Availability	Supply Chain Blueprint		
Demand Planning Effectiveness	Supply Chain Blueprint		
Operations Effectiveness & Optimization	Supply Chain Blueprint		
Process Innovation & Technology	Supply Chain Blueprint		
Increase Supply Chain Integration	Supply Chain Blueprint		
World Class Supply Chain Skills	Supply Chain Blueprint		
Accelerate Time to Market	Drive Revenue Growth		
Increase Customer Satisfaction	Drive Revenue Growth		
Maximize Supply Chain Predictability	Drive Revenue Growth		

Previous Next 10

Primary Attributes KPIs Views

Cancel Apply

Reporting | Performance Measures | Home | Logout | Preferences

Copyright 2003 Oracle Corporation. All rights reserved. Privacy Statement

KPI の選択

スコアカードの KPI を選択する手順は、次のとおりです。

1. 「スコアカード」の「KPI」サブタブをクリックします。
2. 「KPI の追加」をクリックします。

図 3-12 KPI の選択

ORACLE Performance Management Designer

Home Logout Preferences Diagnostics

Reporting Performance Measures

Scorecards Launchpads

Scorecards > Update Corporate Scorecard > Add KPIs

Add KPIs

Cancel Apply

Available KPIs

KPI Group * Promote Sales of Key Products Go

* Promote New Products

Selected KPIs

* Increase Sales

Move Move All Remove Remove All

Cancel Apply

Reporting | Performance Measures | Home | Logout | Preferences | Diagnostics

Copyright 2003 Oracle Corporation. All rights reserved. Privacy Statement

3. ドロップダウン・リストから KPI グループを選択して「進む」をクリックします。

4. 「使用可能 KPI」 リストから KPI を 1 つ以上選択します。

5. 右矢印アイコンを選択して KPI を「選択した KPI」 リストに移動します。

KPI を選択すると、そのグループが自動的に選択され、スコアカードの詳細ビューとツリー・ビューに表示されます。

指標を選択すると、その指標に属しているメジャーすべてが自動的に選択されます。設計者は、様々なスコアカード間で共有されている同じ指標について、異なるメジャーの表示または非表示を切り替えることができます。詳細は、3-27 ページの「[スコアカードに含まれる指標ごとのメジャーまたは分析オプションの表示と非表示の設定](#)」を参照してください。

様々なスコアカード間で同じ指標を選択できます。これは、BSC アーキテクトの共有指標機能に似ていますが、マスター指標は一意のスコアカードに限定されません。詳細は、3-28 ページの「[マスター指標と共有指標に関する考慮事項](#)」を参照してください。

6. 「適用」 をクリックして作業内容を保存します。

7. スコアカードをプレビューするには、「ビュー」 に移動してプレビューするビューを選択します。

スコアカードの指標の選択後に、次の 1 つ以上のタスクを実行できます。

- 現行のスコアカードに含まれる各指標のメジャーまたは分析オプションの表示と非表示を切り替えます。
- 引き続き、システムで作成した他のスコアカードの指標を選択します。3-28 ページの「[マスター指標と共有指標に関する考慮事項](#)」を参照してください。
- パフォーマンス管理デザイナで KPI デザイナを使用して、KPI グループ、KPI などの新規オブジェクトを作成し、KPI にメジャーを追加します。

スコアカードに含まれる指標ごとのメジャーまたは分析オプションの表示と非表示の設定

特定のスコアカードで指標を選択した後、様々なスコアカード間で同じ指標を選択し、その指標のメジャーまたは分析オプションの表示または非表示を設定できます。

スコアカードと指標の内容を構成する際には、次のルールを考慮してください。

- KPI デザイナでの指標：指標は、KPI デザイナで必要な数の分析オプションとメジャーを使用して構成できます。KPI デザイナでは常に、定義済の完全な構成とメジャー・セットが表示されます。指標の内容のステータスを変更されないのは、KPI ライブラリ内で指標のメジャーが追加または削除された場合のみです。
- スコアカードの指標：「KPI」 サブタブをクリックしてスコアカードの構成を開始し、内容を追加すると、指標はライブラリ内で構成済として表示されますが、元の定義を変更せずに指標のメジャーを表示または非表示に設定するための追加オプションが表示されます。これにより、様々なスコアカードの同じ指標について、異なるメジャーまたは分析オプションを表示できます。

指標のメジャーまたは分析オプションの表示または非表示を設定する手順は、次のとおりです。

1. 「スコアカード更新」 ウィンドウの「KPI」 サブタブをクリックします。
2. KPI の分析オプションを選択します。

図 3-13 スコアカードごとの KPI の分析オプションの表示 / 非表示

ORACLE Performance Management Designer

Home Logout Help

Reporting Performance Measures

Scorecards Launchpads

Scorecards > Update Supply Chain Scorecard > Analysis Options: Supplier Effectiveness & Reliability

Analysis Options: Supplier Effectiveness & Reliability

Cancel Apply

Select All | Select None

Select Name
☐ Measures
☒ On Time Delivery
☒ Avg. Price per Unit
☒ Quality Index

Cancel Apply

Reporting | Performance Measures | Home | Logout | Preferences

Copyright 2003 Oracle Corporation. All rights reserved. Privacy Statement

- 表示するメジャーのチェック・ボックスを選択し、非表示にするメジャーのチェック・ボックスの選択を解除します。この操作では要素の表示と非表示が設定されるのみで、元の指標定義のメジャーが変更または削除されることはありません。

次のルールが適用されます。

- 指標のデフォルト・メジャーは非表示に設定できません。デフォルト・メジャーは、マスター指標であるか共有指標であるかに関係なく、常に指標のカラー・ドライブです。1つの指標に複数のメジャーまたは分析オプションがあり、デフォルト・メジャー（通常はリストの最初のメジャー）を変更する必要がある場合は、BSC アーキテクトの「指標」メニューを使用して変更します。詳細は、3-89 ページの「分析オプション」を参照してください。
- 指標に依存グループ（親子関係を持つ分析オプション）がある場合は、子オプション・レベルで該当するチェック・ボックスを選択して、様々なメジャーを表示または非表示に設定できます。
 - 子オプションを選択すると、自動的に親オプションが選択されます。
 - すべての子オプションを使用不可または非表示にすると、自動的に親オプションが非表示になります。
 - 独立した分析グループでは、該当するチェック・ボックスを選択して、すべての独立メジャーを非表示または使用可能にすることができます。ただし、指標のデフォルト・オプションは常に必須です。

「シミュレーション・ツリー」および「損益」タイプの指標 メジャーの表示 / 非表示機能は、「シミュレーション・ツリー」および「損益」指標タイプには該当しないため、この2つのタイプには適用されません。

マスター指標と共有指標に関する考慮事項

複数のスコアカード間で指標を共有する場合の機能は、基本的には以前のバージョンの BSC アーキテクト・ツールで使用できた機能と同じです。ただし、このリリースでは次の新たな考慮事項に注意する必要があります。

- スコアカードに初めて割り当てた指標は、マスター指標として認識されます。同じ KPI を2度目に別のスコアカードに割り当てると、新規指標は共有 KPI となります。以前のリリースとは異なり、このバージョンにはマスター指標が1つのマスター・スコアカードにのみ属する必要はないというメリットがあります。設計者は、様々なスコアカードでマスター指標を作成し、マスターの位置に関係なく指標を共有できます。
- 指標を共有にすると、その標識に属するメジャーもすべて共有となります。新規のパフォーマンス管理デザイナでは、設計者は様々な共有指標のメジャーを表示または非表示に設定できます。3-27 ページの「スコアカードに含まれる指標ごとのメジャーまたは分析オプションの表示と非表示の設定」を参照してください。

- 削除に関する検証機能は以前のバージョンの BSC から変更されていないため、設計者は複数の指標で共有または使用されているメジャーを削除できません。メジャーを削除するには、すべての指標からそのメジャーの選択を解除してから、「KPI」タブに移動して削除します。
- このリリースではマスター指標を任意のタブに割当可能になっているため、BSC アーキテクトを使用している設計者のために、マスター指標の位置を示す新規メニューが用意されています。

ビューの管理

様々なスコアカード・ビューを管理する手順は、次のとおりです。

1. 「パフォーマンス管理デザイナ」 職責を使用して「スコアカード・デザイナ」にログインします。
2. スコアカードの「更新」を選択します。
3. 「ビュー」サブタブをクリックします。

図 3-14 スコアカードの設計



4. 次のいずれかの方法でビューを管理します。
 - スコアカードのデフォルト・ビューを設定するには、「デフォルト・ビュー」フィールドの値リストからビューを選択します。
 - ビューの表示と非表示を切り替えるには、それぞれ「表示」ボックスを選択するか選択を解除します。
 - カスタム・ビューを作成または更新するには、3-31 ページの「カスタム・ビューの作成と更新」を参照してください。
 - カスタム・ビューを削除するには、「削除」をクリックします。
 - BSC ビューワでスコアカードをプレビューするには、「プレビュー」をクリックします。
5. 「適用」をクリックして作業内容を保存します。

スコアカード・ビューとカスタム・ビューのスコアカード別構成

スコアカード・ビューとカスタム・ビューを構成して、戦略を監視し、会社の将来設計を調整できます。複数のスコアカードを作成し、特定の特性とビュー・セットを使用して各スコアカードを個別に書式設定できます。

スコアカード・ビューには、次の 5 つのタイプがあります。

- **カスタム・ビュー**: 最も柔軟性の高いビューです。カスタム・ビューを使用すると、設計者は各スコアカードの複数のビューをカスタマイズし、ビューの基礎として任意のグラフィックを使用できます。カスタム・ビューの作成にはパフォーマンス管理デザイナを使用します。BSC アーキテクト -KPI デザイナでは、カスタム・ビューは使用不可になっています。

設計者は、グラフィックにオブジェクトをドラッグ・アンド・ドロップして、指標、ラベル、起動パッド、URL および他のカスタム・ビューへのリンクを追加できます。これらのオブジェクトは、ビューのユーザーが KPI ビュー・レベルにドリルダウンしたり他の代替ビューにナビゲートできるように構成できます。

- **スコアカード・ビュー**: KPI デザイナのデフォルト・ビューです。スコアカード・ビューでは、KPI グループと指標がボックスに収集され、各ボックスを画面上で操作し、線で接続できます。このビューの変更には BSC アーキテクト -KPI デザイナを使用します。

このビューの特性と構成については、3-41 ページの「[スコアカード・ビューの構成](#)」を参照してください。

- **戦略マップ・ビュー**: BSC アーキテクト・ユーザーは、BSC アーキテクト -KPI デザイナを使用して戦略マップ・ビューを変更できます。このツールを使用すると、「KPI」ボックスと「警告」ボックスをビューにドラッグ・アンド・ドロップできます。また、両者を接続する線を描くこともできます。

設計者はカスタム・ビューを構成することで戦略マップ・ビューを作成できますが、このオプションは BSC アーキテクト・ユーザーも使用可能です。

このビューの特性と構成については、3-43 ページの「[戦略マップ・ビューの構成](#)」を参照してください。

- **詳細ビュー**: このビューは、「パフォーマンス・スコアカード・ビューワ」でのみ使用可能です。このビューは、バランス・スコアカードで作成されたすべてのスコアカードについて自動的に生成され、構成する必要はありません。詳細ビューは必要に応じて表示または非表示に設定できます。

詳細ビューには、スコアカードの各 KPI グループと KPI が表示され、KPI の「実績」、「計画」、「変動」および「パーセント」データが表形式で表示されます。必要な場合は、ビューの列名を変更できます。

- **ツリー・ビュー**: このビューは、「パフォーマンス・スコアカード・ビューワ」でのみ使用可能です。このビューは、バランス・スコアカードで作成されたすべてのスコアカードについて自動的に生成され、構成する必要はありません。

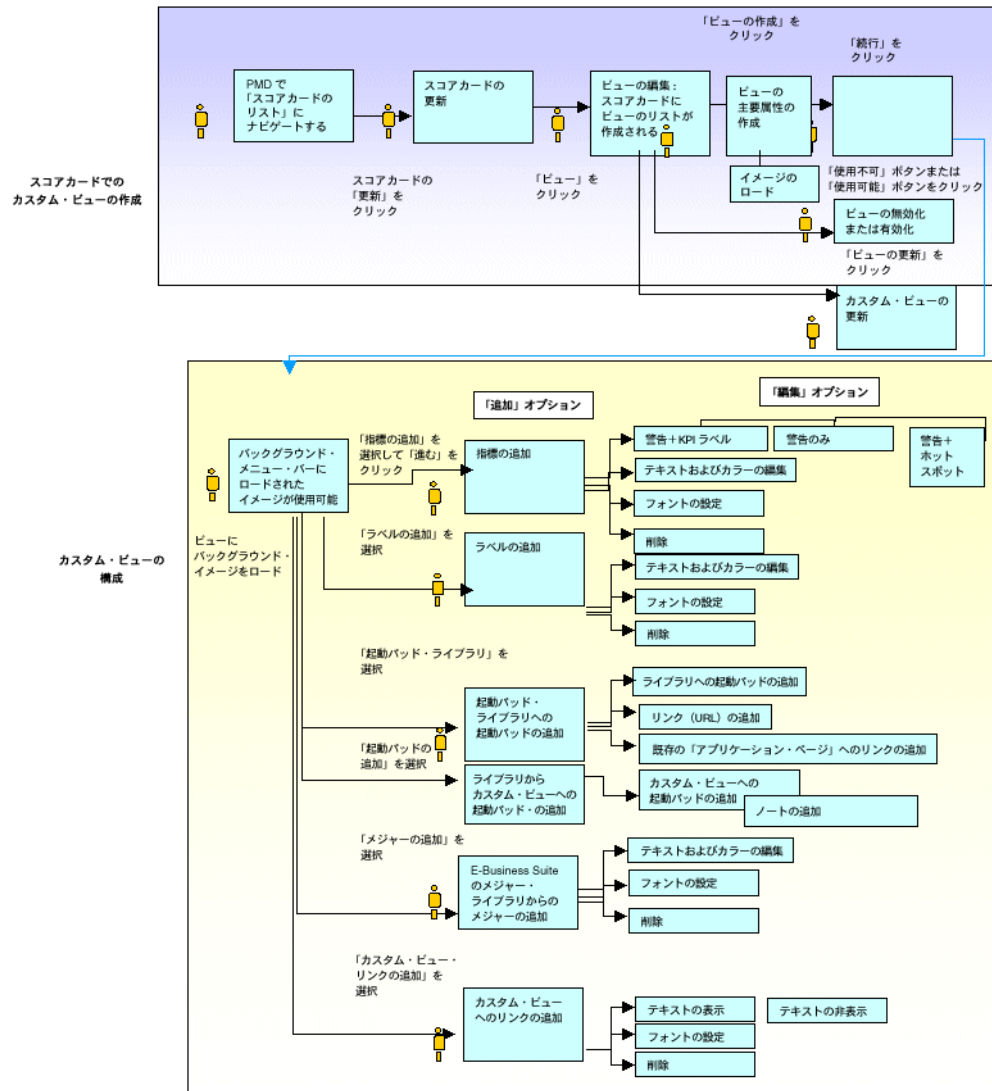
ツリー・ビューには、スコアカードの各 KPI グループと KPI がリスト形式で表示されます。このビューを使用すると、各 KPI とデフォルト・メジャーのステータスを表示できます。

カスタム・ビューの作成と更新

カスタム・ビューを使用すると、カスタマイズされたスコアカード・ビューを作成できます。設計者は、グラフィックをパフォーマンス管理デザイナにインポートしてカスタム・ビューを作成します。その後、指標、ラベル、カスタム・ビュー・リンクおよび起動パッドをビューにドラッグ・アンド・ドロップできます。

次のダイアグラムに、パフォーマンス管理デザイナを使用してカスタム・ビューを作成および更新する際の標準的なビジネス・フローを示します。

図 3-15 カスタム・ビューの作成と更新：標準的なビジネス・フロー



カスタム・ビューの作成

カスタム・ビューを作成する手順は、次のとおりです。

1. 「パフォーマンス管理デザイナ」職責を使用して「スコアカード・デザイナ」にログインします。
2. カスタム・ビューを追加するスコアカードの「更新」をクリックします。
3. 「ビュー」をクリックします。
4. 「ビューの作成」をクリックします。

図 3-16 新規カスタム・ビューの作成

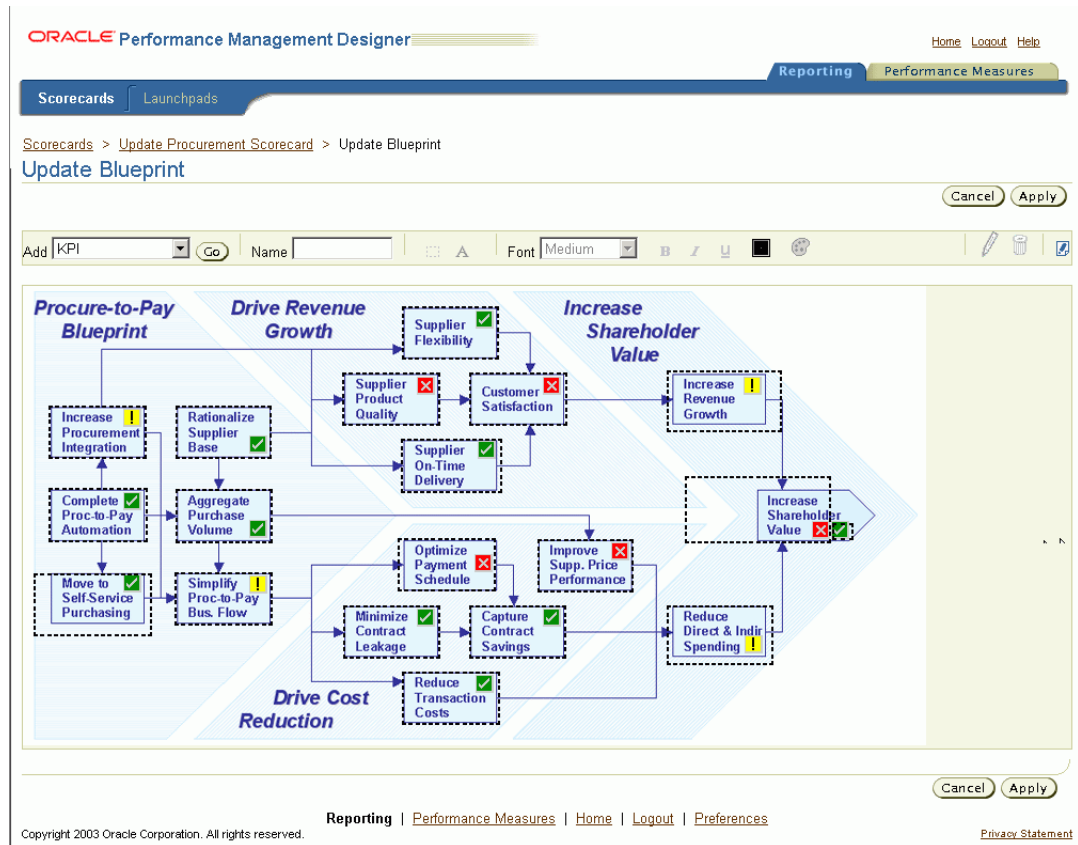
The screenshot shows the 'Create View' dialog box in the Oracle Performance Management Designer. The dialog has a title bar with 'ORACLE Performance Management Designer' and navigation links: 'Home', 'Logout', 'Preferences', 'Diagnostics'. Below the title bar, there are tabs for 'Scorecards', 'Reporting', and 'Performance Measures'. The 'Scorecards' tab is selected, and the breadcrumb path is 'Scorecards > Update Scorecard > Manage Views'. The 'Create View' dialog contains the following fields and controls:

- Name:** A text field containing 'My Custom View'.
- Description:** A text area for entering a description.
- Background Image:** A text field with a 'Browse...' button next to it. Below the field, it says 'Formats Accepted: gif, jpeg, *'.
- Buttons:** 'Cancel' and 'Continue' buttons are located at the top right and bottom right of the dialog.

At the bottom of the window, there is a footer with the text 'Copyright 2003 Oracle Corporation. All rights reserved.' and a 'Privacy Statement' link.

5. ビューの名称と摘要を入力します。
6. 「バックグラウンド・イメージ」フィールドにイメージの場所を入力してビューのイメージを追加します。
バックグラウンド・イメージには、GIF、JPG または JPEG ファイルを使用できます。
イメージの最大推奨サイズは 1MB です。
7. 「続行」をクリックします。「カスタム・ビューの設計」ウィンドウが表示されます。

図 3-17 「カスタム・ビューの設計」ウィンドウ

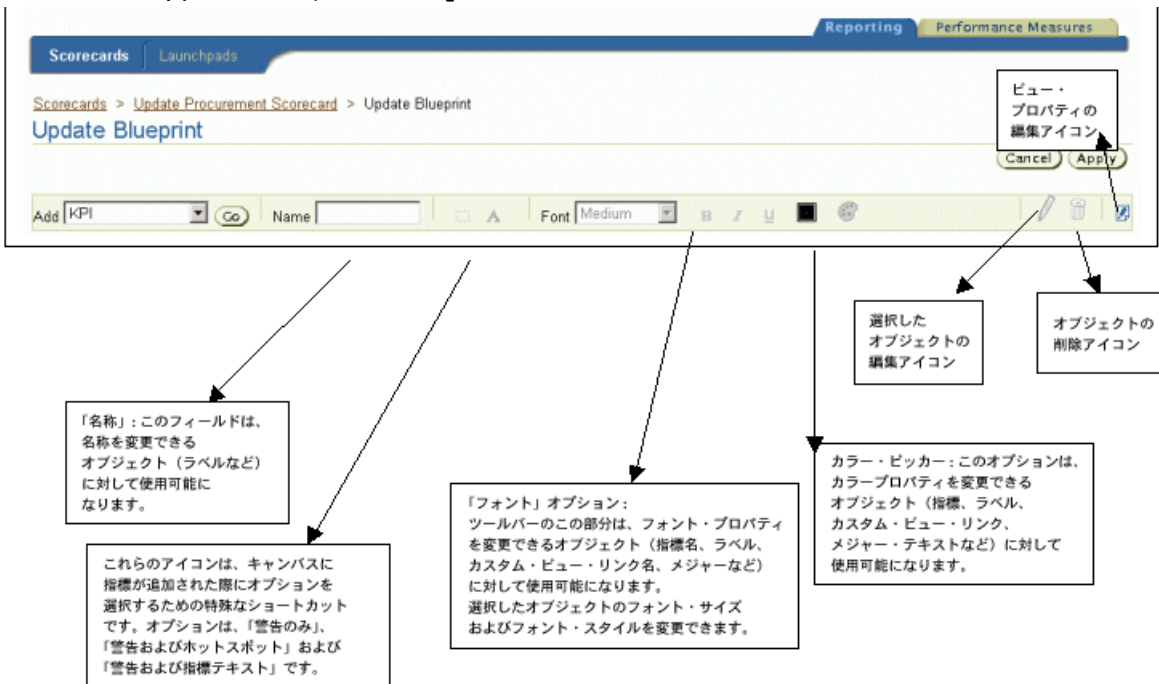


8. 必要に応じてカスタム・ビューを構成します。カスタム・ビューの構成方法の詳細は、3-34 ページの「カスタム・ビューの構成」を参照してください。
9. 「適用」をクリックしてカスタム・ビューを保存します。

カスタム・ビューの構成

カスタム・ビューの項目を変更するには、「カスタム・ビュー」 ツールバーを使用します。

図 3-18 「カスタム・ビュー」 ツールバー



カスタム・ビューの変更時には、次のオブジェクトを追加できます。

- 指標
- ラベル
- 起動パッド
- カスタム・ビュー・リンク

カスタム・ビューにオブジェクトを追加する前に、次の特別な考慮事項に注意する必要があります。

- オブジェクトを配置できるのは、ロードされたイメージの境界内のみです。
- カスタム・ビューを構成する前に、そのイメージをロードします。カスタム・ビューの構成を開始した後でイメージを追加しても、オブジェクトは自動的に再配置されません。
- プレビュー機能を使用して、ビューワに表示されるカスタム・ビューの外観を確認します。
- オブジェクトを追加すると、そのオブジェクトが自動的に選択されます。このため、そのオブジェクトをイメージの境界内の必要な場所にドラッグ・アンド・ドロップできます。各オブジェクトには、変更可能な様々な特性（フォント・サイズ、カラー、サイズ）があります。
- オブジェクトを変更するには、ツールバーを使用する方法と「編集」をクリックする方法があります。
- [Alt] を押しながら [←] を押して、オブジェクトの非表示テキスト（指標、他のカスタム・ビューへのリンクまたはメジャー）のサイズを変更できます。

注意: どのビューの場合も、そのビューで作業する設計者やコンサルタントは、スコアカード・ビュー、戦略マップ・ビューまたはカスタム・ビューの設計の外観を最後の HTML ビューで継続的に確認する必要があります。最終エンド・ユーザーが使用する解像度に適合しない場合や、使用フォントが小さすぎる場合には、軽微なサイズ変更が必要になる可能性があります。特に、カスタム・ビューや戦略マップ・ビューの場合は、小さすぎるフォントやオブション、または最終的なバックグラウンド・イメージで識別しにくいカラーを使用しないように注意してください。

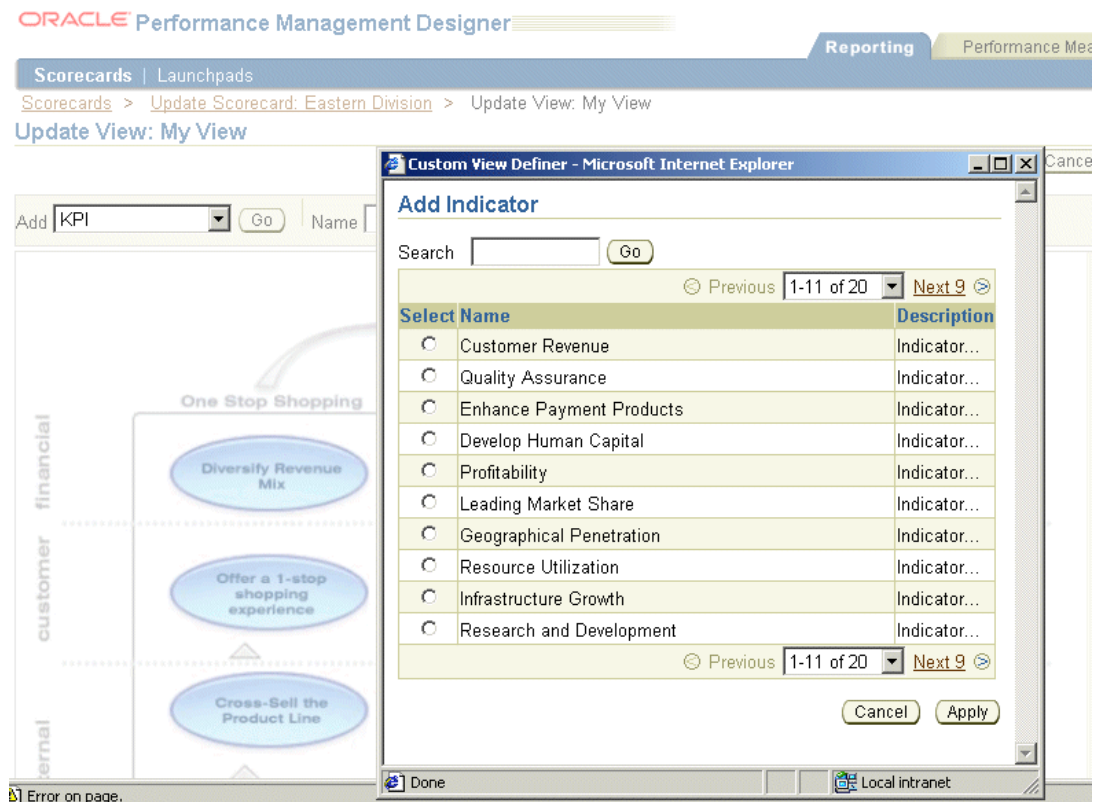
カスタム・ビューへの指標、ラベルまたはカスタム・ビュー・リンクの追加

カスタム・ビューに指標、ラベルまたはカスタム・ビュー・リンクを追加する手順は、次のとおりです。

1. 「カスタム・ビューの設計」ウィンドウの「追加」フィールドで、リストから「指標」、「ラベル」または「カスタム・ビュー・リンク」を選択して「進む」をクリックします。

使用可能なオブジェクトのリストが表示されます。次の例では、使用可能な指標のリストが表示されています。

図 3-19 カスタム・ビューへの指標の追加



2. 追加するオブジェクトを選択して「適用」をクリックします。

指標を追加する場合は、1つの指標を同じカスタム・ビューに2度は追加できないことに注意してください。

3. オブジェクトをイメージの境界内にドラッグ・アンド・ドロップしてカスタム・ビューに配置します。

4. 必要に応じてオブジェクトを変更します。

オブジェクト・タイプごとに次の機能を変更できます。

- **指標**: 指標テキストのフォントおよびカラーを変更できます。

カスタム・ビューに指標を表示する方法も選択できます。次のオプションから 1 つ選択します。

警告のみ: このオプションを選択すると、指標テキストが非表示になり、指標の警告ボックスのみが表示されます。ユーザーは、警告ボックスをクリックして「KPI ビュー」ページにナビゲートできます。警告ボックス上のロールオーバー・テキストを使用すると、指標名を確認できます。

警告およびホットスポット: このオプションを選択すると、指標テキストが非表示になり、かわりに指標のホットスポットを作成できます。ユーザーは、警告ボックスまたはホットスポットをクリックして「KPI ビュー」ページにナビゲートできます。ホットスポットの詳細は、3-36 ページの「[カスタム・ビューのホットスポット](#)」を参照してください。

警告および指標テキスト: このオプションを選択すると、指標テキストと警告ボックスの両方が表示されます。これはデフォルト・オプションです。ユーザーは、警告ボックスまたは指標テキストをクリックして「KPI ビュー」ページにナビゲートできます。

注意: 指標テキスト、警告ボックスおよびホットスポットは、相互に関係なく移動できます。したがって、設計者はユーザーが混乱しないようにカスタム・ビューにオブジェクトを論理的な方法で配置する必要があります。この 3 つのオブジェクトをクリックすると、いずれも同じ KPI ビューにナビゲートします。

- **ラベル**: ラベルのテキスト、フォント・サイズ、スタイルおよびカラーを変更できます。

- **カスタム・ビュー・リンク**: フォント・サイズとカラーを変更できます。

また、カスタム・ビュー・リンクのテキストを表示するか非表示にするかも選択できます。テキストを非表示にした場合は、かわりにイメージ上にホットスポットを作成できます。ホットスポットの詳細は、3-36 ページの「[カスタム・ビューのホットスポット](#)」を参照してください。

5. 「適用」をクリックしてオブジェクトを保存します。

カスタム・ビューのホットスポット

ホットスポットとは、イメージ上で KPI やカスタム・ビューなどのオブジェクトへのハイパーリンクが設定されている部分です。パフォーマンス管理デザイナでカスタム・ビューを作成するときに、テキスト・リンクを使用するかわりに、カスタム・ビューのバックグラウンド・イメージ上でホットスポットを有効化できます。次のオブジェクトにホットスポットを作成できます。

- 指標
- カスタム・ビュー・リンク

ホットスポットを作成する手順は、次のとおりです。

1. ツールバーのアイコンを使用するかオブジェクトを編集して、オブジェクトのテキスト・リンクを非表示にします。テキストを非表示にすると、自動的にホットスポット・オプションが使用可能になります。
2. 「適用」をクリックして作業内容を保存します。

カスタム・ビューへの起動パッドの追加

起動パッドは、リンク・グループのプレースホルダです。起動パッドには、URL、または既存のアプリケーション・ページ（E-Business Intelligence のレポート、ワークブック、データベース内でフォーム機能として定義されている他のドキュメントなど）へのリンクを使用できます。

カスタム・ビューに起動パッドを追加するには、次の操作を実行する必要があります。

1. 起動パッド・ライブラリへの起動パッドの追加。3-37 ページの「[ステップ 1: 起動パッド・ライブラリへの起動パッドの追加](#)」を参照してください。
2. カスタム・ビューへの起動パッドの追加。3-39 ページの「[ステップ 2: カスタム・ビューへの起動パッドの追加](#)」を参照してください。
3. ユーザーへの起動パッドの割当て。3-37 ページの「[ステップ 3: ユーザー職責への起動パッドの割当て](#)」を参照してください。

ステップ 1: 起動パッド・ライブラリへの起動パッドの追加

起動パッド・ライブラリには、バランス・スコアカード内のすべての起動パッドのリストが含まれています。ライブラリにあるすべての起動パッドには、任意のスコアカードの任意のカスタム・ビューからアクセスして使用できます。

起動パッドを起動パッド・ライブラリに追加する手順は、次のとおりです。

1. 「カスタム・ビューの設計」ウィンドウで「起動パッド・ライブラリ」をクリックします。「起動パッド」ウィンドウが表示されます。

図 3-20 新規起動パッドの追加

ORACLE Performance Management Designer

Home Logout Help

Reporting Performance Measures

Scorecards Launchpads

Launchpads

Search

Search BSC% Go

Create Launchpad

Name	Description	Update	Delete
BSC	Daily Business Close		
BSC 100% Pure Internet	BSC 100% Pure Internet		
BSC Accelerate Rev Growth	BSC Accelerate Rev Growth		
BSC Better Business Intelli	BSC Better Business Intelli		
BSC Better Quality	BSC Better Quality		
BSC Broader Market	BSC Broader Market		
BSC Consolidate Data	BSC Consolidate Data		
BSC Customer Retention	BSC Customer Retention		
BSC Customer Satisfaction	BSC Customer Satisfaction		
BSC Customer Service	BSC Customer Service		

Previous Next 10

Reporting | Performance Measures | Home | Logout | Preferences

Copyright 2003 Oracle Corporation. All rights reserved. Privacy Statement

2. 「新規の追加」をクリックします。「起動パッドの主要属性」ウィンドウが表示されます。

図 3-21 主要属性の追加

ORACLE Performance Management Designer

Home Logout Help

Reporting Performance Measures

Scorecards Launchpads

Launchpads > Create Launchpad

Create Launchpad

* Indicates required field

Name

Description

Add URL Add Application Pages

Previous Next

Name	Description	Move Down	Move Up	Update	Delete
No data exists.					

Cancel Apply

Reporting | Performance Measures | Home | Logout | Preferences

Copyright 2003 Oracle Corporation. All rights reserved. [Privacy Statement](#)

3. 起動パッドの名称と摘要を入力します。
4. 起動パッドの宛先を入力します。宛先には、URL またはアプリケーション・ページへのリンクを使用できます。
 - a. URL を使用するには「URL の追加」をクリックします。表示名と URL アドレスを入力します。

図 3-22 起動パッドへの URL の追加

ORACLE Performance Management Designer

Home Logout Preferences Diagnostics

Reporting Performance Measures

Scorecards

Custom View Definer > Manage Links > Add URL

Add URL

Name

URL

Cancel Apply

Reporting | Performance Measures | Home | Logout | Preferences | Diagnostics

Copyright 2003 Oracle Corporation. All rights reserved. [Privacy Statement](#)

- b. アプリケーション・ページへのリンクを追加するには、「アプリケーション・ページの追加」をクリックしてページを選択します。

図 3-23 「アプリケーション・ページの追加」

ORACLE Performance Management Designer [Home](#) [Logout](#) [Help](#)

[Scorecards](#) [Launchpads](#) [Reporting](#) [Performance Measures](#)

[Launchpads](#) > [Create Launchpad](#) > Add Application Pages

Add Application Pages [Cancel](#) [Apply](#)

Search [Go](#)

[Select All](#) | [Select None](#) [Previous](#) [Next 10](#)

Select Name	Description
☐ Assign Sales Management for Territory Group	
☐ 360 Degree Appraisal	360 Degree Appraisal
☐ 360 Degree Assessment	360 Degree Assessment
☐ 4i Base Salary Change Detail	This workbook lists employees with details of the latest salary increment
☐ 4i Employee Anniversaries and Birthdays Detail	This workbook lists employees with their original and latest hire dates, birthday and their length of service
☐ 4i Employee Mailing Address Detail	This workbook lists employee address details
☐ 4i Employee Mailing Address US Detail	This workbook shows Employee address details (United States Specific)
☐ 4i Employee Primary Asg with Salary and Grade Rate Detail	This workbook lists employee details based on the primary assignment, including salary, date of birth and gender
☐ 4i Employee Primary Asg with Salary and Grade Rate(US)Detail	This workbook lists employee details based on the primary assignment, including salary, date of birth, ethnic origin and gender (United States Specific)
☐ 4i Employee Primary Assignment Detail	This workbook lists employee details based on the primary assignment

[Previous](#) [Next 10](#)

[Cancel](#) [Apply](#)

[Reporting](#) | [Performance Measures](#) | [Home](#) | [Logout](#) | [Preferences](#)

Copyright 2003 Oracle Corporation. All rights reserved. [Privacy Statement](#)

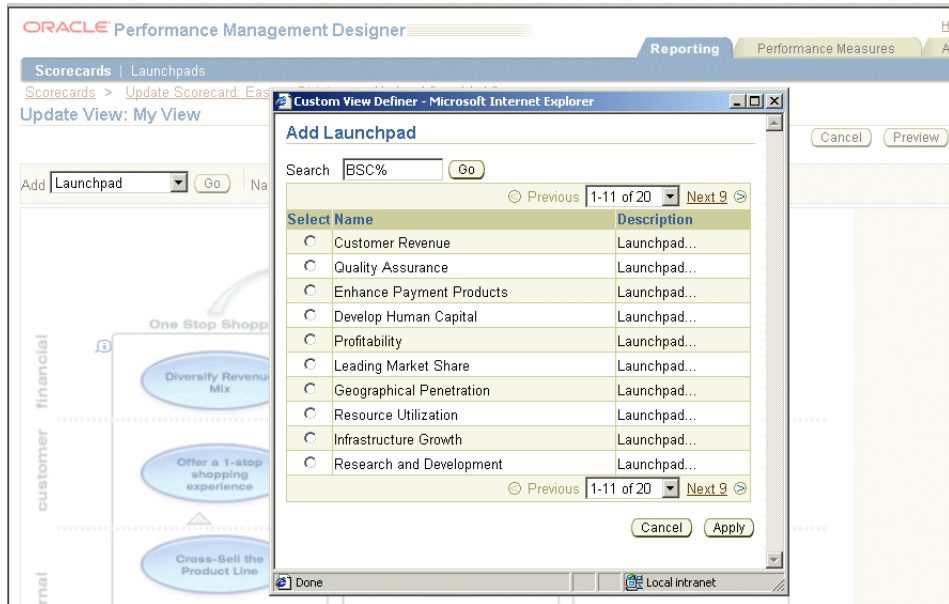
5. 「適用」をクリックして作業内容を保存します。
6. 必要に応じて、起動パッドのプロパティやライブラリでの起動パッドの順序を変更できます。

ステップ 2: カスタム・ビューへの起動パッドの追加

起動パッド・ライブラリからカスタム・ビューに起動パッドを追加できます。

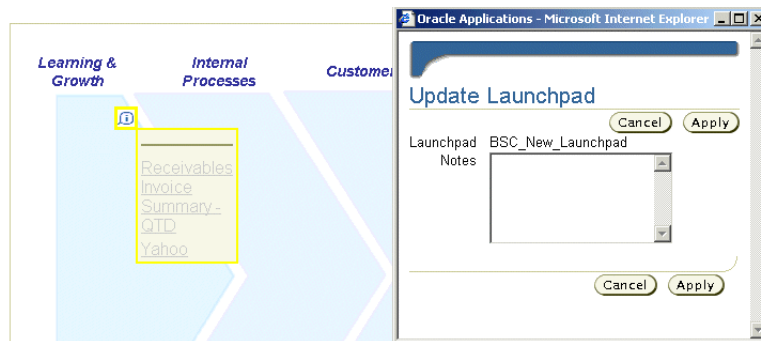
1. 「カスタム・ビューの設計」ウィンドウの「追加」フィールドで、「起動パッド」を選択して「進む」をクリックします。
2. 追加する起動パッドを選択して「適用」をクリックします。

図 3-24 「起動パッドの追加」



3. 起動パッドに関するノートを追加するには「編集」をクリックします。
4. 起動パッドをイメージの境界内にドラッグ・アンド・ドロップしてカスタム・ビューに配置します。
5. 「適用」をクリックして作業内容を保存します。

図 3-25 起動パッドの更新



ヒント: プレビュー機能を使用すると、カスタム・ビューに追加する起動パッド・リンクを手動で検証できます。起動パッドがシステムで自動的に検証されることはありません。起動パッドが無効な場合は、「ユーザー定義例外」エラーが表示され、起動パッドを修正する必要があります。

ステップ 3: ユーザー職責への起動パッドの割当て

Oracle Applications では、起動パッドはメニューとして定義されます。このため、起動パッドに適切なセキュリティを設定できます。

起動パッドをカスタム・ビューに追加した後、システム管理者は起動パッドをその使用職責に割り当てる必要があります。起動パッドを職責に割り当てると、その職責を持つユーザー全員にその起動パッドへのアクセス権が付与されます。

1. 「システム管理者」職責を使用して Oracle Applications にログインします。
2. 「セキュリティ」→「職責」→「定義」の順番で選択します。
3. 起動パッドを割り当てる職責を選択します。

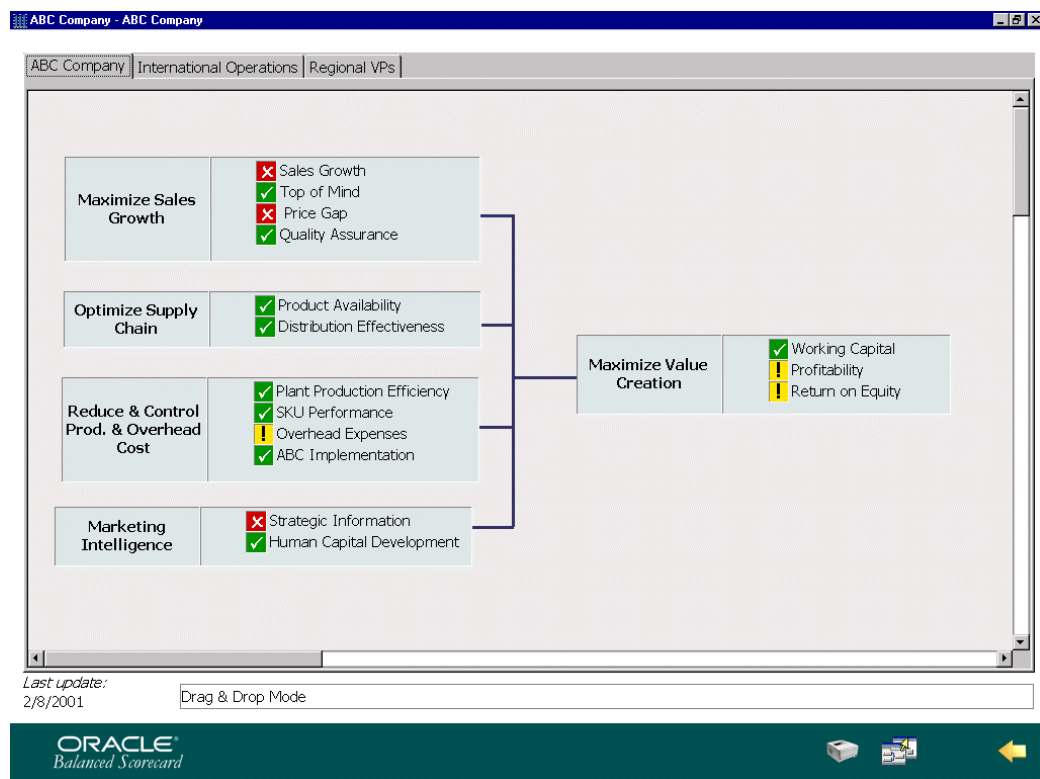
4. 次の手順で起動パッドのメニューを職責に割り当てます。
 - a. 「アプリケーション」→「メニュー」の順番にナビゲートします。
 - b. 職責に割り当てるメニューを選択します。
 - c. 「プロンプト」フィールドに何も入力せずに起動パッドをサブ・メニューとして追加します。これにより、Oracle Applications Self Service のメニューには表示されなくなります。

スコアカード・ビューの構成

次の図のように、スコアカード・ビューは、KPI デザイナを初めて開いたときに表示されるデフォルト・ビューです。後から別のビューをデフォルト・ビューとして割り当てることができます。スコアカード・ビューの主な特性は、1 つのスコアカードに属している指標のグループを表すことです。このビューには、BSC ビルダーで作成したグループ名が表示されます。最初、このビューには様々なグループがランダムに配置されています。

KPI デザイナでグループを移動するには、2 つの方法があります。まず、ドラッグ・アンド・ドロップ・モードを有効にして、グループをスコアカード上の適切な位置に手で再配置できます。グループの移動先位置を正確に指定する必要がある場合は、編集ウィンドウを使用して座標を指定します。

図 3-26 スコアカード・ビュー



グループ・パネルを移動する手順は、次のとおりです。

1. スコアカードまたは戦略マップのメイン・ビューのメイン・ウィンドウ領域内で右クリックします。
2. ポップアップ・メニューから「ドラッグ・アンド・ドロップ・モードの有効化」を選択します。
3. グループ・パネルの領域内でクリックします。

4. 左マウス・ボタンを押しながら、グループ・パネルを必要な位置にドラッグします。
5. 各グループに対して手順3および4を繰り返します。
6. グループ編集ウィンドウを使用し、ウィンドウ上でのパネルの正確な座標を指定して、パネルの配置を微調整します。
7. 変更を完了した後、「保存」ボタンを選択して保存するか、「取消」ボタンを選択して取り消します。

パネルの正確な位置を指定する手順は、次のとおりです。

1. グループ・パネルの領域内で右クリックします。KPIの指標ウィンドウが表示されてしまうため、KPIのそばはクリックしないでください。
2. 表示されるポップアップ・メニューから「グループの位置の編集」を選択して編集ウィンドウを表示します。
3. 「最上位」および「左」オプションの隣のスクロール・バーを使用して、ウィンドウ上でのパネルの位置を少しずつ調整します。
4. 「高さ」および「幅」オプションの隣のスクロール・バーを使用して、グループ・パネルのサイズを少しずつ調整します。
5. 変更を完了した後、「保存」ボタンを選択して保存するか、「取消」ボタンを選択して取り消します。

方向線の書式設定

方向線を使用して、指標グループ間の関連を示すことができます。

線を作成して編集する手順は、次のとおりです。

1. グループ・パネルの外側の領域内で右クリックします。
2. 表示されるポップアップ・メニューから「線の追加」を選択します。
3. サブメニューから「垂直線」または「水平線」を選択します。画面に新しい線が表示されます。
4. 線上で右クリックしてポップアップ・メニューを表示します。
5. 「線プロパティの編集」を選択して編集ボックスを表示します。
6. 「最上位」および「左」オプションの隣のスクロール・バーを使用して、ウィンドウ上での線の位置を少しずつ調整します。
7. 「高さ」および「幅」オプションの隣のスクロール・バーを使用して、線のサイズを少しずつ調整します。
8. 「上矢印」または「下矢印」ラジオ・ボタンを選択して、線に矢印を追加します。既存の矢印を削除するには「なし」をクリックします。（「なし」はデフォルトです。）
9. 変更を完了した後、「保存」ボタンを選択して保存するか、「取消」ボタンを選択して取り消します。

追加のビューの構成

設計者は、作業環境に従って戦略を表す複数のスコアカード・ビューを定義して設計できます。通常、KPIデザイナでビューを定義するには3つの方法があります。1つのスコアカード（タブ）のビューには、いずれも同じ指標が表示されますが、表現が次のように異なることに注意してください。

- **スコアカード・ビュー**：スコアカード・ビューは、スコアカードの基本的な表現です。指標が編成されているグループが表示されますが、グループは相互の関連を表すために任意の順序で表示できます。
- **戦略マップ・ビュー**：このビューの主目的は、指標間の原因と結果の関連を表現できるようにすることです。通常、指標は視点別に編成されます。

- **カスタム・ビュー**：このビューは、スコアカード・ビューのグラフィック設計全体に柔軟性を持たせることを意図しています。設計者は、他の任意のアプリケーションを使用して、会社や意思決定の戦略を表す GIF イメージまたは JPEG イメージを作成できます。スコアカードごとに必要な数のカスタム・ビューを作成できます。

追加のビューのいずれかを構成したり、使用可能な様々なビューの間で切り替えるには、KPI デザイナの下部にあるメニュー・バーのアイコンを使用します。このアイコン (図 3-27) は、設計モードでのみ表示されます (BSC ビューワでは表示されません)。

図 3-27 「ビューの編集」アイコン



最初に、上半分で設計時に構成したビューを選択するか、下半分で追加のビューを作成できます。

追加のビューを使用可能にするには、「ビューの編集」オプションに移動します。最初は、このメニューにデフォルト・オプションとして「戦略マップ・ビュー」が表示されます。

「戦略マップ・ビュー」を使用可能にするか、「追加」ボタンを選択して追加のカスタム・ビューを作成できます。

特定のビューで使用可能な作成方法とオプションについては、以降の項で詳しく説明します。

戦略マップ・ビューの構成

戦略マップ・ビューを構成する手順は、次のとおりです。

1. 戦略マップ・ビューを構成するには、前項で説明したように、まず KPI デザイナで使用可能な次のアイコンを使用して「ビューの編集」オプションを選択します。
このオプションを選択すると、ビューの編集メニューが表示されます。このメニューには「スコアカード・ビュー」(初期のデフォルト) および「戦略マップ・ビュー」オプションが含まれています。
2. 戦略マップ・ビューをスコアカード・ビューの 1 つとして使用可能にする場合は、「戦略マップ・ビュー」オプションにマウスを置きます。
このメニューでは、「使用可」および「デフォルトとして設定」という 2 つのオプションを使用できます。
 - 戦略マップ・ビューを使用可能にするには、「使用可」チェック・ボックスを選択します。
 - 戦略マップ・ビューを BSC ビューワのデフォルト・ビューにするには、「デフォルトとして設定」チェック・ボックスを選択します。任意のビューを主要デフォルト・ビューとして選択できますが、デフォルトとして選択できるビューは 1 つのみです。
3. ビューを使用可能にして「OK」ボタンを選択すると、選択アイコンが表示され、「ビューの編集」に新規ビューの「戦略マップ・ビュー」オプションが表示されます。

注意： このメニューの上半分で、使用可能なビューを切り替えることができます。この場合は、「スコアカード・ビュー」または「戦略マップ・ビュー」を選択できます。このメニューの下半分にある「ビューの編集」オプションを選択すると、追加のカスタム・ビューを作成できます。

最初は、戦略マップ・ビューは空の画面で構成されています。このビューに KPI を追加できますが、BSC ビルダーのタブに割当済の KPI にかざられます。また、KPI の配置、水平と垂直の区分線の設定、ラベルの追加、線と矢印の追加、ズームとフォントの変更を行って、画面に見やすく収まるように調整できます。各 KPI は四角いボックス (ノード) で表されます。

4. 項目をクリックしてドラッグすることで画面上で移動できるようにするには、最初にドラッグ・アンド・ドロップ・モードを有効にする必要があります。**ドラッグ・アンド・ドロップ・モードを有効にするには**、画面の空の部分をクリックし、表示されるポップアップ・メニューから「ドラッグ・アンド・ドロップ・モードの有効化」を選択します。選択状態は、メニュー項目の左のチェック・マークで確認できます。

5. **指標を追加するには**、画面の空の部分をクリックし、ポップアップ・メニューから「指標の追加」を選択します。

BSC ビルダーでこのタブに割当済の KPI のみが選択できることがわかります。KPI が表示されない場合は、元に戻り、BSC ビルダーを使用して追加する必要があります。

6. 戦略マップ・ビューでは、すべての線が矢印です。**線を追加するには**、ポップアップ・メニューから「線の追加」を選択し、「垂直」または「水平」を選択します。

区分線は長く明確で斜角の付いた線で、画面上でビューの上から下へ（垂直線の場合）または横方向へ（水平線の場合）表示されます。短くすることはできず、通常は KPI が属している視点や戦略目標を明確に示すための泳路として使用されます。

7. **区分線を追加するには**、画面の空の部分をクリックし、ポップアップ・メニューから「区分線の追加」を選択し、「垂直」または「水平」を選択します。

8. 区分線を移動するには、線をクリックして新しい位置にドラッグします。

ラベルを追加して画面上のどこにでも配置できます。

9. **ラベルを追加するには**、ポップアップ・メニューから「ラベル」を選択します。

10. ラベルを編集するには、そのラベルをクリックして必要な変更を入力します。

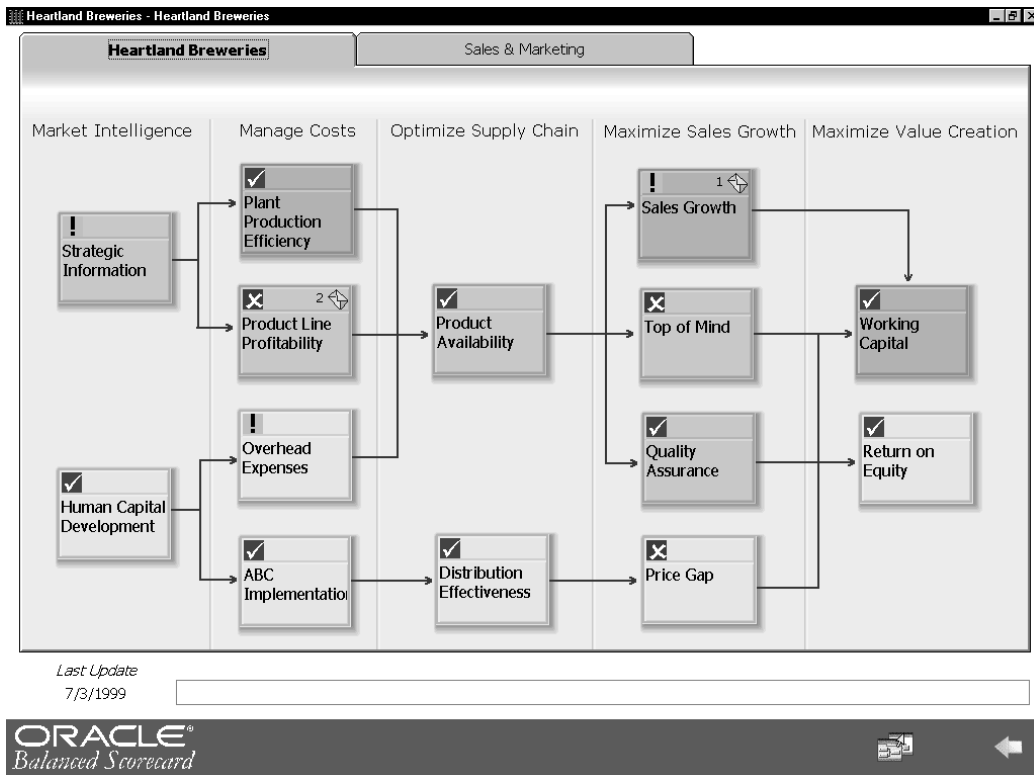
「ズーム・イン」、「ズーム・アウト」、「フォント・サイズの拡大」および「フォント・サイズの縮小」機能を使用すると、戦略マップ・ビューに適切に収まるように KPI のサイズやフォント・サイズを調整できます。

11. KPI が少数しかない場合はズーム・インして大きいフォントを使用し、多数の KPI を画面に表示する必要がある場合はズーム・アウトして小さいフォントを使用します。

12.  3-28 のように、「保存」ボタンを使用して変更内容を保存します。

注意：「ズーム・イン」または「ズーム・アウト」プロパティを使用する場合は、KPI デザイナに指標ボックスがすべて表示されていることを確認してください。KPI デザイナ領域に表示されていないボックスがある状態で、このプロパティを使用すると、ビューワにはすべての指標ボックスが表示されません。

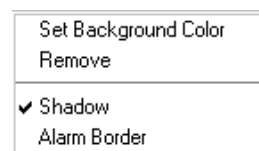
図 3-28 戦略マップ・ビュー



戦略マップ・ビューでの KPI プロパティの設定

戦略マップ・ビューでは、KPI ごとに複数のプロパティを使用できます。これらのプロパティを使用するには、個々の KPI を右クリックします。KPI を右クリックすると、次のメニュー (図 3-29) が表示されます。

図 3-29 KPI のポップアップ・メニュー



1. 最初のメニュー項目を選択すると、KPI のバックグラウンド・カラーを設定できます。バックグラウンド・カラーは、様々な戦略目標や、戦略マップ・ビューで KPI を介して実行される他のテーマの識別に役立ちます。
2. 戦略マップ・ビューから KPI を削除するには、ポップアップ・メニューから「削除」を選択します。
3. 影を使用可能にするには、ポップアップ・メニューから「影」を選択します。このメニュー項目の隣にチェックマークが表示される場合は、影が使用可能になっています。影を削除するには、メニュー項目を再選択してチェックマークを削除します。

指標のステータス (赤、黄または緑) は、KPI の左上に表示されるカラーの四角形に加えてボーダーでも識別できます。ステータスの変化に応じて、ボーダーのカラーも変わります。

4. この警告ボーダーを使用可能にするには、ポップアップ・メニューから「警告ボーダー」を選択し、このメニュー項目の隣にチェックマークが表示されることを確認します。警告ボーダーを削除するには、「警告ボーダー」を再選択してチェックマークを削除します。

KPI ライブラリの定義

特に明記しないかぎり、この項で説明するタスクはパフォーマンス管理デザイナを使用して実行します。

KPI デザイナの概要

KPI ライブラリは、次のレベルを含む階層構造で表されます。

- **KPI グループ**: グループ（戦略のテーマ、会社の目標、視点または KPI をグループ化するための単純なカテゴリを表すことができます）。
- **KPI (指標または重要な経営指標)**: 1 つの KPI に 1 つ以上の関連メジャーを含めることができます。
- **各 KPI に表示されるメジャー***: メジャーは、KPI のパフォーマンスを追跡するための主要メトリックを表します。これらのメジャーは分析オプションとも呼ばれます。BSC アーキテクト -KPI デザイナ・ツールでメジャーを作成したり、パフォーマンス管理デザイナを介して指標にメジャーを直接追加できます。

図 3-30 パフォーマンス管理デザイナの「KPI」タブ

The screenshot displays the Oracle Performance Management Designer interface, specifically the KPI tab. The top navigation bar includes 'Measures', 'Dimensions', and 'KPIs'. Below the navigation bar, there is a search section with a 'Search' button and a dropdown menu set to 'Groups'. The main content area shows a list of KPI groups under the heading 'KPI Groups, KPIs & Measures > Increase Company Profitability'. The table below lists various KPIs with their focus names, preview icons, and action buttons for adding children, updating, and deleting.

Focus Name	Preview	Add Child	Update	Delete
▼ Increase Company Profitability		+		
▶ Control Direct Cost		+		
▶ Improve Billability		+		
▶ Increase Market Share		+		
▶ Maximize Profitability		+		
% Revenue Growth				
Revenue				
Optimize Financial Performance		+		
▶ Reduce Overhead		+		

At the bottom of the page, there is a footer with the text 'Copyright 2003 Oracle Corporation. All rights reserved.' and a link to the 'Privacy Statement'.

ユーザーが初めて「KPI」タブをクリックすると、KPI 階層の最初のレベルを表す KPI グループのリストが表示されます。

設計者は各 KPI グループの内容を、KPI グループの下位の全 KPI を表す第 1 レベルに拡張し、次に各 KPI に属しているメジャーを表す第 2 レベルに拡張できます。

拡張または縮小するには、各 KPI グループまたは KPI レベルで使用可能な青い「拡張」および「縮小」アイコンをクリックします。

KPI ライブラリ階層画面で使用可能な機能

KPI 階層ツリーでは、次の 4 つの主要機能を使用できます。

- **プレビュー:** この機能を使用できるのは KPI レベルのみで、設計者は設計段階で KPI をプレビューできます。
- **子の追加:** この機能は、KPI ツリーの次のレベルで使用できます。
KPI グループに子を追加すると、KPI が 1 つ追加されます。
KPI レベルで子を追加すると、メジャー・リポジトリから選択したメジャーが KPI に追加されます。
- **更新:** 「更新」機能は、KPI グループ、KPI およびメジャー・レベルなど、すべてのレベルで使用できます。
- **削除:** 「削除」機能は、KPI グループ、KPI およびメジャー・レベルなど、すべてのレベルで使用できます。

注意: メジャーの性質上、Oracle E-Business Suite のメジャーについては、「更新」および「削除」ボタンが使用不可になります。

KPI ライブラリ画面を使用する際の参考情報

「フォーカス」機能: このアイコンは、依存オブジェクトを含むオブジェクトについて表示されます。KPI 階層ツリーでは、KPI グループと KPI に「フォーカス」アイコンを使用できます。

KPI 階層ツリーのナビゲーションを容易にするために、「フォーカス」アイコンを使用することを考慮してください。このアイコンは、次のような使用例で役立つ可能性があります。

- KPI 階層ツリーに多数の KPI グループが含まれており、設計者が特定のグループを拡張して内容を検討、更新または追加する必要がある場合。
- 設計者が KPI 階層にオブジェクトを追加しており、オブジェクトに戻って追加した内容を検討する必要がある場合は、「フォーカス」ボタンが役立ちます。

* パフォーマンス管理デザイナで使用している「メジャー」という用語は、システム用に作成されたデータセットを表します。また、通常は分析オプションと呼ばれるものを表す KPI のコンテキストでも使用されます。

KPI ライブラリでの検索時の注意

通常、KPI ライブラリ階層には多数の KPI グループ、KPI およびメジャーがあります。ライブラリを管理しやすいように、「検索」機能を使用して特定のオブジェクト（グループ、KPI またはメジャー）を検索できます。

検索を実行する手順は、次のとおりです。

1. 検索するオブジェクトを選択します。
2. 部分文字列を入力します。ワイルドカード値として % を使用できます。

オブジェクトが階層に属している場合は、そのオブジェクトおよび対応する親値が表示されます。

KPI デザイナへのログイン

パフォーマンス管理デザイナのスコアカード・モジュールにアクセスする手順は、次のとおりです。

1. 「パフォーマンス管理デザイナ」職責を選択します。
2. 「パフォーマンス・メジャー」メニューで「KPI デザイナ」を選択します。

KPI グループ

この項では、パフォーマンス管理デザイナーとアーキテクトで KPI グループを操作する方法について説明します。特に明記しないかぎり、次の手順はパフォーマンス管理デザイナーで実行できます。

KPI グループの作成

KPI グループを作成する手順は、次のとおりです。

1. ルート・レベルで「追加」ボタンをクリックします。

KPI グループ作成用の次の画面が表示されます。

図 3-31 KPI グループの作成

The screenshot shows the 'Add KPI Group' dialog in the Oracle Performance Management Designer. The title bar indicates 'Performance Management Designer' and 'Performance Measures'. The breadcrumb trail is 'Performance Measures > KPIs > Add KPI Group'. The main heading is 'Update Revenue Growth: Primary Attributes'. A legend indicates that an asterisk (*) denotes a required field. The 'Name' field contains 'Increase Revenue Growth' and the 'Description' field contains 'Initiatives to drive revenue growth'. 'Cancel' and 'Apply' buttons are located at the bottom right.

2. KPI グループの名称と摘要を定義します。
3. 「適用」をクリックして変更内容を保存します。
4. KPI 階層に戻ります。
5. 「フォーカス」アイコンを使用して、作成されたオブジェクトを確認し、KPI の追加を開始します。
6. KPI グループ・プロパティの変更を必要とする場合は、「更新」アイコンを使用します。

KPI グループの更新

1. KPI グループ・レベルで「更新」アイコンをクリックします。
2. KPI グループの名称と摘要を更新します。
3. 「適用」をクリックして変更内容を保存します。
4. KPI 階層に戻ります。
5. 「フォーカス」アイコンを使用して、更新されたオブジェクトを確認します。

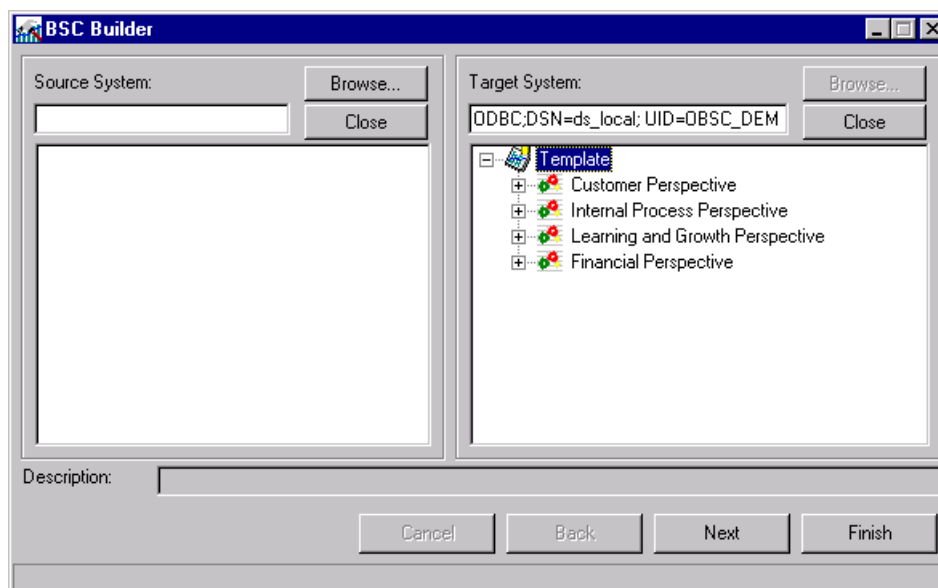
KPI グループの削除

1. KPI グループを削除する前に、そのグループが空であることを確認します。
2. KPI グループ・レベルで「削除」アイコンをクリックします。
3. 削除を進めてよいかどうかを確認します。
4. KPI 階層に戻って更新結果を確認します。

KPI グループの作成と変更：アーキテクト

KPI グループの作成には BSC アーキテクト - ビルダーも使用できます。BSC アーキテクト - ビルダーのグループ階層にはネストしたグループのウェブが含まれており、各ウェブに一連の指標が含まれています。各グループに様々なタイプの指標を含めることができます。ビルダーを初めて開くと、図 3-32 のようにサンプル・グループとサンプル指標名を含むテンプレートが表示されます。

図 3-32 サンプル・グループを含むテンプレート

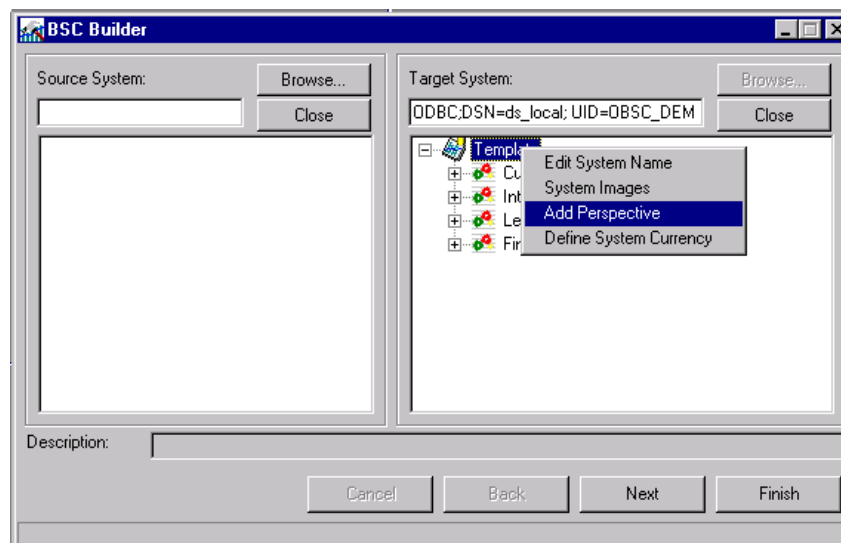


ビルダーを初めて起動すると、図 3-32 のように「ソース・システム」パネル（左パネル）は空になっています。「ターゲット・システム」パネルには、テンプレートのターゲット・システムの階層が表示されます。新規ターゲット・システム名を変更するには、テンプレート名を変更し、必要に応じて指標とグループのサンプルを使用します。

ターゲット・システム名を指定した後、グループの追加を開始できます。グループでは、バランス・スコアカードのグループ、目標や視点、または特定のバランス・スコアカードに適切と思われる任意のタイプのユーザー定義グループ（戦略目標など）を表すことができます。テンプレートで提供されるグループを使用するか、新規グループを作成できます。

1. システム・タイトルを右クリックします。
2. 表示されるポップアップ・メニュー（図 3-33）から「グループの追加」を選択します。リストの最下部に新規グループが表示されます。

図 3-33 新規ターゲット・システム



3. 新規グループのタイトルを編集するには、グループ・タイトルを選択して右クリックします。

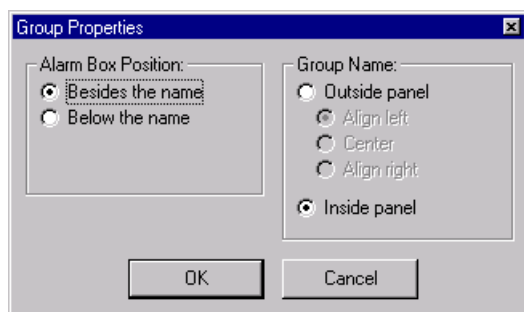
4. ポップアップ・メニューから「システム名の編集」を選択します。グループ名の最後に、タイトルが編集可能であることを示すカーソルが表示されます。
5. 新規グループ名を入力して「入力」を選択します。入力したグループ名がターゲット・システム階層に表示されます。

グループ・プロパティの編集: アーキテクト

BSC アーキテクトを使用してグループのプロパティを編集できます。グループ・プロパティでは、バランス・スコアカード・ウィンドウへのグループの表示レイアウトを定義します。「グループ・プロパティ」ウィンドウを使用して、指標タイトルを基準にして警告ボックスを配置し、グループの指標を含むボックスを基準にしてグループ・タイトルの表示位置を指定します。

1. 選択したグループをハイライトし、右クリックしてポップアップ・メニューを表示します。
2. 「グループ・プロパティ」を選択します。図 3-34 のような「グループ・プロパティ」ウィンドウが表示されます。

図 3-34 「グループ・プロパティ」ウィンドウ



3. 「警告ボックス位置」パネルでラジオ・ボタンを選択して、グループの指標を基準にした警告ボックスの表示位置を指定します。



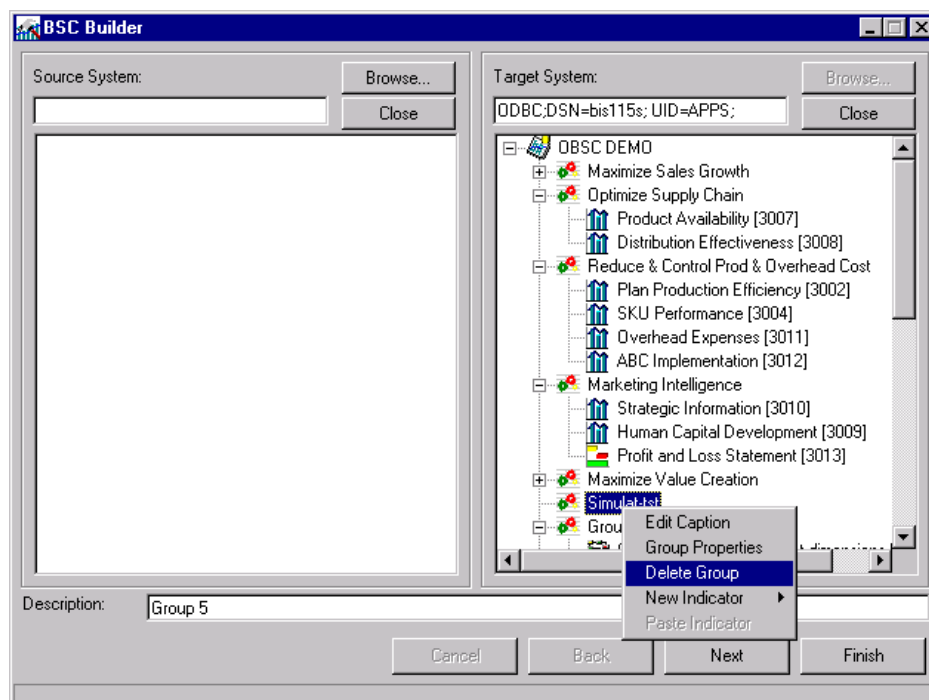
警告: 「警告ボックス位置」で「名称の下」を選択すると、そのグループに使用できる指標は1つのみとなります。

4. 「グループ名」パネルでラジオ・ボタンを選択して、パネル・ボックスを基準にしたグループ・タイトルの表示位置を指定します。
5. 「OK」を選択して変更内容を保存するか、「取消」を選択して変更を取り消し、デフォルト設定を復元します。

グループの削除: アーキテクト

BSC アーキテクトを使用してグループのプロパティを削除できます。システムからグループを削除するのは簡単ですが、事前に設計の意味を考慮することが重要です。グループを削除すると、そのグループに関連した指標またはデータがデータベースから永続的に削除されます。保存しておく必要のある指標やデータが削除対象グループに含まれている場合は、そのグループをシステムから削除する前に指標を別のグループに再配置できます。

図 3-35 グループの削除



1. グループに属している KPI を削除または再配置します。
2. グループ名を右クリックします。
3. ポップアップ・メニューから「グループの削除」を選択します。ダイアログ・ボックスが表示され、「[グループ名] を削除しますか?」プロンプトが表示されます。
4. 「はい」を選択します。グループが階層から削除されます。

KPI

この項では、パフォーマンス管理デザイナーとアーキテクトで KPI を操作する方法について説明します。特に明記しないかぎり、次の手順はパフォーマンス管理デザイナーで実行できます。

KPI の作成

重要な経営指標（KPI）は、バランス・スコアカードの基本情報単位です。指標では、重要な成功要因や組織目標を表すことができます。最終的なバランス・スコアカードでは、KPI ごとに独自の指標ウィンドウが表示され、このウィンドウには指標の目標に関連する標準的な分析メトリックがデータ表示オプションおよびデータ分析オプションとして表示されます。

KPI 作成の概要

KPI を KPI グループに追加する前に、次のルールに注意する必要があります。

- 単一棒 KPI を作成できるのは、パフォーマンス管理デザイナーのみです。パフォーマンス管理デザイナーで単一棒 KPI を作成した後は、KPI タイプを「複数棒」、「シミュレーション・ツリー」または「損益」に変更できません。
- KPI を複数棒、シミュレーション・ツリーまたは損益として作成する必要がある場合は、BSC ビルダーを使用する必要があります。指標の作成後に、設計者はパフォーマンス管理デザイナーに戻り、パフォーマンス管理デザイナー・ツールで使用可能な KPI で単一および複数棒 KPI に内容を追加する作業を開始できます。
- グループ内の KPI の順序は機能しますが、パフォーマンス管理デザイナーでは使用できません。KPI を KPI グループに追加する順序はリスト・ビュー、詳細ビューおよびスコアカー

ド・ビューなど、各種スコアカード・ビューで表示のために維持されるため、最初にこの順序を決定してください。グループ内の KPI の順序変更が必要になった場合は、BSC ビルダーを使用して変更できます。（「KPI グループ内での KPI のコピーと移動」を参照）。

システムに KPI を追加する際の推奨フローは次のとおりです。

1. パフォーマンス管理デザイナーで KPI グループをすべて作成します。
2. KPI ライブラリに単一棒 KPI を作成します。
3. BSC ビルダーで複数系列 KPI、シミュレーション・ツリー KPI および損益 KPI を作成します。
4. パフォーマンス管理デザイナーの KPI に戻り、単一棒 KPI と複数系列 KPI にメジャーを追加します。
5. パフォーマンス管理デザイナーの KPI モジュールの「ディメンションの選択」メニューを使用して、KPI にディメンションを割り当てます。

この時点で、KPI はメジャーおよびディメンションの内容で機能します。設計者は、ここでバランス・スコアカードに戻って各スコアカードに KPI を割り当てるか、引き続き KPI デザイナ・モジュールで各 KPI の拡張構成を実行するかを選択できます。

単一系列 KPI の作成

単一系列 KPI を作成するには、パフォーマンス管理デザイナーの KPI モジュールで使用可能な新機能を使用するか、引き続き BSC ビルダーを使用できます。

1. 「パフォーマンス管理デザイナー」職責を使用して「KPI デザイナ」にログインします。
2. KPI グループ・レベルで「追加」アイコンを選択します。
3. 次の画面が表示され、KPI の主要属性を入力できます。

図 3-36 KPI の主要属性

4. 「名称」は必須フィールドで、「摘要」はオプション・フィールドです。
5. 「適用」をクリックして定義を保存します。
6. KPI 階層ツリーに戻り、KPI グループにフォーカスを置いて「拡張」アイコンをクリックし、追加された内容を確認します。

複数系列 KPI、シミュレーション・ツリー KPI および損益 KPI の作成

グループを作成した後、各グループに関連する指標の作成を開始できます。表 3-6 のように、指標には 4 つのタイプがあります。

注意： パフォーマンス管理デザイナーを使用して単一棒指標を作成できます。

表 3-6 指標タイプ



単一棒指標: この指標は、単一のデータ系列を表すために使用されます。通常は、線で表された 1 つ以上のベンチマークと比較した過去の傾向（期間ごとに 1 本の棒）を表します。



複数棒指標: この指標は、期間中の複数のデータ系列を表示するために使用されます。デフォルト・モードは棒ですが、このタイプの KPI では複数のデータ系列を棒、線または面で表示できます。指標データをサブコンポーネントに分割する場合は、複数系列 KPI を使用します。たとえば、KPI が「顧客預託金」の場合、複数系列 KPI では「当座」、「預金」および「CD」について別々の系列を表示できます。



シミュレーション・ツリー指標: このタイプの指標は、What-If 分析の実行に使用されます。シミュレーション・ツリーを使用すると、バランス・スコアカード・ユーザーは LEAD 分析メトリックから LAG 分析メトリックへの変更による影響をシミュレーションできます。シミュレーション・ツリー指標は、データ分析および戦略計画作成の強力なツールとなります。



損益指標: 損益指標には水平棒の形式で勘定科目が表示され、収益に貢献している勘定科目と費用を構成する勘定科目がグラフィック表示されます。最下部の水平棒は収益 - 費用の合計（損益）を示します。

1. 「ターゲット・システム」パネルで、グループ・タイトルを右クリックするか、他の方法で選択します。
2. 表示されるポップアップ・メニューから「新規指標」を選択します。
3. 「新規指標」サブメニューから次のオプションを 1 つ選択します。
 - 単一棒
 - 複数棒
 - シミュレーション・ツリー
4. 指定したグループ内に新規指標が表示されます。
5. 新規指標のタイトルを編集するには、指標タイトルを右クリックするか、他の方法で選択します。ポップアップ・メニューから「キャプションの編集」を選択します。グループ名の最後に、タイトルが編集可能であることを示すカーソルが表示されます。
6. 名称を入力して「入力」を選択します。入力したグループ名がターゲット・システム階層に表示されます。

損益指標

- BSC ビルダーを初めて開くと表示される初期テンプレートには、損益指標のサンプルが 1 つ用意されています。スコアカードで損益の要約を使用する計画の場合は、この指標をテンプレートから削除しないでください。
- 設計者は、この指標を使用するか、不要な場合は削除できます。
- 新規の損益指標は追加できません。ただし、ビルダーを使用すると、他の BSC システムから自システムに追加の損益指標を必要な数だけコピーしたり、同じシステムからコピーした損益指標を複製できます。

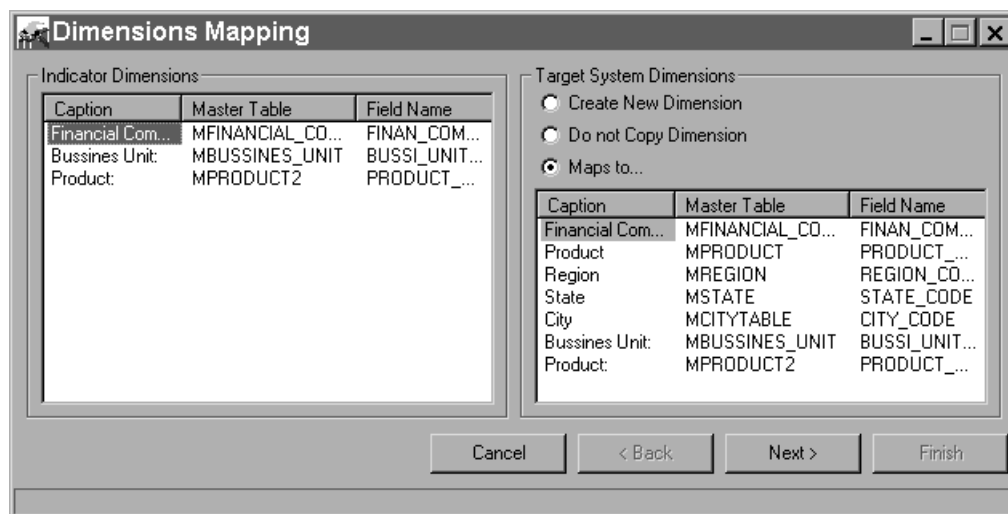
関連リンク: 複数系列 KPI の構成

KPI グループ内の KPI のコピーと移動 : アーキテクト

BSC アーキテクトを使用して、KPI グループ内の KPI をコピーおよび移動できます。ビルダーでは、KPI をグループ間でコピーできます。この機能を使用できるのは、BSC アーキテクト - ビルダーのみです。

1. KPI を選択してハイライトします。
2. KPI を宛先となる新規グループにドラッグして（新規グループ名がハイライトされます）右クリックします。
3. 表示されるポップアップ・メニューから「指標のコピー」を選択します。
4. 次に、コピーした KPI に存在するエンティティを、BSC システムで定義済の各種エンティティにマップする必要があります。これらのエンティティは、ディメンション、ディメンション・グループおよびデータ定義（データセット）などです。ディメンションをマップできない場合は、BSC システムで新規ディメンションを作成するか、デフォルト・オプションを使用できます。
5. 図 3-37 のように、ディメンションをマップしやすいようにビルダーの「ディメンション・マッピング」ウィンドウが表示されます。

図 3-37 「ディメンション・マッピング」ウィンドウ



6. このウィンドウの右パネル（3-54 ページの図 3-37）に、コピー中の KPI に定義されているディメンションが表示されます。左側には、システムに定義されている全ディメンションが表示されます。このダイアログを使用して、KPI ディメンションをシステム・ディメンションに個別にマップする必要があります。同じシステム内で KPI をコピーする場合、KPI ディメンションはすべてシステム・ディメンションとして定義済になり、それがシステムで認識されることに注意してください。
7. KPI ディメンションをシステム・ディメンションに 1 対 1 でマップする場合：左パネルでマップする KPI ディメンションを選択し、右側でマップ先となるシステム・ディメンションを選択します。すべてをマップし終わるまで、各 KPI ディメンションのマッピングを続行します。その間は、ウィンドウの右上にある「マップ先」ラジオ・ボタンが選択されていることを確認してください。
8. 選択した KPI ディメンションのマップ先が現行のシステム・ディメンションにない場合は、新規のシステム・ディメンションを作成できます。単にディメンションのマッピング中に「新規ディメンションの作成」を選択します。ビルダーではマッピング・プロセスの後半で新規ディメンション名を求めるプロンプトが表示され、指定のディメンションが作成されます。
9. KPI ディメンションをコピーしないように選択することもできます。この場合は、コピーしない KPI ディメンションが選択されているときに、「ディメンションをコピーしない」ラジオ・ボタンを選択します。そのディメンションはコピーされません。

10. ディメンション・マッピングをすべて選択した後、「次」を選択します。
11. 次に、ディメンション・グループ、データ定義（データセット）および活動期間をマップする必要があります。前述した手順 7～9 と同じ手順に従ってください。

注意：「BSC グレゴリオ暦」とは異なるカレンダーを使用する指標をコピーすると、ビルダーではデフォルトで「マップしない」ラジオ・ボタンが選択状態で表示されます。「マップ先」ラジオ・ボタンが選択されていることと、使用するカレンダーおよび活動期間を確認してください。

KPI の移動

BSC アーキテクトを使用して KPI を移動できます。KPI の移動手順は、前述した「KPI のコピー」と同様です。単に前述の手順 1 および 2 に従いますが、表示されるポップアップ・メニューでは「KPI の移動」を選択します。KPI は新規グループに移動し、マッピングは不要です。

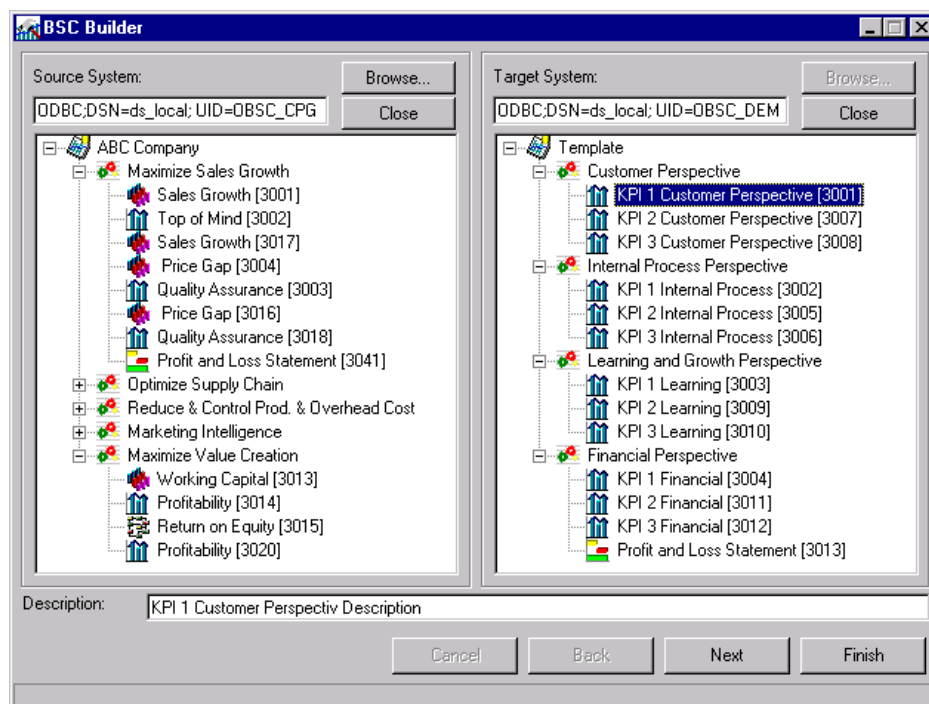
ソース・システムからの KPI のコピー：アーキテクト

BSC アーキテクトを使用して、KPI をソース・システムからコピーできます。KPI をソース・システムからコピーする計画がある場合は、ソース・スコアカードまたはライブラリをインストールして識別する必要があります。必要に応じて複数の異なるソースをオープンできます。そのためには、第 1 のソースを検索して必要な KPI をコピーします。次に、第 2 のソースを検索して再び KPI をコピーします。必要な KPI をすべてコピーし終わるまで、ソースのロードと要素のコピーを続行します。

注意： Oracle Applications 環境では、使用できるスキーマはデータベースごとに 1 つのみのため、ソースまたはライブラリ・システムは別の Oracle Applications インスタンスに存在する必要があります。

1. 図 3-38 のようなビルダーのメイン・ウィンドウを開きます。

図 3-38 「ソース・システム」ウィンドウ



2. 「ソース・システム」パネルの上部にある「ブラウズ」ボタンを選択します。ソース・ライブラリまたはスコアカードがインストール済の場合は、「プロジェクトのオープン」ウィンドウが表示されます。
3. スコアカードまたはライブラリを選択し、ソース・システムのユーザー名とパスワードを入力します。選択したソースの階層が「ソース・システム」パネルに表示されます。
4. 「ソース・システム」パネルで、コピーする指標をクリックして選択します。
5. 左マウス・ボタンを押しながら、指標を「ソース・システム」パネルから「ターゲット・システム」パネル内の必要なグループにドラッグします。

注意： ソース・システムからシミュレーション・ツリーをコピーするたびに、パネル内のシミュレーション・ツリー指標をカラー設定するためのフォーミュラがコピーされるわけではないことに注意してください。指標をコピーした後、「KPI デザイナ」ウィザードを使用してフォーミュラを再定義する必要があります。

KPI のプレビュー

KPI の作成後に、空のデフォルト・メジャー（オプション 0）と空のデフォルト・ディメンション・セットを使用してデフォルト KPI が作成されます。KPI が 1 つ以上のスコアカードに割り当てられていれば、この作成時にも「プレビュー」機能を使用できます。

KPI の「プレビュー」には、パフォーマンス管理デザイナの KPI または BSC アーキテクトの KPI デザイナでマスター KPI に対して行われた構成変更がすべて反映されます。

まだスコアカードに割り当てられていない KPI の場合は、「プレビュー」ボタンが使用不可になることに注意してください。

この「プレビュー」機能を使用できるのはパフォーマンス管理デザイナのみです。

What-If シミュレーションの作成と構成

What-If シミュレーション KPI を使用すると、バランス・スコアカード・ユーザーは指標のパフォーマンス変更が結果全体に与える影響をシミュレーションできます。通常、これらは財務指標に関連付けられています。シミュレーション指標は、KPI の作成時に BSC ビルダーで定義する必要があります。

What-If シミュレーションまたはシミュレーション・ツリーでは、使用可能なデータを表すノードと方向線を使用して、変数と全体のパフォーマンスの関連が詳細に示されます。

注意： ノードが KPI であるとはかぎりませんが、定義によっては KPI をノードとして使用できます。

最初に指標ノードを作成し、ラベルを付けてから、「指標」ウィンドウ上の位置に移動する必要があります。ノードを配置した後、ノード間の関連を示す方向線を追加できます。シミュレーション・ツリーにデータ・ディメンションや他の設定を含める場合は、それも定義する必要があります。ナビゲーション機能を使用すると、ユーザーは指標ノードをクリックして、そのノードのデータを表すグラフを表示できます。この機能を使用可能にするかどうかは、スコアカード設計者が選択します。最後に、各ノードに対して定義されているシミュレーション・ツリーとフォーミュラに、データセットを割り当てる必要があります。

シミュレーション KPI を使用するには、次の 2 つのタイプのノードを定義します。

- **ソース・ノード:** RAW データ、つまり計算されていないデータを表すノード。このタイプのノードは、ユーザーがシミュレーション中にスクロール・バーを使用して変更し、上位または下位の値をシミュレーションできます。これらのノードに RAW データを移入するには、ノードにデータセットを割り当てます。これらのデータセットは、分析オプションに使用されるデータセットと同じで、データ・ソースと要件を指定します。実際のデータがシステムに入力されると、これらのデータセットにデータが移入されます。ノードは常に

データセットに割り当てられているため、ノードは移入された実際の RAW データを表すことになります。

- **フォーミュラ・ノード**: ソース・ノードに基づいて計算されるノード。このタイプのノードはユーザーが直接変更できません。ソース・ノードで行われた変更が反映されます。

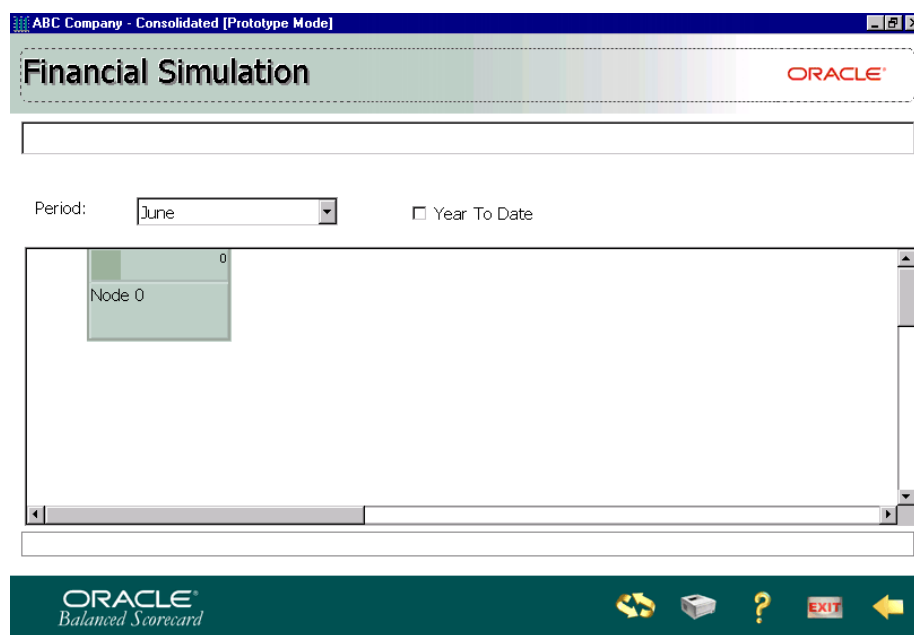
多数のスコアカードがある場合は、What-If シミュレーションがきわめて複雑になる可能性があります。このため、通常、設計者は **Oracle Balanced Scorecard** で設計プロセスを開始する前に、提案されたシミュレーション・ツリーのダイアグラムを紙上で作成しておくに役立ちます。

シミュレーション・ツリーの作成: アーキテクト

BSC アーキテクトを使用してシミュレーション・ツリーを作成できます。シミュレーション指標ウィンドウを設定する手順は、次のとおりです。

1. KPI デザイナのメイン・ウィンドウで、指標ウィンドウに表示するシミュレーション指標を選択します。図 3-39 のような空白のシミュレーション・ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、サンプル・ノード、データ・ディメンションおよび分析オプションが表示されています。

図 3-39 「財務シミュレーション」ウィンドウ



2. 右クリックしてポップアップ・メニューを表示し、「ドラッグ・アンド・ドロップ・モードの有効化」を選択して、ドラッグ・アンド・ドロップ・モードを有効化します。
3. ポップアップ・メニューを表示し、「ノードの追加」を選択してノードを追加します。「ノードの追加」ウィンドウが表示されます。
4. ノードの名称と摘要を入力します。
5. 「ベンチマークを使用してカラーを適用」チェック・ボックスを選択してベンチマークにカラーを適用します。
6. 「サンプル書式」プルダウン・メニューから数値書式を選択します。
7. プルダウン・メニューからカラー・メソッドを選択します。
8. 「OK」ボタンを選択して変更内容を保存するか、「取消」ボタンを選択して取り消します。

9. シミュレーション・ウィンドウに必要なノードをすべて作成します。新規に作成したノードは、ウィンドウの左上隅に重ねて表示されます。以降の手順で、各ノードを必要な位置にドラッグします。
10. 領域内で右クリックしてポップアップ・メニューを表示し、「ドラッグ・アンド・ドロップ・モードの有効化」を選択します。
11. スタックの最も手前のノードをクリックして必要な位置にドラッグし、各ノードを必要なレイアウトにあわせて配置します。



12. 各ノードを配置した後、「保存」アイコンを選択して変更内容を保存します。フォーマット変更を進める前に保存するのを忘れると、レイアウトが失われます。
13. 必要に応じて方向線とラベルを追加します。メイン・ポップアップ・メニューを表示してフォーマット・オプションを選択します。
 - **垂直線を追加する場合:** ポップアップ・メニューから「垂直線の追加」を選択します。ウィンドウに線が表示されます。その線を直接クリックしてポップアップ・メニューを表示し、「線プロパティの編集」を選択します。表示される編集ウィンドウを使用して、垂直線のサイズと位置を編集します。
 - **水平線を追加する場合:** ポップアップ・メニューから「水平線の追加」を選択します。前述の手順に従って線のサイズと位置を調整します。
 - **ラベルを追加する場合:** ポップアップ・メニューから「ラベルの追加」を選択します。画面に空白のラベルが表示されます。このラベルをクリックしてポップアップ・メニューを表示し、「プロパティの編集」を選択します。ラベルのキャプションを入力して「OK」をクリックします。ドラッグ・アンド・ドロップ・モードを有効化して、ラベルを必要な位置にドラッグします。
 - **矢印を追加する場合:** 最初に、前述の手順に従って水平線または垂直線を追加します。線をダブルクリックして「線プロパティ」ウィンドウを開きます。このウィンドウの下部にある「上」または「下」矢印オプションを選択します。
14. ディメンション・セットにシミュレーション指標を含める場合は、右クリックしてポップアップ・メニューを表示し、「ディメンションおよびディメンション・セットの定義」を選択します。シミュレーション・ウィンドウにディメンション・セットを割り当てます。「OK」ボタンを選択して変更内容を保存します。

注意: シミュレーション・ツリーにデフォルト・プロパティが「比較」に設定されているディメンションが含まれており、「一部または項目」が選択されている場合は、データセット間に定義されているフォーミュラを使用してカラーが「すべてまたは項目」として計算されます。

15. メイン・ポップアップ・メニューから「活動期間の定義」を選択して、シミュレーション・ウィンドウの活動期間オプションを設定します。シミュレーション指標の活動期間オプションを定義します。

注意: シミュレーション指標でサポートされる活動期間は1度に1つのみです。

16. メイン・ポップアップ・メニューから「計算の定義」を選択して、シミュレーションの計算を選択します。
17. メイン・ポップアップ・メニューから「ナビゲーション」を選択して、ナビゲーション機能を有効化します。これにより、ユーザーはノードを選択してノード・データを示すグラフを表示できるようになります。
18. ノードにデータセットを割り当てる前に、このシミュレーション KPI に使用可能なデータセットを定義する必要があります。手順については、3-59 ページの「[シミュレーション KPI に使用可能なデータセットを定義する手順は、次のとおりです。](#)」を参照してください。

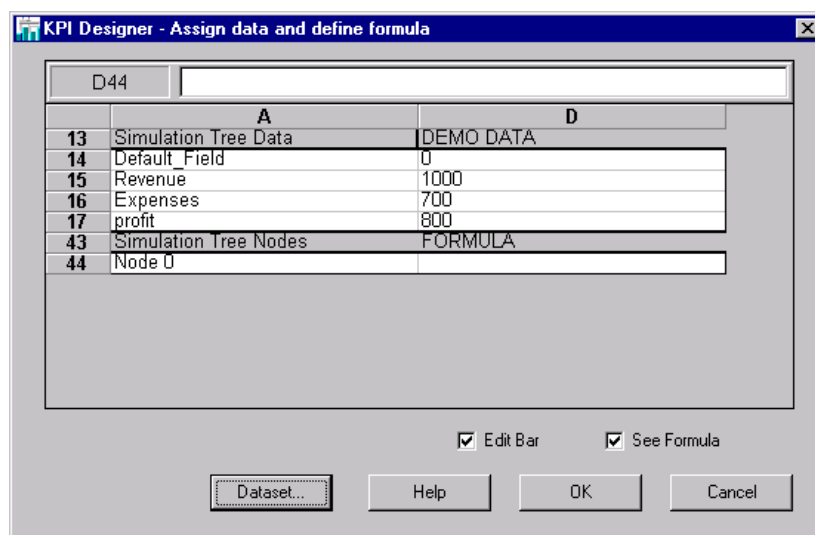
19. 「データ・セット」ボタンを選択して、シミュレーション・ツリーに必要なデータセットを追加します。
20. 「シミュレーション・ツリー・データセット」ウィンドウで、シミュレーション・ツリーに使用するデータセットを選択します。「OK」ボタンを選択して変更内容を保存します。
21. 「データの割当およびフォーミュラの定義」ウィンドウで、ノードごとにフォーミュラを作成します。「OK」ボタンを選択して変更内容を保存します。

シミュレーション用データセットの定義

シミュレーション KPI に使用可能なデータセットを定義する手順は、次のとおりです。

1. メイン・ポップアップ・メニューで「データとフォーミュラの割当」をクリックし、「データの割当およびフォーミュラの定義」ウィンドウ (図 3-40) を表示します。

図 3-40 「データの割当およびフォーミュラの定義」ウィンドウ



このウィンドウは2つにわかれています。上半分は「シミュレーション・ツリー・データ」で、この指標に使用可能なデータセットがすべて表示されます。下半分は「シミュレーション・ツリー・ノード」で、KPI で定義済みのノードが表示されます。

画面の上半分と下半分はさらに2つの列「A」および「D」にわかれています。「シミュレーション・ツリー・データ」の場合、列「A」にはデータセット名が表示され、列「D」のタイトルは「DEMO DATA」となっており、このデータセットの現行の値が表示されます。実際のデータが BSC にロードされていない場合は、このランダムに生成される数値がデフォルトとなります。

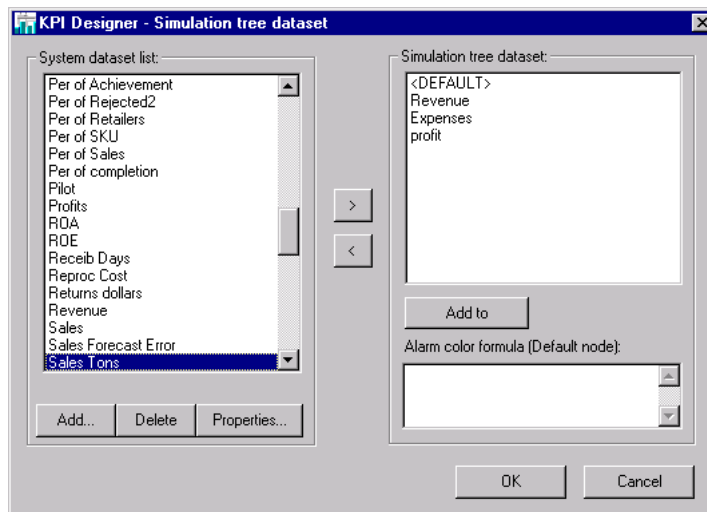
「シミュレーション・ツリー・ノード」の場合、列「A」にはノード名が表示され、列「D」のタイトルは「FORMULA」となっており、ノードのソース・データが表示されます。ノードのソースには、DEMO DATA からのデータセットを使用するか、他のノードのソースに基づくフォーミュラを使用できます。「シミュレーション・ツリー・ノード」の行 44 は、カラー・ドライバとなるデフォルト・ノードのフォーミュラを入力できるように予約されています。この定義のために、デフォルト・ノードをあらかじめ定義しておく必要があります (3-61 ページの「カラー計算を決定するノードを定義する手順は、次のとおりです。」を参照)。シミュレーション・ツリーに必要なデータセットを選択した後、定義しておいたデータセットを使用して、デフォルト・ノードのドライバとなるフォーミュラを定義します。この計算が、パネル内のシミュレーション・ツリーのカラーを決定する基礎となります。Excel スプレッドシートに算式を入力する場合と同様に、記号 +、-、/ などを使用してフォーミュラを入力します。

注意： 編集バー（図 3-40 でグリッドの上の部分）の表示または非表示を設定するには、「編集バー」チェック・ボックスを選択するか選択を解除します。フォーミュラ表示と計算結果表示の間でトグルするには、「フォーミュラを参照」チェック・ボックスを選択するか選択を解除します。

図 3-40 では、ウィンドウにフォーミュラが表示されています。

2. 「データ・セット」ボタンを選択します。次に示す「シミュレーション・ツリー・データセット」ウィンドウ（図 3-41）が表示されます。

図 3-41 「シミュレーション・ツリー・データセット」ウィンドウ



3. このウィンドウの左側には、BSC システムで定義済みの全データセットが表示されます。これらが分析オプションに使用するデータセットと同じであることに注意してください。右側には、このシミュレーション KPI に使用可能なデータセットが表示されます。
4. このシミュレーション KPI に使用可能にするデータセットを選択し、右矢印をクリックして右側に移動します。この KPI について、同じ KPI に定義されている合計ノード数を超える数のデータセットを使用可能にすることはできません。
5. データセットを追加する場合は「追加」ボタンを選択します。データセットの名称と摘要を入力します。
6. この KPI のプロパティを変更するには「プロパティ」ボタンを選択します。標準の「データセット・プロパティの編集」ウィンドウが表示されます。
7. 「OK」ボタンを選択して「データの割当およびフォーミュラの定義」ウィンドウに戻ります。
8. 必要に応じてソース・ノードとフォーミュラ・ノードを作成します。このウィンドウのグリッド領域の機能は、スプレッドシートと同じです。ソース・ノードを作成する場合のソースはデータセットです。
 - 「シミュレーション・ツリー・ノード」で、データセットを割り当てるノードを選択します。
 - そのノードの「FORMULA」列に `=[cell number]` と入力します。[cell number] は、このノードに割り当てるデータセットに対応する「シミュレーション・ツリー・データ」の「DEMO DATA」セルです。次の例では、ノード「収益」にデータセット DollarsRevenues が割り当てられており、その「FORMULA」には値として DollarsRevenues の「DEMO DATA」セルである `=D14` が入力されているとします。

計算ノードであるフォーミュラ・ノードの作成手順もほぼ同じです。このノードの「FORMULA」値を「シミュレーション・ツリー・データ」の「DEMO DATA」フィールドと一致させるかわりに、他の「シミュレーション・ツリー・ノード」の「FORMULA」フィールドに関係するフォーミュラの値を基礎として使用します。前述の例では、「利益」ノードには計算 $=D44-D45$ が反映されます。この計算には、「収益」ノードからの「費用」ノードの減算が反映されます。

重要：「データの割当およびフォーミュラの定義」ウィンドウの「シミュレーション・ツリー・ノード」領域で項目を作成する際には、次の点に注意してください。

- 「シミュレーション・ツリー・データ」内のデータセットをノードのソースとして定義する場合、「FORMULA」列では「シミュレーション・ツリー・データ」列の「DEMO DATA」列の他のセルを参照する必要があります。
 - ノードのソースがフォーミュラの場合、「FORMULA」列では「シミュレーション・ツリー・ノード」の「FORMULA」列のセルを参照する必要があります。
 - 「FORMULA」列では、最も一般的な Excel スプレッドシートの算式を使用できます。Excel でシミュレーション・フォーミュラを設定して単に Excel からコピーする場合は、必ずセル参照を変更してください。
 - すべてのフォーミュラは、**データではなく**ノードを参照する必要があります。
 - データセットがフォーミュラであるノードは、シミュレーションできません。
 - ソース・システムからシミュレーション・ツリーをコピーするたびに、パネル内のシミュレーション・ツリー指標をカラー設定するためのフォーミュラがコピーされるわけではないことに注意してください。指標をコピーした後、「KPI デザイナ」ウィザードを使用してフォーミュラを再定義する必要があります。
-

What-If シミュレーションのカラー・トリガー

ノードのカラー・トリガーでは、カラー変更の原因となる値を定義します。値は、実績からの偏差率に基づきます。たとえば、実績の 90% となった時点でカラーが赤に変わります。90% を超えて 105% までは黄、105% を上回る場合は緑にする必要があります。

ノードのカラー・トリガーを定義する手順は、次のとおりです。

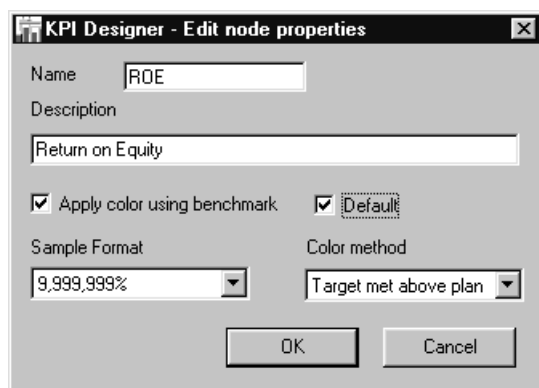
1. メインの「シミュレーション」ビューで、右クリックしてポップアップ・メニューをアクティブ化します。このメニューから「ナビゲーション」を選択してナビゲーションを有効化します。
2. カラー・トリガーを変更するノードをクリックします。ノードがグラフィック表示されます。
3. 画面右側のグレー部分を右クリックします。ポップアップ・メニューが表示されます。
4. このメニューから「カラー・トリガーの定義」を選択します。
5. これで、このノードのカラー・トリガーを定義できます。プロセスは、前述のように KPI のカラー・トリガーを個別に設定する場合と同じです。
6. メインの「シミュレーション」ウィンドウに戻るには、画面下部の「シミュレーション」ボタンを選択します。



カラー計算を決定するノードを定義する手順は、次のとおりです。

1. シミュレーション・ツリー内で、デフォルトとして定義するノードを右クリックします。表示されるポップアップ・メニューから「プロパティ」を選択して「ノード・プロパティの編集」ウィンドウ (図 3-42) を起動します。

図 3-42 「ノード・プロパティの編集」ウィンドウ



2. 「名称」フィールドに、カラー計算のドライバとなるノードの名称を入力します。「デフォルト」ボックスを選択し、「OK」ボタンを選択します。これで、カラー計算を決定するノードの定義は完了です。
3. カラー・ドライバとなるデフォルト・ノードを定義した後、「データの割当およびフォーミュラの定義」に移動して、このノードのフォーミュラが「シミュレーション・ツリー・データセット」ウィンドウで定義されていることを確認します（3-60 ページの図 3-41 を参照）。

参照：シミュレーション・ツリーに関するパフォーマンス管理デザイナ機能との相互作用

損益指標の構成：アーキテクト

BSC アーキテクトを使用して損益指標を構成できます。パフォーマンス管理デザイナの KPI 階層には、システムで使用可能なデフォルトの損益 KPI、または BSC ビルダー・モジュールを介してコピーした損益が、KPI を表す 1 本の線として表示されます。このタイプの KPI の子メジャーは、デフォルトで常に「金額」です。

これらのタイプの KPI は作成メニューからは使用できませんが、BSC アーキテクト -BSC ビルダーで使用可能なコピーまたは移動機能を使用すると、異なる KPI グループおよびスコアカードにコピーして使用し、構成できます。

損益 KPI には、設計者が変更できない特別なプロパティ・セットがあります。

1-KPI は、「金額」メジャーにデフォルトの「金額」分析オプションが割り当てられた状態で作成されます。理論上は、パフォーマンス管理デザイナで「金額」メジャーを更新するときに、「金額」デフォルト・メジャーのメジャー選択を変更できますが、KPI の性質が変わる可能性があるため、この操作はお薦めしません。

2-KPI は、デフォルトで「勘定」、「勘定タイプ」および「補助勘定」という 3 つのディメンション・オブジェクトを使用して作成されます。これらのディメンション・オブジェクトは、同じ性質を持つディメンションにグループ化されます。ディメンションとディメンション・オブジェクトは、どちらも更新不可で、システムからは削除できません。そのため、損益 KPI 用に予約済のメジャーとディメンションについては、「更新」および「削除」アイコンが使用不可になります。

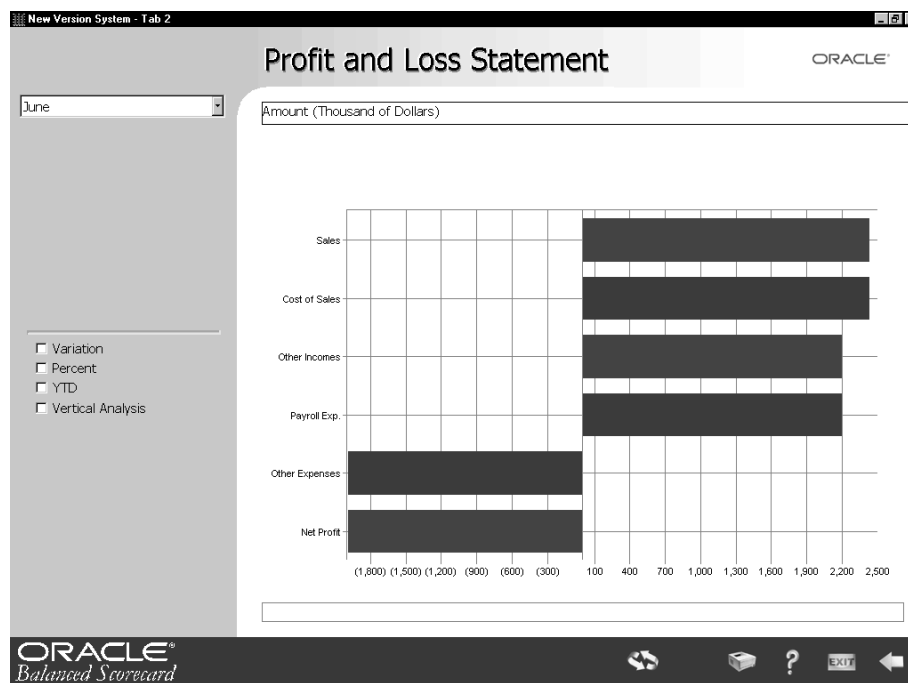
3- デフォルト・メジャー「金額」は、指標に適用可能な唯一のメジャーであるため KPI からは削除できません。「金額」は、指標の性質上このタイプの KPI で表現できる唯一のメジャーであるため、KPI には新規メジャーを作成できません。損益 KPI 作成の詳細は、「損益 KPI の作成」を参照してください。

注意：BSC アーキテクト -BSC ビルダーにオリジナル・テンプレートの一部としてインストール済の損益 KPI は削除しないでください。削除すると、システムで使用できなくなります。

損益指標に関する特別な考慮事項

損益指標の構造全体は固定ですが、指標には必要な数のユーザー定義勘定を表示できます。
 図 3-43 のように、グラフはユーザー定義の収益勘定と費用勘定を表す変動型の棒で構成されます。収益勘定は上部から始まって緑の棒で表示され、費用勘定は最後の収益勘定の下から始まって黄の棒で表示されます。最下部の棒は、収益と費用の差異合計を示します。

図 3-43 損益指標



使用可能な計算は、「変動」（ターゲットから）、「親」、「YTD」および「垂直分析」などです。

垂直分析: この計算は、主勘定（最上位にある第 1 勘定）に対する各勘定の貢献率を示します。

主勘定: ユーザーは、データが 0 より大きい会社勘定を第 1 勘定としてロードできます。第 1 勘定に費用勘定がロードされ、そのデータが 0 より小さい場合、バランス・スコアカードは 0 より大きいデータを使用可能な最初の勘定が見つかるまで、以降の勘定に進みます。最初に見つかったプラスの勘定が、「垂直分析」計算用の主勘定となります。

損益指標の構成作業は他の指標の構成作業に似ていますが、損益指標の構成オプションははるかに限定されています。

損益指標を構成するには、特定の勘定にフォーカスを置いて傾向（垂直棒）モードでグラフを作成しておく必要があります。損益グラフをトレンド・グラフに戻すには、勘定を表す水平棒をクリックします。指標は単に傾向指標として表示すればよいので、どの勘定の棒でもかまいません。

損益指標には、次の制限が適用されます。

- 損益指標に存在できる分析オプションは 1 つのみで、分析オプション・グループも 1 つのみです。ただし、分析オプションの名称は変更できます。
- 「勘定タイプ」、「勘定」および「補助勘定」の各データ・ディメンションは、損益指標から削除できず、どのような方法でも変更できません。
- 指標のキー項目は定義できません。つまり、損益指標を特定のディメンションの値、勘定または補助勘定のデフォルトとして構成することはできません。

参照: 損益 KPI に関するパフォーマンス管理デザイナー機能との相互作用

KPI の更新

システムでパフォーマンス管理デザイナーまたは BSC アーキテクト - ビルダー・モジュールを介して KPI を作成した後、KPI レベルで「更新」アイコンを使用して、KPI の主要属性、KPI 用に作成されたディメンション・セットおよび KPI のカラー・プロパティを更新できます。

KPI タイプ（単一棒、複数系列、シミュレーション・ツリーまたは損益）に応じて、設計者が更新できるプロパティに少し違いがあることがわかります。この点については、特別な使用例に関する後述の各項で説明します。

図 3-44 KPI の主要属性の更新

The screenshot shows the Oracle Performance Management Designer interface. The main window has a title bar with 'ORACLE Performance Management Designer' and navigation links 'Home', 'Logout', and 'Preferences'. Below the title bar are tabs for 'Measures', 'Dimensions', and 'KPIs'. The 'KPIs' tab is selected, and the sub-tab 'Performance Measures > KPIs > Update Maximize Profitability' is active. The main content area displays the 'Update Maximize Profitability: Primary Attributes' dialog box. This dialog has a sidebar with 'Primary Attributes', 'Dimension set', and 'Color Properties'. The 'Primary Attributes' section is expanded, showing a table with two rows: 'Name' with the value 'Maximize Profitability' and 'Description' with the value 'Indicator Help'. Below the table is a dropdown menu for 'KPI Color Driver and Default Measure' set to '% Revenue Growth'. There are 'Cancel' and 'Apply' buttons at the top right and bottom right of the dialog. The footer of the window contains copyright information: 'Copyright 2003 Oracle Corporation. All rights reserved.' and a 'Privacy Statement' link.

KPI の主要属性の更新

KPI の次の主要属性を更新できます。

- 「名称」と「摘要」。
- デフォルト・メジャー: KPI のカラー・ドライバとなるデフォルト・メジャーと、ユーザーが指標を初めてクリックしたときの KPI のデフォルト動作を選択できます。
- ベンチマーク・グラフ・タイプ: グラフにベンチマーク情報を表示するための作業環境を選択できます。デフォルト・オプションは線ですが、棒に変更できます。

図 3-45 KPI の主要属性

ORACLE
Performance Management Designer

Home Help

Reporting Performance Measures

Measures Dimensions KPIs

Performance Measures > KPIs > Update Revenue BI Solutions

Update Revenue BI Solutions: Primary Attributes

* Indicates required field

Primary Attributes

* Name Revenue BI Solutions

Description Indicator Help

KPI Color Driver and Default Measure Revenue in US\$

Benchmark Graph Type Bars

Cancel Apply

Reporting | Performance Measures | Home | Help

Copyright 2003 Oracle Corporation. All rights reserved. Privacy Statement

KPI の主要属性を更新する手順は、次のとおりです。

1. 「パフォーマンス管理デザイナー」 職責を使用して、パフォーマンス管理デザイナーの「KPI デザイナー」にログインします。
2. KPI レベルで「更新」をクリックします。
3. 「主要属性」をクリックします。
4. KPI の名称、摘要、デフォルト・メジャーおよびベンチマーク・グラフ・タイプを更新します。
5. 「適用」をクリックして変更内容を保存します。

KPI のディメンション・セットの更新

このメニューで設計者は次のことができます。

- 指標のディメンション・セットの作成
- すべての KPI にデフォルトで作成されるディメンション・セット 0 へのディメンション・オブジェクトの追加
- カスタム・メジャー用に作成されたディメンション・セットに含まれるディメンション・オブジェクトの組合せの更新
- KPI のカスタム・メジャー用に作成されたディメンション・セットの削除

注意： Oracle E-Business Suite のメジャーを KPI に追加するときに自動的に作成されたディメンション・セットなど、一部のディメンション・セットは編集不可または更新不可であることがわかります。この場合のディメンション・セットは、メジャーの性質上、固定です。

ディメンション・セットの作成と構成については、「KPI のディメンション・セットの定義」を参照してください。

KPI のカラー・プロパティの更新

このメニューで設計者は次のことができます。

- KPI の各メジャーのカラー・メソッドの設定
- 比較モードで設定された KPI のカラー・アルゴリズムに影響する比較のデフォルト設定の設定
- KPI のカラー・トリガーの設定
- デモまたはプロトタイプ・スコアカード・システム用の KPI のプロトタイプ・カラーの設定

カラー・プロパティの構成については、「指標のカラー・プロパティの構成」を参照してください。

指標のカラー・プロパティの構成

バランス・スコアカードの警告カラーは、KPI の値がその時期にどの程度計画値から離れているかを示します。たとえば、任意の KPI（「売上」など）のトリガー値を定義できます。トリガー値に達すると、その KPI のカラーが変化します。

たとえば、月の売上目標を 100 万ドルに設定しており、許容パフォーマンスをトリガーするためにトリガーを 100% に設定すると、そのターゲットの達成度に応じて KPI のカラーが変化します。100% を上回る達成度は許容可能で、下回る場合は設定されているトリガーに応じて許容不可または限界となります。

トリガー値の定義（およびこれらの値からの偏差率）は、警告カラーを決定する複数のファクタの 1 つです。その他、次のようなファクタがあります。

- カラー・トリガーの定義（値）
- KPI でのデフォルト・メジャーの定義（「月次」または「年累計」）
- ディメンション・プロパティの定義（「全て」、「比較」または「修正比較」）
- カラー・メソッドの指定内容（「ターゲットが計画を上回る」、「ターゲットが計画を下回る」または「ターゲットが範囲内である」）
- プロトタイプのカラー（プロトタイプ段階のみ）
- デフォルト・カラーのユーザーによるカスタマイズ（赤、黄および緑以外）

パフォーマンス管理デザイナの KPI デザイナ・モジュールにおける KPI のカラー・プロパティの定義

パフォーマンス管理デザイナでは、指標内のメジャーごとに「カラー・メソッド」を設定するなど、指標の「カラー・プロパティ」を使用できます。

「カラー・プロパティ」メニューは、指標の作成フロー中、または指標を作成済で設計者がプロパティを更新する際に使用可能です。

KPI のカラー・プロパティを設定または変更する手順は、次のとおりです。

1. 「パフォーマンス管理デザイナ」職責で「KPI デザイナ」にログインします。
2. 「カラー・プロパティ」メニューにナビゲートします。このメニューは、指標の作成時または既存の KPI を更新するときに使用できます。新規 KPI を作成する場合は、最初に KPI の主要属性を作成すると、このメニューが使用可能になり、デフォルト・オプションが表示されます。

図 3-46 KPI のカラー・プロパティ

ORACLE®
Performance Management Designer

Home Logout Preferences

Measures Dimensions KPIs

Performance Measures > KPIs > Update Maximize Profitability

Maximize Profitability: Color Properties

Cancel Apply

Primary Attributes
Dimension set
Color Properties

Measure Settings

Measure	Measure ID	Color Method(Default)	Color Method
% Revenue Growth Perc 20 50 tar 40 Above			Target met above plan
Revenue Dollars100200 Below			Target met below plan

Default Measure: % Revenue Growth

* Comparison Setting All

Color Thresholds

Target Met Above Plan

Acceptable Threshold 100% Marginal Threshold 90%

Critical
Acceptable

Target Met Below Plan

Acceptable Threshold 110% Marginal Threshold 100%

Acceptable
Critical

Target Within Range

Upper Acceptable Threshold 110% Lower Acceptable Threshold 95% Upper Marginal Threshold 105% Lower Marginal Threshold 90%

Lower Acceptable
Upper Marginal
Lower Critical
Upper Acceptable

Prototype Color

Prototype Color Marginal

Cancel Apply

Reporting | Performance Measures | Home | Logout | Preferences

Copyright 2003 Oracle Corporation. All rights reserved. Privacy Statement

この画面は次の4つのセクションにわかれています。

- メジャー設定
- 比較設定
- カラーしきい
- プロトタイプ・カラー (KPI)

「メジャー設定」では、KPIに割り当てられている各メジャー（データセット）のカラー・メソッドを指定します。「比較設定」では、デフォルト比較 KPI として定義されている KPI のカラー・メソッドのタイプを指定します。「カラーしきい」セクションでは、パフォーマンスに基づく KPI のカラー範囲を指定します。

メジャー別の「カラー・メソッド」

このセクションでは、指標に使用する各メジャー（データセット）のカラー・メソッドを定義します。

次の3つの基本カラー・メソッドがあります。

- **ターゲットが計画を上回る**：このメソッドを選択すると、実績の結果がターゲット値の計画と一致するか上回った場合に、許容可能パフォーマンスを表すカラー（デフォルトの緑、またはユーザー定義）が表示されます。このメソッドは、計画を上回ることが期待される収益や売上などのメジャーに適しています。

- **ターゲットが計画を下回る**：このメソッドを選択すると、実績の結果がターゲット値の計画を下回った場合に、許容可能パフォーマンスを表すカラー（デフォルトの緑、またはユーザー定義）が表示されます。このメソッドは、計画を下回ることが期待される生産コストや従業員回転率などのメジャーに適しています。
- **ターゲットが範囲内である**：このメソッドを選択すると、実績の結果が特定の値の範囲に含まれる場合に、許容可能パフォーマンスを表すカラー（デフォルトの緑、またはユーザー定義）が表示されます。このメソッドは、特定の限度を上回ったり下回ったりせずに、値の範囲に収まることが期待される在庫などのメジャーに適しています。

KPI 内のメジャーごとにカラー・メソッドを設定する手順は、次のとおりです。

1. KPI で、または KPI 作成処理中に「更新」をクリックし、「パフォーマンス管理デザイナー KPI デザイナ」の「カラー・プロパティ」画面にナビゲートします。
2. 「メジャー設定」セクションで、KPI に追加する各メジャーに適したカラー・メソッドを指定します。KPI のカラーは、常に KPI のデフォルト・メジャーにより決定されます。

注意：

- KPI のカラー・ドライバとなるデフォルト・メジャーは常に存在することに注意してください。デフォルト・メジャーは画面に表示されます。KPI のデフォルト・メジャーを変更する場合は、主要属性の「更新」画面にナビゲートして操作します。
- カラー・アルゴリズムは、常に計画データまたは予算データに対する実績データの比較に基づきます。スコアカード・ビューには、実績データで更新された最新実績期間の KPI のデフォルト・メジャーに基づいて、常に KPI のカラーが反映されます。

カラー結果に影響するデフォルト・メジャーのプロパティ

前述のように、KPI のカラー・ドライバとなるデフォルト・メジャーは常に存在します。

このデフォルト・メジャーに対して定義される活動期間と計算のデフォルト・プロパティは、カラー結果に影響する別のファクタです。

デフォルト・オプションは次のように定義できます。

- **月次**：カラーは特定の月のデータに適用されます。
- **YTD**：カラーは、年累計（6 月中の売上ではなく 6 月までの年累計売上など）に適用されます。

複数系列 KPI の場合、警告カラーはデフォルトのデータ系列に基づきます。デフォルトのデータ系列は、BSC ビューワでユーザーが KPI にアクセスしたときに常に最初に表示される系列です。このデフォルトは、管理者が設定できます。複数棒 KPI に警告カラーを使用するには、デフォルト系列にコード 1 のベンチマーク・データが必要です。

比較設定

デフォルト・メジャーが「比較」フィールドでデフォルトの「表示別」を選択して構成されている場合は、指標グラフのデフォルトが比較グラフになるように、比較カラーの設定を指定できます。

これにより「比較設定」ドロップダウン・メニューが表示され、このメニューで 2 つのカラー計算から選択できます。

メソッド 1-比較。「比較」を選択すると、警告カラーはバランス・スコアカードの標準の比較カラー・メソッドである「最小共通カラー」メソッドに基づいて計算されます。

このメソッドでは、最初にディメンション内の各値のカラーが計算されます。次に、使用可能なディメンション値のカラー（最小共通指標カラー）から選択されます。

たとえば、あるディメンション値が黄として計算され、他のすべてが緑として計算されると、指標のカラーは黄となります。各ディメンション値は、特定の KPI に定義されているパーセントを基準とする実績対ベンチマークとして計算されます。これは、警告カラーに次のように影響します。

- いずれかのディメンション値のパフォーマンスが赤の場合、メイン・ビューの指標カラーは赤になります。

- いずれかのディメンション値のパフォーマンスが赤でなく黄の場合、メイン・ビューの KPI カラーは黄になります。

- すべてのディメンション値のパフォーマンスが緑の場合、メイン・ビューの KPI カラーは緑になります。

方法 2- 全て。「全て」を選択すると、警告カラーはディメンションの合計値に基づいて計算されます。

管理者は、比較ディメンションのすべての値の実績対ベンチマークの比較に基づいて警告ビュー・カラーを計算するように、比較ディメンションを構成できます。これは、比較モードを使用するが、最小共通カラー・メソッドでは不十分な場合の代替メソッドです。管理者は、ユーザーに KPI の計算方法を教育する必要があります。これは、KPI に最初に表示される分析オプションとディメンション値に基づいて警告カラーが計算されるというルール of the 唯一の例外であるためです。

カラーしきいの定義

カラー・トリガーは、警告カラーが変化するように定義されているしきい値（計画パフォーマンスに対するパーセント）です。このトリガーはユーザーに対して、指標の実績パフォーマンスが指定のパーセントだけ計画から逸脱していることを警告します。カラー・トリガーは、メジャー・レベルではなく指標レベルのプロパティです。

カラー・メソッドのタイプにより、カラー・トリガー・レベルの機能が決定されます。たとえば、「収益」メジャーについて「ターゲットが計画を上回る」カラー・メソッドを選択し、レベル 1 のターゲットを 100% に設定すると、100% を上回る収益は緑、つまり許容可能になります。レベル 2 のターゲットを 90% に設定すると、そのレベルを下回る収益は赤、つまり許容不可になります。レベル 1 とレベル 2 のターゲットの差により、黄、つまり限界パフォーマンス（90 ~ 100% の収益など）が決定されます。

たとえば、メジャーの性質が「費用」でカラー・メソッドが「ターゲットが計画を下回る」の場合、値の論理は次のようになります。レベル 2 を下回る場合、指標のカラーは緑、つまり許容可能になります。レベル 3 および 4 は、カラー・メソッド「ターゲットが範囲内である」に使用できます。

カラーしきいまたはトリガーを設定する手順は、次のとおりです。

1. KPI で、または KPI 作成処理中に「更新」をクリックし、「パフォーマンス管理デザイナー KPI デザイナ」の「カラー・プロパティ」画面にナビゲートします。
2. 「カラーしきい」セクションで、各メソッドのカラー・トリガーのパーセントを設定し、許容可能なパーセントと限界パーセントを指定します。パーセント値は範囲内に含まれることに注意してください。たとえば、許容可能範囲を 90% に設定すると、結果は 90% 以上で許容可能となります。
3. 使用するメソッドのトリガー・レベルを指定します。どのメジャーにも使用していないメソッドがある場合、システムでは関連メソッドのみが使用されます。
4. この定義は、次の画面と結果に影響します。
 - 「スコアカード・ビュー」には、指標カラー（戦略マップ・ビュー、カスタム・ビュー、スコアカード・ビュー、詳細ビュー、ツリー・ビュー）が反映されます。指標のカラーには、常にデフォルト・メジャーのカラーが反映されます。
 - 指標を使用するポートレット。「カスタム・ビュー」、「指標のリスト」およびバランス・スコアカードのビューを反映するその他のポートレットにも、ここで定義したカラー・プロパティが反映されます。

指標のプロトタイプ・カラー定義の定義

デモのために、各指標のプロトタイプ・カラーを定義できます。

プロトタイプ・カラーは、3つのオプション「許容可能」、「限界」および「許容不可」から選択できます。

この3つのオプションのデフォルト・カラーは、それぞれ「緑」、「黄」および「赤」です。

KPI のプロトタイプ・カラーを設定する手順は、次のとおりです。

1. KPI で、または KPI 作成処理中に「更新」をクリックし、「パフォーマンス管理デザイナー KPI デザイナ」職責で「カラー・プロパティ」画面にナビゲートします。
2. 画面下部の「プロトタイプ・カラー」ドロップダウンで、使用可能なオプションを1つ選択します。

カスタム・メジャーと E-Business Intelligence Suite のカラーに関する考慮事項

指標のドライバであるデフォルト・メジャーが E-Business Intelligence Suite のメジャーの場合は、「カラー警告情報」ウィンドウの外観が少し異なることがあります。このタイプのメジャーのカラーは、メジャーの追加時に定義するパラメータにより決定されます。

KPI のカラー結果に影響するその他のプロパティ

警告カラーは、ディメンション・プロパティの定義にも影響されます。どのディメンションのデフォルト値も、「全て」、「比較」または特定のディメンション値または項目（「州」ディメンションの場合は「テキサス」など）に設定できます。デフォルト・ディメンションを「全て」または「キー項目」ディメンション値に設定すると、スコアカード・ビューのカラーにはこの選択が反映され、KPI のデフォルトとして設定されたデフォルト値の実績対ベンチマークが表示されます。

別々の時期に実績データが更新された KPI が BSC に含まれる場合、これらの異なる実績期間が警告カラーに反映されます。たとえば、KPI 1 が最後に更新されたのが3月で、KPI 2 が最後に更新されたのが4月であれば、警告はそれぞれの月に基づきます。

KPI に複数の活動期間が存在する場合、警告カラーはデフォルトの活動期間に基づいて決定されます。

KPI の警告カラーは、常に実績データとコード1のベンチマーク（KPI デザイナ内）の比較として計算されます。コード1のベンチマークは、計画としてデフォルト設定されます。他のベンチマークを基準にして警告カラーを計算することはできません。

コード1のベンチマークの名称は KPI デザイナで変更できますが、この名称は KPI 固有ではなく、すべてのスコアカード間でグローバルです。

KPI についてベンチマーク・データがまったくロードされていない場合、デフォルトの警告カラーは濃い灰色です。

KPI にベンチマークを設定することが適当でない場合は、すべてのベンチマークを KPI から削除でき、デフォルトのビュー・カラーは薄い灰色になります。

複数棒 KPI の場合、警告カラーはデフォルトのデータ系列に基づきます。デフォルトのデータ系列は、BSC ビューでユーザーが KPI にアクセスしたときに常に最初に表示される系列です。このデフォルトは、管理者が設定できます。複数棒 KPI に警告カラーを使用するには、デフォルト系列にコード1のベンチマーク・データが必要です。

KPI が本番モードで変更されると、警告カラーに影響する可能性があります。KPI の変更後にローダーを再実行して、そのカラーを再びアクティブ化する操作が必要になる場合があります。本番モードで変更された KPI は、ローダーを再実行するまでは薄い灰色で表示される場合があります。

KPI でのカラー結果に影響するファクタ

- トリガー値の定義（およびこれらの値からの偏差パーセント）
- デフォルト分析オプションの定義（「月次」または「年累計」）
- ディメンション・プロパティの定義（「全て」、「比較」、「キー値」）
- カラー・メソッドの指定内容（「ターゲットが計画を上回る」、「ターゲットが計画を下回る」または「ターゲットが範囲内である」）
- システムのステージ：「製品」または「プロトタイプ・カラー」
- デフォルト・カラーのユーザーによるカスタマイズ（赤、黄および緑以外）
- 別々の時期に実績データが更新された KPI がバランス・スコアカードに含まれる場合、これらの異なる実績期間が警告カラーに反映されます。
- KPI に複数の活動期間が存在する場合、警告カラーはデフォルトの活動期間に基づいて決定されます。
- KPI 警告カラーは、常に実績データ対計画または予算ベンチマークの比較をもとに決定されます。
- KPI についてベンチマーク・データがまったくロードされていない場合、デフォルトの警告カラーは濃い灰色です。
- KPI にベンチマークを設定することが適当でない場合、デフォルトのビュー・カラーは薄い灰色です。

KPI タイプに応じたカラー計算

トレンド・グラフのカラー計算：KPI のデフォルト設定がトレンド・グラフである場合、1 つ目のディメンションに対する当月の実績データ対計画データ、およびデフォルトの分析オプションの組合せを取得することで、警告カラーが計算されます。その後システムではカラー・トリガー・パーセントを使用して適切なカラーが計算されます。

比較グラフのカラー計算：指標のデフォルト設定が比較グラフである場合、「比較」ディメンションのデフォルトの分析オプションの組合せにおいて、各ディメンション値（比較グラフの各棒）の個々のカラーを計算するためのカラー・トリガー・パーセントを使用することにより、カラーが決定されます。比較グラフにおける様々な計算方法については、前述の「比較設定」を参照してください。

シミュレーション・ツリーのカラー計算：指標のデフォルト設定がシミュレーション・ツリーの場合、選択したツリーの特定ノードの実績値を計画値と比較することで、カラーが決定されます。カラー計算を決定するデフォルト・ノードの定義については、「シミュレーション・ツリー KPI の構成」を参照してください。

損益指標のカラー計算：損益指標の棒（各勘定につき 1 つ）が、警告許容レベルを超えた勘定を識別するために色分けされます。基礎となる金額を表示するには、各棒の上にマウス・カーソルを移動します。各棒は、カラーの基礎である実績値と計画値を示します。一般的に 1 つ目のデータ棒は売上などの収益勘定を表しますが、通常最後の棒はその前の棒から導出された純利益を表します。KPI 全体のカラーは、常に最終結果の勘定に基づきます。

警告カラーのカスタマイズ

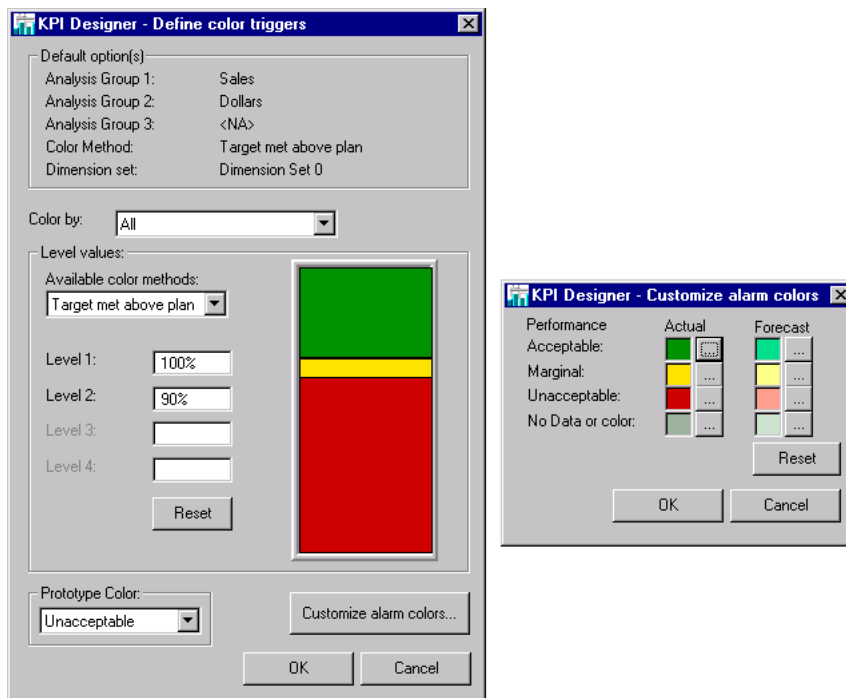
オプションとして、BSC アーキテクトの「KPI デザイナ」には、システム内の標準的なデフォルトの警告カラーを緑、黄および赤から Windows カラー・パレットで使用可能な他のカラーに変更する機能が用意されています。

この機能を使用できるのは BSC アーキテクト -KPI デザイナのみで、パフォーマンス管理デザイナ・モジュールでは使用できません。

警告カラーのユーザー・カスタマイズ: アーキテクト ユーザーがデフォルトの警告カラー（赤、黄および緑）を変更する必要がある場合は、「警告カラーのカスタマイズ」ボタンを使用してカスタマイズできます。この機能にアクセスする手順は、次のとおりです。

1. KPI 内で、KPI グラフ制御パネルの右にあるオープン領域を右クリックし、ポップアップ・メニューから「カラー・トリガーの定義」を選択します。
2. 「警告カラーのカスタマイズ」ボタンを選択します。「警告カラーのカスタマイズ」ウィンドウが表示されます（図 3-47）。

図 3-47 警告カラーのカスタマイズ



3. 実績期間と予測期間のカラーを選択できます。計画を上回る場合は「許容可能」行、計画を少し下回る場合は「限界」行、計画を下回る場合は「許容不可」行、データがない場合は「データまたはカラーなし」行を使用します。カラーを選択した後に「OK」ボタンを選択します。
 4. もう 1 度「OK」ボタンを選択して「カラー・トリガーの定義」ウィンドウを閉じます。
- これで、カラー・トリガーがカスタム・カラー構成を使用して表示されます。

注意： システムの設計者として、デフォルトの警告カラーには従来の交通信号方式である緑、黄および赤が反映されていることに注意してください。新規の警告カラーをカスタマイズすると、このパラダイムを変更することになり、カラーの新しい意味を組織に伝えることが必要になります。

KPI カラー・ドライバおよびデフォルト・メジャーの変更

KPI を作成して複数のメジャーを追加すると、デフォルトで KPI は最初のメジャーがデフォルト・メジャーになることを認識します。

KPI のデフォルト・メジャーは、KPI 全体のカラー・ドライバとなるメジャーで、ユーザーが KPI 内で初めてクリックしたときに表示される最初のメジャーを意味します。

KPI のデフォルト・メジャーを変更する手順は、次のとおりです。

1. 「更新」KPI にナビゲートします。
2. 「主要属性」メニューにナビゲートします。
3. 「KPI カラー・ドライバおよびデフォルト・メジャー」セクションで、KPI のデフォルト動作のドライバとして使用するメジャーを選択します。
4. 「適用」をクリックして選択内容を保存します。

複数系列 KPI、シミュレーション・ツリー KPI および損益 KPI の更新

前述したように、複数系列 KPI、シミュレーション・ツリー KPI および損益 KPI という 3 タイプの KPI の場合、作成するには BSC アーキテクト-KPI デザイナ・モジュールを使用する必要があります。

作成には BSC アーキテクト-KPI デザイナ・モジュールを使用する必要がありますが、KPI の次のプロパティは KPI デザイナで更新できます。

- 主要属性: KPI 用デフォルト・メジャーの「名称」、「摘要」および「デフォルト・メジャー」の選択。
- ディメンション・セット作成: 設計者は KPI のメジャーに使用するディメンション・セットを更新できます。
- カラー・プロパティ: このタイプの KPI に適用可能なカラー・メソッドとカラー・トリガーの設定が含まれます。

複数系列 KPI の更新

パフォーマンス管理デザイナの複数系列 KPI の「更新」では、3 タイプの更新を実行できます。

複数系列 KPI の主要属性の更新。

KPI レベルで「更新」をクリックして「主要属性」を選択すると、複数系列 KPI の次のプロパティを更新できます。

- KPI の名称と摘要。
- KPI のデフォルト・メジャーの選択: このドロップダウンから、KPI カラーのドライバとなるデフォルト・メジャー（分析オプション）を選択できます。このタイプの KPI の場合、デフォルトの分析オプションが指標のデフォルトとして設計されていれば、KPI のデフォルト系列も指定できます。この操作は、KPI で各系列を更新するときに実行します。
- このタイプの指標の場合、KPI でデフォルトとして選択した複数の系列を表示する必要がある場合は、BSC アーキテクト-KPI デザイナにログインし、系列について「グラフ・タイプ」、「系列のカラー」および「デフォルト」を選択するなど、KPI の系列のプロパティを指定することもできます。

複数系列 KPI のディメンション・セットの更新

KPI レベルで「更新」をクリックして「ディメンション・セット」を選択すると、複数系列 KPI の次のプロパティを更新できます。

- 複数系列指標に使用する複数のディメンション・セットを作成します。
- KPI 用に作成したディメンション・セットにディメンション・オブジェクトを追加します。
- 各系列用に作成されたディメンション・セットに含まれるディメンション・オブジェクトの組合せを更新します。このタイプの KPI の場合は、一貫性のあるグラフを取得するため

に、すべての系列にまたがって機能する共通ディメンション・セットを1つ選択する必要があります。ご注意ください。

- KPI 用に作成されたディメンション・セットを削除します。

注意: 複数系列 KPI では、複数系列の選択時にグラフで一貫して取得されるように、すべての系列に共通するディメンション・セットを1つのみ使用できます。

ディメンション・セットの作成と構成については、「KPI のディメンション・セットの定義」を参照してください。

「カラー・プロパティ」メニュー

このメニューで設計者は次のことができます。

- KPI の各メジャーおよび系列のカラー・メソッドの設定
- 比較モードで設定された KPI のカラー・アルゴリズムに影響する比較のデフォルト設定の設定
- KPI のカラー・トリガーの設定
- デモまたはプロトタイプ・スコアカード・システム用の KPI のプロトタイプのカラー設定

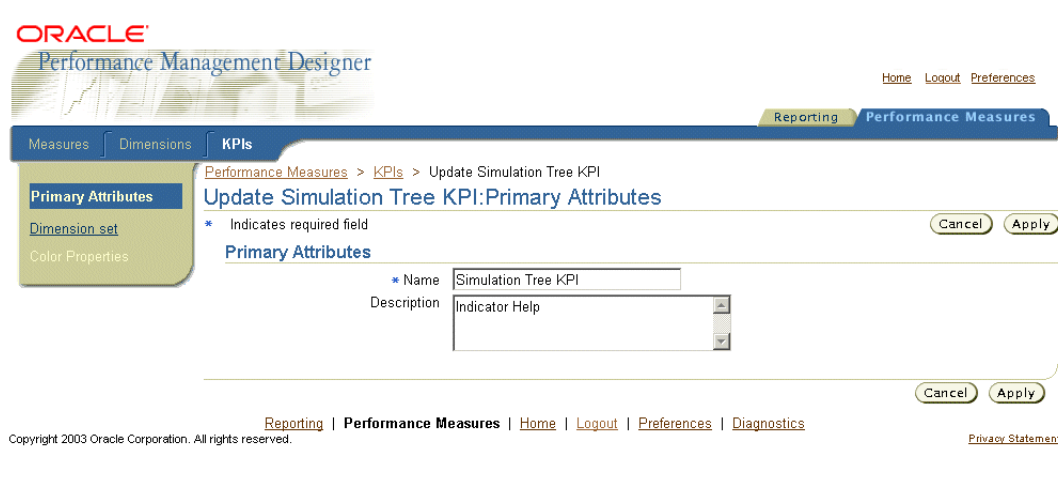
シミュレーション・ツリー KPI の更新

BSC アーキテクト -KPI デザイナ・モジュールでシミュレーション・ツリーを作成すると、パフォーマンス管理デザイナの KPI 階層には KPI が1本の線として表されます。ただし、子メジャー（ノード）は、作成と更新に BSC アーキテクト -KPI モジュールを使用する必要があるため、パフォーマンス管理デザイナ階層には表示されません。

BSC アーキテクトで作成されたシミュレーション・ツリー KPI については、パフォーマンス管理デザイナの KPI で次のアクションを実行できます。

- KPI プロパティの更新: 主要属性
- 新規ディメンション・オブジェクトの追加によるディメンション・セット 0 の更新
- パフォーマンス管理デザイナの KPI デザイナの「カラー・プロパティ」メニューは使用不可（この操作は、BSC アーキテクト -KPI デザイナのノード・レベルで実行）

図 3-48 シミュレーション・ツリーの属性の更新



シミュレーション・ツリー KPI の主要属性を更新する手順は、次のとおりです。

1. BSC アーキテクト -KPI デザイナ・モジュールでシミュレーション・ツリー KPI を作成します。
2. パフォーマンス管理デザイナ -KPI デザイナにログインし、手順 1 で作成したシミュレーション・ツリー KPI を検索します。
3. KPI レベルで使用可能な「更新」アイコンをクリックします。
4. 「主要属性」の「名称」と「摘要」が更新可能になります。
5. 「ディメンション選択」リンクも使用可能になり、必要に応じてディメンション・オブジェクトを追加できます。シミュレーション・ツリー KPI で使用できるディメンション・オブジェクトは、ディメンション・セット 0 に追加されたディメンション・オブジェクトのみであることに注意してください。（「シミュレーション・ツリー KPI でカスタム・メジャーに使用するディメンションの更新」を参照）。
6. シミュレーション・ツリー KPI のカラー・プロパティは BSC アーキテクト -KPI デザイナ・モジュールでノード別に構成されるため、パフォーマンス管理デザイナでは KPI の「カラー・プロパティ」リンクは使用不可です。

損益 KPI の更新

損益 KPI を更新する手順は、次のとおりです。

KPI レベルで、次のオプションで損益 KPI を更新できます。

- 損益 KPI の主要属性を更新します。
- 新規ディメンション・オブジェクトの追加による損益 KPI の既存のディメンション・セット 0 を更新します。
- 損益 KPI のカラー・プロパティの更新：パフォーマンス管理デザイナの「KPI デザイナ」の「カラー・プロパティ」メニューを使用すると、KPI のカラー・ドライバとなる損益の結果メジャーを構成し、指標のカラー・トリガーを構成できます。

図 3-49 損益 KPI の属性の更新

損益 KPI の主要属性を更新する手順は、次のとおりです。

1. 必要な場合は、BSC ビルダーを介してシステムで提供される損益 KPI を、他の KPI グループに移動またはコピーします。
2. パフォーマンス管理デザイナ -KPI デザイナにログインし、手順 1 の損益 KPI を検索します。
3. KPI レベルで使用可能な「更新」アイコンをクリックします。

4. 「主要属性」の「名称」と「摘要」が更新可能になります。
5. 「デフォルト・メジャー」は常に「金額」です。原則として、損益 KPI に使用できるメジャー（分析オプション）は 1 つのみです。（「金額」という名称は他の表示名に変更できますが、損益計算書の様々な勘定を表すこのタイプの KPI の分析オプションは常に 1 つのみです。）
6. 「ディメンション選択」リンクも使用可能になり、必要に応じてディメンション・オブジェクトを追加できます。損益 KPI には常に 3 つのデフォルト・ディメンション「勘定」、「勘定タイプ」および「補助勘定」があり、変更も削除もできないことに注意してください。ディメンション・セット 0 にさらにディメンション・オブジェクトを追加でき、指標では追加したディメンション・オブジェクトがデフォルト・オブジェクトの隣に表示されます。（「損益 KPI でカスタム・メジャーに使用するディメンションの更新」を参照。）
7. パフォーマンス管理デザイナーでは、損益 KPI の「カラー・プロパティ」リンクを使用してプロパティを設定できます。設定したプロパティは、KPI のカラー・ドライバとなる勘定に対して有効になります。通常、この KPI は損益の結果勘定として構成される「純利益」勘定です。カラー・メソッドの設定は、この勘定にのみ影響します。
8. 損益 KPI の「カラー・プロパティ」の「比較設定」は、KPI には影響しません。これは、KPI のカラー・ドライバが常に「純利益」勘定の実績対計画であるためです。この設定は、パフォーマンス管理デザイナーでは使用不可です。
9. この KPI のカラー・トリガーは、他の KPI の場合と同様に設定できます。カラー・トリガーは、KPI 全体に影響します。このタイプの KPI の各勘定には、勘定の性質に応じた固有の定義「収入」または「費用」があることに注意してください。
10. 各勘定の性質の定義は、パフォーマンス管理デザイナー管理者が「データ・ローダー」の「ディメンションの保守」機能で行います。管理者は、3 タイプのオプション「収入」、「費用」または「結果勘定」（通常は「純利益」）を使用して、各ディメンション・オブジェクト（勘定）の性質を指定できます。
11. このタイプの KPI に使用可能なメジャーは 1 つのみです。このメジャーは削除できないため、「金額」メジャーの「削除」アイコンは使用不可になります。
12. 「更新」を選択すると、メジャー・レベルで KPI のメジャー表示名「金額」を変更できます。
13. 損益 KPI 用に予約済のディメンションおよびディメンション・オブジェクトは、更新も変更もできず、ディメンション・オブジェクト関連の作成には使用できません。

KPI への内容の追加または KPI プロパティの構成

パフォーマンス管理デザイナーでは、KPI に次のタイプの内容を追加できます。

- メジャーの追加: 任意のメジャー（カスタム・メジャーまたは E-Business Suite のメジャー）を追加できます。
- KPI のメジャーの表示名の追加（分析オプション・ラベルの追加と同じ）
- メジャー・プロパティの更新
- KPI へのディメンション・セットの追加
- KPI に追加したメジャーへのディメンションの関連付け

その他、パフォーマンス管理デザイナーでは KPI の次のプロパティを更新または構成できます。

- 主要属性の更新（名称、摘要およびデフォルト・メジャーなど）
- KPI のディメンション・セットの更新
- KPI のカラー・プロパティの定義

KPI の削除

KPI ライブラリとシステムから KPI を削除する手順は、次のとおりです。

1. パフォーマンス管理デザイナの KPI デザイナにログインします。
2. KPI レベルで「削除」アイコンをクリックします。
3. システムから KPI が削除されることを示す警告メッセージが表示されます。
4. KPI がシステムから永続的に削除されます。

KPI へのメジャーの追加

この項では、パフォーマンス管理デザイナで使用可能な「KPI デザイナ」機能を使用して、カスタム・メジャーまたは E-Business Suite のメジャーを KPI に追加する方法について説明します。

KPI にメジャーを追加する操作は、次の 2 つのステップにわかれています。

1. KPI にメジャーを割り当てます（以前のデータセットの割当てと同じ）。
2. KPI コンテキスト内でメジャーの表示名を指定します（分析オプション・ラベルの追加と同じ）。

注意：BSC アーキテクト -KPI デザイナの「データセットの割当て」メニューは使用不可になったため、このリリースでは、設計者はパフォーマンス管理デザイナのみを使用してデータセット・メジャーを割り当てる必要があります。

BSC アーキテクト -KPI デザイナでは、一部の関連機能を引き続き使用できます。

- 分析グループまたはネストしたメジャーの作成
- データ系列の作成と系列の構成
- シミュレーション・ツリーでのメジャーの構成

KPI のメジャー構造の決定

KPI の作成後に、パフォーマンス管理デザイナで次の内容を追加できます。

- KPI に追加したメジャー
- KPI のメジャーに割り当てたディメンション

パフォーマンス管理デザイナでは、KPI に 2 つのタイプのメジャーを追加できます。

- カスタム・メジャー
- Oracle E-Business Suite のメジャー

Oracle Balanced Scorecard の KPI には、カスタム・メジャーまたは E-Business Suite のメジャーを含めることができます。前者は、Oracle Balanced Scorecard の設計ツールを使用して新しく構成します。その設計には、各組織および産業固有のニーズが反映されます。このタイプのメジャーを移入するために、Oracle Balanced Scorecard のメタデータ・オブティマイザ・ツールにより、データのステージングと要約に使用する一連の表が作成されます。これに対して、E-Business Suite メジャーはすでに構成済みで、移入する必要があるデータを含む Suite 内の表にはすでに最小限のマッピングが設定されており、Oracle Balanced Scorecard のダッシュボードまたはスコアカードの一部として有効化する準備が完了しています。

KPI にメジャーを追加する前に、次の考慮事項に注意してください。

デフォルト・メジャー どのメジャーを KPI のデフォルトのドライバとして使用するかを事前に検討しておく必要があります。デフォルトでは、KPI の作成時に最初に追加したメジャーが、KPI のドライバであるデフォルト・メジャーになります。ただし、KPI のプロパティを更新して任意のメジャーを選択し、KPI のデフォルト・メジャーを変更できます。参照：「KPI カラー・ドライバおよびデフォルト・メジャーの変更」

デフォルト・メジャーについては、設計者が構成内でデフォルト・メジャーに使用する制御レベルも考慮する必要があります。デフォルト・メジャーが E-Business Suite からの事前定義済メ

ジャーの場合、KPI とデフォルト・メジャーはそのメジャーの出荷時構成に依存し、そのタイプのメジャーのプロパティは変更できません。ただし、多くの場合、顧客は事前定義済のメジャーを KPI でデフォルト・メジャーとして利用しようと考えます。

通常は、カスタム・メジャーと E-Business Suite のメジャーを混在させ、どのメジャーを KPI のデフォルト動作のドライバにするかを決定できます。

KPI のコンテキストにおけるメジャーの順序 KPI に追加するメジャー（旧称は分析オプション）の順序は計画の重要課題であり、メジャーの追加を開始する前に考慮する必要があります。この時点では、パフォーマンス管理デザイナーや BSC アーキテクトでは「順序変更」機能を使用できないため、KPI には追加したときと同じ順序でメジャーが表示されます。

KPI におけるカスタム・メジャーと E-Business Suite メジャーの混在 リリース 5.0 で導入された新機能の 1 つは、KPI にカスタム・メジャー（BSC を介して顧客が作成）と Oracle E-Business Suite からの事前定義済メジャーという、2 つのタイプのメジャーを混在させる機能でした。

E-Business Suite のメジャーを使用して KPI を作成し、カスタム・メジャーと混在させる機能には、次のようなメリットがあります。

- E-Business Suite のメジャーを Oracle Balanced Scorecard 内で追跡し、両方のアプリケーションのメリットを活用できます。KPI のカラーには、これらのメジャーをソースに関係なく反映させることができます。
- Oracle E-Business Suite のメジャーには、Business Intelligence モジュールで事前定義済のディメンション・レベルが自動的に使用され、メジャーは Oracle Applications のデータに事前にマップされます。
- メジャーが指標の一部として組み込まれると、そのメジャーには他の多数の指標機能（「原因と結果」、「情報」、「協力」など）が自動的に使用可能になります。
- Oracle E-Business Suite のメジャー移入データは、Oracle Balanced Scorecard の表では複製されません。これは、パフォーマンスやロードの問題が発生する可能性を最小限に抑えられるため、システム管理者と設計者にとって重要です。

前提条件

* 顧客には、Oracle E-Business Suite のメジャーを使用するライセンス付き Business Intelligence モジュールが必要です。設計者が参照できるメジャーのリストは、ライセンスを取得してインストールしている Business Intelligence モジュールに応じて異なります。

E-Business Suite のメジャーを KPI に追加する際の考慮事項

- Oracle E-Business Suite から KPI に追加されるメジャーはすべて、「指標」ビューにメジャー（分析オプション）として表示されます。
- このタイプのメジャーを追加する場合は、指標が同一かどうかに関係なく、様々なプロパティ（異なるデフォルト・ディメンションや非表示のディメンション・オブジェクトなど）を指定し、必要に応じて同じメジャーを何度でも指標に追加できます。メジャーを区別するために、適切でわかりやすい表示名を使用することをお勧めします。
- メジャーは常に最初の分析グループに追加されます。つまり、ネストした分析グループやデータ系列は作成できず、E-Business Suite からの事前定義済メジャーをネストした依存メジャーとして、または系列として追加することはできません。
- シミュレーション・ツリーや損益に、または BSC アーキテクトを介して作成した系列の一部としては、E-Business Suite のメジャーを追加できません。
- システムがプロトタイプ・モードの場合、メジャーはプロトタイプにデフォルトとして追加されます。本番システムの場合、KPI に追加される EBI メジャーは本番データを示します。

E-Business Suite のメジャーを KPI に追加する際の特異なプロパティおよび予想される動作

Oracle E-Business Suite から KPI に追加する各メジャーは、事前定義済みの特定のプロパティ・セットを持ちます。これらのプロパティは、構造上変更できません。

メジャーについて変更できない事前定義済プロパティは、次のとおりです。

- **メジャー名**：この性質を持つ各メジャーには、メジャーの一意の識別子を表す名称が割り当てられています。この内部名は変更できません。
- **メジャー関連のレポート**：メジャーには常に Oracle E-Business Suite からのレポートが関連付けられており、その構造は変更できません。
- **メジャー関連のディメンション**：メジャーを KPI に追加するときには、メジャーの構造定義の一部として関連ディメンション・セットがすでに事前定義されています。設計者は、最初にメジャーに関連付けられていた事前定義済ディメンション・セットに基づいて、表示または非表示にするディメンションを決定できます。
- **Oracle E-Business Suite のメジャーを選択すると、使用不可の一部のメジャーが表示されることがあります。**この状況が発生するのは、システム・リポジトリでは使用できないレポートがメジャーに関連付けられている場合です。
- **Oracle E-Business Suite のメジャーに関連付けられているディメンションの構造**：Oracle E-Business Suite のメジャーを KPI に追加する場合、ディメンションの表示方法が少し異なります。主な違いは次のとおりです。
 - **値リスト (LOV) の選択**：カスタム・メジャーのようにドロップダウンから選択するかわりに、「値リスト」アイコンをクリックして値表示画面にナビゲートしないと選択できないディメンション値があります。
 - このタイプのメジャーの場合は、ディメンションを選択すると「実行」ボタンが表示され、選択後にページをリフレッシュするには、このボタンを選択する必要があります。
 - **ディメンションの項目を比較できるように、「表示別」という特別なドロップダウンが用意されています。**このドロップダウンを使用すると、比較するディメンションを選択できます。これに対して、BSC カスタム・メジャーの動作では、「KPI」ビューの各ディメンションのドロップダウンの一部として「比較」値が表示されます。

メジャー・リポジトリから KPI へのメジャーの追加

リリース 5.0 では、設計者は BSC アーキテクト -KPI デザイナを介してカスタム・メジャーを追加してから、パフォーマンス管理デザイナにアクセスして E-Business Suite のメジャーを追加する必要がありました。メジャーをタイプに関係なく同じインタフェース（「パフォーマンス管理デザイナ」）から追加するためのフローが拡張されたため、このリリースでは設計者はパフォーマンス管理デザイナの「KPI ライブラリ」画面からタイプに関係なくメジャーを追加できます。

KPI にメジャーを追加する手順は、次のとおりです。

1. 「パフォーマンス管理デザイナ」職責を使用して、パフォーマンス管理デザイナ -KPI デザイナにログインします。
2. メジャーの追加を開始する KPI グループまたは KPI にフォーカスを置くか、または拡張します。
3. KPI レベルで「子の追加」アイコンをクリックします。

KPI レベルで「子の追加」アイコンをクリックすると、KPI の追加に使用可能なメジャーのリストが表示されます。（このメジャー・リストは、以前のバージョンでデータセットのコールに使用していたリストと同じであることに注意してください。）

図 3-50 メジャーのリスト

ORACLE® Performance Management Designer

Home Logout Preferences

Measures Dimensions KPIs

Performance Measures > KPIs > Add Measures

Maximize Profitability: Add Measures

Please select the measure you want to add from the following list of available measures. Click "Next" to define the measure properties. Cancel Continue

Search

* Search All Go

Result: All Measures

Select Name

☐	Expenses
☐	Revenue
☐	Available Resource Percent
☐	Backlog
☐	Billable Utilization Percent
☐	Book To Bill Ratio
☐	Bookings
☐	Expenses
☐	Margin
☐	Margin Percent

Previous Next 10

Cancel Continue

Reporting | Performance Measures | Home | Logout | Preferences

Copyright 2003 Oracle Corporation. All rights reserved. Privacy Statement

- この画面で、カスタム（BSC データセット）または E-Business Intelligence Suite のメジャーなど、追加するメジャーのタイプに応じて「検索」基準を使用できます。*

* 「メジャーの選択」画面で「全て」を選択して全メジャーを表示すると、同じ名称のメジャーが2つ表示される場合があります。この場合は、選択前に「検索」を使用して、カスタム・メジャーまたは E-Business Suite のメジャーを識別します。

- 「続行」をクリックします。「続行」をクリックすると、「分析オプションのメジャー」ウィンドウが表示されます。

図 3-51 分析オプション

ORACLE® Performance Management Designer

Home Logout Preferences

Measures Dimensions KPIs

Performance Measures > KPIs > Add Measure

Maximize Profitability: Measure Display Properties

* Please type a name and a description for your Measure. Cancel Back Finish

* Display Name in KPI

Description

Cancel Back Finish

Reporting | Performance Measures | Home | Logout | Preferences

Copyright 2003 Oracle Corporation. All rights reserved. Privacy Statement

6. KPI コンテキストでのメジャーの表示名を入力します。（これは、以前のリリースの分析オプション・ラベルと同じです。）

メジャーがカスタム・メジャーであるか Oracle E-Business Suite のメジャーであるかに関係なく、KPI コンテキストでの表示名を入力できます。1 つ以上の KPI に同じメジャーを追加し、それぞれに異なる表示名を割り当てることもできます。

7. 「終了」をクリックして選択内容をコミットします。

* 追加した内容を確認するには、KPI にフォーカスを置いて、KPI に追加したメジャーを調べます。

注意： Oracle E-Business Suite のメジャーを KPI に追加すると、そのメジャーはデフォルトでプロトタイプ・モードで追加されます。メタデータ・オブティマイザを実行し、システムが本番モードになると、「パフォーマンス・スコアカード・ビュー」へのアクセス権を持つ職責の場合は、KPI の一部である Oracle E-Business Suite のメジャーに本番データが表示されます。

「パフォーマンス管理デザイナー」職責の場合は、常にすべての KPI およびメジャーがプロトタイプ・データとともに表示されます。

このタイプのメジャーにプロトタイプで予想される動作は、次のとおりです。

- 「パフォーマンス管理デザイナー」職責の場合は、設計モードから BSC ビューワにアクセスした場合にのみ、プロトタイプのメジャーと KPI がプロトタイプ・データとともに表示されます。
- メジャーは、プロトタイプで BSC アーキテクト・ツールを使用して作成した他の分析オプションとして表されます。
- Oracle E-Business Suite のメジャーなど、プロトタイプ内のどのメジャーの場合も、グラフと表の特性は同じです。
- 「パフォーマンス管理デザイナー」職責の場合、設計モードでパフォーマンス管理デザイナーの「スコアカード・ビュー」と「KPI」に表示されるカラーとデータは常にプロトタイプ・カラーとプロトタイプ・データです。
- このタイプのメジャーのプロトタイプ・カラーは、他のメジャーの場合と同様に、パフォーマンス管理デザイナーの「KPI」メニューで「カラー・プロパティ」を選択して変更できます。

システムが本番段階に入っている場合に予想される動作は、次のとおりです。

設計モードでは、設計者にとって違いはありません。これは、セキュリティ制限によりプロトタイプ内のメジャーしか表示できないためです。BSC ビューワへのアクセス権を持つ他の職責では、システムが本番段階に入っている場合、Oracle E-Business Suite のメジャーを本番モードで表示できます。この場合は次の動作が予想されます。

- Oracle E-Business Suite のメジャーを含む指標には、メジャーの事前定義済構成を反映したグラフ、表および関連リンクのセクションが表示されます。
- 次のような違いに注意する必要があります。
 - 値リスト（LOV）の選択: カスタム・メジャーのようにドロップダウンから選択するかわりに、「値リスト」アイコンをクリックして値表示画面にナビゲートしないと選択できないディメンション値があります。
 - 「実行」ボタン。選択後にページをリフレッシュするには、このボタンをクリックする必要があります。
 - 「表示別」ドロップダウン。比較するディメンションを選択できます。
 - 「KPI レポート」ページの「関連リンク」セクション。
 - アクティブなリンクを含む表。レポートまたは詳細情報にドリルできます。

この動作の詳細は、ユーザーズ・ガイドのビューワでの結果の表示の項を参照してください。

新規メジャーの作成

KPI で使用するメジャーが見つからず、新規メジャーを作成する必要がある場合は、「メジャーの作成」を参照してください。

KPI に追加したカスタム・メジャーの更新

このタイプのメジャーの場合は、3 つのタイプのプロパティを変更できます。

- KPI のコンテキストにおけるメジャーの表示名。
- 選択したメジャー（データセット）：設計者がメジャー（データセット）選択を変更し、システムで使用可能な他のカスタム・メジャーを選択する場合は、メジャーの「主要属性」を更新して実行できます。
- ディメンション選択：ユーザーはメジャーのディメンション・セットを選択できます。

図 3-52 主要属性の更新

The screenshot displays the Oracle KPI management interface. The top navigation bar includes 'Measures', 'Dimensions', and 'KPIs'. The 'KPIs' tab is active, showing a breadcrumb trail: 'Performance Measures > KPIs > Update Revenue'. The main content area is titled 'Update Revenue: Primary Attributes'. It contains three input fields: 'Measure Display in KPI' with the value 'Revenue', 'Measure Selected' with the value 'RevDollars', and 'Description' with the value 'Revenue'. To the right of these fields are 'Cancel' and 'Apply' buttons. Below the fields, there is a 'Value List' icon (a hand cursor) next to the 'Measure Selected' field. At the bottom of the dialog, there are 'Cancel' and 'Apply' buttons. The footer of the page includes the Oracle logo, copyright information (Copyright 2003 Oracle Corporation), and links for 'Reporting', 'Performance Measures', 'Close Session', 'Home', 'Logout', 'Preferences', and 'Privacy Statement'.

メジャー選択の変更

メジャー選択を変更する手順は、次のとおりです。

1. 「選択済メジャー」フィールドの隣の「値リスト」アイコンをクリックします。
2. 新規メジャーを選択します。選択できるのは、同じタイプのメジャーのみであることに注意してください。このタイプのメジャーは、Oracle EW ビジネス・スイートのメジャーでは更新できないためです。
3. KPI コンテキストで選択した新規メジャーの表示名を変更する場合は、「KPI でのメジャー表示名」フィールドに新規名を入力します。
4. オプションで、追加したメジャーの概要を入力します。

カスタム・メジャーの「ディメンション選択」プロパティを変更するには、「KPI のカスタム・メジャーへのディメンションの割当て」を参照してください。

カスタム・メジャー更新の特別な使用例

メジャーが置かれている KPI タイプによっては、あるいはネストした分析グループのような特殊ケースの場合は、カスタム・メジャーを更新する際に様々な使用例に注意してください。

- 複数系列 KPI のメジャーの更新
- ネストした分析グループに属しているメジャーの更新
- シミュレーション・ツリー KPI の更新
- 損益 KPI の更新

複数系列 KPI のメジャーの更新

複数系列 KPI の作成および構成は、BSC アーキテクト -KPI デザイナで行う必要があります。ただし、メジャーの割当てとディメンションの割当ては、パフォーマンス管理デザイナで行ってください。

BSC アーキテクト -KPI デザイナ・モジュールで複数系列 KPI を作成し、その KPI に系列を追加すると、KPI の構造には分析オプションと系列の各組合せが、各系列のプロパティを更新できるように反映されます。

たとえば、メジャー A に系列 1、系列 2 および系列 3 が保持されている複数系列 KPI を作成すると、パフォーマンス管理デザイナでの KPI 構造には次が反映されます。

- KPI 名
 - メジャー A、系列 1
 - メジャー A、系列 2
 - メジャー A、系列 3

各系列に使用可能な「更新」アイコンをクリックすると、各系列の組合せのプロパティを更新できます。

「更新」では、次の 2 種類の更新を実行できます。

- メジャーの主要属性の更新
- KPI の系列のディメンション選択の更新

BSC アーキテクトで KPI デザイナを介して系列として作成されたメジャーをパフォーマンス管理デザイナで更新する手順は、次のとおりです。

1. BSC アーキテクト -BSC ビルダー・モジュールで複数系列 KPI を作成します。
2. BSC アーキテクト -KPI デザイナを介して KPI に系列を作成します（「複数系列の作成」を参照）。
3. 系列を定義した後、KPI デザイナ・モジュールで「パフォーマンス管理デザイナ」職責を使用してパフォーマンス管理デザイナにログインします。
4. 「パフォーマンス・メジャー」タブの下に「KPI」サブタブにナビゲートします。
5. 「KPI 階層」画面で、作成した KPI を検索して「フォーカス」をクリックし、KPI の「拡張」アイコンをクリックして内容の更新を開始します。作成した系列が次のように表示されることがわかります。

図 3-53 系列の親メジャー名

	 Multiseries 0925				
	 Option 0, Series 0				
	 Option 0, Series 1				

6. 更新する系列の「更新」アイコンをクリックします。

図 3-54 系列の更新

ORACLE

Home Logout Preferences Diagnostics
Reporting Performance Measures

Measures Dimensions KPIs

Performance Measures > KPIs > Update Option 0;Series 0

Update Option 0;Series 0: Primary Attributes

Cancel Apply

Parent Measure Drivers

Series 1: % Availability % of Availability Measure Selected % of Availability

Series 2: Sales in Tons Sales in Tons Measure Selected Sales in Tons

Default Settings

* KPI Color Driver and Default Series Series 0

Cancel Apply

Reporting | Performance Measures | Home | Logout | Preferences | Diagnostics

Copyright 2003 Oracle Corporation. All rights reserved. Privacy Statement

- 「主要属性」と「ディメンション選択」の両方を更新できます。系列の作成後は、すべての系列が共通ディメンションを持つ必要があることに注意してください（「複数系列 KPI でカスタム・メジャーに使用するディメンションの更新」を参照）。
- 「主要属性」メニューで、作成した系列の名称と、その系列に割り当てられているメジャーを更新できます。メジャーを初めて作成すると、すべての系列がデフォルト・メジャーに割り当てられます。
- これと同じ画面で、カラー・ドライバとなるデフォルト系列と、ビューワ・ユーザーが KPI を初めてクリックしたときの指標の動作も更新できます。デフォルト系列である最初の系列を変更するには、「KPI カラー・ドライバおよびデフォルト系列」の隣のドロップダウンから選択します。
- 「ディメンション選択」画面で、メジャー用に作成した全系列に適用するディメンション・セットを選択できます。（詳細は、「複数系列 KPI でカスタム・メジャーに使用するディメンションの更新」を参照）。

ネストした分析グループに属しているメジャーの更新

ネストした分析オプション（分析グループとも呼びます）の作成と構成は、BSC アーキテクト-KPI デザイナで行う必要があります。ただし、メジャーの割当てとディメンションの割当ては、パフォーマンス管理デザイナで行ってください。

分析グループ内で依存分析オプションとして作成したメジャーにメジャーを割り当てる手順は、次のとおりです。

- BSC アーキテクト-KPI デザイナ・モジュールで、分析グループまたは依存分析オプションを作成します。BSC アーキテクトを閉じます。
- パフォーマンス管理デザイナ-KPI デザイナ・モジュールにログインします。
- 更新する KPI を検索し、「フォーカス」、「拡張」を順番にクリックして、作成したメジャーを表示します。依存として作成した分析オプションが、KPI 構造に親分析オプションに依存する子メジャーとして反映されます。
 - KPI 名
 - 親メジャー、子メジャー I
 - 親メジャー、子メジャー II
 - その他

「親メジャー、子メジャーxx」の「更新」ボタンを選択すると、メジャー名と摘要など、両方の主要属性を更新できます。また、作成されたメジャーをデータセットに割り当てることもできます（メジャー選択）。このメニューで、設計者はメジャーにディメンション・セットを割り当てることもできます。

4. 「更新」ボタンをクリックしてメジャーのプロパティを更新します。
5. 「主要属性」と「ディメンション選択」の両方を更新できます。

図 3-55 主要属性とディメンションの更新

6. 「主要属性」メニューで、親メジャー名または子メジャー名を更新できます。また、親子の組合せによる分析オプションに割り当てられている各メジャーも選択できます。BSC アーキテクト -KPI デザイナで分析オプションを初めて作成すると、すべての分析オプションがデフォルト・メジャーに割り当てられます。
7. 「ディメンション選択」画面で、親子分析オプションの各組合せに適用するディメンション・セットを選択できます。（「分析グループによる KPI 内でネストしたカスタム・メジャーのディメンションの更新」を参照）。

シミュレーション・ツリー KPI の更新

シミュレーション・ツリー KPI の作成と構成は、BSC アーキテクト -KPI デザイナ・モジュールで行います。（シミュレーション・ツリーの実作については、「What-If シミュレーションの実作と構成」を参照）。

シミュレーション・ツリー KPI を作成すると、KPI はパフォーマンス管理デザイナの「KPI」リストに 1 行として反映されます。これにより、KPI レベルで「更新」および「削除」アイコンが使用可能になります。

1. パフォーマンス管理デザイナで KPI 更新機能を使用して、KPI の主要属性とディメンション・セットを更新できます。「シミュレーション・ツリー KPI の更新」を参照してください。
2. まだ BSC アーキテクト -KPI デザイナ・モジュールでメジャー（ノード）構成が行われているため、KPI のメジャー（ノード）は更新不可です。

損益 KPI の更新

顧客がシステムを初めてインストールするときに、BSC アーキテクト -BSC ビルダーでこのモジュール用に作成された初期テンプレートの一部として損益 KPI を使用できます。

これらのタイプの KPI は作成メニューからは使用できませんが、BSC アーキテクト -BSC ビルダーで使用可能なコピーまたは移動機能を使用すると、異なる KPI グループおよびスコアカードにコピーして使用し、構成できます。

損益 KPI は BSC アーキテクト -KPI デザイナ・モジュールから構成可能であり、2 つのメニューが用意されています。「メジャーの割当」と「ディメンションの割当」は、パフォーマンス管理デザイナー -KPI デザイナ・モジュールから更新する必要があります。

損益 KPI には、設計者が変更できない特別なプロパティ・セットがあります。

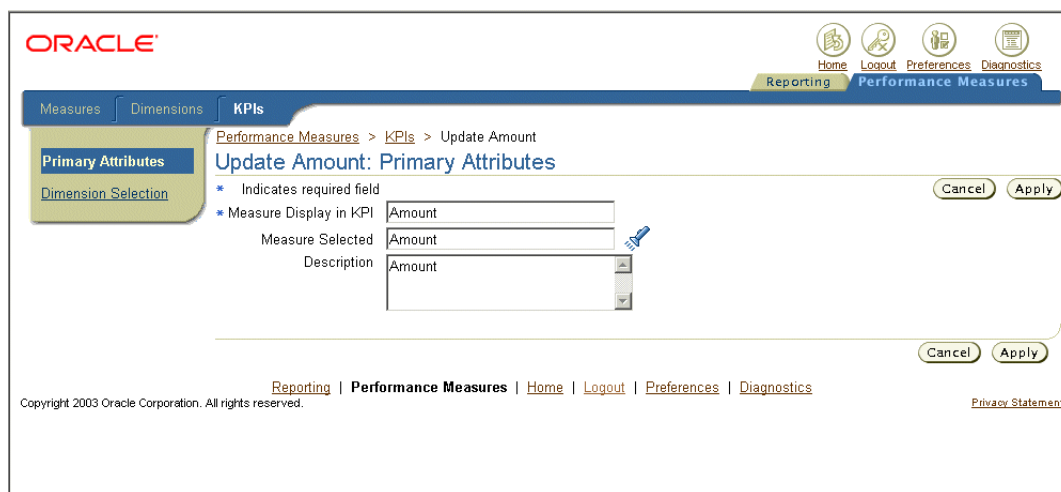
- KPI は、「金額」メジャーにデフォルトの「金額」分析オプションが割り当てられた状態で作成されます。理論上は、パフォーマンス管理デザイナーで「金額」メジャーを更新するときに、「金額」デフォルト・メジャーのメジャー選択を変更できますが、KPI の性質が変わる可能性があるため、この操作はお勧めしません。
- KPI は、デフォルトで「勘定」、「勘定タイプ」および「補助勘定」という 3 つのディメンション・オブジェクトを使用して作成されます。これらのディメンション・オブジェクトは、同じ性質を持つディメンションにグループ化されます。ディメンションとディメンション・オブジェクトは、どちらも更新不可で、システムからは削除できません。そのため、損益 KPI 用に予約済のメジャーとディメンションについては、「更新」および「削除」アイコンが使用不可になります。
- デフォルト・メジャー「金額」は、指標に適用可能な唯一のメジャーであるため KPI から削除できません。「金額」は、指標の性質上このタイプの KPI で表現できる唯一のメジャーであるため、KPI には新規メジャーを作成できません。損益 KPI 作成の詳細は、「損益 KPI の作成」を参照してください。

損益 KPI の「金額」メジャーの更新

損益 KPI の「金額」メジャーを更新する手順は、次のとおりです。

1. パフォーマンス管理デザイナーの KPI デザイナ・モジュールにログインします。
2. 損益 KPI を検索します。「フォーカス」、「拡張」を順番にクリックして KPI の内容を拡張します。デフォルトで利用できるメジャーは「金額」のみです。

図 3-56 「金額」メジャーの更新



3. 「金額」メジャーの「更新」アイコンをクリックします。
4. 必要の場合は、デフォルトのメジャー名である「金額」を変更します。

5. メジャー選択を変更し、「金額」分析オプションをシステムで使用可能な他のメジャーにリンクすることもできます。通常、このタイプの KPI に対して事前定義済の構造には、損益勘定の金額が個別に反映されるため、損益指標の整合性を維持するために、この操作はお薦めしません。
6. これはこのタイプの KPI に存在できる唯一のメジャーであるため、このメジャーの「削除」アイコンが使用不可になっていることに注意してください。この KPI 用の新規分析オプションは作成できないため、KPI レベルでは「子の追加」アイコンも使用不可になっています。

Oracle E-Business Intelligence Suite のメジャーの更新

このタイプのメジャーの場合は、2つのタイプのプロパティを変更できます。

- KPI のコンテキストにおけるメジャーの表示名。
- 選択したメジャー（データセット）：設計者がメジャー（データセット）選択を変更し、Oracle E-Business Intelligence Suite から使用可能な他のメジャーを選択する場合は、メジャーの「主要属性」を更新して実行できます。

図 3-57 主要属性の更新

The screenshot displays the 'Update Expenses: Primary Attributes' window within the Oracle E-Business Intelligence Suite. The window has a title bar with 'ORACLE' and navigation links like 'Home', 'Logout', and 'Preferences'. Below the title bar, there's a breadcrumb trail: 'Performance Measures > KPIs > Update Expenses'. The main content area is titled 'Update Expenses: Primary Attributes' and contains several fields: 'Measure Display Name in KPI' with the value 'Expenses', 'Measure Selected' with the value 'Expenses', and 'Description' with the value 'Option 0'. There are 'Cancel' and 'Apply' buttons at the top right and bottom right. On the left, there's a sidebar with 'Primary Attributes' selected, and other options like 'Dimension Selection', 'Dimensions Default', and 'View By Default'. The bottom of the window shows copyright information: 'Copyright 2003 Oracle Corporation. All rights reserved.' and a 'Privacy Statement' link.

メジャー選択を変更する手順は、次のとおりです。

1. 「選択済メジャー」フィールドの隣の「値リスト」アイコンをクリックします。
2. 新規メジャーを選択します。このタイプのメジャーはカスタム・メジャーで更新できないため、選択できるのは同じタイプのメジャーのみであることに注意してください。
3. KPI コンテキストで選択した新規メジャーの表示名を変更する場合は、「KPI でのメジャー表示名」フィールドに新規名を入力します。
4. オプションで、追加したメジャーの概要を入力します。

このタイプのメジャーの「ディメンション選択」、「ディメンション・デフォルト」または「ディメンション表示別」プロパティを変更するには、「KPI で E-Business Suite モジュールのメジャーに使用するディメンションの選択」を参照してください。

指標からのメジャーの削除

1. KPI ライブラリ階層から、KPI を拡張してメジャーを表示したり、「検索」を使用して削除するメジャーを検索できます。
2. メジャーの「削除」アイコンをクリックします。
3. オブジェクトを削除する前に、警告が表示されます。確認メッセージが表示された後に「OK」をクリックして、KPI からメジャーを削除するかどうかを確認します。

注意：指標から削除したメジャーは、指標のコンテキストからは削除されますが、メジャーのライブラリでは引き続き使用可能です。

ネストした分析グループの作成：アーキテクト

分析オプションを使用すると、ユーザーは KPI に関連した様々な測定を使用して、各種の視点からデータを分析できます。分析グループを使用すると、管理者は関連分析オプションを編成できます。

最初の分析グループは、2 つ目以降に作成する他の分析グループの親グループとして機能するため重要です。親分析グループは、指標に関連付ける中心的な測定または変数を反映する必要があります。親グループのデフォルトの分析オプションはきわめて重要です。これは、指標に関連付ける中心的な測定です。そのため、この変数のみによりメイン・パネルに表示される指標の警告カラーが決定されます。グループの任意の分析オプションを、デフォルト・オプションとして設定できます。

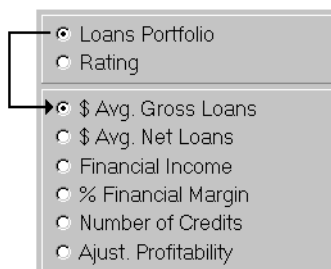
2 つ目以降の分析グループには、より詳細なデータにフォーカスを置いた第 2 メジャーが含まれます。以降のグループは、親分析グループの分析オプションに対する依存グループまたは独立グループとして設定できます。

依存グループには、親グループの特定の分析オプションに関連付けられている変数が含まれます。依存グループを表示するには、親分析オプションを選択する必要があります。次の例では、親分析オプションである「ローン・ポートフォリオ」を選択すると、ローン関連の依存グループが表示されます。

例 3-1 依存および独立分析グループおよびオプション

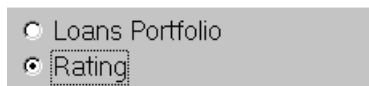
ケース 1: ローン・ポートフォリオに依存する 6 つの分析オプションを持つ依存分析グループ (図 3-58)。

図 3-58 分析オプションを持つ依存分析グループ



ケース 2: 分析オプション「レート」には、依存グループは含まれていません (図 3-59)。

図 3-59 独立分析オプション



ケース 3: 2 つの依存分析グループを持つ依存分析グループ (図 3-60)。

図 3-60 依存グループを持つ依存分析グループ

☒ Training
☐ Turnover
☒ Associated Cost
☐ # of Employees
☒ Manufacturing Plant
☐ Headquarters

独立グループは特定のオプションに関連付けられておらず、親分析グループのすべての変数に関連します。データを表示するときには、常に独立グループからオプションを選択する必要があります。次の例では、親分析オプション「レート」には依存グループが含まれていません。

分析グループの作成

KPI デザイナで最初に指標ウィンドウを開くと、分析グループとオプションのサンプルを含む空白のテンプレートが表示されます。

分析グループを作成する手順は、次のとおりです。

1. KPI デザイナのメイン・ウィンドウで指標を選択します。選択した指標のテンプレート・ウィンドウが表示されます。
2. ウィンドウの右側の領域を右クリックします。
3. ポップアップ・メニューから「分析グループの追加」を選択します。
4. 新規グループを依存グループにするかどうかを確認するダイアログ・ボックスが表示されます。新規グループを別のグループに依存させる場合は、親グループのラジオ・ボタンを選択し、ダイアログ・ボックスで「Yes」ボタンを選択します。独立グループにする必要がある場合は「No」ボタンを選択します。サンプル・オプションを含む新規分析グループが右パネルに表示されます。

分析オプション

分析グループの作成後に、分析オプションを移入できます。各分析オプションは、指標ウィンドウに表示できる一意のデータセットを表します。オプションの 1 つをデフォルト選択として指定する必要があります。デフォルト・オプションは、指標の警告カラーを決定するため重要です。

分析オプションを作成する手順は、次のとおりです。

1. グループ・パネルで、分析オプションを追加する領域を右クリックします。
2. ポップアップ・メニューから「分析オプションの追加」を選択します。KPI デザイナの「分析オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
3. 「キャプション」フィールドに分析オプションのタイトルを入力します。このタイトルは、指標ウィンドウのラジオ・ボタンの隣に表示されます。
4. 「摘要」フィールドに分析オプションの簡潔な摘要を入力します。
5. これをデフォルトの分析オプションにする場合は「デフォルト」ボックスを選択します。
6. 「OK」ボタンを選択して変更内容を保存するか、「取消」ボタンを選択して取り消します。

データ系列の作成 : アーキテクト

一部の KPI の情報は、複数系列として表示するのが最善の方法です。これにより、指標データの様々な側面やサブコンポーネントを分割して個別に表示できます。たとえば、「顧客預託金」関連の KPI には、「当座」、「預金」および「CD」という 3 つのサブコンポーネントからなる複数系列が含まれます。

複数系列 KPI の各コンポーネントは、複数のスタック・オプションの 1 つを使用して別々のカラーでフォーマットし、データをさらに視覚的に区別できます。複数棒 KPI は、指標の作成時に BSC ビルダーで定義する必要があります。KPI デザイナーでは、複数棒 KPI のデータセット・プロパティを割り当ててフォーマット・オプションを定義します。

複数系列 KPI の一般構成ルール

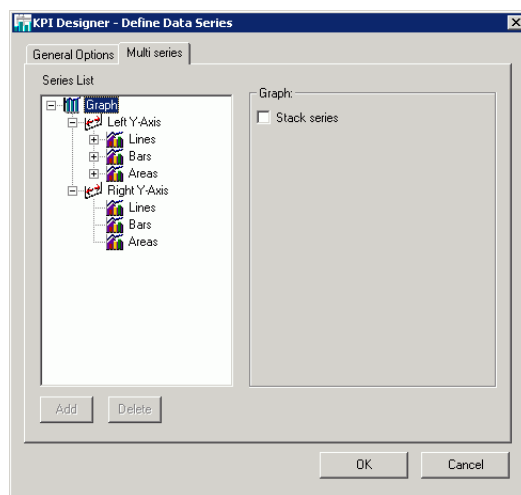
- 複数の系列を作成し、参照軸として左 Y 軸または右 Y 軸を使用して表示できます。
- グラフには、「スタック」または「非スタック」という 2 つのタイプがあります。各系列は「棒」、「線」または「面」で表すことができます。
- 系列ごとに、参照用の計画またはベンチマークを使用するかどうかを指定できます。
- 系列の 1 つをデフォルトとして選択できます。このデフォルトは、メイン・パネルでこの指標のカラー・ドライバとなります。
- 計画とベンチマークは、常に「線」で表されます。

注意： スケールの同じ端を異なるフォーマットで使用する 2 つの系列を定義すると、第 1 系列のみが考慮されます。第 2 以降の系列は表示されません。

複数系列 KPI を構成する手順は、次のとおりです。

1. KPI ビューで空白の領域を右クリックして「データ系列の定義」メニューにナビゲートします。図 3-61 のように、「複数系列」タブをクリックして手前に表示します。

図 3-61 「データ系列の定義」の「複数系列」タブ



2. このウィンドウの最初のレベルで、グラフのタイプとして「スタック系列」を選択するか、または選択を解除します。「スタック系列」を選択すると、すべての系列が相互に積み重なって表示されます。このオプションは、複数系列で 1 本の棒を異なる関連部分に分割して表す必要がある場合に使用します。
3. 系列を積み重ねるには、同じタイプ（「棒」、「線」など）である必要があります。計画やその他のベンチマークは常に線で表されるため、混同を防ぐために「線」タイプの系列の場合は「スタック系列」を選択しないことをお勧めします。

4. グラフ・タイプを指定した後、KPI で表示必要のある様々な系列の作成を開始します。系列は「線」、「棒」または「面」として作成できます。「追加」ボタンを選択して系列を作成します。

線: 系列データは線として表示されます。

棒: データはグラフに棒として表示されます。

面: データはグラフにカラーの面として表示されます。

5. 異なるスケールを持つ X 軸または Y 軸に表示するように系列を作成できます。
6. また、系列をグループ間でドラッグ・アンド・ドロップすることもできます。たとえば、系列 1 を「線」から「棒」または「面」にドラッグ・アンド・ドロップします。
7. 各系列のプロパティを指定します。

名称: 系列名。

摘要: 各系列の摘要。

系列用のベンチマークの有効化: 系列とともにベンチマークを表示する場合に選択します。

系列用計画の有効化: 系列とともに計画を表示する場合に選択します。

指標デフォルト: メイン・パネルでカラー・ドライバとなる指標のデフォルトです。指標に初めて入ると、この系列がデフォルトとして表示されます。

8. 「カラーのカスタマイズ」ボタンを選択し、各系列のカスタム・カラーを選択します。KPI デザインですべてのベンチマークのカラーを選択できます。カラー選択の完了後に「OK」ボタンを選択します。
9. 「保存」ボタンを選択して系列を保存するか、「取消」ボタンを選択して取り消します。
10. 前述の手順を系列リスト内の残りの系列ごとに繰り返してプロパティを設定します。
11. 「OK」ボタンを選択して変更内容を保存するか、「取消」ボタンを選択して取り消します。
12. 「一般オプション」ウィンドウで、各系列にメジャーを割り当てます。

KPI メジャーへのディメンションとディメンション・セットの割当て

ここでは、各種メジャーにディメンションを割り当てる方法について説明します。

KPI のカスタム・メジャーへのディメンションの割当て

この項では、KPI にカスタム・メジャーを割り当てる方法について説明します。

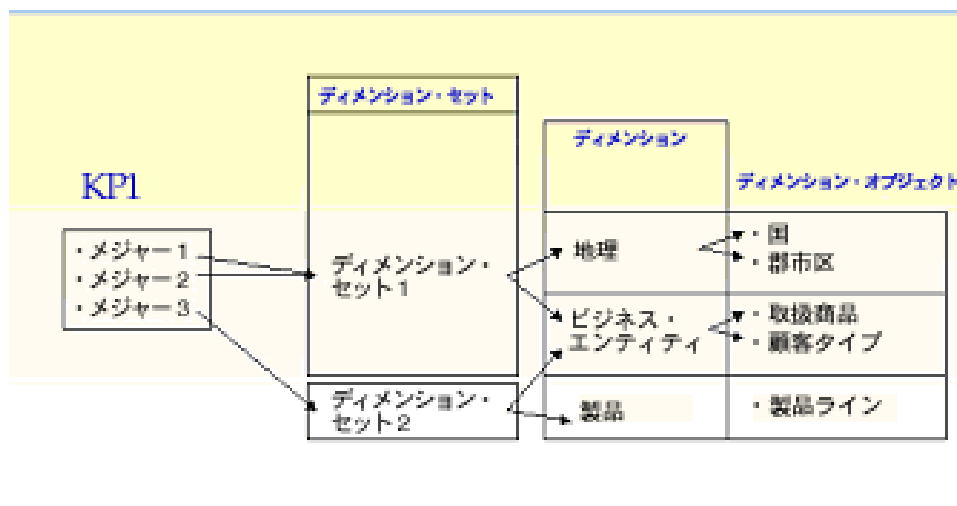
KPI でのディメンション・セットの定義

KPI を作成し、理想的にはメジャーを追加した後、分析に使用する KPI と各メジャーの表示方法を指定できます。

KPI の各メジャーは、ディメンション・セットを介して特定のディメンション・オブジェクト・セットに関連付けることができます。

ディメンションとディメンション・オブジェクトのリポジトリは、システムに対してグローバルであり、すべての KPI に使用可能です。KPI レベルでは、設計者はディメンション・セット作成の概念を利用して、KPI の関連ディメンションをすべて 1 つのセットにグループ化し、そのセットを各メジャーに割り当てることができます。

図 3-62 ディメンション関連



ディメンション・オブジェクトを使用すると、KPI でパフォーマンス・メジャーを使用するときに、データを特定の方法でフィルタリングして表示できます。たとえば、ユーザーはディメンション・オブジェクトとして「国」または「郡市区」を使用し、特定の国または郡市区の収益 KPI を表示し、複数の国や郡市区にまたがって収益を比較できます。

ディメンション・オブジェクトは、ディメンションとして作成され、グループ化されます。ディメンションは、ディメンション・オブジェクトを論理的にグループ化したものです。前述の例では、「地理」、「ビジネス・エンティティ」および「製品」は、ディメンション・オブジェクトを論理的にグループ化する手段です。

ディメンション・セットを使用すると、設計者は KPI 関連のオブジェクトを含むディメンションを容易にグループ化できます。これにより、複数のディメンションを 1 つのセットにグループ化し、そのグループを KPI のメジャーに割り当てて表示できます。

デフォルトでは、KPI を作成すると空のデフォルト・ディメンション・セットが作成され、KPI の全メジャーに割り当てられます。設計者がデフォルト・ディメンション・セットに内容を追加すると、KPI の全メジャーにセット内のオブジェクトが割り当てられます。

KPI の任意のメジャーにディメンションの異なる組合せを使用できるように、新規ディメンション・セットを作成して様々なディメンションの組合せを保持できます。KPI の各メジャー（分析オプションの組合せ）は、一意のディメンション・セットに関連付けられます。

ディメンション・セットは、KPI の作成または更新画面で最初に追加され、定義されます。作成後のディメンション・セットは、KPI の特定のメジャー（分析オプション）に割り当てることができます。

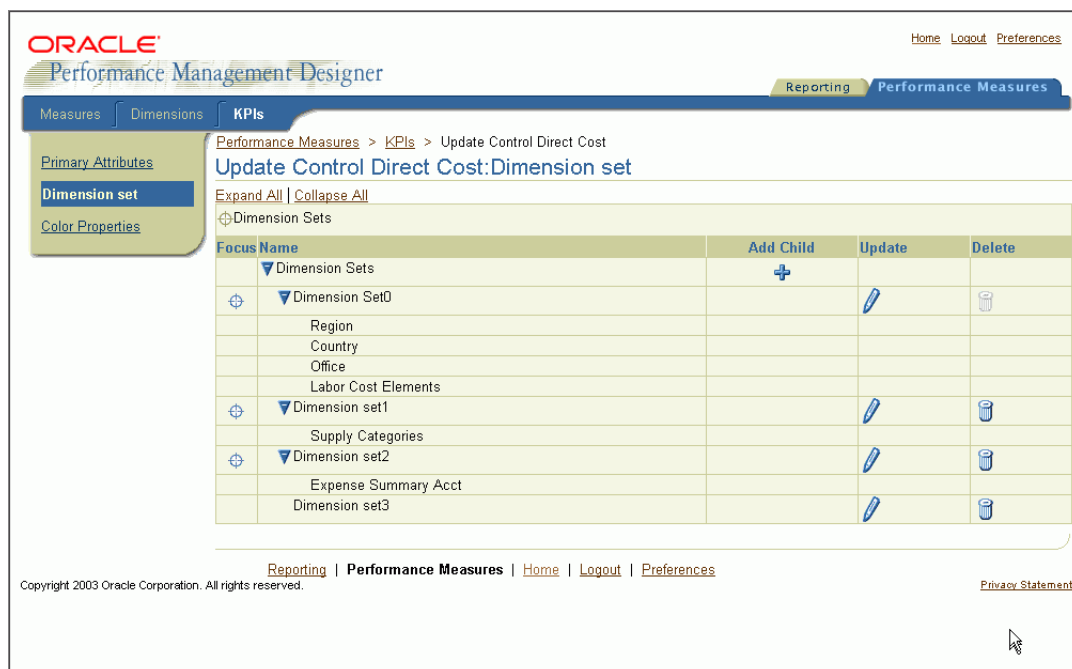
KPI 用ディメンション・セットの作成と変更

ディメンション・セットの作成は、KPI レベルで行います。KPI 用のディメンション・セットを作成した後、設計者は KPI の 1 つ以上のメジャーに割り当てることができます。

KPI 内でディメンション・セットを作成する手順は、次のとおりです。

1. KPI の作成または更新フォームから「ディメンション・セット」メニューを選択します。
KPI に使用可能なディメンション・セットが表示されます。各セットの内容は、そのセットに属しているディメンション・セットとして示されます。

図 3-63 KPI の更新



2. この画面を初めて更新する場合は、まず「ディメンション・セット 0」の内容を更新することをお勧めします。「ディメンション・セット 0」はデフォルトで空のまま作成され、この時点でメジャーを追加していれば KPI の全メジャーに割り当てられています。
3. デフォルトの「ディメンション・セット 0」に加えて新規ディメンション・セットが必要な場合は、ディメンション・セットのルート・レベルにある「子の追加」アイコンを選択すると、新規ディメンション・セットが作成されます。

図 3-64 ディメンション・セットの作成

ORACLE®
Performance Management Designer

Home Logout Preferences

Measures Dimensions KPIs

Performance Measures > KPIs > Update Maximize Profitability > Add dimension set

Update Maximize Profitability: Add dimension set

* Indicates required field

Cancel Apply

General Properties

* Display Name

Dimensions

Search

Search

Result All : Dimensions

Select All | Select None

Select Dimension	Dimension Objects
☐ Group Acct	Account
☐ Group Sub Acct	Sub-Account
☐ Group Acct Type	Account Type
☐ Dgrp Brand	Brand
☐ Dgrp Product Li	Product Line
☐ Dgrp Prices	Prices
☐ Dgrp Geographic	Geographic Area
☐ Dgrp Distributi	Distribution Channel
☐ Dgrp Profitabil	Profitability Ranges
☐ Dgrp Department	Department

Previous Next 10

Cancel Apply

Reporting | Performance Measures | Home | Logout | Preferences

Copyright 2003 Oracle Corporation. All rights reserved. Privacy Statement

- 「一般プロパティ」セクションでディメンション・セット名を定義します。
- ディメンション・セットに含めるディメンションのチェック・ボックスを選択します。複数のディメンションを選択し、「検索」基準を使用してリストから特定のディメンションを検索できます。
- すべてを選択した後、「適用」ボタンをクリックして「ディメンション・セット」画面に戻ります。ディメンション・セット階層に、セットに含まれているディメンション・オブジェクトがすべて表示されます。これらのオブジェクトは、ディメンション・セットを KPI メジャーに割り当てた後に表示されるディメンション・オブジェクトを正確に表します。

KPI タイプに応じた制限

- 複数系列 KPI の場合、使用できるディメンション・セットは 1 つのみで、グラフで複数系列が選択された場合の一貫性を得るために、すべての系列に共通である必要があります。複数のディメンション・セットを作成できますが、使用できるのは KPI の全系列に対して 1 つのみです。
- シミュレーション・ツリー KPI の場合、使用できるのは「ディメンション・セット 0」のみです。「ディメンション・セット 0」は、システムで使用可能な任意のディメンション・オブジェクトで更新できます。

損益 KPI の場合、使用できるのは「ディメンション・セット 0」のみです。「ディメンション・セット 0」は、システムで使用可能な任意のディメンション・オブジェクトで更新できます。

カスタム・メジャーへのディメンション・セットの割当て

KPI の作成時には、内容が空の「ディメンション・セット 0」が自動的に作成されます。「ディメンション・セット 0」は、KPI に追加されるすべてのカスタム・メジャーに自動的に割り当てられます。このため、設計者が「ディメンション・セット 0」に内容を追加すると、「ディメンション・セット 0」のディメンションはデフォルトで自動的に KPI の全メジャーに割り当てられます。

つまり、KPI の全メジャーについてディメンション・セットを 1 つ表すのみでよい場合は、単に KPI レベルで「ディメンション・セット 0」の内容を指定します。それに応じて、すべてのメジャーが更新されます。

前述のように、様々なディメンションの組合せを保持するために、KPI 用の新規ディメンション・セットを作成できます。新規ディメンション・セットを作成すると、KPI の任意のメジャーに割当可能となります。これにより、各メジャーがオプションで異なるディメンションの組合せを保持できます。

この場合は、後述の手順に従って KPI の任意のメジャーに異なるディメンション・セットを割り当てます。

1. 「KPI 用ディメンション・セットの作成と変更」で説明した手順に従って、新規ディメンション・セットを作成します。
2. 異なるディメンション・セットを指定するメジャーを識別し、そのメジャーの「更新」アイコンをクリックします。
3. 「更新」画面で「ディメンション選択」メニューを選択します。

図 3-65 「ディメンション選択」メニュー



4. 使用可能なディメンション・セットから、メジャーに該当するディメンション・セットを選択します。
5. 「適用」をクリックして選択内容を保存します。

注意：新規ディメンション・セットの選択画面に戻ると、前に選択したディメンション・セットは選択済として表示されないため、選択内容を変更する場合は再選択する必要があります。

KPI タイプに応じたディメンション・セット作成の制限については、「KPI タイプに応じた制限」を参照してください。

複数系列 KPI でのカスタム・メジャーのディメンションの更新

BSC アーキテクト -KPI デザイナ・モジュールで KPI を作成し、その KPI に系列を追加すると、KPI の構造には分析オプションと系列の各組合せが、各系列のプロパティを更新できるように反映されます。

たとえば、メジャー A に系列 1、系列 2 および系列 3 が保持されている複数系列 KPI を作成すると、パフォーマンス管理デザイナでの KPI 構造には次が反映されます。

- KPI 名
 - メジャー A、系列 1
 - メジャー A、系列 2
 - メジャー A、系列 3

系列の主要属性またはメジャーの選択を更新するには、「複数系列 KPI のメジャーの更新」を参照してください。

系列のディメンション選択を更新する手順は、次のとおりです。

1. 異なるディメンション・セットを指定する系列を識別し、そのメジャーの「更新」アイコンをクリックします。
2. 「更新」画面で「ディメンション選択」メニューを選択します。
3. 使用可能なディメンション・セットから、系列に該当するディメンション・セットを選択します。KPI 内のいずれかの系列用のディメンション・セットを選択すると、選択内容が KPI の全系列に対して有効になることに注意してください。これは、グラフ表示の際の整合性を保証するために、複数系列には共通のディメンション・セットが必要であるというルールによるものです。
4. 「適用」をクリックして選択内容を保存します。

注意: 複数系列 KPI では、複数系列の選択時にグラフの一貫性が得られるように、すべての系列に共通するディメンション・セットを 1 つのみ使用できます。KPI のいずれかの系列用のディメンション・セットを選択すると、その選択が指標内の全系列の最後の選択として使用されることに注意してください。

分析グループによる KPI 内でネストしたカスタム・メジャーのディメンションの更新

依存分析グループの一部として構成されているメジャーの場合、「ディメンションの選択 Select Dimensions」メニューの機能は「カスタム・メジャーへのディメンション・セットの割当て」で説明したとおりです。

つまり、メジャーが依存メジャーとして作成されていても、特定のディメンション・オブジェクト・セットを保持でき、BSC アーキテクトで依存オプションまたは独立オプションとして作成された任意のメジャー組合せ用にディメンション・セットを選択できます。

この場合、依存オプション、つまりネストしたオプションは次のように表されます。

- 親メジャー、子メジャー 1
- 親メジャー、子メジャー 2

以前のリリースとは異なり、特定の分析オプションの組合せで異なるディメンション・セットを保持するように指定する必要がないことに注意してください。（以前のリリースの BSC アーキテクトでは、「ana ドリル」と呼んでいました）。パフォーマンス管理デザイナでは、任意のメジャーの組合せに対して「ディメンション選択」メニューを使用して、適切なディメンション・オブジェクトの組合せを選択できます。

ディメンション選択は子メジャーのプロパティであり、パフォーマンス管理デザイナーでは子メジャーは常に親子メジャーの組合せとして表されるため、親子メジャーの組合せでは1つのディメンション・セットに特定のディメンション・セットを保持できることに注意してください。

最後に、相互に影響する親子メジャーの組合せを持つ分析グループが複数存在する場合は複雑になり、システムは KPI の一貫性を保証するために、これらの組合せのディメンション選択を検証しようとすることに注意してください。

シミュレーション・ツリー KPI でカスタム・メジャーに使用するディメンションの更新

パフォーマンス管理デザイナーの KPI デザイナでは、BSC アーキテクト -KPI デザイナ・モジュールを介して作成されたシミュレーション・ツリー KPI を更新できますが、シミュレーション・ツリー KPI のノードまたはメジャーの更新はできません。

KPI レベルでは、次のルールを考慮してディメンション・セットの作成内容および更新内容を変更できます。

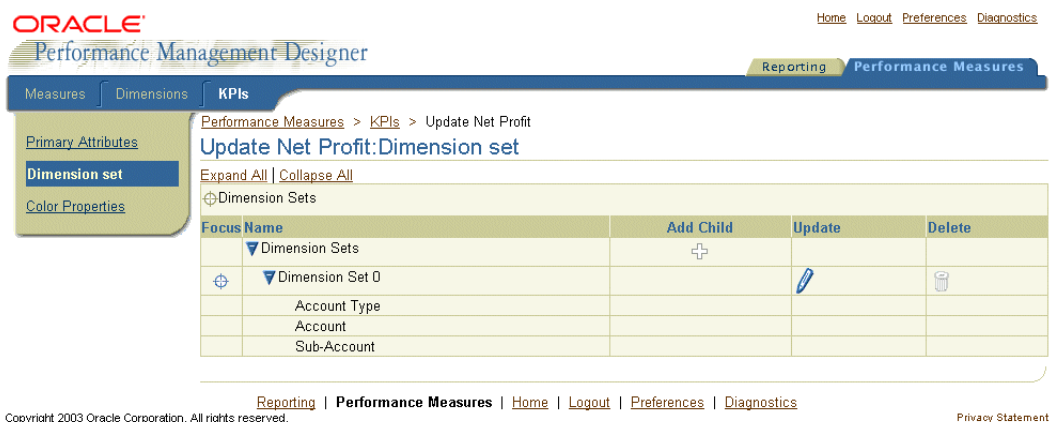
- シミュレーション・ツリー KPI で使用できるのは、KPI のデフォルトとして作成される「ディメンション・セット 0」のみです。
- シミュレーション・ツリーの場合、「ディメンション・セット 0」は削除できませんが、必要に応じて空にすることはできます。「ディメンション・セット 0」は、デフォルトでは空です。
- 「ディメンション・セット 0」レベルで「更新」をクリックすると、システムで使用可能なディメンション・オブジェクトを持つ任意のディメンションを選択し、「ディメンション・セット 0」にディメンション・オブジェクトを追加できます。この操作は、システムでディメンション・セットを更新する場合と同じです。（「KPI のディメンション・セットの更新」を参照）。

損益 KPI でカスタム・メジャーに使用するディメンションの更新

損益 KPI には、更新も削除もできない特定のデフォルト・ディメンション・セットがあります。

KPI は、デフォルトで「勘定」、「勘定タイプ」および「補助勘定」という3つのディメンション・オブジェクトを使用して作成されます。これらのディメンション・オブジェクトは、同じ性質を持つディメンションにグループ化されます。ディメンションとディメンション・オブジェクトは、どちらも更新不可で、システムからは削除できません。そのため、損益 KPI 用に予約済のメジャーとディメンションについては、「更新」および「削除」アイコンが使用不可になります。

図 3-66 損益ディメンションの更新



KPI レベルでは、KPI はデフォルトの「ディメンション・セット 0」と 3 つのデフォルト・ディメンション・オブジェクトである「勘定」、「勘定タイプ」および「補助勘定」を使用して作成されます。

- ディメンション・セットを作成する場合、「追加」アイコンは使用不可のため、設計者はディメンション・セットを追加作成できません。これは、損益 KPI で使用できるのが「ディメンション・セット 0」のみであるためです。
- ディメンション・セットに含まれる 3 つのディメンション・オブジェクトは、削除または更新できません。
- 「ディメンション・セット 0」を更新し、ディメンション・セットにディメンション・オブジェクトを追加できます。この操作は、システムでディメンション・セットを更新する場合と同じです。（「KPI のディメンション・セットの更新」を参照）。

メジャー・レベルで更新できるのは、「金額」メジャーのみです。

- 「損益」で「金額」メジャーのディメンション選択を更新する場合、使用できるオプションは「ディメンション・セット 0」のみで、デフォルトで選択されます。
- このメジャーのディメンション選択は変更できません。

KPI で E-Business Suite のメジャーに使用するディメンションの選択

KPI にメジャーを追加するときに、2 つのタイプのメジャーから選択できます。一方の「カスタム」は、特定のニーズに従ってカスタムとして定義できるメジャーを意味します。他方の「Oracle E-Business Suite のメジャー」は事前定義済みであり、変更はできません。（メジャーの詳細は、「KPI のメジャー構造の決定」を参照）。

第 2 のカテゴリである「Oracle E-Business Suite のメジャー」を選択すると、このタイプのメジャーを KPI に分析オプションとして表示できます。メジャーに関連付けられているディメンションは、メジャーに関連した既存のインテリジェンス・レポートに基づいて、追加するメジャー用に自動的に表示されます。

このタイプのメジャーを KPI に追加すると KPI 階層に表示され、関連ディメンションを含めたメジャー関連の全プロパティが、KPI で作成されるメジャーにデフォルトで使用可能になります。

この時点で KPI をスコアカードに割り当てる場合は、メジャー（分析オプション）を 1 つずつクリックし、KPI のプレビューと E-Business Suite のメジャーのプレビューを可能にする必要があります。デフォルトで有効化されたメジャー関連の全ディメンションが表示されます。

システムがプロトタイプ・ステータスであるか本番ステータスであるかに応じて、メジャーとディメンションはプロトタイプ・データまたは本番データを示します。

KPI のメジャーを更新すると、デフォルトでそのメジャーに関連ディメンション・セットが関連付けられ、設計者は最初にメジャーに関連付けられていたディメンション・セットからのディメンション・オブジェクトを必要に応じて表示または非表示に設定できます。

また、設計者は、KPI のドライバとして必要なデフォルト・ディメンションの選択やデフォルトの表示別ディメンションの選択など、これらのタイプのメジャーについて KPI に表示するディメンションの追加プロパティを変更できます。

E-Business Suite のメジャーのディメンション・オブジェクトの表示または非表示

次の手順では、KPI レポートでメジャーに表示するディメンション・レベルを指定します。

メジャー関連のオリジナル・ディメンション・セットに基づいてディメンション・オブジェクトを表示または非表示にする手順は、次のとおりです。

1. Oracle E-Business Intelligence モジュールのメジャーを追加した後、「更新」アイコンをクリックして「メジャーの更新」にナビゲートします。
2. 「ディメンション選択」メニューにナビゲートします。

図 3-67 「ディメンション選択」メニュー



3. 表示するかどうかに応じて該当するチェック・ボックスを選択するか選択を解除し、ディメンション・オブジェクトの表示と非表示を切り替えることができます。「次」をクリックしてディメンション・プロパティの設定を続けるか、「終了」をクリックして選択内容をコミットします。

E-Business Suite のメジャーのグラフ表示とカラー設定に使用するデフォルトのディメンション・オブジェクトの設定

ディメンション・オブジェクトの表示または非表示を設定した後、設計者は KPI でメジャー動作のドライバとなるデフォルトのディメンション・デフォルトを設定できます。手順は次のとおりです。

1. 「ディメンション・デフォルト」ステップにナビゲートします。
2. 選択したディメンションごとに、デフォルトで KPI のドライバとなるデフォルトのディメンション・オブジェクトを選択します。このデフォルトはメジャーを表示するときに最初に表示され、このメジャーがデフォルトの場合は KPI のカラー・ドライバとなることに注意してください。

注意: 選択リストは、前述の手順で選択したディメンションに限定されます。

図 3-68 ディメンション

この手順は、次のものに影響します。

- メジャーと指標のカラー計算。デフォルト・メジャーの場合は、デフォルトのディメンション・オブジェクトによりメジャーのカラーが決定されます。
「パフォーマンス管理ビュー」にナビゲートしてスコアカード・ビューに警告カラーを表示すると、デフォルトとして選択したディメンション・オブジェクトに基づいて、メジャーのパフォーマンスがカラーに反映されます。

E-Business Suite のメジャーのデフォルト・ディメンションに対する「表示別」の設定

選択した「表示別」プロパティにより、メジャーに関して表示されるグラフのタイプが「比較」であるか「傾向」であるかが決定されます。「比較」および「傾向」設定は結果的なカラーにも影響するため、この選択はシステムによるカラー選択の計算方法にも影響します（詳細は、「KPI のカラー・プロパティ」を参照）。

図 3-69 デフォルト・ディメンションの表示別

手順は次のとおりです。

1. 2つの基本的なタイプの「表示別」プロパティから1つ選択します。
時間ディメンション別表示
時間以外のディメンション・オブジェクト別表示
2. 「四半期」、「月」または「年」などの期間を選択すると、X軸を期間としてメジャーの値を示す標準的なトレンド履歴グラフが生成されます。
3. 期間を選択しなければ、前述の手順（ディメンション・デフォルト）で選択したデフォルトの「時間」ディメンション・レベルの比較グラフが表示されます。たとえば、「時間ディメンション」に「四半期」を指定して「表示別」で「製品」を選択すると、現行四半期の製品別比較グラフが表示されます。

4. 「適用」をクリックして選択内容を保存し、KPI ライブラリ階層に戻ります。
5. メジャーを追加した KPI をプレビューして選択内容を確認する場合は、スコアカードに KPI が割り当てられていることを確認してライブラリに戻り、「プレビュー」を選択します。

「時間」ディメンションの選択に関する注意：

指標は常に表示する期間のタイプを参照する必要があるため、「ディメンション選択」手順の一部として「時間」ディメンション・オプションを選択することをお勧めします。

「時間」ディメンションを選択すると、「年」、「四半期」または「月」など、複数のディメンション・レベルを選択できます。

「表示別」のデフォルト・ステップでは、「時間」ディメンションをメジャーのデフォルトの「表示別」にするかどうかを指定できます。この場合、指定後の「指標」ビューにはトレンド履歴グラフと表が表示されます。

「時間」ディメンションを選択しなければ、デフォルトとして「当年度」が表示されます。

E-Business Suite のメジャーのディメンションの特性表示

Oracle E-Business Intelligence Suite のメジャーを使用して KPI を表示する場合は、エンド・ユーザーが「パフォーマンス・スコアカード・ビューワ」にナビゲートすると表示される特別な特性に注意してください。

Oracle E-Business Suite のメジャーを KPI に追加する場合、ディメンションの表示方法が少し異なります。

主な違いは次のとおりです。

- 値リスト (LOV) の選択: カスタム・メジャーのようにドロップダウンから選択するかわりに、「値リスト」アイコンをクリックして値表示画面にナビゲートしないと選択できないディメンション値があります。
- このタイプのメジャーの場合は、ディメンションを選択すると「実行」ボタンが表示され、選択後にページをリフレッシュするには、このボタンを選択する必要があります。
- ディメンションの項目を比較できるように、「表示別」という特別なドロップダウンが用意されています。このドロップダウンを使用すると、比較するディメンションを選択できます。これに対して、BSC カスタム・メジャーの動作では、「KPI」ビューの各ディメンションのドロップダウンの一部として「比較」値が表示されます。

KPI の追加属性の定義

この項では、KPI の追加属性を定義する方法について説明します。

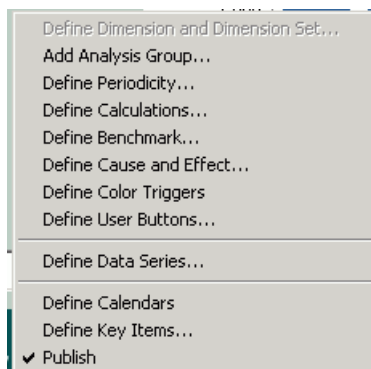
グローバル KPI 設定の定義

Oracle Balanced Scorecard では、1 つの分析オプションまたはデータセット用の設定のみでなく、各 KPI 用のグローバル設定を指定できます。この設定には、活動期間、計算、ベンチマーク、原因と結果の関連、カラー・トリガーおよびユーザー・ボタンなどが含まれます。

注意： この項の内容は、バランス・スコアカード内の全 KPI ではなく、グローバル KPI 設定にのみ関連しています。

グローバル設定は、分析オプションのカスタム設定を個別に指定することで上書きできます。分析オプション・パネルの下領域を右クリックし、[図 3-70](#) のようなグローバル設定用ポップアップ・メニューを表示します。

図 3-70 「KPI」ウィンドウのメイン・ポップアップ・メニュー



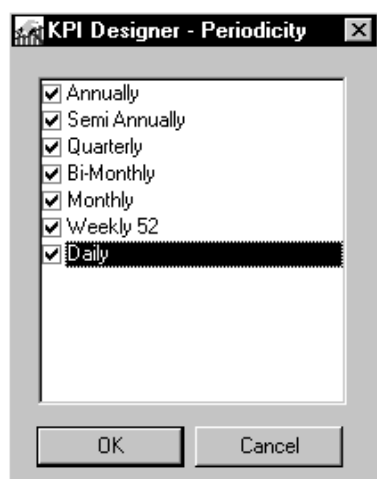
活動期間

この機能を使用すると、Scorecard ユーザーは様々な活動期間オプションを使用してデータを分析できます。「活動期間」パネルを使用して、バランス・スコアカードで使用可能にするオプションを選択します。選択したオプションは、「指標」ウィンドウで分析グループの下に表示されます。

スコアカードの活動期間オプションを設定する手順は、次のとおりです。

1. 分析グループ・パネルの下領域を右クリックしてポップアップ・メニューを表示します。
2. 活動期間の定義を選択して「活動期間」ウィンドウを表示します。

図 3-71 「活動期間」ウィンドウ



3. 各活動期間オプションの隣のチェック・ボックスをクリックして、そのオプションを有効または無効にします。
4. 活動期間オプションの選択を完了した後、「OK」ボタンを選択して保存するか、「取消」ボタンを選択して取り消します。選択したオプションが、画面右側の分析グループ・パネルの下パネルに表示されます。

カレンダーの定義

OBSC システムを初めて開くと、使用可能なカレンダーが「BSC グレゴリオ暦」カレンダーのみであることがわかります。ビジネスの性質によっては、様々な指標について活動期間にまたがる別の会計年度または別のタイプの関連の管理が必要になる場合があります。このような目的のために、BSC ではカスタム・カレンダーを定義できます。

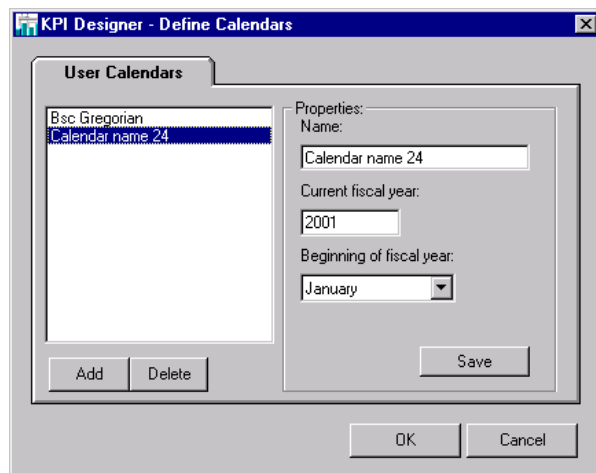
カスタム・カレンダーは、異なる活動期間関連と期間数を使用する会計年度の新規定義です。ユーザーは、各カレンダーで次のことができます。

- カスタム・カレンダーごとに異なる会計年度の定義
- 異なる会計年度開始期間の定義
- 独立した情報送信による異なる更新期間の管理
- 異なる活動期間関連の管理

カスタム・カレンダーを構成する手順は、次のとおりです。

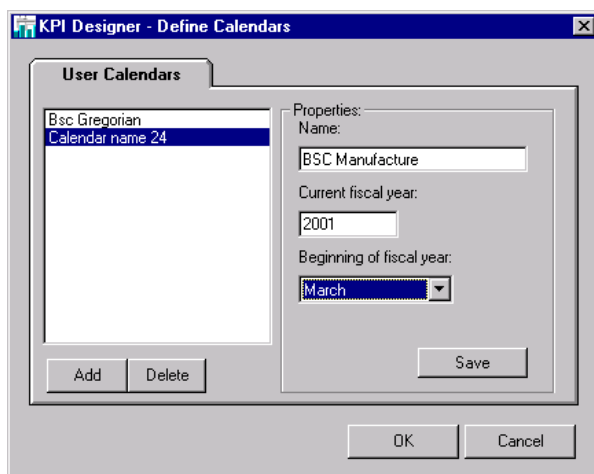
1. 指標にナビゲートして「指標」ボックスを右クリックします。
2. 空白の領域を右クリックしてポップアップ・メニューを表示します。
3. メニューから「カレンダーの定義」を選択します。
4. 「追加」ボタンを選択して新規ユーザー・カレンダーを追加します。

図 3-72 「KPI デザイナー - カレンダーの定義」



5. 「ユーザー・カレンダー」のリストに、汎用名を持つ新規カレンダーが表示されます。
6. 新規カレンダーのプロパティを変更するには、そのカレンダーがハイライトされて右側にプロパティが表示されるまで、リストから選択します。
7. 新規カレンダー名を入力します。現会計年度とその年度の開始月を選択します。

図 3-73 「カレンダーの定義」：月の選択



8. 「保存」ボタンを選択して変更内容を保存します。
9. 「OK」ボタンを選択して、新規カレンダーの作成プロセスを開始します。
10. 新規カレンダーの作成時には、7つの事前定義済活動期間が作成されます。

制限

BSC でカスタム・カレンダーを使用する場合は、次の制限が適用されます。

- 使用できるカレンダーは指標ごとに1つのみです。
- カレンダーに対して定義されている活動期間がいずれかの指標に使用されている場合、そのカレンダーはシステムから削除できません。
- データ系列のフォーマット、積上プロパティ、カラー・メソッドおよび予測メソッドはすべてのカレンダーより優先されるため、ユーザーがカレンダーごとに異なるプロパティを指定して同一データセットを管理することはできません。

カスタム・カレンダーのプロパティの変更

カスタム・カレンダーのプロパティを変更する手順は、次のとおりです。

1. システムで任意の指標を開きます。
2. パネルの空白領域を右クリックしてポップアップ・メニューを表示します。
3. メニューから「カレンダーの定義」を選択します。
4. 変更するカレンダーを選択してハイライトします。
5. ウィンドウの右側にプロパティが表示されます。必要な変更を行います。次の制限に注意してください。
 - ここで変更したカレンダーを使用している指標は、プロトタイプ・モードになります。
 - 「KPI デザイナ」に、日次活動期間に基づいて各期間の開始日と終了日を入力するように要求されます。
 - このカレンダーに対応する活動期間の開始日と終了日を確認することをお勧めします。
6. このカレンダーを変更した後、「保存」ボタンを選択します。最初の日次ベース活動期間について、「KPI デザイナ - カスタム活動期間」のプロンプトが表示されます。編集ウィンドウで、各期間の終了日を再定義する必要があります。この終了日は、システムにより自動的に入力されます。
7. 他のカレンダーについて保留中の変更がない場合は、「OK」ボタンを選択して「KPI デザイナ - カレンダーの定義」ウィンドウに戻ります。

カスタム活動期間の構成

カスタム・カレンダーの作成後に、その事前定義済の活動期間を任意の指標に使用できます。

BSC のカレンダーは、すべて 7 つの事前定義済の活動期間レベルを使用して作成されます。これらは「年次」、「半期」、「四半期」、「月次」、「隔月」、「週次」および「日次」の 7 つです。エンド・ユーザーは任意のカレンダーにカスタム活動期間を追加して初期構造を補足し、組織の要件に対処できます。

事前定義済の活動期間の関連は、次のルールで記述されます。

- すべての活動期間を積み上げると年次になります。
- すべての活動期間は日次から積み上げられます。
- すべての活動期間は上位の活動期間に積み上げられますが、次の例外があります。
 - 週次から年次以外の上位活動期間に積み上げることはできません。
 - 隔月は、四半期を除く任意の上位活動期間に積み上げられます。

カスタム活動期間は、最初に特定のカレンダーで作成します。定義後に、エンド・ユーザーはそれを任意の KPI で使用できます。そのためには、エンド・ユーザーは最初カレンダーを指標に割り当ててから、対応する活動期間を割り当てる必要があります。

カスタム活動期間の使用には、次のルールが適用されます。

- 特定の活動期間を指標に割り当てるには、その活動期間が属しているカレンダーを指標に割り当てる必要があります。カレンダーの使用ルールを参照してください。

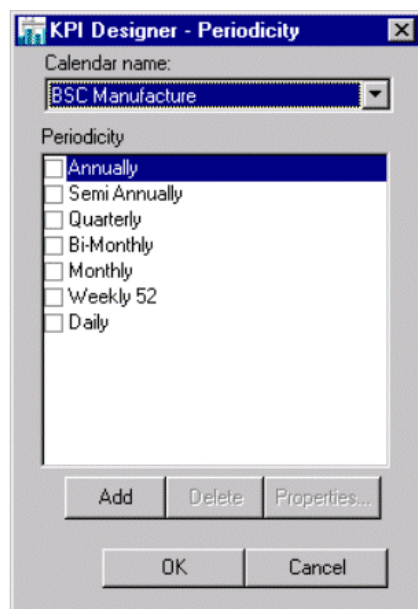
カスタム活動期間の作成時には、次のルールが適用されます。

- 「BSC グレゴリオ暦」など、任意のカレンダーに新規のカスタム活動期間を追加できます。ただし、名称、期間数および事前定義済の活動期間相互の関連など、活動期間のプロパティは変更できません。
- OBSC システムでは、エンド・ユーザーは必要に応じて事前定義済の活動期間を基準にして、カスタム活動期間を定義できます。
- 定義できる最下位の活動期間は日次で、期間数は 365 です。
- 定義できる最上位の活動期間は年次で、期間数は 1 です。
- すべての活動期間は、事前定義済の年次活動期間に積み上げられます。
- 各活動期間は 1 つのカレンダーに属します。
- 1 つの活動期間に使用できる基準活動期間は 1 つのみです。ただし、1 つの活動期間を必要な数の活動期間の基準活動期間として使用できます。
- 期間数は、基準活動期間に含まれる期間数の範囲内で指定する必要があります。
- 活動期間には、基準活動期間に関連した全活動期間のデータが積み上げられます。

カスタム活動期間を定義する手順は、次のとおりです。

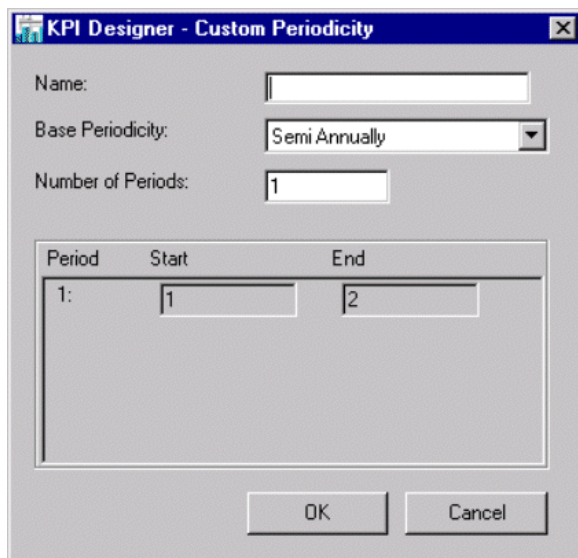
1. システムで指標を開きます。
2. パネルの空白領域を右クリックしてポップアップ・メニューを表示します。
3. メニューから活動期間の定義を選択します。
4. 新規活動期間を作成するカレンダーを選択します。

図 3-74 「KPI デザイナ - 活動期間」 ウィンドウ



5. 同じ名称の活動期間がリストにないことを確認します。
6. 「KPI デザイナ - 活動期間」 ウィンドウの下部にある「追加」ボタンを選択して、「KPI デザイナ - カスタム活動期間」 ウィンドウを表示します。

図 3-75 「KPI デザイナ - カスタム活動期間」 ウィンドウ



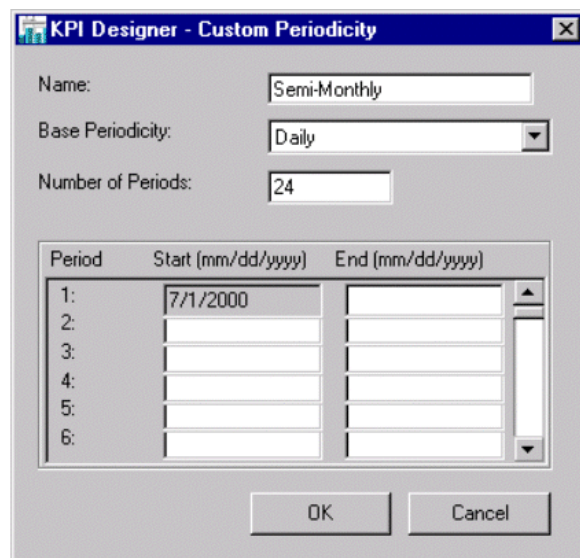
7. 「名称」フィールドに新規活動期間名を入力します。
8. 「基準活動期間」コンボ・ボックスから、新規活動期間の基準となる活動期間を選択します。これは、現行の活動期間のデータが積み上げられる活動期間です。
9. 新規カレンダーの期間数を指定します。リストから選択すると、そのプロパティが右側に表示されます。基準活動期間よりも多い期間数を入力すると、この数が再設定されることに注意してください。

10. これで、各期間の開始日と終了日を定義できます。次の2つのケースがあります。

ケース 1: 基準活動期間が「日次」の場合。

このケースでは、各期間の開始日と終了日を MM/DD/YYYY 書式で指定する必要があります。新規活動期間を定義するときには、「開始」日と「終了」日（第1期間と最終期間を除く）が最初は空になっていることに注意してください。

図 3-76 「カスタム活動期間」ウィンドウ：「日次」



Period	Start (mm/dd/yyyy)	End (mm/dd/yyyy)
1:	7/1/2000	
2:		
3:		
4:		
5:		
6:		

注意： 日付は MM/DD/YYYY 書式で入力する必要があります。これは、「KPI デザイナ」ウィザードで使用可能な唯一の書式です。

ケース 2: 基準活動期間が「日次」以外の場合。

これは最も一般的なケースです。各期間の開始日と終了日は、基準活動期間の各期間に対して参照されます。

図 3-77 「カスタム活動期間」ウィンドウ: 「日次」以外

Period	Start	End
1:	1	0
2:	0	0
3:	0	0
4:	0	0
5:	0	0
6:	0	0

11. 「OK」 ボタンを選択して変更内容を保存します。

ケース 1: 基準活動期間が「日次」の場合。

ウィンドウは次の図のようになります。

図 3-78 「カスタム活動期間」ウィンドウ: 「日次」を指定して日付が入力された状態

Period	Start (mm/dd/yyyy)	End (mm/dd/yyyy)
1:	3/1/2000	3/15/2000
2:	3/16/2000	3/31/2000
3:	4/1/2000	4/15/2000
4:	4/16/2000	4/30/2000
5:	5/1/2000	5/15/2000
6:	5/16/2000	5/31/2000

ケース 2: 基準活動期間が「日次」以外の場合。

ウィンドウは次の図のようになります。

図 3-79 「カスタム活動期間」ウィンドウ: 「日次」を指定して日付が入力されていない状態

Period	Start	End
5:	9	
6:	11	12
7:	13	14
8:	15	16
9:	17	18
10:	19	20

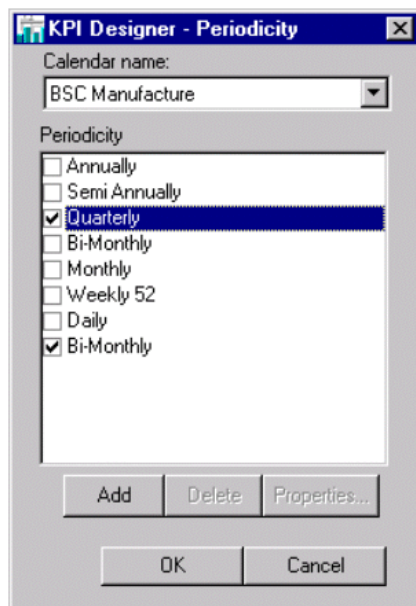
カスタム活動期間の使用 活動期間の作成後、エンド・ユーザーはそれを任意の指標で使用できます。同じカレンダーに属する事前定義済の活動期間とカスタム活動期間を組み合わせ、1つの指標に1つ以上の活動期間を割り当てることができます。最初に、対応するカレンダーを選択する必要があります。

指標に複数の活動期間を割り当てた後、エンド・ユーザーはデフォルト選択として活動期間を1つ指定する必要があります。デフォルト活動期間は、指標の警告カラーを決定するため重要です。

指標に活動期間を割り当てる手順は、次のとおりです。

1. 対象となる指標を開きます。
2. パネルの空白領域を右クリックしてポップアップ・メニューを表示します。
3. メニューから活動期間の定義を選択します。
4. 活動期間を定義するカレンダーを選択します。
5. 各活動期間の隣にあるチェック・ボックスを選択し、活動期間を指標に割り当てます。

図 3-80 「KPI デザイナ」- 活動期間の選択



6. 活動期間をすべて選択した後、「OK」ボタンを選択して変更内容を保存し、指標をリフレッシュします。
7. 割り当てた活動期間でリフレッシュされた「指標」ウィンドウが表示されます。

カスタム活動期間のプロパティの変更

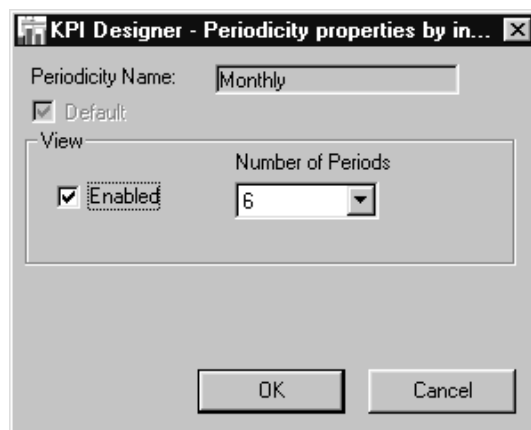
カスタム活動期間のプロパティを変更する手順は、次のとおりです。

1. システムで任意の指標を開きます。
2. パネルの空白領域を右クリックしてポップアップ・メニューを表示します。
3. メニューから活動期間の定義を選択します。
4. 活動期間が属しているカレンダーを選択します。
5. 変更する活動期間を選択してハイライトします。
6. 「KPI デザイナ - 活動期間」ウィンドウの下部にある「プロパティ」ボタンを選択して、「KPI デザイナ - カスタム活動期間」ウィンドウを表示します。
7. 各自のケースに必要な変更を行います。次の点に注意してください。
 - 「KPI デザイナ」では、基準活動期間または期間数を変更するたびに、各期間の開始日と終了日の入力を要求されます。
 - 期間が変更されるため、依存活動期間を確認することをお勧めします。
 - 活動期間が属しているカレンダーを使用中の指標は、プロトタイプ・モードになります。
8. 変更を完了後に、「OK」ボタンを選択して保存し、「KPI デザイナ - 活動期間」ウィンドウに戻ります。

期間ビューのスクロール・バーの構成（オプション）¹

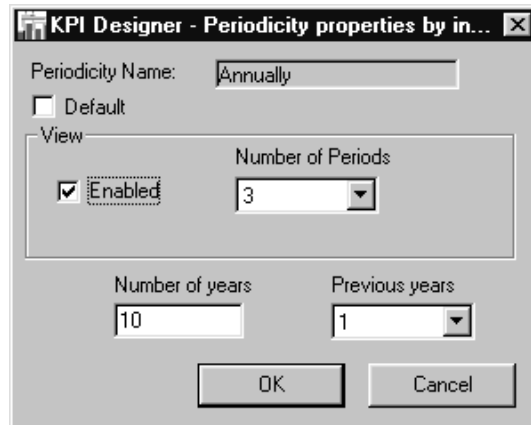
1. オプションをクリックし、右クリックしてポップアップ・メニューを表示して、各活動期間オプションのプロパティを設定します。
2. 「プロパティ」を選択して「活動期間プロパティ」ウィンドウを表示します。「年次」以外の活動期間を定義した場合は、「活動期間プロパティ」ウィンドウが表示されます。

図 3-81 「活動期間プロパティ」ウィンドウ、「年次」以外の活動期間



年次活動期間を定義した場合は、次のように変更された「活動期間プロパティ」ウィンドウが表示されます。

図 3-82 「活動期間プロパティ」ウィンドウ、「年次」活動期間



デフォルト：この活動期間をデフォルト活動期間として定義します。

使用可：オプションの期間ビューのスクロール・バーを使用可能にします。使用可能にすると、期間ビューのスクロール・バーが KPI ビューに表示され、KPI グラフに一度に表示する期間数を制御できます。

期間数：グラフで一度に参照可能な期間数です。

「年次」という活動期間のプロパティを設定する場合は、次の各フィールドに入力します。年次活動期間の期間数は固定はでないため、これらは必須フィールドです。

年数：使用可能な年数。

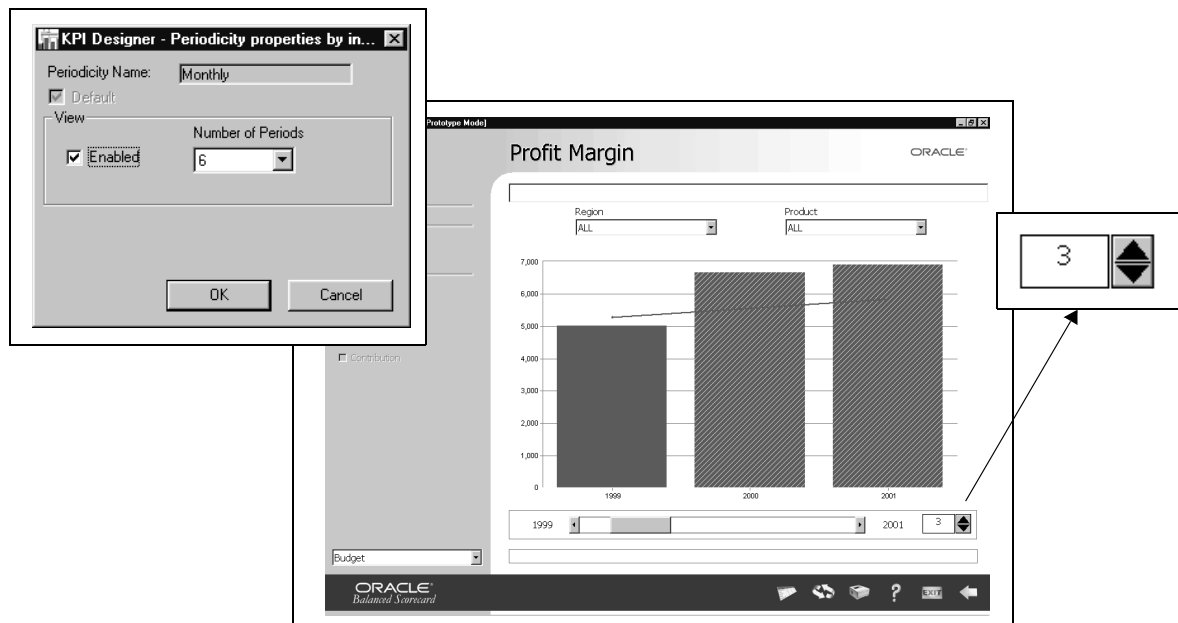
過去の年数：過去の年数。

¹ 次の手順を実行しないと、BSC ビューにはデフォルトですべての期間が表示されます。

例 3-2 6 期間が定義され、期間ビューのスクロール・バーが使用可能な状態

期間数を 6 と定義すると、KPI グラフには一度に 6 か月が表示されます。KPI 画面の最下部にあるスクロール・バーを使用すると、他の 6 か月を表示できます。また、期間スクロール・バーを使用すると、一度に表示する期間数も制御できます。

図 3-83 「活動期間プロパティ」を使用した期間ビューのスクロール・バーの有効化



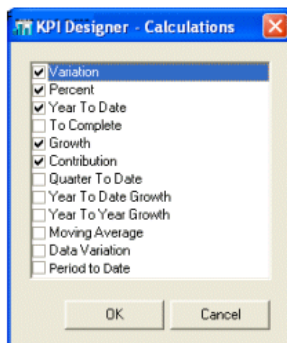
3. 「OK」ボタンを選択して変更内容を保存するか、「取消」ボタンを選択して取り消します。

BSC アーキテクト -KPI デザイナにおける KPI 計算の定義

Scorecard ユーザー用に各種の計算をアクティブ化できます。計算は、メジャーおよび KPI という 2 つのレベルで定義できます。

KPI の各メジャーに適用可能な計算を定義するには、「メジャー・デザイナ」を使用します。「メジャー・デザイナ」を使用すると、KPI 全体で使用可能にする必要のある計算も指定できます。

図 3-84 BSC アーキテクトの「KPI 計算」ウィンドウ



注意：分析オプションごとに計算を個別に使用不可に設定できます。「データセットのプロパティの設定」を参照してください。

注意: メジャーごとに計算を個別に使用不可にすることができます。3-101 ページの「[KPI の追加属性の定義](#)」を参照してください。

使用可能な計算は次のとおりです。

- **変動:** ベンチマークから実際の結果への変動金額を示します。
- **パーセント:** 実際の結果をベンチマークに対するパーセントとして示します。
- **年累計:** 当年度の結果累計を示します。この計算では、四半期の開始日から年度中の任意の時点までの実績データが累計されます。これにより、年度の一部のパフォーマンスを前年同期と比較できます。たとえば、1～5月の売上累計を前年同期と比較できます。残高勘定（「資産合計」など）の KPI ビューでは、「年累計」は適用されないため使用不可になります。
- **四半期累計:** 当年度の四半期別結果累計を示します。この計算では、年の第1～最終四半期の実績データが累計されます。たとえば、第1～第3四半期の売上累計を前年同期のデータと比較できます。残高勘定（「資産合計」など）の KPI ビューでは、「四半期累計」は適用されないため使用不可になります。
- **年累計成長:** 当期を前年度の最終期間（前年度の最終結果）と比較します。たとえば、1999年3月期が前年度の最終会計月である1998年10月期と比較されます。
- **年度別成長:** 当期の成長が前年同期と比較して計算されます。
- **目標達成:** 計画を基準にして前期と実績期間が計算されます。累計結果とターゲット設定された目標との差異は、残余期間に均等に配分されます。これにより、ターゲット設定された目標に対して未達成の結果が示され、今後の課題を把握できます。
- **成長:** 前期と当期の差異がパーセントで示されます。
- **貢献:** この計算を使用できるのは比較グラフの場合のみです。各データ・ディメンションの結果合計に対する各要素の貢献度を示します。
- **MAT:** 過去12か月の移動平均を示します。過去12か月の移動平均を求めると、平滑化された傾向が示され、月次の偏差なしで結果を分析できます。
- **データ変動:** この計算は複数棒指標に使用されます。同じ期間内で任意の2つの系列間の変動量が計算されます。
- **期間累計:** この計算では「現在日」レポートの概念が導入されます。「期間累計」を選択すると、期間開始日から同期中の任意の時点までのデータ（5月1日～5月12日の売上など）が集計されます。この機能を使用すると、現在日のパフォーマンスを前年同期と比較したり（当年度の5月1日～5月12日の売上を前年同期と比較するなど）、当年度の同期と比較できます（当年度の5月1日～5月12日の売上を当年度の前月の同期と比較するなど）。

KPI に対する計算の有効化

KPI に対して計算を有効化する手順は、次のとおりです。

1. KPI を右クリックします。「KPI」ポップアップ・メニューが表示されます。
2. 「計算の定義」を選択します。「計算」ウィンドウが表示されます。
3. 必要に応じて計算を有効化または無効化します。
4. 「OK」ボタンを選択して変更内容を保存するか、「取消」ボタンを選択して取り消します。

注意: 「年累計」や「四半期累計」などの累計計算は、「残高」メジャーには適用できないか、または影響しません。ただし、この種の KPI またはメジャーの現在日情報を取得する必要がある場合は、「期間累計」計算を適用できます。

注意: 「期間累計」計算の動作を確認するには、「パフォーマンス管理ビューワ」にログインします。BSC アーキテクト-KPI デザイナの「プレビュー」設計画面には、「期間累計」動作は表示されません。

注意: ユーザーはウィザードを使用して、「期間累計」計算など、指標内の計算の表示と非表示を切り替えることができます。このウィザードの計算を非表示にする機能は、BSC アーキテクト-KPI デザイナで使用可能です。ウィザード機能にアクセスする方法の詳細は、3-129 ページの「[ユーザー・ウィザード](#)」を参照してください。

「ユーザー・ウィザード」メニューでの「期間累計」計算

ユーザーはウィザードを使用して、「期間累計」計算など、指標内の計算の表示と非表示を切り替えることができます。「ユーザー・ウィザード」の計算を非表示にする機能は、BSC アーキテクト-KPI デザイナ・モジュールで使用可能です。

デフォルト入力方法としての「年累計」計算

「年累計」(YTD) 計算は、KPI へのデフォルト入力方法として設定できます。これは、ユーザーが KPI を入力すると、自動的に「年累計」計算が選択されることを意味します。デフォルト方法として「年累計」を選択すると、メイン・ビューの警告カラーも年累計実績合計対年累計計画として計算されます。

1. KPI では、「年累計」をアクティブな計算として設定しておく必要があります。設定されていない場合は、追加してください。
2. 「年累計」を右クリックし、「計算プロパティ」を選択します。
3. 「計算プロパティ」ウィンドウで「デフォルト」チェック・ボックスを選択して、「年累計」をこの KPI へのデフォルト入力方法にします。
4. 「OK」ボタンを選択して設定を保存します。

注意： デフォルト計算として選択できるのは「年累計」のみです。現行のデータセットの計算として「年累計」が選択されていない場合、このオプションは使用できません。たとえば、資産合計などの残高勘定の場合、「年累計」は使用不可になります。

ベンチマーク

Oracle Balanced Scorecard では、ベンチマークを使用して指標のステータスが計算されます。すべてのスコアカードには、次の 2 つのデフォルト・ベンチマークが含まれています。

予算：警告カラーを計算するためのデフォルト・ベンチマークです。このベンチマークは「データ型 1」として定義されます。このベンチマークにはユーザー定義データが移入され、必要に応じて名称変更できます。

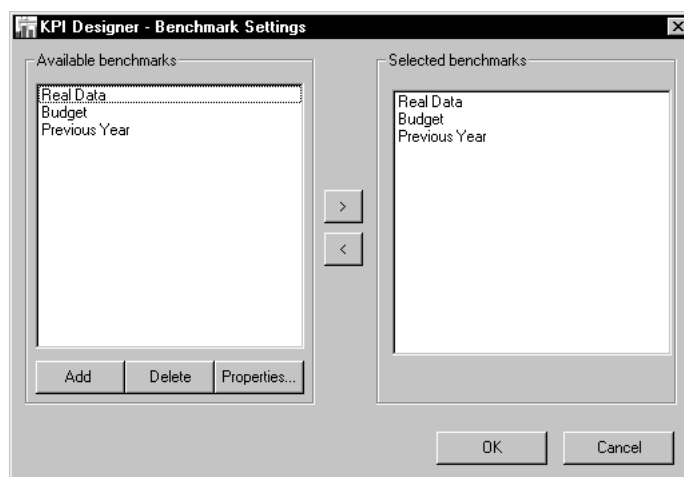
前年度：実際の結果を前年度の結果と比較します。Oracle Balanced Scorecard では、カスタム・ベンチマークも定義できます。

どのバランス・スコアカードの場合も、メイン・ウィンドウに表示される KPI 警告カラーは、常に「データ型 1」（デフォルトで「予算」ベンチマーク）と比較した実績データとして計算されます。

ベンチマークを定義する手順は、次のとおりです。

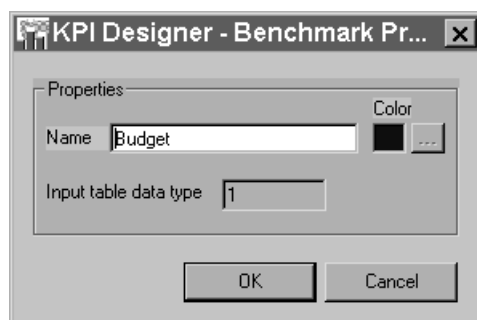
1. 分析グループ・パネルの下領域を右クリックしてポップアップ・メニューを表示します。
2. 「ベンチマークの定義」を選択して「ベンチマーク設定」ウィンドウを表示します。左パネルに、「使用可能ベンチマーク」リストが表示されます。右パネルには、「選択したベンチマーク」リストが表示されます。

図 3-85 「ベンチマーク設定」ウィンドウ



3. 「使用可能ベンチマーク」リストにベンチマークを追加するには、「追加」ボタンを選択します。
4. 「プロパティ」を選択して新規ベンチマークのタイトルを指定します。「ベンチマーク・プロパティ」ウィンドウが表示されます。

図 3-86 「ベンチマーク・プロパティ」ウィンドウ



5. 「名称」フィールドにベンチマークのタイトルを入力します。「入力表データ型」フィールドには、ベンチマークに自動的に割り当てられた番号が表示されます。この番号はデータベースで使用されます。
6. 「カラー」ボタンを選択してカラー・パレットを表示します。ベンチマークの線に使用する基本カラーまたはカスタム・カラーを選択し、「OK」を選択します。「入力表データ型」フィールドには、ベンチマークに自動的に割り当てられた番号が表示されます。この番号は、データベースでこのベンチマークに対応するデータを指定するために使用されます。
7. 手順 2 ～ 5 を繰り返して、バランス・スコアカード仕様に必要なベンチマークを追加作成します。
8. ベンチマークを「使用可能ベンチマーク」リストから削除する場合は、「削除」ボタンを選択します。「実績」、「予算」または「前年度」は、システム・デフォルトなので削除できません。「予算」を削除しようとする、KPI の警告ボックスのカラーに影響するため警告が表示されます。
9. 「使用可能ベンチマーク」パネルでベンチマークを選択し、右矢印ボタンを選択して、現行の指標とともに含めるベンチマークを選択します。ベンチマークのコピーが「選択したベンチマーク」パネルに移動します。

10. 必要なベンチマークをすべて選択し終わるまで、引き続きベンチマークを選択して「選択したベンチマーク」パネルに移動します。
11. ベンチマークを「選択したベンチマーク」リストから削除する場合は、左矢印ボタンを選択します。

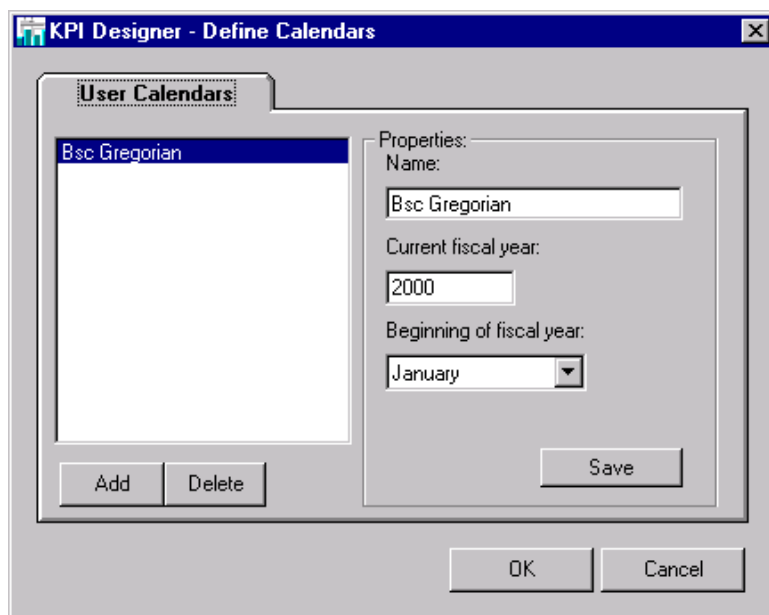
会計年度と会計月

会計年度は組織ごとに異なるため、この設定は新規に作成するバランス・スコアカードごとに定義する必要があります。BSC では、すべての期間は会計年度に基づきます。たとえば、6 月から始まる 1999 会計年度は、1998 年 6 月～1999 年 5 月 31 日を意味します。

会計年度と会計月を定義する手順は、次のとおりです。

1. 分析グループ・パネルの下領域を右クリックしてポップアップ・メニューを表示します。
2. 「カレンダーの定義」を選択して編集ウィンドウを表示します。
3. 変更するカレンダーを選択します。
4. 右側で、選択したカレンダーの現会計年度を入力し、「会計年度期首」プルダウン・メニューを使用して月を選択します。
5. これにより、カレンダーの最初の日次活動期間の「KPI デザイナ - カスタム活動期間」が表示されます。編集ウィンドウで、各期間の開始日を再定義する必要があります。この終了日は、システムにより自動的に入力されます。

図 3-87 「カレンダーの定義」ウィンドウ



6. 「OK」ボタンを選択して作業内容を保存し、「KPI デザイナ - カレンダーの定義」ウィンドウに戻ります。

原因と結果

Scorecard ユーザーは、「指標」ウィンドウの「原因と結果」ボタンをクリックして原因と結果マトリクスを表示できます。このマトリクスは、現行の指標と他のバランス・スコアカード指標の関連を示します。「原因指標」は左側の列に表示されます。これらは、現行の指標のステータスに影響する指標です。「結果指標」は右側の列に表示されます。「結果指標」のステータスは、現行の指標の結果に影響されます。

指標間の原因と結果の関係を分析することで、現行の結果の原因となっている変数を把握できます。この情報は、組織の問題解決戦略を作成する際にも重要です。

バランス・スコアカードの設計時には、指標間の関連を慎重に検討する必要があります。分析ツールとしての原因と結果マトリクスの有効性は、スコアカード設計者がこれらの関連を正確に査定して文書化しているかどうかによって決まります。「原因と結果」は、バランス・スコアカード理論で最も重要な機能の1つです。これを定義するには、前述の概念的プロセスを開発して完全な「原因と結果」スコアカード・モデルを作成する必要があります。

図 3-88 「原因指標」と「結果指標」

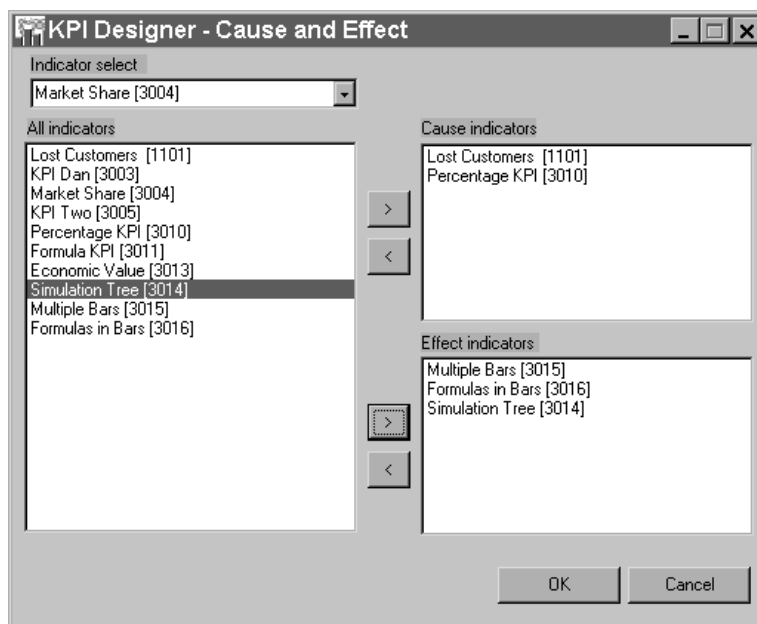
Cause Indicators	Effect Indicators
Product Availability	Product Line Profitability
Top of Mind	Return on Equity
Quality Assurance	
Price Gap	

注意： 指標をそれ自体の原因または結果として選択することはできません。

指標の原因と結果の関連を定義する手順は、次のとおりです。

1. 分析グループ・パネルの下領域を右クリックしてポップアップ・メニューを表示します。
2. 「原因と結果の定義」を選択して「原因と結果」編集ウィンドウを表示します。

図 3-89 原因指標と結果指標の定義



3. 「選択した指標」プルダウン・メニューを使用して指標を選択します。「全指標」パネルには使用可能な全指標のリストが表示されます。「原因指標」パネルには原因指標のリスト、「結果指標」パネルには結果指標のリストが表示されます。
4. 「全指標」パネルで項目を選択し、「原因指標」パネルの隣の右矢印ボタンをクリックして、項目を「原因指標」パネルに移動します。その項目が原因指標とともに表示されます。
5. 項目を「原因指標」パネルから削除するには、左矢印ボタンを選択します。
6. 「全指標」パネルで項目を選択し、「結果指標」パネルの隣の右矢印ボタンをクリックして、項目を「結果指標」パネルに移動します。その項目が結果指標とともに表示されます。
7. 原因指標と結果指標の選択を完了した後、「OK」ボタンを選択して変更内容を保存するか、「取消」ボタンを選択して取り消します。

カラーの構成：アーキテクト

ここでは、パフォーマンス管理デザイナーでカラーを定義する方法について説明します。

警告カラー

バランス・スコアカードの警告カラーは、スコアカードの値がその時期にどの程度計画値から離れているかを示します。たとえば、任意の KPI（ROE など）のトリガー値を定義できます。トリガー値に達すると、その KPI のカラーが変化します。たとえば、20% の ROE をターゲット設定しているときにトリガーをこの値に設定すると、KPI のカラーは ROE が 20% を下回った場合に变化します。

トリガー値の定義（およびこれらの値からの偏差率）は、警告カラーを決定する複数のファクタの 1 つです。次のようなファクタがあります。

- カラー・トリガーの定義（値）
- デフォルト分析オプションの定義（「月次」または「年累計」）
- ディメンション・プロパティの定義（「全て」、「比較」または「修正比較」）
- カラー・メソッドの指定内容（「ターゲットが計画を上回る」、「ターゲットが計画を下回る」または「ターゲットが範囲内である」）

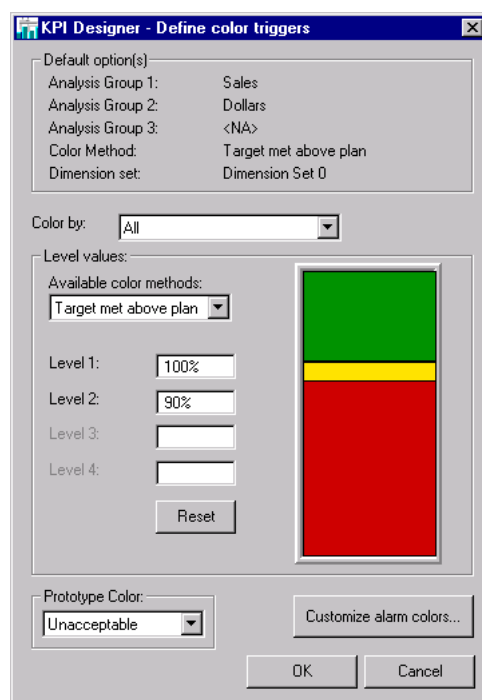
- プロトタイプのカラー（プロトタイプ段階のみ）
- デフォルト・カラーのユーザーによるカスタマイズ（赤、黄および緑以外）

カラー・トリガー：カラー・トリガーは、KPI ビュー・パネルで警告カラーが変化するように定義されているしきい値（計画パフォーマンスに対するパーセント）です。この変化により、ユーザーには KPI の実際のパフォーマンスが計画パフォーマンスから指定の計画パーセントだけ逸脱していることがわかります。

カラー・トリガーのしきいを定義する手順は、次のとおりです。

1. 「KPI デザイナ」で、トリガーを変更する KPI を含んだタブをクリックし、その KPI の隣のボックスを選択して「KPI」ウィンドウを起動します。「KPI」ウィンドウで、分析オプションの下領域を右クリックしてポップアップ・メニューを表示します。このメニューから「カラー・トリガーの定義」を選択して「カラー・トリガーの定義」ウィンドウ（図 3-104）を開きます。

図 3-90 「カラー・トリガーの定義」ウィンドウ



2. 「レベル 1」および「レベル 2」フィールドにトリガー値を入力します。

各トリガー・レベルの値は、カラー・メソッドとタイプにより決定されます。たとえば、「収益」メジャーについて「ターゲットが計画を上回る」カラー・メソッドを選択し、レベル 1 のターゲットを 100% に設定すると、100% を上回る収益は緑、つまり許容可能になります。レベル 2 のターゲットを 90% に設定すると、そのレベルを下回る収益は赤、つまり許容不可能になります。レベル 1 とレベル 2 のターゲットの差により、黄、つまり限界パフォーマンス（90 ～ 100% の収益など）が決定されます。

3. たとえば、メジャーの性質が「費用」でカラー・メソッドが「ターゲットが計画を下回る」の場合、値の論理は次のようになります。レベル 2 を下回る場合、指標のカラーは緑、つまり許容可能になります。レベル 3 および 4 は、カラー・メソッド「ターゲットが範囲内である」に使用できます。

4. 操作を終了後に次のいずれかを実行します。
 - 変更内容を保存して編集ウィンドウを閉じるには、「OK」ボタンを選択します。
 - 変更内容を取り消して編集ウィンドウを閉じるには、「取消」ボタンを選択します。
 - 前に保存した設定を復元して編集ウィンドウを開いたままにするには、「リセット」ボタンを選択します。

デフォルト分析オプションの定義 警告カラーは、デフォルト分析オプションの定義に従って表示されます（このプロセスの詳細は、3-89 ページの「[分析オプション](#)」を参照）。デフォルト・オプションは次のように定義できます。

- **月次:** カラーは特定の月のデータに適用されます。
- **YTD:** カラーは、年累計（6 月中の売上ではなく 6 月までの年累計売上など）のデータに適用されます。

注意: 残高勘定の場合、YTD は適用されないため、「KPI」ビューの「YTD」チェック・ボックスが自動的に使用不可になります。

ディメンション・プロパティの定義: 警告カラーは、ディメンション・プロパティの定義にも影響されます。どのディメンションのデフォルト値も、「全て」、「比較」または特定のディメンション値または項目（「州」ディメンションの場合は「テキサス」など）に設定できます。

「全て」と項目: 「全て」および項目ディメンション値の場合、メイン・ビューのカラーには、ユーザーが KPI を入力するときに「KPI」画面に表示されるディメンション値の実績対ベンチマークが反映されます。

比較: 「カラー基準」ドロップダウン・リストがアクティブになるのは、KPI ディメンションの 1 つがデフォルトで「比較」に設定されている場合のみです。その場合は、このドロップダウン・リストからビューの警告カラーの計算方法を選択できます。「最小共通カラー」を選択すると、警告カラーは最小共通カラー・メソッドに基づいて計算されます。これは、標準の比較カラー・メソッドです。

このメソッドを選択すると、ディメンション内の各値のカラーが計算されてから、ビューの警告カラーが関連ディメンション値のカラーの最小共通カラーになるように定義されます。たとえば、あるディメンション値が黄として計算され、他のディメンション値がすべて緑として計算される場合、KPI の警告カラーは黄となります。各ディメンション値は、特定の KPI に定義されているパーセントを基準とする実績対ベンチマークとして計算されます。これは、警告カラーに次のように影響します。

- ディメンション値が赤の場合、メイン・ビューの KPI カラーは赤になります。
- いずれかのディメンション値が赤ではなく黄の場合、メイン・ビューの KPI カラーは黄になります。
- すべてのディメンション値が緑の場合、メイン・ビューの KPI カラーは緑になります。

「全て」を選択すると、警告カラーはディメンションの合計に基づいて計算されます。これは、ディメンションがデフォルトで「全て」に設定されている場合と同じで、「修正比較」カラー・メソッドと呼ばれます。

修正比較: 管理者は、比較ディメンションのすべての値の実績値とベンチマークの比較に基づいて警告ビューのカラーを計算するように、比較ディメンションを構成できます。これは、比較モードを使用するが、最小共通カラー・メソッドでは不十分な場合の代替メソッドです。管理者は、ユーザーに KPI の計算方法を教育する必要があります。これは、KPI に最初に表示される分析オプションとディメンション値に基づいて警告カラーが計算されるというルール of the 唯一の例外であるためです。

メソッドの組合せ：1つの KPI に前述の各メソッドを併用できますが、ディメンションの親子関連の整合性を維持するために一部の制限が適用されます。KPI デザインでは、KPI の作成または変更時にシステムで適切な制限が自動的に維持されます。ただし1つ例外があり、ビューの警告カラーは最終的にはデフォルト値（KPI の最初の入力時にユーザーに表示される値）により計算されるという基数ルールが常に適用されます。

その他の注意：別々の時期に実績データが更新された KPI が BSC に含まれる場合、これらの異なる実績期間が警告カラーに反映されます。たとえば、KPI 1 が最後に更新されたのが3月で、KPI 2 が最後に更新されたのが4月であれば、警告はそれぞれの月に基づきます。

- KPI に複数の活動期間が存在する場合、警告カラーはデフォルトの活動期間に基づいて決定されます。
- KPI の警告カラーは、常に実績データとコード1のベンチマーク（KPI デザイン内）の比較として計算されます。コード1のベンチマークは、計画としてデフォルト設定されます。他のベンチマークを基準にして警告カラーを計算することはできません。
- コード1のベンチマークの名称は KPI デザインで変更できますが、この名称は KPI 固有ではなく、すべてのスコアカード間でグローバルです。
- KPI についてベンチマーク・データがまったくロードされていない場合、デフォルトの警告カラーは濃い灰色です。このデフォルト・カラーを変更する場合は、メイン・ポップアップ・メニューから「カラー・トリガーの定義」→「警告カラーのカスタマイズ」を選択します。
- KPI にベンチマークを設定することが適当でない場合は、すべてのベンチマークを KPI から削除でき、デフォルトのビュー・カラーは薄い灰色です。
- 複数棒 KPI の場合、警告カラーはデフォルトのデータ系列に基づきます。デフォルトのデータ系列は、BSC ビューでユーザーが KPI にアクセスしたときに常に最初に表示される系列です。このデフォルトは、管理者が設定できます。複数棒 KPI に警告カラーを使用するには、デフォルト系列にコード1のベンチマーク・データが必要です。
- KPI が本番モードで変更されると、警告カラーに影響する可能性があります。KPI の変更後にローダーを再実行して、そのカラーを再びアクティブ化する操作が必要になる場合があります。本番モードで変更された KPI は、ローダーを再実行するまでは薄い灰色で表示される場合があります。

トレンド・グラフのカラーの計算：KPI のデフォルト設定がトレンド・グラフである場合、1つ目のディメンションに対する当月の実績データ対計画データ、およびデフォルトの分析オプションの組合せを取得することで、警告カラーが計算されます。その後システムではカラー・トリガー・パーセントを使用して適切なカラーが計算されます。

比較グラフのカラーの計算：指標のデフォルト設定が比較グラフである場合、「比較」ディメンションのデフォルトの分析オプションの組合せにおいて、各ディメンション値（比較グラフの各棒）の個々のカラーを計算するためのカラー・トリガー・パーセントを使用することにより、カラーが決定されます。赤、黄および緑のデフォルトの警告カラーについては、次のとおり報告されます。

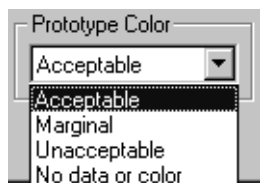
- ディメンション値が赤の場合、メイン・パネルの KPI カラーは赤になります。
- ディメンション値が黄であり赤でない場合、KPI カラーは黄になります。
- ディメンション値がすべて緑の場合、カラーは緑になります。

シミュレーション・ツリーのカラーの計算：指標のデフォルト設定がシミュレーション・ツリーの場合、選択したツリーの特定期間の実績値を計画パフォーマンスと比較することで、カラーが決定されます。カラー計算を決定するデフォルト・ノードの定義については、3-61 ページの「カラー計算を決定するノードを定義する手順は、次のとおりです。」を参照してください。

カラー・メソッドの定義 警告カラーの外観に影響する第3のファクタは、カラー・メソッドの定義です。カラー・メソッドは、KPI のタイプと KPI ビューの構成（傾向または比較）に応じて変更できます。

プロトタイプ・カラー 「プロトタイプ・カラー」ドロップダウン・リスト（図 3-91）を使用するのは、アプリケーションに実績データがロードされる前の BSC システムのプロトタイプ段階のみです。プロトタイプ・モードの間にのみ、このドロップダウン・リストを使用して、メイン・ビューの KPI 警告カラーを設定できます。これによりプレゼンテーションが容易になり、製品に関して一貫したデモンストレーションを提供できます。また、「デフォルト KPI」ウィンドウの設定（実績対計画）は、メイン・ビューの警告カラーにあわせてアプリケーションにより設定されます。

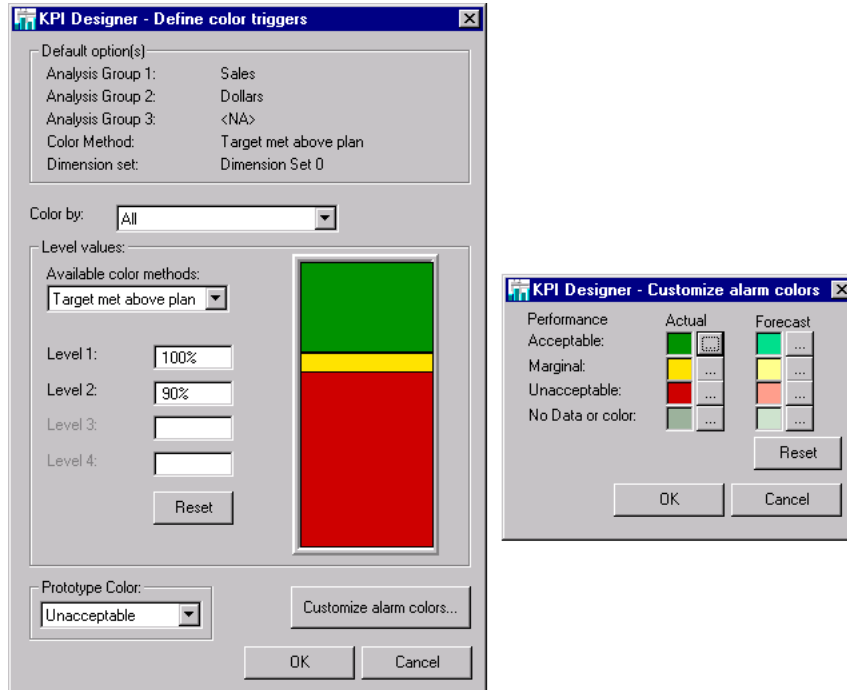
図 3-91 「プロトタイプ・カラー」メニュー



警告カラーのユーザー・カスタマイズ ユーザーがデフォルトの警告カラー（赤、黄および緑）を変更する必要がある場合は、「警告カラーのカスタマイズ」ボタンを使用してカスタマイズできます。この機能にアクセスする手順は、次のとおりです。

1. KPI 内で、KPI グラフ制御パネルの右にあるオープン領域を右クリックし、ポップアップ・メニューから「カラー・トリガーの定義」を選択します。
2. 「警告カラーのカスタマイズ」ボタンを選択します。「警告カラーのカスタマイズ」ウィンドウが表示されます（図 3-47）。

図 3-92 警告カラーのカスタマイズ



3. 実績期間と予測期間のカラーを選択できます。計画を上回る場合は「許容可能」行、計画を少し下回る場合は「限界」行、計画を下回る場合は「許容不可」行、データがない場合は「データまたはカラーなし」行を使用します。カラーを選択した後に「OK」ボタンを選択します。

4. もう1度「OK」ボタンを選択して「カラー・トリガーの定義」ウィンドウを閉じます。
- これで、カラー・トリガーがカスタム・カラー構成を使用して表示されます。

注意： システムの設計者として、デフォルトの警告カラーには従来の交通信号方式である緑、黄および赤が反映されていることに注意してください。新規の警告カラーをカスタマイズすると、このパラダイムを変更することになり、カラーの新しい意味を組織に伝えることが必要になります。

142% を上回るカラー感度の定義

この機能は以前のリリースと同じですが、設計者は 0 ～ 999% の範囲を設定できます。カラー・グラフ上の線を移動してトリガー制限を設定するには、この範囲はドラッグ・アンド・ドロップ機能を使用するかわりに数値として入力する必要があります。

注意： KPI デザインで比較モードの「KPI」ビューにストップライトを使用してカラー・トリガー情報を表示する機能も、使用できなくなりました。この情報を表示するには、「データセットの割当」→「データ・セット」にナビゲートして「カラー・メソッド」を表示してから、「カラー・トリガーの定義」にナビゲートし、対応するカラー・メソッドを選択してカラー・トリガー情報を確認してください。

100% を上回るパフォーマンスの表示

許容範囲が計画を下回るデータについて 100% を上回るパフォーマンスを表す必要がある場合、設計者は 100% を超えても許容されるように指定できます。100% を上回るパフォーマンスを表すと、「パーセント」および「変動」計算が影響を受けます。

たとえば、会社が月に \$120,000 の費用を計画していても、\$55,000 を消費して \$65,000 を節減すれば、パフォーマンスは適正です。通常、「パーセント」および「変動」計算（（実績 - 計画 / 計画）+1）では、パフォーマンスは 45.8% となります。

ただし、会社のパフォーマンスを別の方法（（計画 - 実績） / 計画）+1 で計算することもできます。この場合、結果は 154% となり、54% の超過パフォーマンスまたは 54% の節減として表現できます。

パフォーマンスが 100% を上回るパーセントとして表される場合は、次の項目が影響を受けます。

- **パフォーマンス。**「パーセント」および「変動」計算は、これらの計算を使用するすべてのビュー、指標および表に影響します。これらはすべて同じ結果を反映する必要があります。
- **KPI ビューと詳細ビュー。**グラフには、100% を上回る「パーセント」計算が表示されます。「パーセント」および「変動」計算は、これらのビューのグラフと表の両方に影響します。
- **複数系列。**データ変動の動作は同じですが、「変動」計算が使用されます。

100% を上回るパーセントを表示する場合、表示されるカラーは影響を受けません。カラー結果はまったく同じです。

100% を上回るパーセントを表示する場合の考慮事項は次のとおりです。

- **カラー計算：**内部的なカラー計算は影響を受けません。カラー結果は同じです。
- **システム・レベルでの定義：**「カラー・トリガー」プロパティはシステム・レベルのプロパティのため、計算方法もシステム・レベルで処理する必要があります。そのため、設計者が 100% を上回るパーセントを表示するように決定した場合は、その計算方法を使用するすべての指標にカラー・トリガーを適用する必要があります。それ以外の場合は、指標、計算、メジャーおよびデータ系列の表現間に様々な不整合と誤った解析が生じます。
- **「カラー警告情報」ウィンドウでの計算の解析：**「カラー警告情報」ウィンドウには、パフォーマンスの計算に使用される方法が表示されます。

- BSC アーキテクトでの信号: 信号では、100% を上回る値と計画を下回る許容範囲内の値に緑が使用されます。オリジナルの計算方法を使用すると、信号では同じパフォーマンスに対して赤が表示されます。

アップグレードの問題に関する注意

この新機能では、以前のリリースにおけるシステムの表示または計算は変更されません。このオプションを使用する必要がある場合は、「ビルダー」の「システム・プロパティ」ウィンドウで方法を再構成する必要があります。

142% を上回るカラー感度の定義

この機能は以前のリリースと同じですが、設計者は 0 ～ 999% の範囲を設定できます。カラー・グラフ上の線を移動してトリガー制限を設定するには、ドラッグ・アンド・ドロップ機能を使用するかわりに、この範囲を数値として入力する必要があります。

この操作には、BSC アーキテクト-KPI デザイナ・ツールを使用できます。

注意: KPI デザイナで比較モードの KPI ビューにストップライトをドラッグ・アンド・ドロップしてカラー・トリガー情報を表示する機能は、使用できなくなりました。

評価およびコメント機能

バランス・スコアカードエンド・ユーザーは、BSC ビューワで使用可能なメニューを直接使用して、指標ごとに定量的な評価とコメントを作成できます。この機能の詳細は、ユーザーズ・ガイドを参照してください。ただし、システム管理者または設計者は、評価およびコメントの作成者として取り出されるユーザーが適切に作成されていることと、そのユーザーに適切な担当を割り当てていることを確認する必要があります。この操作については、Oracle Applications Forms におけるユーザーの作成方法に関する説明を参照してください。

手順については、付録 A「Oracle Applications のセキュリティ」を参照してください。

評価とコメントの削除機能と編集機能

このリリースでは、ユーザーがコメントと評価を削除および更新できます。この機能を使用できるのは、コメントまたは評価のオーナーと、「バランス・スコアカード・マネージャ」職責を持つユーザーです。

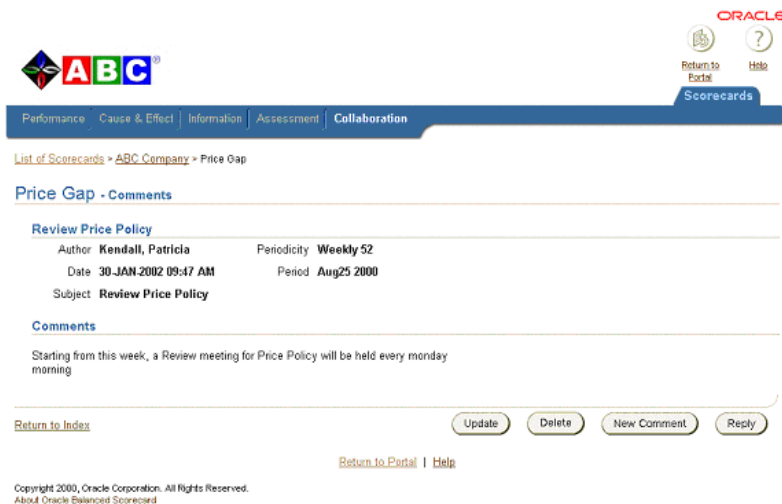
注意: 「削除」ボタンが使用不可の場合、ユーザーはコメントまたは評価のオーナーでないか、「バランス・スコアカード・マネージャ」職責を持っていません。「バッチ削除」ボタンが使用不可の場合、ユーザーは「バランス・スコアカード・マネージャ」職責を持っていません。

単一のコメントおよび評価の削除

単一のコメントまたは評価を削除する手順は、次のとおりです。

1. コメントまたは評価を編集します。
2. 「削除」ボタンを選択します。コメントまたは評価が削除されます。

図 3-93 「削除」ボタンを含む「コメント」ウィンドウ



単一のコメントまたは評価を削除する場合、確認メッセージは表示されません。かわりに、「コメント」または「評価」ウィンドウの索引に戻ります。

コメントおよび評価のバッチ削除

コメントまたは評価のバッチを削除する手順は、次のとおりです。

1. 「協力」または「評価」ウィンドウで「バッチ削除」ボタンを選択します。

図 3-94 「バッチ削除」ボタンを含む「協力」ウィンドウ

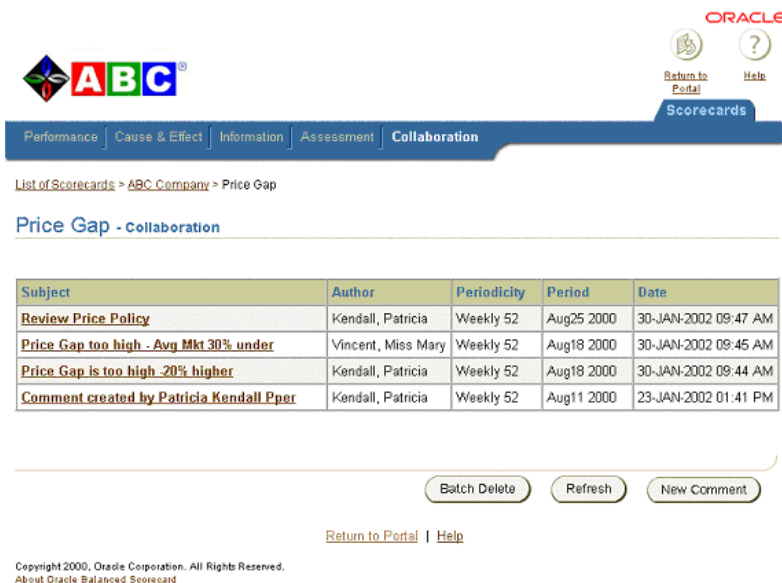


図 3-95 「バッチ削除」 ボタンを含む「評価」ウィンドウ

ORACLE

Return to Portal Help

Scorecards

Performance Cause & Effect Information **Assessment** Collaboration

List of Scorecards > ABC Company > Price Gap

Price Gap - Assessment

Assessment	Subject	Author	Periodicity	Period	Date
	test 09272001	Vincent, Miss Mary	Monthly	Jan 2000	27-SEP-2001 03:42 PM

Batch Delete Refresh New Assessment

Return to Portal | Help

Copyright 2000, Oracle Corporation. All Rights Reserved.
About Oracle Balanced Scorecard

2. 削除するコメントまたは評価の期間を選択します。

図 3-96 バッチ削除の期間

ORACLE

Return to Portal Help

Scorecards

Performance Cause & Effect Information Assessment **Collaboration**

List of Scorecards > ABC Company > Price Gap

Batch Delete - comments

Please select the date range for which Comments entries will be deleted.

☒ TIP Entries in this indicator are dated from 23-JAN-2002 to 30-JAN-2002.

Start Date

Year 2000 Month 1 Day 1

End Date

Year 2000 Month 1 Day 1

Options

☒ Delete entries from this indicator

☐ Delete entries from all indicators

Cancel Apply

Return to Portal | Help

Copyright 2000, Oracle Corporation. All Rights Reserved.

3. 指標のバッチのみを削除するか、システム全体でバッチを削除するかを選択します。
4. 「適用」ボタンを選択してバッチを削除します。アクションが開始されることを示す確認メッセージが表示されます。前画面に戻る場合は「取消」ボタンを選択します。
5. 「適用」ボタンを選択してバッチを削除します。「協力」または「評価」ウィンドウに戻ります。削除を中止するには「取消」ボタンを選択します。
6. 「リフレッシュ」ボタンを選択して、コメントまたは評価のリストをリフレッシュします。

コメントと評価の更新

コメントまたは評価を更新する手順は、次のとおりです。

1. コメントまたは評価を編集します。
2. 「更新」ボタンを選択します。
3. コメントまたは評価を編集します。
4. 「適用」ボタンを選択して編集内容を保存します。「協力」または「評価」ウィンドウに、変更時刻と変更者が表示されます。変更せずに前のウィンドウに戻るには、「取消」ボタンを選択します。

指標のディメンションのキー項目の定義

管理者は、「キー項目の定義」(図 3-97) で特定のディメンション値をその KPI のデフォルトのディメンション設定として定義できます。たとえば、ディメンション値「テキサス」を「州」ディメンションのデフォルトとして定義できます。「テキサス」をディメンションのデフォルトとして定義すると、次の 2 つの結果になります。

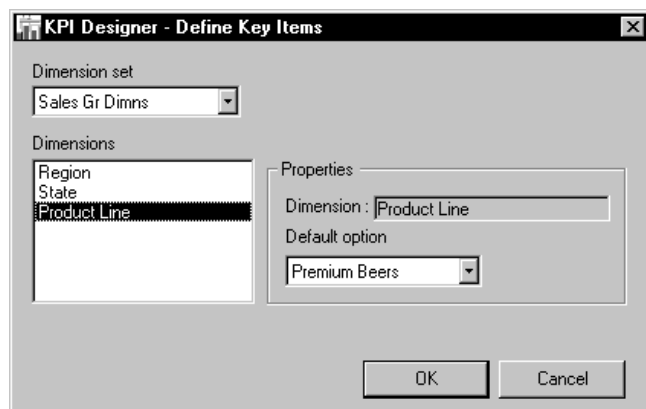
注意： 定義したキー項目は、メイン・パネルの KPI のカラー・ドライブになります。

1. 「テキサス」は、KPI への入力時にすべてのユーザーに対して常に表示されるディメンション値になります。
2. メイン・ビューの警告カラーは、「テキサス」の実績対計画に基づいて計算されます。(たとえば、テキサスの全製品の全搬送タイプについて、実績対計画として計算できます)。

このオプションを使用できるのは、ディメンション値が BSC システムにロードされた後のみです。また、特定のディメンション値をデフォルトとして選択した場合に、そのディメンション値のデータが存在しなければ、指標のカラーは灰色になります。

デフォルト固有のディメンション値を選択する手順は、次のとおりです。

図 3-97 「キー項目の定義」ウィンドウ



1. 「KPI デザイナ」ポップアップ・メニューで「キー項目の定義」を選択します。
2. KPI に複数のディメンション・セットが割り当てられている場合は、「ディメンション・セット」ドロップダウン・メニューから変更するディメンション・セットを選択できます。
3. 「ディメンション」ペインで、特定の値を選択するディメンションを選択します。
4. 「デフォルト・オプション」ドロップダウン・メニューで、指標のデフォルトにする特定のディメンション値を選択します。

5. 「ディメンション」ペインで新規ディメンションを選択し、手順 4 を繰り返します。KPI に複数のディメンション・セットが割り当てられている場合は、新規ディメンション・セットを選択して手順 3 および 4 を繰り返すこともできます。
6. 「OK」ボタンを選択して設定を保存し、終了します。

注意： 特定の値をデフォルトとして一度に選択できるのは、ディメンション関連内の 1 つのディメンションのみです。たとえば、「リージョン」が「州」の親であれば、「リージョン」または「州」について特定の値（前者の場合は「南部」、後者の場合は「テキサス」など）を選択できますが、両方は選択できません。

「デフォルト・オプション」ドロップダウン・メニューの「デフォルト <T>」または「デフォルト <C>」項目は、「ディメンション・グループ-ディメンション・プロパティ」ウィンドウで定義済の「デフォルト・オプション」設定を指します。<T> はこのディメンションのデフォルトがトレンド（垂直棒）グラフであることを示し、<C> は比較グラフであることを示します。

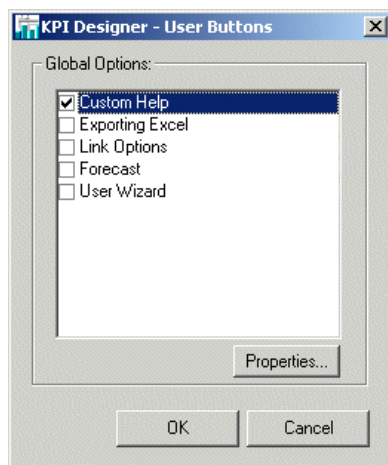
その他の KPI プロパティの定義：アーキテクト

この項では、BSC アーキテクトでその他の KPI プロパティを定義する方法について説明します。

ユーザー・ボタンの指定

この機能を使用すると、バランス・スコアカード用にアクティブ化されるユーザー・ボタンを指定できます。分析グループ・パネルの下領域を右クリックして「ユーザー・ボタン」パネルにアクセスします。表示されるポップアップ・メニューから「ユーザー・ボタンの指定」を選択します。使用可能なボタン・セットは次のとおりです。

図 3-98 ユーザー・ボタン



- **カスタム・ヘルプ：**マルチメディア・ヘルプと他のオンライン・サポート・ツールにアクセスできます。
- **Excel にエクスポート：**現行の「指標」ウィンドウから Excel スプレッドシートにデータをエクスポートします。
- **リンク・オプション：**指定のアプリケーションを起動できます。
- **予測：**「指標」ウィンドウの見積バーのオンとオフを切り替えることができます。
- **ユーザー・ウィザード：**「ユーザー・ウィザード」を使用できます。このウィザードを使用すると、ユーザーは各自のスコアカードのビューをカスタマイズできます。

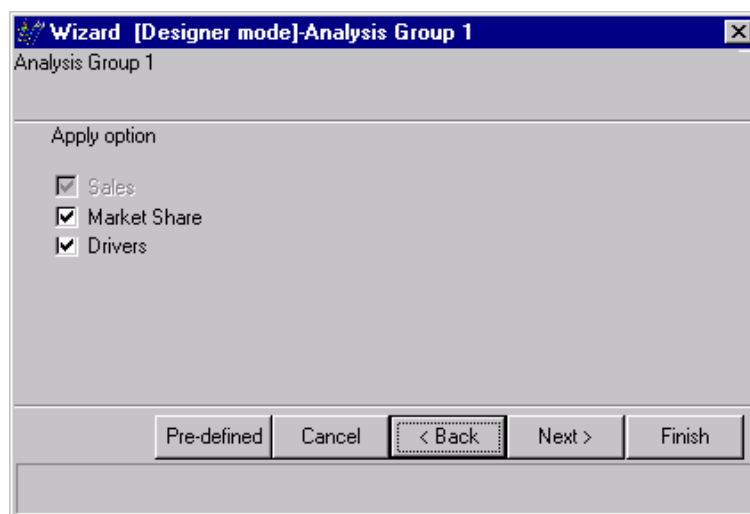
ユーザー・ウィザード

「ユーザー・ウィザード」は、共有 KPI を構成できるツールです。このウィザードを使用すると、前にマスター KPI で定義したオプションの表示または非表示を切り替えることができます(3-138 ページの「[KPI デザイナ - BSC アーキテクトにおけるマスター KPI と共有 KPI の構成](#)」を参照)。この機能を有効にするには、「ユーザー・ボタン」ウィンドウで「ユーザー・ウィザード」チェック・ボックスを選択します。

「ユーザー・ウィザード」で指標を構成する手順は、次のとおりです。

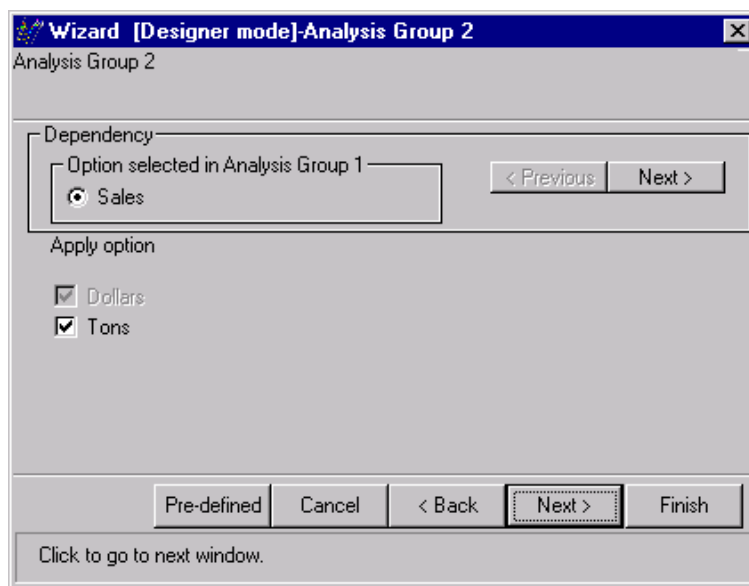
1. 分析グループとオプションを構成する KPI を含んだタブをクリックします。
2. 右クリックして「ユーザー・ボタンの定義」を選択し、「ユーザー・ウィザード」を使用可能にします。「ユーザー・ボタン」画面で、「ユーザー・ウィザード」を選択してそのボタンを使用可能にします。この画面を終了すると、「ユーザー・ウィザード」ボタンが表示されます。このボタンを選択すると、ウィザードが起動します。
3. 「次」ボタンを選択して「分析グループ」ウィンドウを表示します。このウィンドウを使用して、構成するオプションを選択します。オプションを選択すると、以降の画面で依存ディメンション、活動期間および計算の構成を変更できます。

図 3-99 「ユーザー・ウィザード」、「親オプション」ウィンドウ



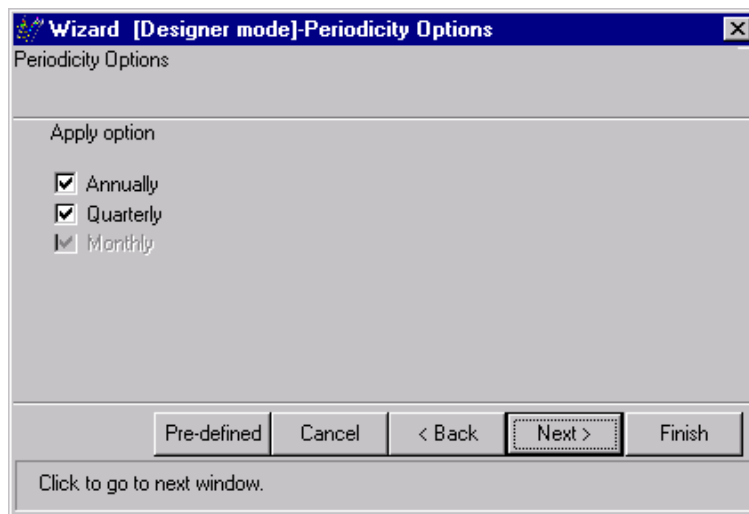
4. このタブに表示される分析グループのオプションごとに、表示する依存オプションを選択します。「依存」ウィンドウ (図 3-100) で、グループ内の各オプションをスクロールして、オプションを選択するか選択を解除します。

図 3-100 「ユーザー・ウィザード」、「子オプション」ウィンドウ



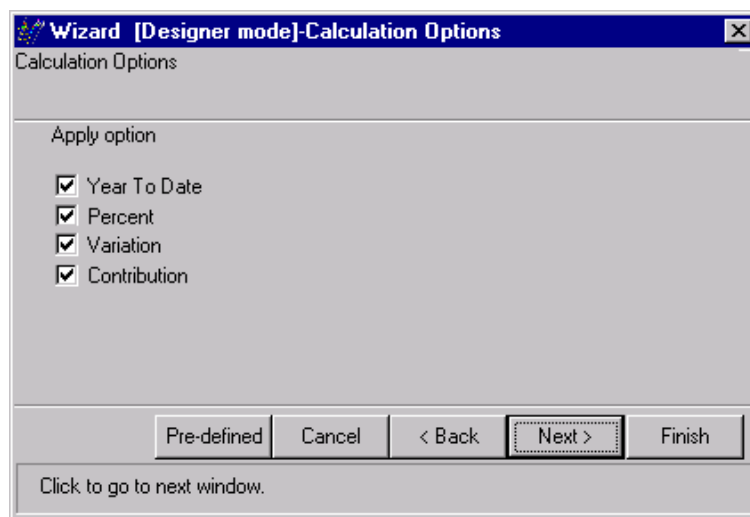
5. 「次」ボタンを選択して、このタブでこの指標に関して表示または非表示にする活動期間オプションを選択します。選択内容によっては、同じ KPI について複数のオプションを表示できます。たとえば、このウィンドウ（図 3-101）に選択内容に応じて公開されるボックスを選択するか選択を解除して、同じ KPI とともに月次、四半期、または年次データを表示できます。

図 3-101 「ユーザー・ウィザード」、「活動期間オプション」ウィンドウ



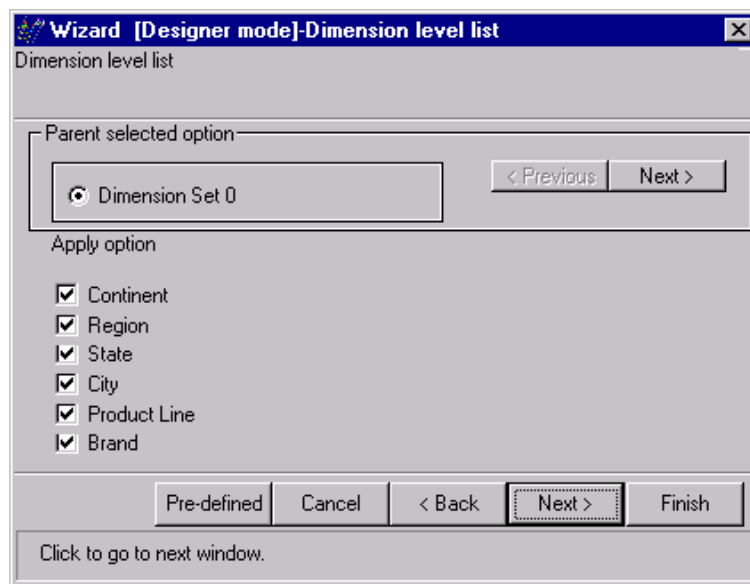
6. 次のウィンドウ（図 3-102）で、このタブで表示するか非表示にする計算を、マスター KPI 用に構成された計算のセットから選択できます。「貢献」計算は、比較（トレンド）グラフでのみ使用可能になります。

図 3-102 「ユーザー・ウィザード」、「計算オプション」 ウィンドウ



7. 次のウィンドウ（図 3-103）で、表示するか非表示にするディメンション・レベルを、マスター KPI 用に構成されたディメンション・セットから選択できます。ディメンションが非公開の場合も、「KPI」画面で系列をクリックするとドリルできます。この画面に適用するオプションにより、その KPI の「KPI」ウィンドウでディメンションのプルダウン・メニューに表示されるオプションが決定されます。

図 3-103 「ユーザー・ウィザード」、「ディメンション・レベル・オプション」 ウィンドウ



8. このプロセスを、分析オプションを構成するすべてのタブと KPI に対して繰り返します。

注意：「ユーザー・ウィザード」機能は、パフォーマンス管理デザイナー設計ツールで「メジャーの非表示 / 表示」としても使用できます。

指標のカラー・プロパティの構成: アーキテクト

パフォーマンス管理デザイナまたは BSC アーキテクトを使用して、この構成について指標のカラー・プロパティを構成するように選択できます。

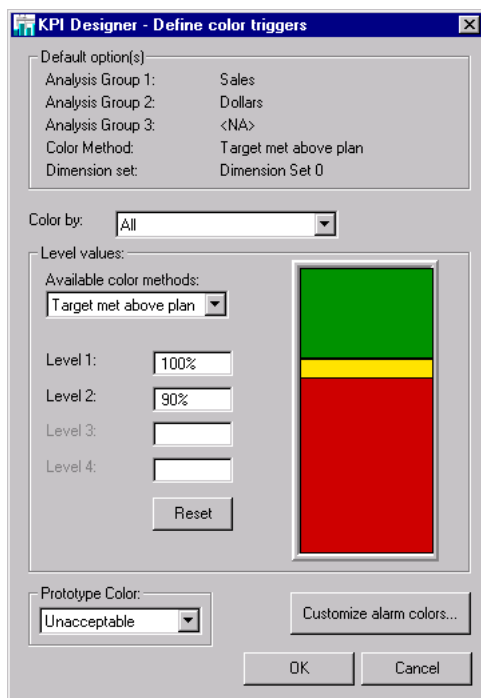
設計者には、新規のパフォーマンス管理デザイナを使用して、すべての変更と構成の集中化を開始することをお勧めします。これにより、BSC アーキテクトとパフォーマンス管理デザイナの間でジャンプする必要がなくなります。

この特定の KPI カラー・プロパティの場合、「システムにあわせた警告カラーのカスタマイズ」で説明する機能の一部を使用するには、BSC アーキテクトを使用する必要があります。これは、顧客はあまり使用しない機能ですが、BSC アーキテクトを介してサポートされているオプションです。

BSC アーキテクト・ツールを介して KPI のカラー・プロパティを構成するように選択した場合の手順は、次のとおりです。

1. 「KPI デザイナ」で、トリガーを変更する KPI を含んだタブをクリックし、その KPI の隣のボックスを選択して「KPI」ウィンドウを起動します。「KPI」ウィンドウで、分析オプションの下領域を右クリックしてポップアップ・メニューを表示します。このメニューから「カラー・トリガーの定義」を選択して「カラー・トリガーの定義」ウィンドウ (図 3-104) を開きます。

図 3-104 「カラー・トリガーの定義」ウィンドウ



2. 「レベル 1」および「レベル 2」フィールドにトリガー値を入力します。

各トリガー・レベルの値は、カラー・メソッドとタイプにより決定されます。たとえば、「収益」メジャーについて「ターゲットが計画を上回る」カラー・メソッドを選択し、レベル 1 のターゲットを 100% に設定すると、100% を上回る収益は緑、つまり許容可能になります。レベル 2 のターゲットを 90% に設定すると、そのレベルを下回る収益は赤、つまり許容不可能になります。レベル 1 とレベル 2 のターゲットの差により、黄、つまり限界パフォーマンス (90 ~ 100% の収益など) が決定されます。

3. たとえば、メジャーの性質が「費用」でカラー・メソッドが「ターゲットが計画を下回る」の場合、値の論理は次のようになります。レベル 2 を下回る場合、指標のカラーは緑、つまり許容可能になります。レベル 3 および 4 は、カラー・メソッド「ターゲットが範囲内である」に使用できます。

4. 操作を終了後に次のいずれかを実行します。
 - 変更内容を保存して編集ウィンドウを閉じるには、「OK」ボタンを選択します。
 - 変更内容を取り消して編集ウィンドウを閉じるには、「取消」ボタンを選択します。
 - 前に保存した設定を復元して編集ウィンドウを開いたままにするには、「リセット」ボタンを選択します。

カラー・トリガーのしきいを定義する手順は、次のとおりです。

1. 対応するラジオ・ボタンをクリックして、分析グループのデフォルト・オプションを選択します。
2. 分析グループ・パネルの下領域を右クリックしてポップアップ・メニューを表示します。
3. 「データセットの割当」を選択します。
4. 「データセットの割当」ウィンドウで「プロパティ」ボタンをクリックします。
5. 「データセット・プロパティ」タブをクリックして手前に表示します。
6. 「プロパティ」パネルで指標のカラー・メソッドを選択します。
 - **ターゲットが計画を上回る**：実際の結果がターゲット値の計画を上回った場合に、緑（またはユーザー指定のカラー）が表示されます。例：収益または売上。
 - **ターゲットが計画を下回る**：実際の結果が計画値を下回った場合に、緑（またはユーザー指定のカラー）が表示されます。例：製造原価、従業員回転率。
 - **ターゲットが範囲内である**：実際の結果が指定の範囲値の間にある場合に、緑（またはユーザー指定のカラー）が表示されます。例：在庫。「OK」を選択して変更内容を保存します。

注意：「使用可能カラー・メソッド」ポップリストには、指標に定義されているカラー・メソッドのみが表示されます。

7. もう1度「OK」ボタンを選択して変更内容を保存し、「データセットの割当」ウィンドウを閉じます。
8. 分析グループ・パネルの下領域を右クリックしてポップアップ・メニューを表示し、「カラー・トリガーの定義」を選択します。「カラー・トリガーの定義」編集ウィンドウが表示されます。上部パネルには、各グループのデフォルト分析オプション用に選択されているカラー・メソッドが表示されます。この情報は、指標の警告カラーがメイン・ウィンドウにどのように表示されるかを示します。

下部パネルの「使用可能カラー・メソッド」プルダウン・メニューには、すべてのデータセットの評価により KPI に割り当てられているカラー・メソッドが表示されます。「レベル」フィールドは、各種カラー・レベルがトリガーされるパーセントを示します。

注意：ウィンドウの上部で識別されたデフォルトの警告カラー・メソッドのみが、メイン・パネルの警告カラーに影響します。

特殊なカラー・メソッド

この項では、特殊なカラー・メソッドの取扱方法について説明します。

100% を上回るパフォーマンス

許容範囲が計画を下回るデータについて 100% を上回るパフォーマンスを表す必要がある場合、設計者は 100% を超えても許容されるように指定できます。100% を上回るパフォーマンスを表すと、「パーセント」および「変動」計算が影響を受けます。

たとえば、会社が月に \$120,000 の費用を計画していても、\$55,000 を消費して \$65,000 を節減すれば、パフォーマンスは適正です。通常、「パーセント」および「変動」計算（(実績 - 計画 / 計画) + 1）では、パフォーマンスは 45.8% となります。

ただし、会社のパフォーマンスを別の方法（(計画 - 実績) / 計画 + 1）で計算することもできます。この場合、結果は 154% となり、54% の超過パフォーマンスまたは 54% の節減として表現できます。

パフォーマンスが 100% を上回るパーセントとして表される場合は、次の項目が影響を受けます。

- **パフォーマンス。**「パーセント」および「変動」計算は、これらの計算を使用するすべてのビュー、指標および表に影響します。これらはすべて同じ結果を反映する必要があります。
- **KPI ビューと詳細ビュー。**グラフには、100% を上回る「パーセント」計算が表示されます。「パーセント」および「変動」計算は、これらのビューのグラフと表の両方に影響します。
- **複数系列。**データ変動の動作は同じですが、「変動」計算が使用されます。

100% を上回るパーセントを表示する場合、表示されるカラーは影響を受けません。カラー結果はまったく同じです。

100% を上回るパーセントを表示する場合の考慮事項は次のとおりです。

- **カラー計算：**内部的なカラー計算は影響を受けません。カラー結果は同じです。
- **システム・レベルでの定義：**「カラー・トリガー」プロパティはシステム・レベルのプロパティのため、計算方法もシステム・レベルで処理する必要があります。そのため、設計者が 100% を上回るパーセントを表示するように決定した場合は、その計算方法を使用するすべての指標にカラー・トリガーを適用する必要があります。それ以外の場合は、指標、計算、メジャーおよびデータ系列の表現間に様々な不整合と誤った解析が生じます。
- **「カラー警告情報」ウィンドウでの計算の解析：**「カラー警告情報」ウィンドウには、パフォーマンスの計算に使用される方法が表示されます。
- **BSC アーキテクトでの信号：**信号では、100% を上回る値と計画を下回る許容範囲内の値に緑が使用されます。オリジナルの計算方法を使用すると、信号では同じパフォーマンスに対して赤が表示されます。

アップグレードの問題に関する注意

この新機能では、以前のリリースにおけるシステムの表示または計算は変更されません。このオプションを使用する必要がある場合は、「ビルダー」の「システム・プロパティ」ウィンドウで方法を再構成する必要があります。

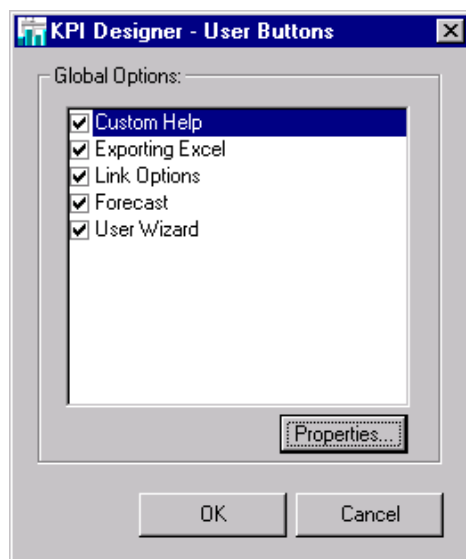
リンクの定義：アーキテクト

「リンク」機能を使用すると、Oracle Balanced Scorecard で作業中に URL を起動できます。「リンク」ボタンを使用して起動できるように、1 つ以上の異なる URL を構成できます。

「リンク」ボタンを使用可能にする手順は、次のとおりです。

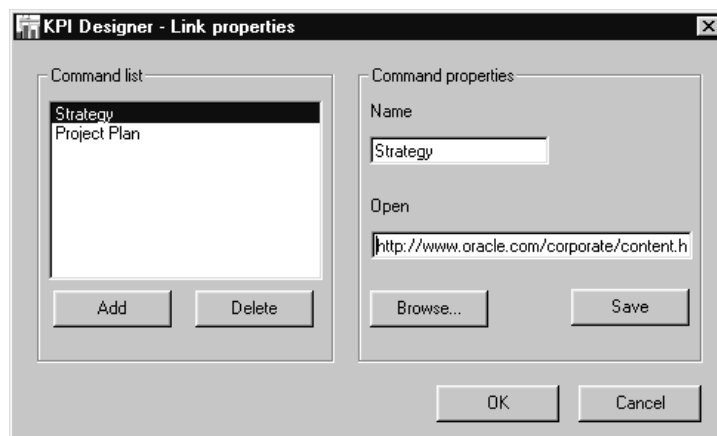
1. 「ユーザー・ボタン」ウィンドウ (図 3-105) で「リンク」チェック・ボックスを選択します。

図 3-105 「ユーザー・ボタン」オプション・ウィンドウ



2. 「プロパティ」ボタンを選択して「リンク・プロパティ」ウィンドウ（図 3-106）を表示します。

図 3-106 「リンク・プロパティ」、リンクを入力済の状態



3. 「コマンド・リスト」パネルで「追加」ボタンを選択して新規リンクまたは URL を追加します。
4. 「コマンド・プロパティ」パネルに、追加する URL の名称を入力します。
5. 「オープン」フィールドに URL を入力します。
6. 「保存」ボタンを選択して変更内容を保存するか、「取消」ボタンを選択して取り消します。リンクを保存するとリンク・リストに格納され、後で BSC ビューワの「リンク」セクションを介してアクセスできます。
7. 引き続きリンクを追加し、必要なリンクをすべて構成します。
8. 「OK」ボタンを選択して変更内容を保存し、「リンク・プロパティ」ウィンドウを閉じるか、「取消」ボタンを選択して変更を取り消し、ウィンドウを閉じます。

「リンク」機能を有効にすると、エンド・ユーザーは BSC ビューワの「リンク」セクションにアクセスできます。このセクションには、定義した URL がすべて表示されます。

Excel へのエクスポート

「エクスポート」ボタンをアクティブ化すると、エンド・ユーザーは現行の「指標」ウィンドウから Excel スプレッドシートにデータをエクスポートできます。コンサルタントまたは設計者は、エンド・ユーザーに関連する指標のうち、この機能を使用可能にする指標を設計モードで決定する必要があります。ユーザー・ボタンは、指標別に使用可能にする必要があります。

このプロパティを有効にするには、「KPI デザイナ」のメイン・メニューを右クリックし、「ユーザー・ボタンの定義」オプションを有効にして、「Excel にエクスポート」の隣のチェック・ボックスを使用して、このオプションを指標で使用可能にします。

プロパティやパス名を設定する必要はありません。ソフトウェアにより自動的に設定されます。ビューワでデータをエクスポートする方法の詳細は、『Oracle Balanced Scorecard ユーザーズ・ガイド』の「Excel にエクスポート」を参照してください。

見積：アーキテクト

「見積」ボタンをアクティブ化すると、システム内部で計算される予測を示す棒を一時的にオフにして、実績データのみを表示できます。

注意： この機能をエンド・ユーザーが BSC ビューワで使用できるのは、指標の「見積」ユーザー・ボタンを使用可能にしている場合のみです。これはグローバル・プロパティではなく、指標別に使用可能または使用不可にする必要があることに注意してください。

KPI での予測の無効化

この項では、KPI で予測を使用不可にする方法について説明します。

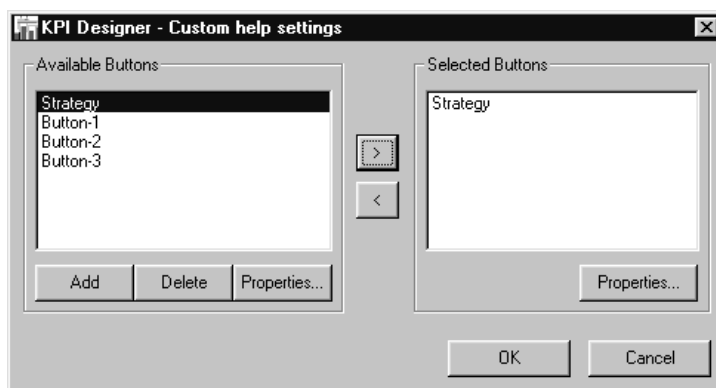
カスタム・ヘルプ

「カスタム・ヘルプ」機能を使用すると、ユーザーは URL を介してマルチメディア・ヘルプや他のオンライン・サポートまたは研修ツールにアクセスできます。この URL はビューワで起動するように定義できます。この項で構成する様々なリンクは、ビューワの「指標」ページでエンド・ユーザーがアクセス可能なリンクとして使用できます。

「カスタム・ヘルプ」機能を使用可能にする手順は、次のとおりです。

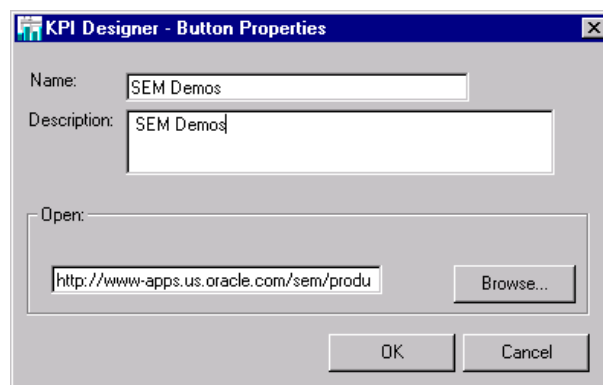
1. 「ユーザー・ボタン」ウィンドウで「カスタム・ヘルプ」チェック・ボックスを選択します。
2. 「プロパティ」をクリックして「カスタム・ヘルプ設定」ウィンドウ（図 3-107）を表示します。

図 3-107 「カスタム・ヘルプ設定」ウィンドウ



3. 「使用可能ボタン」ペインにボタンを追加するには「追加」ボタンを選択します。空白のボタンがリストに追加されます。
4. 「プロパティ」ボタンを選択して、新規ボタンのプロパティを編集します。
5. 「ボタン・プロパティ」ウィンドウ (図 3-108) で、「名称」フィールドにボタン名を入力します。

図 3-108 カスタム・ヘルプの「ボタン・プロパティ」



6. 「摘要」フィールドに、ボタンの機能の摘要を入力します。
7. 各ボタンから起動するファイルがある URL アドレスを指定して、そのファイルまたは URL を構成します。通常、ファイルは Web サーバーに存在する必要があります。ただし、ローカル・デモ用に、ローカル・ファイルへのローカル・リンクを含むローカル HTML ページを定義することもできます。
8. 「OK」ボタンを選択して変更内容を保存するか、「取消」ボタンを選択して取り消します。
9. 矢印を使用して、定義したボタンを「使用可能ボタン」リージョンから「選択したボタン」リージョンに移動します。「選択したボタン」リージョンに表示されるボタンは、ユーザーがリンクとして使用可能になります。
10. 「プロパティ」ボタンを選択します。
11. 前述の手順 7 を繰り返し、起動する実行可能ファイルを選択します。
12. ボタンにグローバル・コマンド実行可能ファイルを使用する場合は、「グローバル・コマンドの選択」チェック・ボックスを選択します。コマンド・リストに定義されているファイルが、このボタン用に起動されるファイルとして設定されます。

注意：「カスタム・ヘルプ」は、BSC ビューワのブラウザ・ウィンドウから起動する必要があります。

注意：「リンク」と「カスタム・ヘルプ」の場合、ユーザーが起動対象のファイルを開くには、必須のプラグインがインストールされている必要があります。

マスター指標と共有指標の変更

KPI システム・ライブラリで指標が変更されると、メジャーが追加、削除または更新されます。これらの変更は、マスター KPI と共有 KPI の両方に影響します。次のルールを考慮する必要があります。

- KPI システム・ライブラリで追加、削除または変更できるのは、メジャーのみです。ライブラリで行った変更は、マスター指標と共有指標のステータスに影響します。
- 指標にメジャーを追加すると、新規メジャーは自動的に共有指標ではなくマスター指標に割り当てられます。この新規メジャーを共有指標に表示する場合は、各スコアカードの「スコアカード項目の選択」にナビゲートしてメジャーを選択できます。

指標からメジャーを削除するには「KPI デザイナ」を使用します。メジャーは、次の 2 つの条件に従ってライブラリから削除できます。

1. メジャーがどの共有指標にも使用されていない場合。共有指標があってもメジャーを削除する場合は、削除前に、そのメジャーを使用中の全スコアカードでメジャー選択を解除する必要があります。
2. メジャーが指標の最終メジャーでない場合。これは、指標に 1 つ以上のメジャーまたは分析オプションの存在が必要であることを意味します。最後のメジャーを削除する場合は、最初に指標を削除する必要があります。これは、メジャーを持たない指標は存在も表示もできないためです。

これらの条件を確認した後、メジャーを削除できます。これにより、すべてのスコアカードが変更内容でリフレッシュされます。

マスター指標と共有指標があり、スコアカード選択を変更しようとする場合には、複数のルールが適用されます。

- 1 つのスコアカードで選択される指標は制限なしで削除できます。つまり、子指標や共有指標を持たない指標は削除できます。
- マスター指標と共有指標が 1 つずつあるときに、オリジナルのマスター指標を削除すると、共有指標がマスター指標になります。
- 1 つのマスター指標と複数の共有指標がある場合、スコアカード内でマスター指標の割当てを解除するには、前述のように、先に共有指標を削除するか、子（共有指標）を 1 つ割り当てる必要があります。

非表示 / 表示機能

共有指標および分析オプションの非表示 / 表示機能は、BSC アーキテクトとパフォーマンス管理デザイナの両方で使用できます。両方のツールを使用する場合の考慮事項は、次のとおりです。

- マスター指標と共有指標の作成には、引き続き BSC アーキテクト - ビルダー・ツールを使用できます。
- 指標のメジャーの非表示および表示は、BSC アーキテクトの「ユーザー・ウィザード」のみでなくパフォーマンス管理デザイナ・ツールでも使用可能な機能です。
- マスター指標と共有指標に関する BSC アーキテクト - ビルダーでのルールと検証は、パフォーマンス管理デザイナでの変更と同期化されます。
- ディメンションの追加、計算や活動期間のようなプロパティの変更など、BSC アーキテクトでマスター KPI に対して行う構造変更に応用されるルールは、以前のバージョンと同じです。つまり、これらの変更は共有指標にも反映されます。

KPI デザイナ - BSC アーキテクトにおけるマスター KPI と共有 KPI の構成

1 つのタブに多数の KPI が論理的に属していますが、タブ間で KPI を共有できます。たとえば、ビューには小さな違いがあっても全体の意味と目的は同一の異なる組織単位に対して、KPI を参照可能にできます。

指標をコピーして異なるタブで再作成するのではなく、様々なビューでカスタマイズ可能なマスター指標を共有にして、特定のタブに関連するオプションを表示または非表示に設定できま

す。この機能が BSC ビルダーで有効化されている場合は (3-138 ページの「[KPI デザイナ - BSC アーキテクトにおけるマスター KPI と共有 KPI の構成](#)」を参照)、「KPI デザイナ」を使用して KPI の最終構成を行うことができます。

たとえば、売上成長率 KPI は「リージョン VP」タブでマスター KPI として構成されているが、「マーケティング」および「会計用」タブとの共有になっているとします。「会計用」タブには、国、リージョンおよび製品別の売上成長を示す KPI の概要を表示し、市場シェア、単位数など、その他のオプションは非表示に設定できます。これに対して「マーケティング」タブでは、指標構造は同じですが、製品と顧客タイプに関連する多数のオプションを表示できます。これらのオプションは、いずれも「KPI デザイナ」の「ユーザー・ウィザード」を介して構成されます。

注意： ユーザーが本番モードの (すでにデータが含まれている) マスター KPI を使用して共有 KPI を作成する場合は、そのマスター KPI を送る入力表に対してメタデータ・オブティマイザと BSC ローダーを再実行する必要があります。これは、共有 KPI に更新後の情報とカラーが確実に表示されるようにするためです。

マスター KPI を構成する手順は、次のとおりです。

1. マスター KPI を作成します。

注意： BSC アーキテクト-KPI デザイナでは、「情報」ウィンドウで「ヘルプ」アイコンをクリックすると、指標がマスターであるか共有であるかを判別できます。

2. マスター指標について、ディメンション、分析オプション、活動期間、計算、ベンチマーク、データ系列およびすべてのデータ・プロパティとディメンション・プロパティの完全セットを定義します。
3. マスター指標の定義後に、ウィザードを使用して、その共有 KPI に可能な分析オプション、系列、ディメンション、計算およびベンチマークの非表示または表示をすべて定義します。

「ユーザー・ウィザード」機能を使用可能にする手順は、次のとおりです。

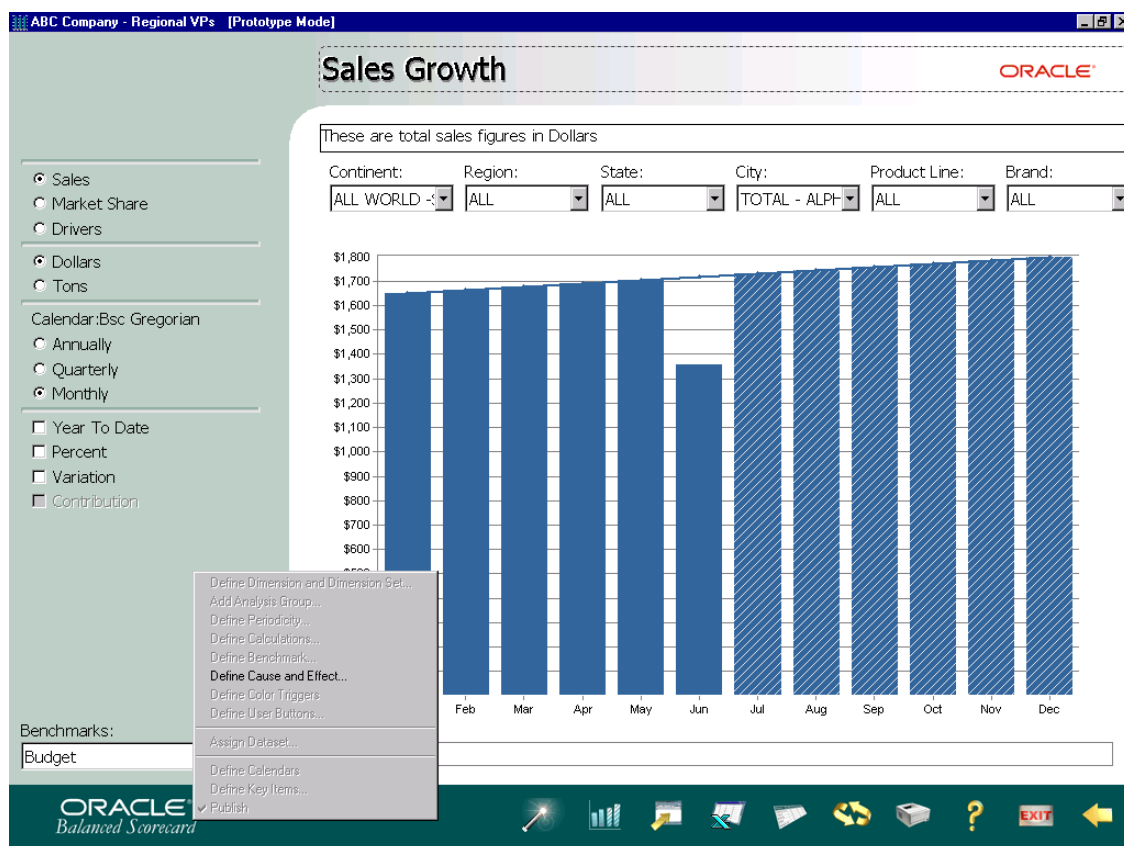
1. 指標を右クリックして「一般」メニューにナビゲートします。
2. 「ユーザー・ボタンの定義」にナビゲートします。
3. 「ユーザー・ウィザード」を使用可能にします。
4. KPI が共有されている他のスコアカードにナビゲートし、「ユーザー・ウィザード」機能にアクセスして、分析オプション、系列、ディメンション、計算およびベンチマークなど、マスターで構成されているオブジェクトを表示または非表示に設定できます。

共有 KPI を構成する手順は、次のとおりです。

1. 第 2 タブにナビゲートして共有 KPI を選択します。

「マスター」以外のタブで同じ KPI を起動しようとすると、「KPI デザイナ」メイン・メニューで「原因と結果の定義」以外が使用不可になっていることがわかります (図 3-109 を参照)。マスター KPI であらかじめ「ユーザー・ウィザード」オプションを使用可能にする必要があります。これにより、アイコンとして使用可能な状態で表示されます。

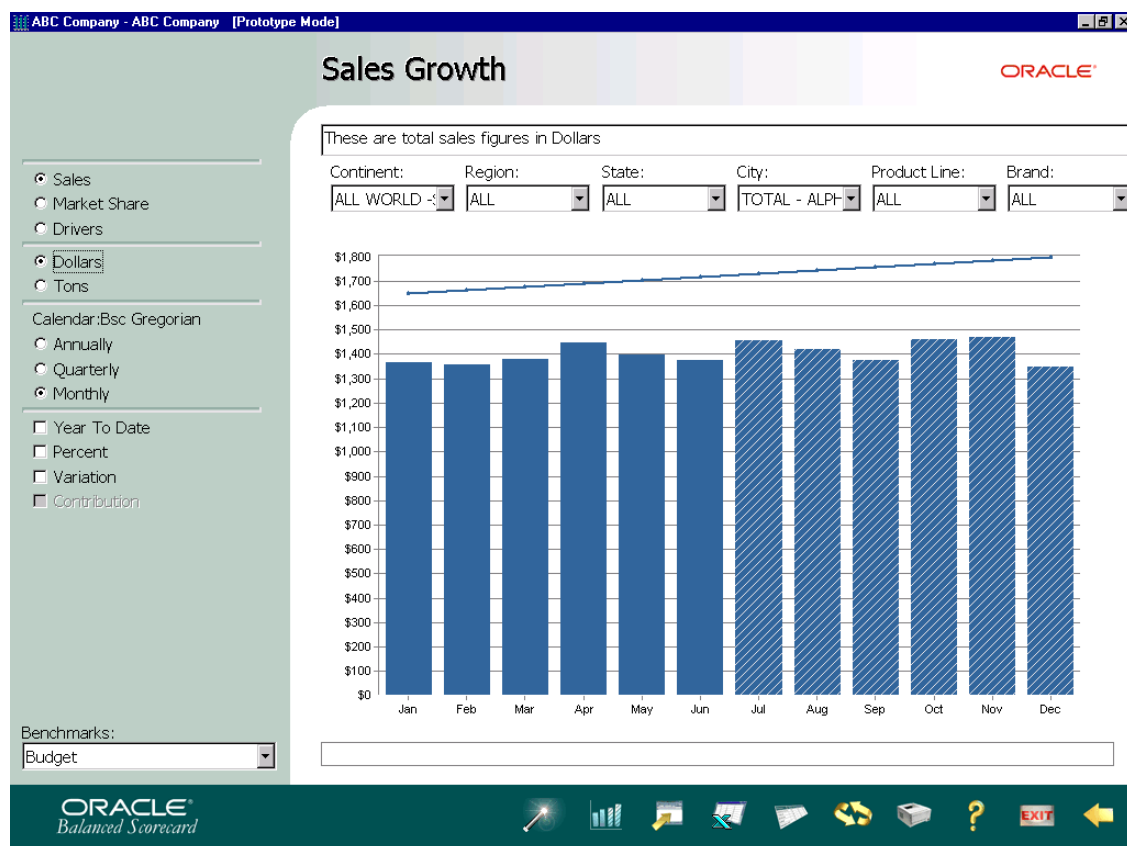
図 3-109 売上成長率 KPI、構成オプションが使用不可の状態



- 特定の共有 KPI で表示するか非表示にするオプションを定義するために、アイコンを使用して「ユーザー・ウィザード」を起動します。このプロセスはタブ別に行うため、タブに応じて表示または非表示にするオプションの異なるセットを選択できます。

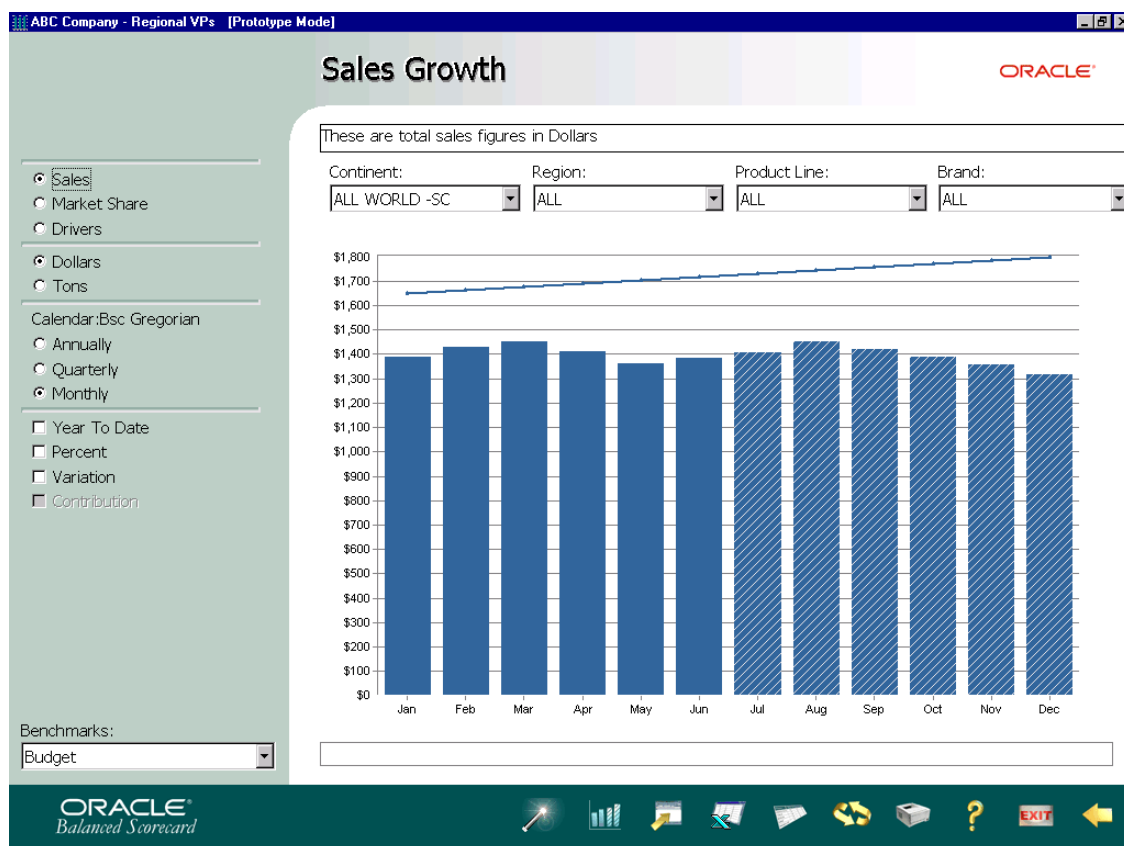
このプロセスを完了すると、すべての変更内容が共有 KPI に取り込まれ、選択を解除したフィールドやディメンションが非表示になります。たとえば、売上成長率 KPI では、「国」、「リージョン」および「製品」ディメンションを表示用に選択し、その他のディメンションは非表示にします。このディメンション・レベルのリスト構成では、KPI は次のように表示されます (図 3-110)。

図 3-110 売上成長率 KPI: 構成 2



別のディメンション・レベル・リスト構成を選択したとします。たとえば、「国」、「郡市区」および「支店」ディメンションを非表示にするように選択し、残りのディメンション・セットは公開します。この構成を使用可能にすると、売上成長率 KPI は次のように表示されます (図 3-111)。

図 3-111 売上成長率 KPI: 構成 3



マスター指標と共有指標の識別

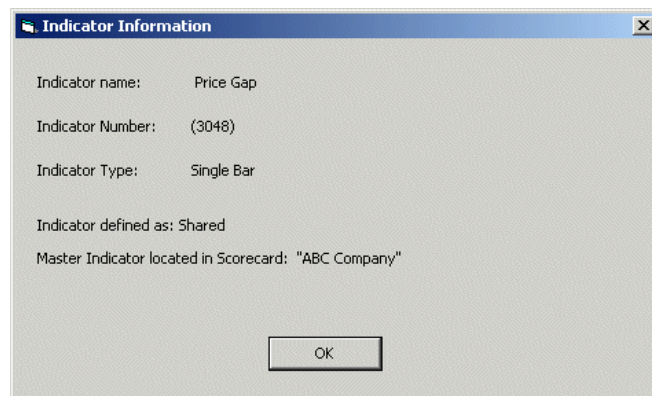
マスター指標は任意のスコアカードに置くことができ、共有指標も制限なしに任意のスコアカードで選択できるため、設計者は KPI デザイナの「情報」ウィンドウを使用して、作業中の指標のタイプを識別できます。

指標がマスター指標の場合は、「情報」アイコンを選択して KPI デザイナ内でマスター指標を検索できます。このアイコンは疑問符として表示されます。

マスター指標と共有指標を識別する手順は、次のとおりです。

1. 「KPI デザイナ」で指標を選択します。
2. 「指標」ページの下部で使用可能な「ヘルプ」アイコンをクリックします。
3. 指標のタイプ情報とマスター指標の場所を示す次のウィンドウが表示されます。

図 3-112 指標情報



注意： 本番モードの（すでにデータが含まれている）マスター KPI を使用して共有 KPI を作成する場合は、そのマスター KPI を送る入力表に対してメタデータ・オブティマイザと BSC ローダーを再実行する必要があります。これは、共有 KPI に更新後の情報とカラーが確実に表示されるようにするためです。

注意： マスター KPI を変更するたびに、すべての共有 KPI が変更の影響を受けることに注意してください。KPI デザイナでマスター KPI と共有 KPI を構成する際には、このことが特に重要です。たとえば、ディメンションの追加や削除、分析オプションの追加、データセットの追加などを行うと、このマスター KPI に依存する共有 KPI がすべてリフレッシュされます。つまり、共有 KPI に対して前に行った変更内容は、マスター KPI の変更に基づいてリセットされます。

パフォーマンス管理デザイナーにおけるメジャーとディメンションの作成

この項では、パフォーマンス管理デザイナーでメジャーとディメンションを作成する方法について説明します。

メジャーの作成

パフォーマンス管理デザイナーでは、次のタスクを実行できます。

- 新規メジャー（データセット）の作成
- メジャーの主要属性の定義または更新
- メジャーの追加属性の定義または更新
- フォーミュラとしてのメジャーの定義
- データ・ソース情報の変更または更新

メジャー定義関連の定義

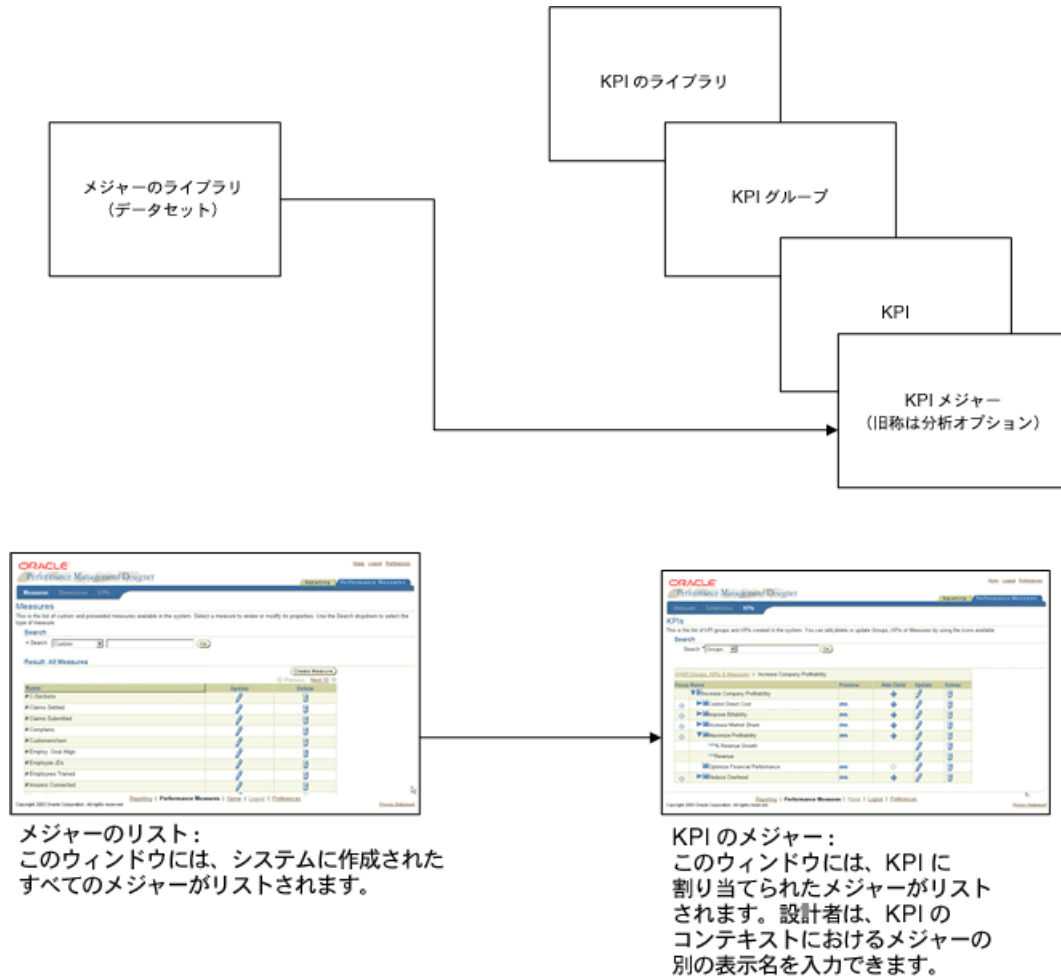
このモジュールで作業する際には、次の定義が重要です。

KPIにおけるメジャー・オブジェクトの定義とメジャーの使用方法 パフォーマンス管理デザイナーでは、「メジャー」という用語が2つの異なるコンテキストで使用されます。

- メジャーのリスト
- KPI のメジャー

パフォーマンス管理デザイナーは次の構造になっています。

図 3-113 パフォーマンス管理デザイナー



KPI のメジャー

機能上、メジャーは組織、会社または他のビジネス・エンティティのパフォーマンスを示す主要メトリックです。

メジャーは、戦略目標または重要な指標の分析手段として使用されます。1つの重要な経営指標に1つ以上の関連メジャーを含めることができます。

各メジャーにはデータセットが関連付けられており、データセットは1つのデータ・ソース、つまり表の列に関連付けられています。

メジャー（データセット）のリスト

すべてのメジャーには1個のデータセットが添付されています。データセットは、生成される表のデータ・ソースまたは列に関連付けられているデータ・モデル内のオブジェクトです。

1つのデータセットが常に1つのデータ・ソースに関連付けられていますが、異なるデータセットで同じデータ・ソースを指すことができます。

ソース列（旧称はデータ・ソース）

これは、メジャーの定義時に作成される表の列に対応するオブジェクトです。

データ系列

データ系列は、単に同じグラフで表現できる複数のメジャーです。ユーザーが指標で複数系列を定義すると、各系列にデータセットとデータ・ソースが1つずつ割り当てられます。ユーザーの目的は、すべての系列を1つのグラフに表示することです。

前述の概念が明確になるように、次の項ではパフォーマンス管理デザイナー UI を介してメジャー（データセット）を作成する方法について説明します。パフォーマンス管理デザイナーを使用するだけで設計者がメジャーを1箇所で作成できるようにするために、KPI デザイナー（BSC アーキテクト）で使用できたメニューは使用不可になっていることに注意してください。

「メジャー・デザイナー」へのログイン

パフォーマンス管理デザイナーの「メジャー・デザイナー」モジュールにアクセスする手順は、次のとおりです。

1. 「パフォーマンス管理デザイナー」職責を使用して、パフォーマンス管理デザイナーにログインします。
2. 「パフォーマンス・メジャー」メニューで「メジャー・デザイナー」を選択します。

メジャーのリスト

図 3-114 メジャーのリスト

ORACLE®
Performance Management Designer

Home Logout Preferences

Reporting Performance Measures

Measures Dimensions KPIs

Measures

This is the list of custom and preseeded measures available in the system. Select a measure to review or modify its properties. Use the Search dropdown to select the type of measure.

Search

* Search Custom Go

Result: All Measures

Create Measure

Previous Next 10

Name	Update	Delete
# C-Sections		
# Claims Settled		
# Claims Submitted		
# Complains		
# Customers/serv		
# Employ. Goal Align		
# Employee JDs		
# Employees Trained		
# Insurers Connected		

Reporting | Performance Measures | Home | Logout | Preferences

Copyright 2003 Oracle Corporation. All rights reserved. Privacy Statement

「メジャー・デザイナー」モジュールのメジャーのリストには、次の特性があります。

表示されるメジャーのタイプ

- カスタム・メジャー
- E-Business Intelligence Application Suite のメジャー

カスタム・メジャーのプロパティ

通常、この種のメジャー（旧称はデータセット）は、BSC 設計者が KPI の分析オプションに割り当てるために作成します。メジャーまたはデータセットは、自動的に生成されるデータ・ソース列に関連付けられます。この列は、データの取得元となる表列を表します。この種のメジャーの表は、メタデータ・オブティマイザの実行後にシステムにより自動的に生成されます。

設計者がパフォーマンス管理デザイナーの「メジャー・デザイナー」モジュールを介して定義できるプロパティは、次のとおりです。

- 主要属性: 「名称」と「摘要」。
- 追加属性: メジャー関連の積上プロパティ、予測メソッド、フォーマット・プロパティ、プロトタイプ・プロパティおよび計算など。
- メジャーに関連付けることのできるフォーミュラ。
- メジャー用に自動的に生成されるデータ・ソース。

E-Business Suite のメジャーのプロパティ

メジャーのリストには、E-Business Intelligence アプリケーションのメジャーが表示されます。これらのメジャーは、KPI のコンテキスト内で表示して使用できます。

このメジャー・リストは、インストール済の Oracle Business Intelligence モジュールにより決定されます。これらのメジャーは、Oracle E-Business Suite からデータを直接取得し、Business Intelligence 収集プログラムの実装を必要とします (Oracle Business Intelligence の実装の詳細はインプリメンテーション・ガイドを参照)。

この種のメジャーは事前シード済のため、PMD の「メジャー・デザイナー」モジュールからは更新も削除もできないことに注意してください。

メジャーのリストの検索機能

システムで作成されたメジャーは、リストにアルファベット順に表示されます。メジャーのリスト内で検索を実行する手順は、次のとおりです。

1. 検索するメジャーのタイプ (「カスタム」、「EBI Applications Suite のメジャー」または「全て」) に基づいてメジャーの検索基準を選択します。
2. 検索基準を入力してから % 記号を入力します。たとえば、A で始まるメジャーをすべて検索するには A% と入力します。
3. 結果リストには、検索基準と一致する使用可能なメジャーがすべて表示されます。表の右上隅にある「前」および「次」ボタンを使用すると、リスト内でナビゲートできます。

EBI Applications Suite のメジャーの場合はすべて、前述したメジャーの性質上、「更新」および「削除」アイコンが使用不可であることに注意してください。

新規メジャーの作成

新規メジャーを作成するには、メジャーのリスト表の右上隅にある「メジャーの作成」ボタンをクリックします。メジャーの作成を完了するまでに 4 つのステップがあり、最初のステップである「主要属性」は必須です。その後はすべてのプロパティがデフォルト設定されるため、2 番目以降のステップはオプションとなり、プロセスの後半で実行できます。

新規メジャー作成時の 4 つの基本ステップは次のとおりです。

1. 「主要属性」(必須)
2. 「追加属性」(オプション)
3. 「フォーミュラ」(オプション)
4. 「データ・ソース」(オプション)

ステップ 1 でも、「終了」をクリックしてメジャーの作成を完了できます。いずれかのステップをスキップすると、適切なデフォルト・プロパティを使用してメジャーが作成され、後から戻ってこれらのデフォルト・プロパティを確認または変更できます。

注意: 「メジャー・デザイナー」機能は BSC アーキテクトでは使用できなくなりました。BSC アーキテクト -KPI デザイナで使用可能な関連機能は、複数系列 KPI のプロパティ構成のみです。(データ系列の作成に関する説明を参照)。

メジャーの主要属性の作成

「メジャーの作成」ボタンをクリックすると、作成するメジャーの主要属性を要求されます。

図 3-115 メジャーの主要属性の作成

ORACLE®
Performance Management Designer

Home Logout Preferences

Reporting Performance Measures

Measures Dimensions KPIs

Measures > Create Measure

Create Measure: Primary Attributes

*Indicates required field.

* Display Name Total Revenue

Description Measure Description

Cancel Step 1 of 4 Next Finish

Cancel Step 1 of 4 Next Finish

Reporting | Performance Measures | Home | Logout | Preferences

Copyright 2003 Oracle Corporation. All rights reserved. Privacy Statement

1. メジャー名を入力します。これは必須フィールドです。
2. メジャーの概要を入力します。このフィールドはオプションです。

メジャー名と KPI でのメジャー表示名に関する注意

このコンテキストでのメジャー名は、メジャーの識別に使用される一意のメジャー名を表すことに注意してください。このステップで入力した名称に基づいて、システムによりソース列名（旧称はデータ・ソース名）が生成されます。KPI コンテキストでは、このメジャーが KPI 内で使用される場合に、KPI コンテキストに応じてさらにわかりやすいメジャー表示名を指定できます。

メジャーの追加属性の作成

メジャー作成プロセスの第 2 ステップでは、メジャーに関して次の追加属性を定義する必要があります。

- アクティビティ
- 総計メソッド
- 予測メソッド
- プロトタイプ
- 書式
- 計算

図 3-116 追加属性

ORACLE Performance Management Designer

Home Help

Reporting Performance Measures Administration

Measures Dimensions KPI Groups Data Sources

Measures > Create Measure

Create Measure: Additional Attributes

Cancel Back Step 2 of 4 Next Finish

Measure Type

Activities/Balance Activity

Aggregation Method SUM

Forecast Method No Forecast

Prototyping

Random Data Style Actual Random, Plan Linear

Random values for Actual From To

Random values for Plan From To

Format

Numeric Format 999,999

☐ Autoscaling

Calculations

☐ Variance ☐ To complete ☐ Quarter to Date ☐ Data Variance

☐ Percent ☐ Growth ☐ Year to Date Growth ☐ Period to Date

☐ Year to Date ☐ Contribution ☐ Moving Average

Cancel Back Step 2 of 4 Next Finish

Copyright 2002 Oracle Corporation. All rights reserved.

Reporting | Performance Measures | Home | Help

Privacy Statement

アクティビティ

このメジャー・プロパティを使用して、データ積上の基礎となる勘定のタイプを定義します。(以前のリリースの残高または統計を、このリリースでは「アクティビティ」と呼びます)。

メジャーには次の2つの性質があります。

- **アクティビティ (旧称は統計)** : このタイプのメジャーの値は、期間別または年累計のために加算または累計されます。この動作を持つ標準的なメジャーは、通常は年累計値を得るために期間別に集計される「売上」などです。

この性質を持つメジャーの場合、エンド・ユーザーが関数「YTD」を選択するか、ある活動期間から別の活動期間に移動すると、値が期間別に加算または累計されます。

たとえば、月次活動期間から四半期活動期間に移動すると、値が加算または累計されるため、四半期別売上データはその四半期の3か月全体の売上合計となります。

- **残高** : このタイプのメジャーの値は特定時点における値を表すため、値が年累計のために期間別に見越処理されることはありません。このタイプのメジャーには、資産、負債、資本など、会社の貸借対照表で表される勘定などがあります。

資産合計などの残高勘定の場合は、ユーザーが活動期間を変更 (たとえば、月次から四半期に移動) すると、四半期別 KPI ビューには期間の最終値が表示されます。資産合計は残高勘定 (特定時点のスナップショット) であるため、複数の期間にまたがって累計されることはありません。

メジャーの「アクティビティ」プロパティを選択する手順は、次のとおりです。

1. メジャーの「追加属性」メニューを選択します。
2. 「追加属性」ウィンドウで「メジャー・タイプ」セクションを探します。
3. 前述の定義に基づき、プルダウン・メニューのオプションを使用して、メジャーに適用可能なアクティビティの基準を選択します。

選択可能なタイプは次のとおりです。

- アクティビティ
- 残高

4. 「追加属性」画面で変更を完了した後、「適用」をクリックして選択内容を保存します。

アーキテクトを使用する際の注意

以前のバージョンのバランス・スコアカード・アーキテクトを使用している場合、このプロパティは一種の勘定として認識されており、「ソース・プロパティの編集」ウィンドウの「ソース列」タブに組み込まれていました。このリリースでは、このプロパティはパフォーマンス管理デザイナーに属しており、作成するメジャーごとに「追加属性」メニューで定義します。

KPI ビューの設計者およびユーザーのための注意

「残高」として指定したメジャーの場合、「YTD」チェック・ボックスは選択できません。残高勘定には YTD が適用されないため、KPI ビューの「YTD」チェック・ボックスが自動的に使用不可になります。

メジャーへの総計メソッドの割当て

システムで作成された各メジャーに個別に適用する積上方法を定義できます。これは、データをディメンション別に集計して要約する方法を意味します。

メジャーに積上プロパティを割り当てる手順は、次のとおりです。

1. メジャーの「追加属性」メニューを選択します。
2. 「追加属性」ウィンドウで「メジャー・タイプ」セクションを探します。
3. プルダウン・メニューのオプションを使用して、メジャーに適用可能な積上の基準を選択します。

選択可能なメソッドは次のとおりです。

- **合計**: 値の合計
 - **平均**: 平均値 (算術平均 = 合計 (値) / 値の数)
 - **最大**: 値の最大値
 - **最小**: 値の最小値
 - **AVG (最下位レベル)**: KPI に存在する最下位レベルのディメンションに基づく平均値
4. 「追加属性」画面で変更を完了した後、「適用」をクリックして選択内容を保存し、「メジャーのリスト」ページに戻ります。

注意: 通常の「平均」計算と最下位レベルでの「平均」の違いについては、「平均積上の計算」を参照してください。

平均積上の計算

「ソース・プロパティの編集」ウィンドウには、「平均」計算を使用して積上を実行できるように 2 つの異なるオプションが用意されています。

- **平均**: これは、すべてのディメンション値の算術平均の計算です。
このメジャーが KPI で使用されており、3 つ以上のディメンションが関連付けられている場合、平均計算は常に直前のディメンション・レベルに基づきます。(次の図 3-117 「平均の計算例」に示す例を参照)。
- **平均 (最下位レベル)**: この場合は、KPI に存在する最下位のディメンション・レベルに基づいて平均計算が実行されます。

次の図に、メジャーに 3 つ以上のディメンションが関連付けられている場合の、直前のディメンション・レベルに基づく平均計算と最下位のディメンション・レベルに基づく計算の違いを示します。

図 3-117 平均の計算例

郡市区 レベル	州レベル		国レベル	
	平均	平均 (最下位 レベル)	平均	平均 (最下位 レベル)
C1-100 C2-200 C3-300	S1-200	S1-200	C1-250 =3 州の 平均	C1- 255.55 =9 郡市区の 平均
C4-200 C5-300	S2-250	S2-250		
C6-400 C7-200 C8-300 C9-300	S3-300	S3-300		

州の平均値は、
どちらの場合も郡市区の
値を基準にしているため、
同じです。

国レベルでは、平均の計算は直前
のディメンション（州）の値を
基準にして実行されます。一方、
最下位レベルの平均の計算は、
最下位レベル（郡市区）の 9 個の
値を基準にして実行されます。

この例では、「郡市区」、「州」および「国」の 3 つが親子ディメンションとして作成されており、「郡市区」は「州」に積み上げられる最下位レベルで、「州」レベルは「国」に積み上げられるとします。この例は、両方のタイプの平均計算がどのように実行されるかを示しています。

注意：フォーミュラ・データ・ソースを作成して積上オプションとして「平均（最下位レベル）」を選択した場合は、「積上をフォーミュラに適用」チェック・ボックスを選択する必要があります。フォーミュラの場合は、このタイプの計算が総計全体に対してのみ実行されるためです。

メジャーの積上方法の選択

設計者がメジャーの「追加属性」画面にナビゲートする時点では、まだ KPI が構成されていない場合があります。前述の例のように、「平均」プロパティを選択した場合の算術結果は KPI のディメンション構成に応じて異なる場合があります。

KPI を構成してメジャーを関連付けた後、設計者はメジャーの「追加属性」メジャー・フォームに戻って、平均の積上方法が KPI のメジャーに必要な結果と同期しているかどうかを分析する必要があります。

メジャーの予測メソッドの定義

予測は Oracle Balanced Scorecard により計算され、ユーザーに先日付の期間に関する KPI パフォーマンスの見積を提供します。KPI ビューに影付きで表示される垂直の棒は、これらの予測を表します。Oracle Balanced Scorecard では、入力された実績データの最終期間の翌期間から会計年度の最終期間までの予測が自動的に計算されます。

予測プロパティはメジャー・レベルで定義します。つまり、KPI でメジャーが使用されている場合は、分析オプションの組合せごとに関連予測メソッドがあるため、同じ KPI の様々なメジャーに異なる予測メソッドを使用できます。

使用可能な予測メソッドには次の 3 つのタイプがあります。

- **計画基準：**計画基準予測メソッドでは、過去 3 か月間の計画に対する平均パフォーマンスが計算され、その比率が以降の各期間の計画に適用されて、各期間の予測が生成されます。
- **移動平均：**移動平均予測メソッドでは、前年度（または、1 年分のデータが存在しない場合はそれより短い期間）の移動平均が計算されます。移動平均には、実績予測データと過去の予測データが含まれます。
- **カスタム：**カスタム予測メソッドを使用すると、独自の予測データをロードできます。

特定のメジャーの予測メソッドを定義する手順は、次のとおりです。

1. メジャーの「追加属性」メニューを選択します。
2. 「追加属性」ウィンドウで「メジャー・タイプ」セクションを探します。
3. 前述の定義に基づき、プルダウン・メニューのオプションを使用して、メジャーに適用可能な積上の基準を選択します。
 - 計画基準
 - 移動平均
 - カスタム
4. 「追加属性」画面で変更を完了した後、「適用」をクリックして選択内容を保存し、「メジャーのリスト」ページに戻ります。

メジャーのプロトタイプ値の定義

パフォーマンス管理デザイナーを使用すると、設計者はシステムで作成されるメジャーごとにランダム値を指定できます。これらの値は、プロトタイプ・モードでのみ有効で、メジャーとシステムに適用可能です。デモや、社内のより広範囲の対象者が本番用として承認される前のKPIを検証している段階で特に役立ちます。

図 3-118 プロトタイプ

Prototyping

* Random Data Style Actual Random, Plan Linear

Random values for Actual	From	1000	To	1500
Random values for Plan	From	1000	To	1500

プロトタイプ各メジャーについてランダム・データを生成する方法として、次の3つのオプションがあります。

- **実績ランダム、計画線型**: アプリケーションでは、最小値と最大値で指定した範囲に基づいて、メジャーのランダム・データがランダム・トレンド・グラフで期間別に生成されます。このオプションを選択すると、計画データは線型トレンド・グラフで指定した範囲の値の始点と終点を結ぶ直線として生成されます。
- **実績線型、計画線型**: 最小値と最大値で指定した範囲に基づいて実績データと計画データの両方がランダムに生成されますが、実績と計画の両方に線型トレンドが適用されます。
- **実績ランダム、計画ランダム**: 実績と計画の両方について、最小値と最大値で指定した範囲に基づき、メジャーの期間別ランダム・データがランダム・トレンド・グラフで生成されます。

特定のメジャーのプロトタイプ値の範囲を定義する手順は、次のとおりです。

1. メジャーの「追加属性」メニューを選択します。
2. 「追加属性」ウィンドウで「プロトタイプ」セクションを探します。
3. 前述の説明に基づいて「ランダム・データ・スタイル」からオプションを選択します。
4. メジャーに反映させる実績データの範囲の最小値と最大値を入力します。
5. メジャーに反映させる計画（予算）データの範囲の最小値と最大値を入力します。
6. 「適用」をクリックして選択内容を保存し、「メジャーのリスト」ページに戻ります。

メジャーの書式の定義

メジャー作成に使用する「追加属性」画面の「書式」セクションでは、3つのプロパティを変更できます。

- 数値書式
- 軸タイトル
- オートスケール

図 3-119 メジャーの書式設定



数値書式

「プロパティ」パネルの「サンプル書式」ドロップダウン・メニューを使用して、数値表示に使用する書式を選択します。

特定のメジャーの数値データ書式を定義する手順は、次のとおりです。

1. メジャーの「追加属性」メニューを選択します。
2. 「追加属性」ウィンドウで「書式」セクションを探します。
3. ドロップダウン・リストに表示されるオプションに基づいて、メジャーに適切な数値書式を選択します。
4. 「適用」をクリックして選択内容を保存し、「メジャーのリスト」ページに戻ります。

メジャーの軸タイトルの定義

設計者は、各メジャーのY軸ラベルを定義できます。このY軸ラベルは、すべてのタイプの指標についてメジャー・レベルで定義できますが、円グラフとシミュレーション・ツリーには適用されません。

ラベルに関する次のルールに注意してください。

- Y軸ラベルは、設計者がラベルのテキストを入力したメジャーまたはデータセットにのみ表示されます。
- X軸ラベルは常に「期間」で、設計者による構成には依存しません。
- 比較グラフのY軸ラベルには、常に比較対照のディメンション名が表示されます。
- 円グラフにはY軸ラベルは適用されません。
- 計算が使用可能な場合、Y軸ラベルは使用不可になります。
- シミュレーション・ツリー・グラフでは、Y軸ラベルはノードです。
- 複数系列グラフでは、系列が2つしか表示されない場合にY軸ラベルが（軸ごとに1つずつ）適用されます。3つ以上の系列が表示される場合、ラベルは表示されません。

パフォーマンス管理デザイナーのメジャー・モジュールでメジャーのY軸ラベルを設定する手順は、次のとおりです。

1. パフォーマンス管理デザイナーでメジャーの「追加属性」メニューを選択します。
2. 「追加属性」ウィンドウで「書式」セクションを探します。
3. 「軸タイトル」フィールドにY軸ラベルを入力します。
4. 「適用」をクリックして選択内容を保存し、「メジャーのリスト」ページに戻ります。

シミュレーション・ツリーのY軸ラベルを設定する手順は、次のとおりです。

1. KPIデザイナー（BSCアーキテクト）の「ノード・プロパティ」ウィンドウにナビゲートします。

2. 「軸タイトル」フィールドに Y 軸ラベルを入力します。
3. 「OK」 ボタンを選択して作業内容を保存します。

メジャーのスケールの定義

メジャーのスケール・プロパティを指定する場合、次の 2 つのステータスが可能です。

- 常にゼロ (0) で開始するスケール
- 自動スケーリング。通常、このオプションは、データ値が相互に近接していて差異がほとんどない場合に適しています。

特定のメジャーのスケール・プロパティを指定する手順は、次のとおりです。

1. メジャーの「追加属性」メニューを選択します。
2. 「追加属性」ウィンドウで「書式」セクションを探します。
3. スケール原点をグラフに表示する最小データに近い値に隣接させることを示すには、「オートスケール」チェック・ボックスを選択します。
4. グラフのスケールを 0 (ゼロ) から始めることを示すには、「オートスケール」チェック・ボックスの選択を解除します。
5. 「適用」をクリックして選択内容を保存し、「メジャーのリスト」ページに戻ります。

注意： グラフのデータ表示がすべてマイナスの場合、スケールは最大値にあわせて調整されます。ソフトウェアの制限により、データ値がマイナスの場合、「KPI デザイナ」ウィザードではスケールは最小値にあわせて調整されません。

メジャーの計算の定義

パフォーマンス管理デザイナーの「追加属性」ウィンドウで、メジャーに適用可能な計算を指定できます。

図 3-120 追加属性

The screenshot displays the 'Create Measure: Additional Attributes' window in the Oracle Performance Management Designer. The interface includes a top navigation bar with 'Home' and 'Help' links, and a main menu with 'Measures', 'Dimensions', 'KPI Groups', and 'Data Sources'. The 'Measures' menu is expanded, showing 'Primary Attributes', 'Additional Attributes' (selected), 'Formulas', and 'Data Source'. The 'Create Measure' breadcrumb is visible, followed by 'Create Measure: Additional Attributes'. The window contains several sections for configuring the measure:

- Measure Type:** Includes dropdowns for 'Activities/Balance' (set to 'Activity'), 'Aggregation Method' (set to 'SUM'), and 'Forecast Method' (set to 'No Forecast').
- Prototyping:** Includes a 'Random Data Style' dropdown (set to 'Actual Random, Plan Linear') and input fields for 'Random values for Actual' and 'Random values for Plan', each with 'From' and 'To' ranges.
- Format:** Includes a 'Numeric Format' dropdown (set to '999,999') and an 'Autoscaling' checkbox.
- Calculations:** Includes a grid of checkboxes for various calculation types: Variance, Percent, Year to Date, To complete, Growth, Contribution, Quarter to Date, Year to Date Growth, Moving Average, Data Variance, and Period to Date.

At the bottom, there are 'Cancel', 'Back', 'Step 2 of 4', 'Next', and 'Finish' buttons. The footer contains copyright information: 'Copyright 2002 Oracle Corporation. All rights reserved.' and a 'Privacy Statement' link.

メジャーごとに、次の計算から選択できます。

- **変動**: ベンチマークから実際の結果への変動金額を示します。(実績 - 計画) などです。
- **パーセント**: 実際の結果をベンチマークに対するパーセントとして示します。パーセントで表される (実績 - 計画) などです。
- **年累計**: 当年度の結果累計を示します。この計算では、年度の第 1 期間から年度中の任意の時点までの実績データが累計されます。これにより、年度の一部のパフォーマンスを前年同期と比較できます。たとえば、1 ～ 5 月の売上累計を前年同期と比較できます。残高勘定 (「資産合計」など) の KPI ビューでは、「年累計」は適用されないため使用不可になります。
- **目標達成**: 計画を基準にして前期と実績期間が計算されます。累計結果とターゲット設定された目標との差異は、残余期間に均等に配分されます。これにより、ターゲット設定された目標に対して未達成の結果が示され、今後の課題を把握できます。
- **成長**: 前期と当期の差異がパーセントで示されます。
- **貢献**: この計算を使用できるのは比較グラフの場合のみです。各データ・ディメンションの結果合計に対する各要素の貢献度を示します。
- **四半期累計**: 当年度の四半期別結果累計を示します。この計算では、年の第 1 ～ 最終四半期の実績データが累計されます。たとえば、第 1 ～ 第 3 四半期の売上累計を前年同期のデータと比較できます。残高勘定 (「資産合計」など) の KPI ビューでは、「四半期累計」は適用されないため使用不可になります。
- **年累計成長**: 当期を前年度の最終期間 (前年度の最終結果) と比較します。たとえば、1999 年 3 月期が前年度の最終会計月である 1998 年 10 月期と比較されます。
- **年度別成長**: 当期の成長が前年同期と比較して計算されます。
- **MAT**: 過去 12 か月の移動平均を示します。過去 12 か月の平均を求めると、平滑化された傾向が示され、月次の偏差なしで結果を分析できます。
- **データ変動**: この計算は複数棒指標に使用されます。同じ期間内で任意の 2 つの系列間の変動量が計算されます。
- **期間累計**: この計算では「現在日」レポートの概念が導入されます。「期間累計」を選択すると、期間開始日から同期中の任意の時点までのデータ (5 月 1 日～5 月 12 日の売上など) が集計されます。この機能を使用すると、現在日のパフォーマンスを前年同期と比較したり (当年度の 5 月 1 日～5 月 12 日の売上を前年同期と比較するなど)、当年度の同期と比較できます (当年度の 5 月 1 日～5 月 12 日の売上を当年度の前月の同期と比較するなど)。

メジャーの計算を指定する手順は、次のとおりです。

1. メジャーごとに「追加属性」を選択します。
2. 「計算」リージョンでメジャーに適用可能な計算を選択します。
3. 「適用」をクリックして選択内容を保存します。

注意: 「年累計」や「四半期累計」などの累計計算は、「残高」メジャーには適用できないか、または影響しません。メジャーの現在日情報を取得する必要がある場合、「期間累計」は適用されません。

「期間累計」計算について

- 「期間累計」計算では、「現在日」レポートの概念が導入されます。この機能を使用すると、現在日のパフォーマンスを前年同期または前期の同時点と比較できます。
- 指標に日次活動期間が適用され、計算が 1 つ以上のメジャーと指標レベルに対して構成されているかぎり、「期間累計」計算を適用可能です。
- 「期間累計」計算を使用可能にすると、メジャーの集計レベルが増えます。このため、この計算を構成済で、指標が日次活動期間を指定して構成されていると、警告が表示され、潜在的なパフォーマンスの低下を回避できます。

- 「期間累計」計算が表示されるのは、この計算がメジャーと KPI に使用可能になっており、最下位の活動期間が日次でマテリアライズド・ビュー・アーキテクチャが存在する場合です。マテリアライズド・ビューの詳細は、「マテリアライズド・ビュー」を参照してください。

KPI ビューと「期間累計」

「期間累計」計算を使用可能にすると、KPI ビューに追加属性が表示され、ユーザーがデータを操作して分析できます。

「期間累計」計算を使用すると、前期のデータを選択した期間の同一時点と比較できます。

図 3-121 「期間累計」の例



次に例を示します。

システムでは、各期間の日数が識別されます。たとえば、6月には30日あります。また、期間の残余日数も識別されます。たとえば、現在のシステム日付が6月7日であれば、6月の残余日数は23日です。次に、選択した日付が対象期間中の同一日付と比較されます。たとえば、選択した日付を前期の同一日付と比較する場合、システムでは5月1日～7日のデータが6月1日～7日のデータと比較されます。

「期間累計」と「現在日」

- デフォルトでは、現在日は現在のシステム日付です。
- デフォルトでは、「期間累計」は最後に更新された期間、または実績データを含む最新日付に設定されます。

「期間累計」と「活動期間」

- 「期間累計」の値を計算できるのは、KPI が日次活動期間を指定して構成されている場合のみです。日次は、期間中の任意の日の要約データを計算するための基本活動期間です。
- 指標に日次活動期間が適用されない場合、「期間累計」の値は表示されません。ただし、日次活動期間が適用されても、「ユーザー・ウィザード」を使用して非表示にしている場合は、「期間累計」計算が表示されます。

- 「期間累計」は、BSC ユーザーが定義したカスタム活動期間など、KPI ビューで使用可能な他の任意の活動期間用に選択できます。これは、対応する期間の開始日の現在日情報が、活動期間に関係なく取得されることを意味します。

たとえば、1月1日から始まって週次活動期間（7日）が適用される会計年度の場合、システムでは1月1日（期間開始日）から各期間の対応する日までのデータが要約されます。ユーザーが期間の第5日を選択すると、システムでは全週の第1日～第5日のデータが要約され、他の期間と比較されます。

同じ例を会計年度に使用すると、月次活動期間を使用している場合にユーザーが5月16日現在の期間累計計算を選択すると、5月1日～5月15日のデータが要約されます。これと同じ計算が残りの各月に適用されます（1月の場合は1月1日～1月15日のデータが要約されます）。

- 「日次」活動期間を選択すると、「期間累計」は表示されません。日次は最下位の活動期間であるため、「期間累計」を使用しても意味がありません。

「期間累計」とその他の計算

- BSC ビューワでは、「期間累計」を他の計算と組み合わせて選択することはできません。

トレンド・グラフでの「期間累計」

- 「期間累計」値は、棒グラフに線として表示されます。これは棒グラフにのみ適用されます。
- 線グラフの場合、同じカラーの第2の線（破線）は期間累計データを示します。

図 3-122 PTD が使用可能になっている標準的なトレンド・グラフ



図 3-123 標準的なトレンド・グラフ



「期間累計」と比較グラフ

「期間累計」を比較グラフに使用できます。「期間累計」を使用すると、特定のディメンションまたはビューの現在日情報を条件別に比較できます。

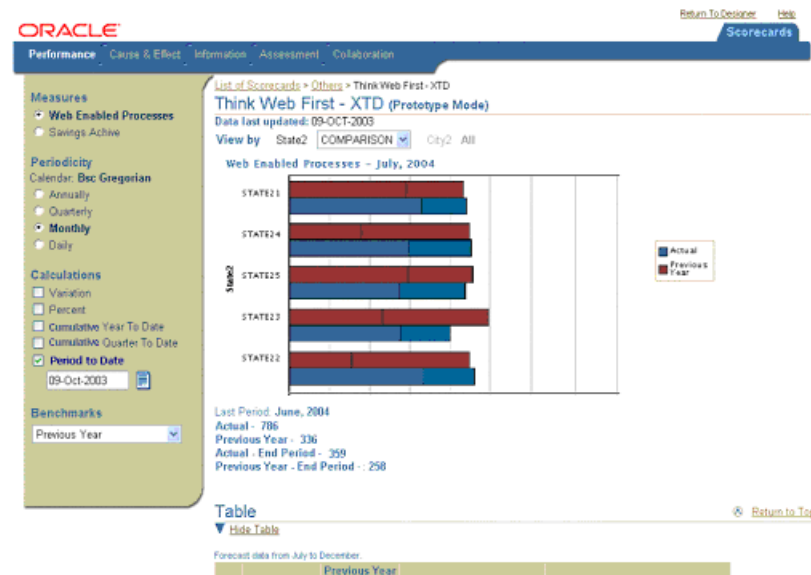
比較グラフにおける「期間累計」計算の動作には、次のような考慮事項があります。

- KPI ビューでのグラフ・タイプ: 従来の比較グラフを棒または円という 2 つのモードで表示できます。ユーザーは、実行時にグラフ・タイプを指定できます。「期間累計」が選択されている場合、使用できるのは棒グラフのみです。「期間累計」を選択すると、「グラフ・タイプ」ドロップダウンは使用不可になります。

色分けされた比較グラフと二重棒比較グラフ

- ディメンション値ごとに実績対予算のパフォーマンス・データを示す標準的な色分けされた比較グラフは、「期間累計」を選択しない場合にも引き続き十分に機能します。
- ただし、「期間累計」を選択すると、選択したベンチマーク（「前年度」、「前期間」）または「計画または予算」などの他のベンチマークが第 2 の棒として表示されます。
- 棒のマーカ―は、期間累計値と現行値合計の比較を示します。

図 3-124 期間累計値と現行値合計の比較



「期間累計」とデータ系列

- 比較中に選択できるデータ系列またはメジャーは、「期間累計」を選択しているかどうかに関係なく1度に1つのみです。
- トレンド・グラフの複数系列指標の場合、「期間累計」を選択しているときに選択できるメジャーとベンチマークはそれぞれ1つのみです。複数のメジャーを選択すると、「期間累計」は使用不可になります。複数のベンチマークを選択した場合にも、同じ動作が適用されます。

図 3-125 「期間累計」計算が選択されている複数系列指標



「期間累計」と「ベンチマーク」

「期間累計」を選択している場合、ベンチマークの構成時には次のことを考慮してください。

- 通常、すべてのトレンド・グラフにはベンチマークが線として表示されます。ただし、棒グラフまたは線グラフにベンチマークを表示するように指標レベルで選択できます。このプロパティは、「計画」および「前年度」ベンチマークなど、すべてのベンチマークに適用されます。たとえば、棒で表される実績データを、同じく棒で表される「前年度」などのベンチマークと比較できます。比較グラフでは、実績情報とベンチマーク情報の両方が常に棒として表示されます。「期間累計」を選択すると、データを「前期間」、「前年度」、「予算」と比較するか、指標に対して定義された他のベンチマークを選択できます。ベンチマークを選択しないか、選択したメジャーに適用する場合、「期間累計」にはデフォルトで前期間との比較データが表示されます。
- 複数系列指標の場合、「期間累計」が選択されているときに選択できるベンチマークは1つのみです。
- 比較グラフのベンチマークは、「期間累計」計算が選択されているときにのみ表示されます。
- 比較グラフの場合、「ベンチマーク」の値は「前期間」、「前年度」、「予算」およびメジャーに使用可能な他のベンチマークです。

KPI ビューでの「期間累計」とデータ表

KPI ビューのデータ表では、「期間累計」の動作は他の計算と同じです。「期間累計」を選択すると、そのデータがデータ表に新規の列として表示され、KPI ビューの「メジャー」、「系列」および「ベンチマーク」で選択した内容が反映されます。

次の例に、「前年度」ベンチマークが選択されている標準的なデータ表を示します。このデータ表には、「実績」および「前年度」の2列があります。「実績」の下に2列、「前年度」の下にも2列が表示されます。第1列は現行値合計を示し、第2列は期間累計値を示します。

図 3-126 表の例

Table
▼ Hide Table

Forecast data from July to December.

2003	Actual		Previous Year	
	Total	Period To Date	Total	Period To Date
Jan	15	11	10	10
Feb	14	14	9	11
Mar	11	12	8	9
Apr	15	13	10	9
May	13	12	8	11
Jun	14	13	10	9
Jul	14	15	10	8
Aug	12	14	12	11
Sep	13	13	8	11
Oct	13	11	12	11
Nov	13	10	12	9
Dec	15	12	10	8

注意：

- 期間累計情報は、対応するメジャーと同じ単位に基づきます。
- 「期間累計」は、メジャーに定義されている数値書式に関係なく使用可能です。

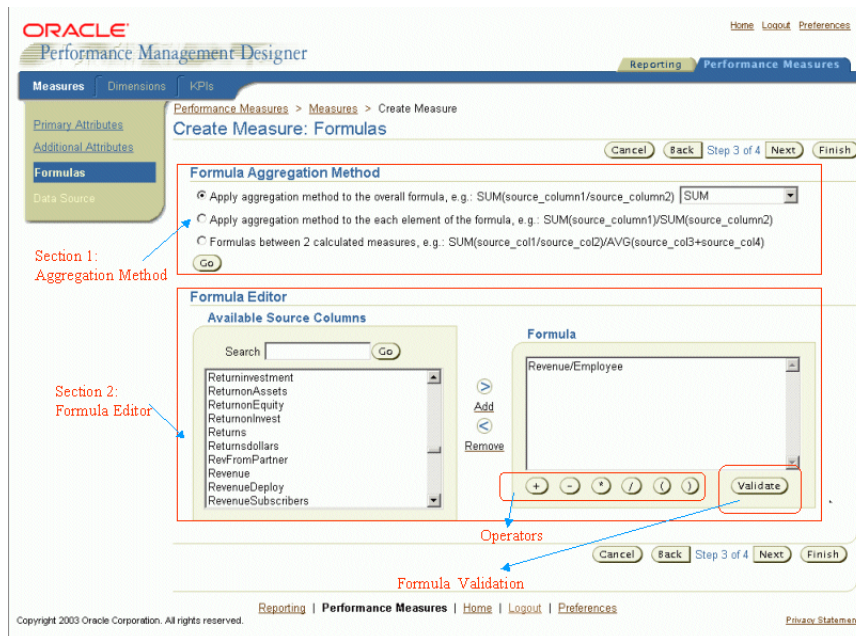
「期間累計」とその他のグラフ・タイプおよび指標タイプ

「期間累計」は、トレンド・グラフと比較グラフのすべての指標に適用されます。ただし、円グラフ、損益グラフおよびシミュレーション・ツリー・グラフなど、特殊なグラフ・タイプには適用されません。シミュレーション・ツリー標識に使用できるのは「年累計」計算のみです。

メジャー・フォーミュラの作成

パフォーマンス管理デザイナーには新規インタフェースが用意されており、設計者はメジャー（データ・ソースまたはソース列）間のフォーミュラを構成できます。この機能は、すでに OBSC アーキテクトで使用可能になっていました。しかし、この新規フォームには、以前のバージョンの構成機能がすべて連結されています。

図 3-127 フォーミュラ



ここでは、この新規フォームのコンポーネントについて説明します。

フォーミュラ総計メソッド OBSC では、ここでの選択内容に従って、フォーミュラの結果がディメンション・オブジェクトおよびディメンション階層へと積み上げられます。

総計メソッドを選択して「進む」ボタンをクリックすると、選択したメソッドが「フォーミュラ・エディタ」ボックスで参照可能になります。

フォーミュラ・エディタ このセクションには、次のボックスを含むシャトル・コントロールが表示されます。

- **使用可能ソース列**: パフォーマンス管理デザイナーでは、フォーミュラはメジャーと組み合わせで構成されます。そのため、このボックスには、フォーミュラ自体として構成されているものを除き、システムで使用可能で既存のカスタム・メジャーと一致するソース列がすべて表示されます。
- **フォーミュラ**: 設計者は「フォーミュラ・エディタ」ボックスを使用して、構成済のフォーミュラに演算子 (+, -, *, /) を追加できます。

積上/総計メソッドに関する注意

ここで、メジャーに積上メソッドを割り当てる目的を再確認しておきます。OBSC では、4つの積上メソッドが使用可能です。SUM、AVG、MIN および MAX の4つです。OBSC では、これらの積上メソッドを使用して、メタデータ・オブティマイザで「事前計算済」ラベルが付いていない全 KPI について、ディメンション・オブジェクトの「全て」値が計算されます。SUM を

選択すると、ディメンションの「全て」値はディメンション内の各要素の値の合計となります。AVG を選択すると「全て」はこの値の平均となり、MIN および MAX を選択すると「全て」はディメンション・オブジェクト内の最小値または最大値となります。

次の例に、「収益」および「従業員数」という 2 つのメジャーを示します。どちらのメジャーにも、「支店」レベルのデータがあります。この表は、「支店」ディメンション・オブジェクトの「全て」要素の値が、メジャー用に選択した積上メソッドに依存することを示しています。

図 3-128 メジャーの例

地域	支店	収益	従業員数
北カリフォルニア	全て (SUM 使用)	\$ 1,215,629	174
	全て (AVG 使用)	\$ 151,954	21.75
	全て (MIN 使用)	\$ 23,409	3
	全て (MAX 使用)	\$ 347,900	45
	Redwood City	\$ 125,600	29
	San Mateo	\$ 230,560	33
	San Carlos	\$ 38,960	5
	Santa Cruz	\$ 23,409	3
	Daly City	\$ 104,500	12
	Belmont	\$ 46,700	8
	San Francisco	\$ 347,900	45
	Eureka	\$ 298,000	39

総計メソッドとフォーミュラ

メジャーがフォーミュラとして構成されている場合は、フォーミュラ用に選択する総計メソッドにより、OBSC におけるメジャーの積上値の使用方法が決定されます。この項では、この点について詳しく説明します。そのために、引き続き「収益」および「従業員数」の例を使用します。

設計者が「従業員別収益」という新規メジャーを構成するとします。このメジャーは、「支店」レベルでは各支店の「収益合計」を各支店の「従業員数」で除算して計算されます。ただし、選択した総計メソッドによっては、「地域」レベル（この場合は北カリフォルニア）の「従業員別収益」について異なる値が計算されます。

たとえば、「収益」および「従業員数」に積上 / 総計メソッドとして SUM が割り当てられているとします。

本質的に、パフォーマンス管理デザイナではフォーミュラ用に次の 2 つの積上メソッドが用意されています。

$$(a) \text{ 従業員別収益合計} = \text{SUM}[(\text{LOB 別収益}) / (\text{LOB 別従業員数})]$$

$$(b) \text{ 従業員別収益合計} = \text{SUM}(\text{LOB 別収益}) / \text{SUM}(\text{LOB 別従業員数})$$

最初のケース (a) では、ディメンション・オブジェクトの各レベルでフォーミュラ（各支店の従業員別収益）が計算されてから、すべての支店の結果が加算されることに注意してください。第 2 のケース (b) では、フォーミュラ内の各メジャーが固有の積上メソッドを使用して個別に積み上げられ（または合計され）てから、個々の積上結果にフォーミュラ（このケースでは除算）が適用されます。(a) を使用すると「北カリフォルニア」の結果は \$56,830.67 となりますが、(b) を使用すると \$6,986.37 となります。第 1 の結果は算術的に誤りはありませんが、ビジネスの観点からは意味がありません。

ただし、「地域」レベルで必要なデータが地域内の全支店の従業員別平均収益である場合は、フォーミュラを (a) のように構成し、次の式のように AVG 積上メソッドを使用する必要があります。

$$(c) \text{ 従業員別平均収益} = \text{AVG}[(\text{LOB 別収益}) / (\text{LOB 別従業員数})]$$

このケースでは、「北カリフォルニア」の値は \$7,103.83 となります。

図 3-129 メジャーの例

地域	支店	収益	従業員数	従業員別 収益
北カリフォルニア		\$ 1,215,629	174	(*)
	Redwood City	\$ 125,600	29	\$ 4,331.03
	San Mateo	\$ 230,560	33	\$ 6,986.67
	San Carlos	\$ 38,960	5	\$ 7,792.00
	Santa Cruz	\$ 23,409	3	\$ 7,803.00
	Daly City	\$ 104,500	12	\$ 8,708.33
	Belmont	\$ 46,700	8	\$ 5,837.50
	San Francisco	\$ 347,900	45	\$ 7,731.11
	Eureka	\$ 298,000	39	\$ 7,641.03

(*) 北カリフォルニアの値

例	北カリフォルニアの 従業員別 収益
(a)	\$ 49,189.65
(b)	\$ 6,986.37
(c)	\$ 7,103.83

重要：(a)、(b) または (c) のいずれを使用する場合も、「支店」レベルでは「従業員別収益」の値が同一であることに注意してください。違いは「地域」レベルにあります。

総計メソッド

フォーミュラの構成時には、適切な総計メソッドを慎重に選択することが重要です。前述のように、選択した総計メソッドによって結果が大幅に異なる可能性があります。この項では、OBSC で使用可能な3つの総計メソッドを使用する際の重要な操作上の問題について個別に説明します。メソッドは次のとおりです。

- 総計メソッドをフォーミュラ全体に適用
- 総計メソッドをフォーミュラの各要素に適用
- 2つの計算済メジャー間のフォーミュラ

最初の2つのメソッドは、前述したメソッドに対応します。第3のメソッドは、単に後述のように既存のフォーミュラを含むフォーミュラを構成する方法です。

ケース 1: 総計メソッドをフォーミュラ全体に適用

- OBSC では、適用可能なディメンション・オブジェクト要素ごとにフォーミュラの結果が計算されます。これは、前述した「従業員別収益合計」の式 (a) または (c) のケースです。
- このケースでは、フォーミュラに使用する各メジャーに割り当てたのとは異なる積上メソッドを、フォーミュラ用を選択できます。
- この総計メソッドでは、フォーミュラに複数のメジャーを使用できます（複数オペランド・フォーミュラ）。フォーミュラには、320 文字以内で必要な数のオペランドとすべての必須演算子 (+、-、*、/) を使用できます。

- このメソッドを使用してフォーミュラを作成すると、OBSC ではフォーミュラ用の新規ソース列が作成されます。この新規ソース列により、最初にメジャーに関連付けられていたオリジナルのソース列が置き換えられます。

ケース 2: 総計メソッドをフォーミュラの各要素に適用

- パフォーマンス管理デザイナーでは、各メジャーが積み上げられてから、積上後の合計にフォーミュラが適用されます。これは、前述した「従業員別収益」の式 (b) のケースです。
- 積上の場合、OBSC では構成時に各メジャーに割り当てたのと同じ積上メソッドが使用されます。
- この総計メソッドでは、フォーミュラに複数のメジャーを使用できます（複数条件フォーミュラ）。フォーミュラには、320 文字以内で必要な数のオペランドとフォーミュラ定義に使用されているすべての必須演算子 (+、-、*、/) を使用できます。
- このメソッドを使用してフォーミュラを作成すると、OBSC ではフォーミュラ用の新規ソース列が作成されます。この新規ソース列により、最初にメジャーに関連付けられていたオリジナルのデータ・ソースが置き換えられます。

ケース 3: 2 つのオペランドと個別の積上を使用するフォーミュラ

このメソッドの機能はケース 2 と同じですが、この総計メソッドではフォーミュラとしても構成されているメジャーを 1 つのフォーミュラ内で併用できます。

ケース 1 および 2 で説明した総計メソッドを使用して新規フォーミュラを作成するたびに、新規フォーミュラに関連した新規ソース列が作成されることに注意してください。ただし、「フォーミュラ」構成インタフェースの「使用可能ソース列」ボックスには、これらのソース列が表示されないため、このインタフェースは他のフォーミュラを含むフォーミュラの構成には使用できません。

他のフォーミュラを含むフォーミュラを構成するには、総計メソッドとして「2 つの計算メソッド間のフォーミュラです。」を使用します。これにより、パフォーマンス管理デザイナーには別のインタフェースが表示されます。このインタフェースについては次の項で説明します。

この総計メソッドについては、次の点に注意してください。

- このメソッドで処理できるのは、2 つのオペランドと両者間の演算子 (+、-、*、/) のみです。
- フォーミュラの各ソース列には、異なる積上 / 総計メソッドを使用できます。

フォーミュラの作成

OBSC でフォーミュラを構成する手順は、次のとおりです。

1. 使用可能なラジオ・ボタンを選択して、適切な総計メソッドを選択します。

前述したケース 1 の場合は、最初のラジオ・ボタン「総計メソッドをフォーミュラ全体に適用してください。」を選択し、フォーミュラ全体に適用する適切な総計メソッドをドロップダウン・リストから選択します。この選択により、フォーミュラに含まれているメジャーの総計メソッドが上書きされます。

前述したケース 2 の場合は、第 2 のラジオ・ボタン「総計メソッドをフォーミュラの各要素に適用してください。」を選択します。

ケース 3 の場合は、第 3 のラジオ・ボタン「2 つの計算済メジャー間のフォーミュラです。」を選択します。

2. 「進む」ボタンをクリックし、画面がリフレッシュされるまで待ちます。第 3 の総計オプションを選択すると、異なる構成インタフェースが表示されます。

最初の 2 つの総計メソッドの場合は、次の手順を実行します。

3. フォーミュラ用のメジャーに対応するソース列を 1 つずつ選択します。必要なソース列を検索するには、「検索」オプションを使用します。

4. 「追加」をクリックして、選択した各ソース列を「フォーミュラ」ボックスに移動します。
5. 選択したソース列の間で、必要に応じて適切なリンク演算子 (+、-、*、/) を選択します。

注意：設計者は、必要に応じて「フォーミュラ」ボックスにフォーミュラを直接入力できます。この場合は、次のルールに従ってください。

- 許容される演算子 (+、-、*、/) のみを使用します。
 - 既存のソース列名のみを使用します。
 - SUM、AVG、MIN および MAX などの積上指示は、フォーミュラの一部として追加しないでください。総計メソッドを選択すると、この種の指示が OBSC によりフォーミュラに追加されます。
6. フォーミュラの完成後に「検証」ボタンをクリックすると、OBSC により構文エラーの有無が検査されます。フォーミュラにエラーがなければ、パフォーマンス管理デザイナーに確認メッセージが表示されます。それ以外の場合は、検出されたエラーの説明を示す別のメッセージが表示されます。
 7. 必要に応じて「次」または「終了」をクリックして変更をコミットします。
 8. 「次」をクリックすると、フォーミュラと一致するように作成されたソース列の名称を示す「データ・ソース」画面が表示されます。

注意：メジャー間のフォーミュラがサポートされるのは、カスタム・メジャーの場合のみです。この機能は、Oracle EBI Suite の事前定義済メジャー間のフォーミュラをサポートしていません。

第3の総計メソッドの場合は、次の手順を実行します。

1. ドロップダウン・メニューで選択可能なソース列から、フォーミュラに使用する2つのソース列を個別に選択します。この「フォーミュラ」ボックスは編集不可であることに注意してください。ユーザーがフォーミュラを手動で入力することはできません。

図 3-130 フォーミュラ：タイプ3

ORACLE®
Performance Management Designer

Home Logout Preferences Home Logout Preferences Preferences

Reporting Performance Measures

Measures Dimensions KPIs

Primary Attributes
Additional Attributes
Formulas
Data Source

Measures > Create Measure
Create Measure: Formulas

Cancel Back Step 3 of 4 Next Finish

Formula Aggregation Method

☐ Apply aggregation method to the overall formula, e.g.: SUM(source_column1/source_column2) SUM

☐ Apply aggregation method to the each element of the formula, e.g.: SUM(source_column1)/SUM(source_column2)

☒ Formulas between 2 calculated measures, e.g.: SUM(source_col1/source_col2)/AVG(source_col3+source_col4)

Go

Formula Editor

Operand 1 Assets

* Function +

Operand 2 NetProfit

Go

Formula SUM(Assets)+SUM(NetProfit)

Cancel Back Step 3 of 4 Next Finish

Reporting | Performance Measures | Home | Logout | Preferences | Home | Logout | Preferences | Preferences

Copyright 2003 Oracle Corporation. All rights reserved. Privacy Statement

2. 2つのオペランドをリンクする演算子を選択します。
3. 「進む」ボタンをクリックします。構成済のフォーミュラが表示されます。

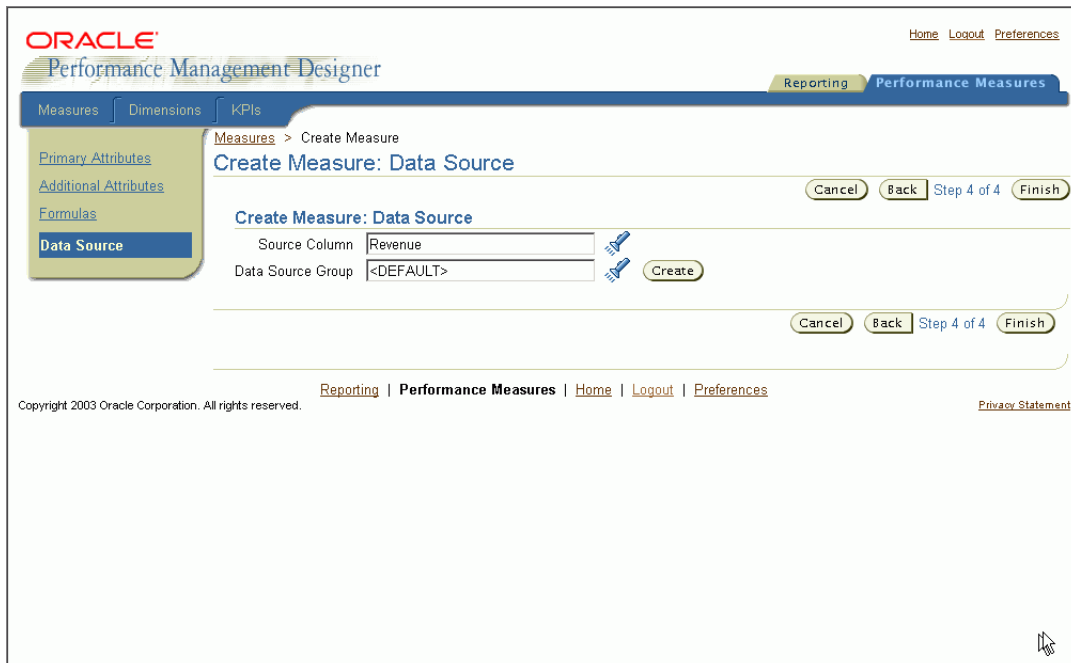
メジャーのデータ・ソースの更新

メジャー作成ステップ1を完了した後、主要属性である「名称」と「摘要」を定義すると、メジャーのソース列名（データ・ソース）が表示名に基づいて自動的に生成されます。

システム内のすべてのメジャーには、ソース列（データ・ソース）が関連付けられています。ソース列は、メジャーのデータが格納されるデータベース列を指します。作成されるメジャーごとにソース列が1つ生成されますが、設計者はデフォルトで割り当てられるソース列を変更し、前に作成しておいたソース列を使用できます。

また、1つのソース列を複数のソース列間またはメジャー間のフォーミュラに使用できます。これにより、様々なメジャーにフォーミュラを再利用できます。

図 3-131 データ・ソースの更新



メジャーのデフォルトのソース列を変更する際の考慮事項は、次のとおりです。

- ソース列名は、メジャーの表示名に基づいてシステムにより自動的に生成されます。メジャー名とソース列名の両方が一意である必要があるため、システムでは表示名が重複していないことが検証されます。メジャーの表示名に空白または特殊文字を使用すると、システムにより同じソース列名の生成が試行される場合があります。この場合は、メジャー用に異なる表示名を作成するように要求されます。
- ソース列名は編集不可です。別のソース列を選択してメジャーのソース列を変更するか、表示名を変更してソース列名を変更できます。
- ソース列が作成されるのは、メジャーの作成時のみです。メジャーから独立してソース列を作成することはできません。論理フローでは、常にソース列作成の基礎としてメジャーを作成する必要があります。

注意：システムでは、データ・ソース名が検証されます。BSC アーキテクト・ツールのユーザーは、「BSCI」で始まるデータ・ソース名を使用しないでください。この種の名称は、計算が常駐する内部列用に予約済です。つまり、接頭辞 BSCI を持つメジャーは作成しないでください。

データ・ソース・グループの作成

このオプション機能が役立つのは、多数の指標とメジャーを割り当てて非常に大きいスコアカードを作成する場合です。この機能は、次の2つの方法で使用できます。

- 関連メジャーの表の作成
- 関連メジャー用に作成される表の数の削減

つまり、関連する性質を持ったメジャーや、組織内の特定のデータ・ソースからのメジャーを識別し、ソース・グループを作成して、これらのメジャーをグループ化する単一の表をシステムで生成するように指定できます。これにより、データ管理が容易になります。

同じ活動期間で、特定のグループに属する全データ・ソースのデータがデータベース内の同じ表に書き込まれれば、システム管理者にとっては入力と管理が容易になります。

メジャーが作成されると、そのメジャーは常にデフォルトのデータ・ソース・グループに割り当てられます。設計者がこのデフォルトを変更しなければ、特定のデータ・ソース・グループを作成しないかぎり、システムでは関連メジャーの表に対して特別な最適化は実行されません。*

*** 注意：**メタデータ・オブティマイザは、KPI、メジャーおよびディメンションの構造に基づいて、生成される表の数を最適化しようとしますが、ソース・グループもこの最適化のためにメタデータ・オブティマイザで考慮される追加情報です。

メジャーのソース・グループを作成する手順は、次のとおりです。

1. メジャーの作成後、またはメジャー作成プロセス中に、「データ・ソース」ステップに進んで「データ・ソース・グループ」フィールドの隣にある「作成」ボタンをクリックします。
2. テキスト・フィールド・ウィンドウが表示され、新規ソース・グループの名称を入力できます。
3. 「OK」をクリックしてメジャーの「データ・ソース」画面に戻ります。
4. 新規グループがメジャーに割り当てられます。

同じデータ・ソース・グループに第2のメジャーを割り当てる場合は、2つのメジャーに関連があることを指定し、それにあわせて表を最適化する必要があります。

1. メジャーの作成後、またはメジャー作成プロセス中に、「データ・ソース」ステップに進んで「データ・ソース・グループ」フィールドの隣にある「値リスト」アイコンを選択します。
2. 使用可能な作成済データ・ソース・グループを示すウィンドウが表示されます。
3. メジャーに使用するデータ・ソース・グループを選択します。
4. 「適用」をクリックして「データ・ソース」画面に戻ります。
5. もう1度「適用」をクリックして選択内容をコミットし、「メジャーのリスト」に戻ります。

変更のために「更新」ボタンを使用するか、作成済のメジャーを変更するときに、同じ手順を実行できます。

メジャーのプロパティの更新

設計者は、メジャーのリストで「更新」ボタンをクリックすると、システムで作成されたすべてのカスタム・メジャーについて次のプロパティを更新できます。

- 主要属性
- 追加属性
- フォーミュラ
- データ・ソース

これらの各プロパティの「更新」画面の外観と動作は、メジャー作成時と同じです。「更新」機能を介していずれかのフィールドを変更するには、セクションごとに前述した指示に従ってください。

注意：システムにより内部的に生成される一部のフィールドは、更新不可として表示される場合があります。たとえば、メジャーの「内部名」は、システムにより生成される一意の識別子であり、設計者は更新できません。通常、他のフィールドはすべて更新可能です。

メジャーのプロパティを更新する手順は、次のとおりです。

1. 「メジャーのリスト」にナビゲートします。
2. メジャーの「更新」ボタンを選択します。
3. 変更するプロパティのタイプとして「主要属性」、「追加属性」、「フォーミュラ」または「データ・ソース」を選択します。
4. プロパティを変更します。
5. 「適用」をクリックして変更内容をコミットし、「メジャーのリスト」に戻ります。

ディメンションの作成

レポートまたはポートレットでパフォーマンス・メジャーを使用している場合は、ディメンション・オブジェクトのデータを特定の方法でフィルタリングして表示できます。たとえば、ディメンション・オブジェクトとして「国」を使用すると、特定の国の収益を表示したり、複数の国にまたがって収益を比較できます。

ディメンション・オブジェクトは、ディメンションとともに作成され、グループ化されます。その後、KPI の作成時または更新時にディメンションが割り当てられます。ディメンション・オブジェクトに対する変更は、すべてそれを使用する KPI に継承されます。

用語

このリリースでは、他の Oracle Business Intelligence アプリケーションにあわせて用語が次のように変更されました。

- ディメンションは、このリリースではディメンション・オブジェクトと呼ばれます。
- ディメンション・グループは、このリリースではディメンションと呼ばれます。

シード済ディメンションとディメンション・オブジェクト

パフォーマンス管理デザイナーには、Oracle E-Business Suite から値を直接取り出すシード済のディメンションおよびディメンション・オブジェクトが用意されています。これらは、シード済のパフォーマンス・メジャーで使用されます。この時点では、顧客が作成したパフォーマンス・メジャーまたは KPI では、シード済のディメンションおよびディメンション・オブジェクトを更新または使用できません。

ディメンションの作成

ディメンションはディメンション・オブジェクトのグループで、KPI に割り当てられます。これが役立つのは、複数のメジャーに同じディメンション・オブジェクトを使用する場合で、これらを含む 1 つのディメンションを割り当てることができます。また、ディメンションの内容を変更するだけで、KPI のディメンション・オブジェクトを容易に追加または削除できます。

以前のバージョンでは、ディメンション・オブジェクトの作成時にディメンションを自動的に作成するためのオプションがあったことに注意してください。このオプションはなくなりました。

ディメンションを作成するには、「ディメンション」タブで「ディメンション」サイド・ナビゲーションを使用します。

ディメンションを作成する手順は、次のとおりです。

1. 「ディメンション」タブで、サイド・ナビゲーションから「ディメンション」を選択します。
2. 「ディメンションの作成」ボタンを選択します。「ディメンションの作成」ウィンドウが表示されます。

図 3-132 「ディメンションの作成」

ORACLE® Performance Management Designer

Home Logout Preferences

Measures Dimensions KPIs

Performance Measures > Dimensions > Create Dimension

Create Dimension

* Indicates required field

Display Name

Description

Cancel Apply

Dimension Objects

Available Dimension Objects

Selected Dimension Objects

Go

Move

Move All

Remove

Remove All

Cancel Apply

Reporting | Performance Measures | Home | Logout | Preferences

Copyright 2003 Oracle Corporation. All rights reserved. Privacy Statement

3. 表示名を入力します（必須）。既存のディメンションと同じ表示名を入力してもかまいませんが、混同する可能性があることに注意してください。システムでは、ディメンションの更新時に表示される一意の内部名が割り当てられます。

「使用可能ディメンション・オブジェクト」リストには、顧客が作成したオブジェクトのみが表示されることに注意してください。新規ディメンションに E-Business Suite のディメンション・オブジェクトを含めることはできません。

4. 摘要を入力します（オプション）。
5. 「ディメンション・オブジェクト」セクションで、「検索」ボックス、「開始」ボタンおよびシャトルを使用して、このディメンションにディメンション・オブジェクトを追加します（オプション）。
6. 「適用」ボタンを選択します。ディメンション・リストには、事前シード済のディメンションも表示されることに注意してください。この種のディメンションは変更も削除もできません。

ディメンション・オブジェクトの作成

ディメンション・オブジェクトを作成するには、「ディメンション」タブで「ディメンション・オブジェクト」サイド・ナビゲーションを使用します。

ディメンション・オブジェクトを作成する手順は、次のとおりです。

1. 「ディメンション」タブで、サイド・ナビゲーションから「ディメンション・オブジェクト」を選択します。
2. 「ディメンション・オブジェクトの作成」ボタンを選択します。「ディメンション・オブジェクトの作成」ウィンドウが表示されます。

図 3-133 ディメンション・オブジェクトの作成

ORACLE®
Performance Management Designer

Home Logout Preferences

Measures Dimensions KPIs

Performance Measures > Dimensions > Dimension Objects > Create Dimension Object: Primary Attributes

Create Dimension Object: Primary Attributes

* Indicates required field

* Display Name

Description

Cancel Step 1 of 3 Next Finish

Dimensions That Contain Dimension Object

Available Dimensions

Selected Dimensions

Go

Move

Move All

Remove

Remove All

Cancel Step 1 of 3 Next Finish

Reporting | Performance Measures | Home | Logout | Preferences

Copyright 2003 Oracle Corporation. All rights reserved. Privacy Statement

- 表示名を入力します（必須）。既存のディメンション・オブジェクトと同じ表示名を入力してもかまいませんが、混同する可能性があることに注意してください。システムでは、ディメンション・オブジェクトの更新時に表示される一意の内部名が割り当てられます。
- 摘要を入力します（オプション）。
- 「ディメンション」セクションで、「検索」ボックス、「開始」ボタンおよびシャトルを使用して、このディメンション・オブジェクトをディメンションに追加します（オプション）。「使用可能ディメンション」リストで選択できるのは、顧客サイトで作成されたディメンションのみであることに注意してください。
- 「次」ボタンを選択します。

図 3-134 ディメンション・オブジェクトの作成

ORACLE®
Performance Management Designer

Home Logout Preferences

Measures Dimensions KPIs

Performance Measures > Dimensions > Dimension Objects > Create Dimension Object: Display Attributes

Create Dimension Object: Display Attributes

Cancel Back Step 2 of 3 Next Finish

Dimension Object Country

All Label

View-By Label

Prototype Value Prefix

* Dimension Object Values Order Description

* Comparison Order Descending

Cancel Back Step 2 of 3 Next Finish

Reporting | Performance Measures | Home | Logout | Preferences

Copyright 2003 Oracle Corporation. All rights reserved. Privacy Statement

7. 「[全て] ラベル」フィールドに、このディメンション・オブジェクトの値をすべて選択する必要がある場合にレポートに表示するラベルを入力します。何も入力しなければ、デフォルトで「全て」に設定されます（オプション）。
8. 「[表示単位] ラベル」フィールドに、このディメンション・オブジェクトをデータ分析方法として選択する必要がある場合にレポートに表示するラベルを入力します。何も入力しなければ、デフォルトで「比較」に設定されます（オプション）。
9. 「プロトタイプ値プリフィクス」フィールドに、プロトタイプ・モードでディメンション・オブジェクト値を作成するときに接頭辞として使用する値を入力します。何も入力しなければ、デフォルトで表示名から空白を削除した短縮形に設定されます（オプション）。
10. 「ディメンション・オブジェクト値順序」フィールドのドロップダウン・ボックスで、レポートでディメンション・オブジェクトの値に使用するソート基準として「摘要」または「ユーザー・コード」を選択します。
11. 「比較順序」フィールドのドロップダウン・ボックスで、比較モードにおけるデータの表示順序として「降順」、「昇順」またはディメンション・オブジェクト値と同じ順序を選択します。
12. 「次」ボタンを選択します。

図 3-135 ディメンション・オブジェクトの作成

13. (オプション) ディメンション・オブジェクト値を含む表の名称となるソースを入力します。この名称を入力しなければ、自動的に生成されて更新モードで表示されます。保存または生成後は、このフィールドを更新しないことをお勧めします。更新すると、データベース・エラーまたは永続的なデータ消失が発生する可能性があります。
14. (オプション) ディメンション・オブジェクト値を含む列の名称となるソース列を入力します。この名称を入力しなければ、自動的に生成されて更新モードで表示されます。保存または生成後は、このフィールドを更新しないことをお勧めします。更新すると、データベース・エラーまたは永続的なデータ消失が発生する可能性があります。
15. (オプション) ディメンション・オブジェクト値の ID の最大コード・サイズを文字数単位で入力します。サイズを入力しなければ、デフォルトで 5 に設定されます。保存後に最大コード・サイズを小さくすることはできません。
16. (オプション) ディメンション・オブジェクト値の最大名称サイズを文字数単位で入力します。サイズを入力しなければ、デフォルトで 15 に設定されます。保存後に最大名称サイズを小さくすることはできません。事前シード済みのディメンション・オブジェクトも表示されることに注意してください。この種のディメンション・オブジェクトは変更も削除もできません。

ディメンションへのディメンション・オブジェクトの割当て

ディメンションにディメンション・オブジェクトを割り当てるには、ディメンションまたはディメンション・オブジェクトを更新します。

ディメンション・オブジェクトの更新とディメンションへの割当て

ディメンション・オブジェクトを更新するには、「ディメンション」タブで「ディメンション・オブジェクト」サイド・ナビゲーションを使用します。

1. 「検索」セクションでディメンション・オブジェクトを検索します。
2. 「更新」アイコンを選択します。「ディメンション・オブジェクトの更新」ウィンドウが表示されます。
3. 「ディメンション」セクションで、「検索」ボックス、「開始」ボタンおよびシャトルを使用して、このディメンション・オブジェクトをディメンションに追加します。「適用」ボタンを選択します。

ディメンションの更新によるディメンション・オブジェクトの組込み

ディメンションを更新するには、「ディメンション」タブで「ディメンション」サイド・ナビゲーションを使用します。

1. 「検索」セクションでディメンションを検索します。
2. 「更新」アイコンを選択します。「ディメンション・オブジェクトの更新」ウィンドウが表示されます。
3. 「ディメンション・オブジェクト」セクションで、「検索」ボックス、「開始」ボタンおよびシャトルを使用して、このディメンションにディメンション・オブジェクトを追加します。「適用」ボタンを選択します。

ディメンション内のディメンション・オブジェクトの更新

ディメンション内のディメンション・オブジェクトのプロパティを使用して、特定グループに属している場合の動作と同様に、ディメンション・オブジェクトの詳細設定を指定できます。この設定を使用すると、ディメンション・オブジェクトに表示する内容やディメンション固有の設定を定義できます。

ディメンション・オブジェクトを更新するには、「ディメンション」タブで「ディメンション」サイド・ナビゲーションを使用します。

1. 「ディメンション」フォームの「検索」セクションでディメンション・オブジェクトを検索します。
2. 「更新」アイコンを選択します。「ディメンション内のディメンション・オブジェクトの更新」ウィンドウが表示されます。

図 3-136 ディメンション内のディメンション・オブジェクトの更新

ORACLE®
Performance Management Designer

Home Logout Preferences

Measures Dimensions KPIs

Performance Measures > Dimensions > Update Country in Geography

Update Country in Geography

Cancel Apply

Dimension	Geography
Dimension Object	Country
All and Comparison Options	
☒ Allow All and Comparison with Default of All ☐ Allow All and Comparison with Default of Comparison ☐ Allow All Only ☐ Allow Comparison Only	
* When Dimension Object has no values	Display Dimension Object
* When Parent is Set to 'All'	Display Dimension Object

Cancel Apply

Reporting | Performance Measures | Home | Logout | Preferences

Copyright 2003 Oracle Corporation. All rights reserved. Privacy Statement

- 「全て」および「比較」オプション」ラジオ・ボタンで、レポートで「全て」と「比較」のどちらを許可するかとデフォルト設定を選択します。「全て」を選択すると、レポート・ユーザーは全ディメンション・オブジェクト値のデータの合計または平均を表示できます。「比較」を選択すると、レポート・ユーザーはディメンション・オブジェクト値の間のデータ比較を表示できます。
- 「ディメンション・オブジェクトに値がない場合」フィールドで、この場合にレポートのパラメータを非表示にするかどうかを選択します。
- 「親が「全て」に設定されている場合」フィールドで、この場合にパラメータを非表示にするか、使用不可にするか、表示するかを選択します。

ディメンション・オブジェクト関連の更新

ディメンション関連を使用すると、ディメンション・オブジェクト間の親子関係を定義できます。この機能は、ディメンション・オブジェクトや「リスト」ボタン機能など、BSC の正常動作に不可欠です。また、入力表とシステム表のレイアウトは、ディメンション・オブジェクト関連が適切に設定されているかどうかに応じて大きく異なります。

1 つの親ディメンション・オブジェクト値は、そこに積み上げられる 1 つ以上の子ディメンション・オブジェクト値を持ちます。たとえば、親ディメンション・オブジェクトが STATE で、子ディメンション・オブジェクトが CITY であるとしします。各種の CITY 値（サクラメント、サンフランシスコ、ロサンゼルスおよびサンディエゴなど）は、特定の STATE 値（カリフォルニアなど）に積み上げられます。

親ディメンション・オブジェクトを別の親ディメンション・オブジェクトに積み上げることもできます。たとえば、STATE ディメンションを REGION ディメンション（カリフォルニア、ワシントン、オレゴン、アリゾナおよびユタなど、いずれも西部リージョンに積み上げられるディメンション）に積み上げることができます。

レポートや他のアプリケーション用に親子関連を使用できます。

ディメンション・オブジェクト間の関連を設定するには、「ディメンション」タブで「ディメンション・オブジェクト関連」サイド・ナビゲーションを使用します。

- 「検索」セクションでディメンション・オブジェクトを検索します。
- 「更新」アイコンを選択します。「ディメンション・オブジェクト関連の更新」ウィンドウが表示されます。
- 「親」および「子」セクションで、「検索」ボックス、「開始」ボタンおよびシャトルを使用して、このディメンション・オブジェクトに親および子を追加します。

図 3-137 このディメンション・オブジェクトへの親および子の追加

ORACLE®
Performance Management Designer

Home Logout Preferences

Reporting Performance Measures

Measures Dimensions KPIs

Performance Measures > Dimensions > Dimension Object Relationships > Update Country Relationships

Update Country Relationships

Cancel Continue

Dimension Object Country

Parents

Available Dimension Objects

Selected Dimension Objects

Region
Product

Children

Available Dimension Objects

Selected Dimension Objects

State
Product

Cancel Continue

Copyright 2003 Oracle Corporation. All rights reserved. Reporting | Performance Measures | Home | Logout | Preferences Privacy Statement

4. 「続行」ボタンを選択します。「ディメンション・オブジェクト関連の更新: 属性」ウィンドウが表示されます。

図 3-138 ディメンション・オブジェクト関連の属性

ORACLE®
Performance Management Designer

Home Logout Preferences

Reporting Performance Measures

Measures Dimensions KPIs

Performance Measures > Dimensions > Dimension Object Relationships > Update Country: Attributes

Update Dimension Object Relationships: Attributes

Cancel Apply

Dimension Object Country

Parent

Dimension Level	Mapping
Product	Many to Many
Region	One to Many

Children

Dimension Level	Mapping
Product	Many to Many
State	One to Many

Cancel Apply

Reporting | Performance Measures | Home | Logout | Preferences

Copyright 2003 Oracle Corporation. All rights reserved. Privacy Statement

5. 選択した親および子ごとに、マッピングが「一对多」であるか「多対多」であるかが表示されます。ディメンション・オブジェクトが1つのシャトル（親または子）にのみ追加されている場合は、「一对多」関連が作成されます。「多対多」関連は、同じディメンション・オブジェクトを両方のシャトルに追加すると作成されます。
6. 「適用」ボタンを選択します。

ディメンション・オブジェクトの移動

ディメンション内のディメンション・オブジェクトの順序により、レポートに表示されるパラメータの順序が決定されます。

「リスト」ボタンと「ディメンション・オブジェクト関連」には、適切な順序設定が必要であることに注意してください。「リスト」ボタンの場合は、KPI 関連ディメンションに含まれるすべてのディメンション・オブジェクトについて同じ順序設定が必要です。「ディメンション・オブジェクト関連」の場合は、ディメンションの順序設定で親が子の直前にリストされる必要があります。

順序を変更するには、「ディメンション」タブで「ディメンション」サイド・ナビゲーションを使用します。

1. 「検索」セクションでディメンションを検索します。
2. 「更新」アイコンを選択します。「ディメンションの更新」ウィンドウが表示されます。
3. 「ディメンション・オブジェクト」セクションの「選択したディメンション・オブジェクト」ボックスで、上矢印と下矢印を使用してディメンション・オブジェクトを移動します。
4. 「適用」ボタンを選択します。

設計者は、システムでメジャーとディメンションの作成を完了した後、KPI 構造に戻って KPI へのメジャーとディメンションの割当てを開始できます。

スコアカードの追加プロパティの構成 : アーキテクト

この項では、BSC アーキテクトでスコアカードの追加プロパティを定義する方法について説明します。

スコアカード・レベルの共通ディメンション（「リスト」ボタン）の定義

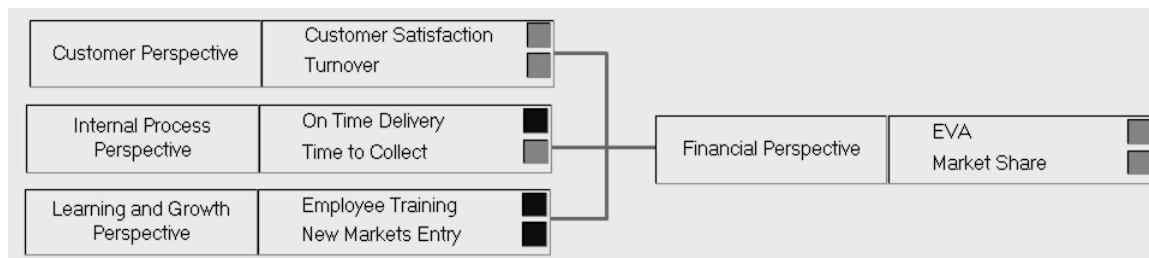
「リスト」ボタン（[図 3-139](#)）がアクティブ化されている場合は、設計モードのバランス・スコアカード・メイン・パネルの右下にある「終了」ボタンの隣に表示されます。

図 3-139 「リスト」ボタン



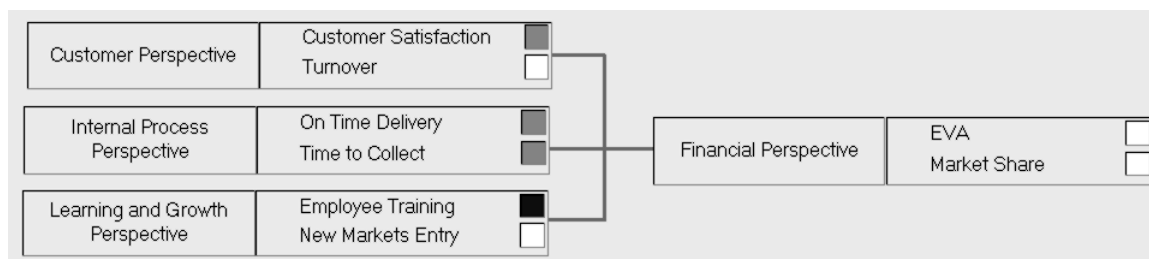
構成済のリストは、「スコアカード・ビュー」、「戦略マップ・ビュー」など、定義済のすべてのメイン・ビューについてビューに「表示別」オプションとして表示されます。「リスト」ボタンを使用すると、BSC システムのメイン・パネルを様々なディメンション値でフィルタリングできます。たとえば、社内用バランス・スコアカードの警告ボックスが次の値に設定されているとします（[図 3-140](#)）。

図 3-140 「リスト」ボタンが有効化されていないメイン KPI ビュー



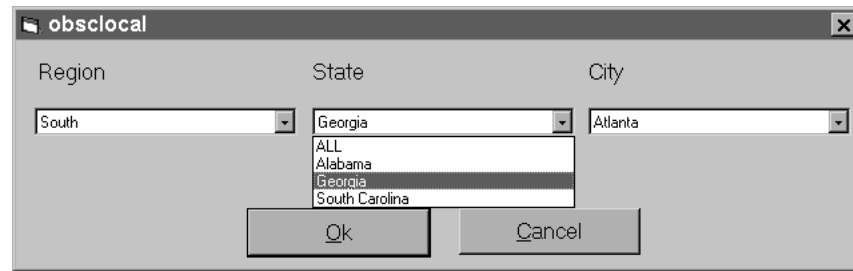
「リスト」ボタンを使用すると、ユーザーは同じバランス・スコアカードを特定のディメンション値に関して表示できます。たとえば、「リージョン」が使用可能なディメンションの 1 つである場合は、「南部」リージョンの値を次のように設定できます（[図 3-141](#)）。

図 3-141 「リスト」ボタンが有効化されているメイン KPI ビュー



ユーザーが「リスト」ボタンを選択すると、バランス・スコアカードの表示に使用可能な有効なディメンションをすべて表示できます。この例では、ユーザーがスコアカードの表示に使用できるように「リージョン」、「州」および「郡市区」という複数のディメンションが設定されています。[図 3-142](#)に、「南部」リージョンに有効なディメンション値を示します。

図 3-142 「リスト」 ボタンのディメンション



ユーザーは、ディメンションとディメンション値に可能な任意の組合せを選択できます。この組合せは、関連する親子関連でのみ制限されます。（前述の例では、「南部」リージョンにない州は選択できません。この制限はシステムにより自動的に適用されます。ユーザーは、選択した親値に応じて有効な子値しか選択できません）。

この例では、ユーザーはそれぞれのディメンション値を選択し、ジョージア州アトランタのバランス・スコアカードを表示するように選択しています。ユーザーが「OK」を選択すると、パネルにはアトランタの警告ボックスの値が表示されます。

BSC 管理者を使用すると、ユーザーを特定セットのディメンション値に制限することもできます。前述のユーザーがアトランタ担当マネージャであった場合は、アトランタのデータのみを表示するように制限できます。その場合、ユーザーの「リスト」ボタンは非アクティブ化され、パネルの警告は常にアトランタに関するものになります。

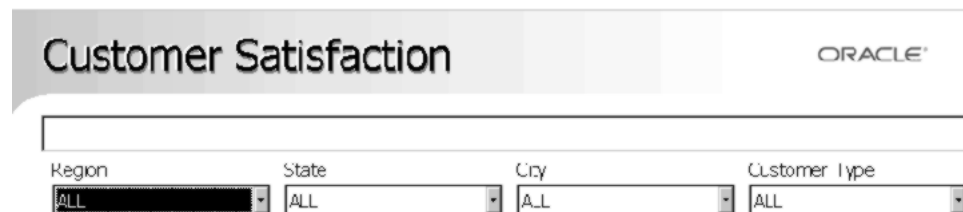
「リスト」ボタンを使用すると、その他にも柔軟性を持たせることができます。たとえば、ユーザーが南部担当マネージャの場合、「リージョン」ディメンションはロックされますが、「リスト」ボタンを選択すると「南部」リージョンの任意の州と市を選択できます。

その他の「リスト」ボタン機能

ディメンションが「リスト」ボタンに使用可能になるのは、タブ上のすべての KPI に共通している場合のみであることを理解しておくことが重要です。ディメンションがタブ上のすべての KPI に共通でない場合は、「フィルタ」ボタンを使用してフィルタリングできます。たとえば、「リージョン」ディメンションを「リスト」ボタンに使用可能にするには、このディメンションがタブ上のすべての KPI に存在する必要があります。前述の例では、3 つのディメンション（「リージョン」、「州」および「郡市区」）がいずれもタブ上のすべての KPI に存在するため、「リスト」ボタンのディメンションとして使用可能です。

「リスト」ボタンのディメンションは KPI ディメンションと同一であるため、「リスト」ボタンを使用して特定のディメンション値を選択すると、ユーザーが KPI を入力するたびに、その KPI には選択したディメンションのデータのみが表示されます。たとえば、ユーザーが「リスト」ボタンのディメンションを選択しなければ、KPI にナビゲートすると、「リスト」ボタンに使用可能な 3 つのディメンションがすべて表示されます。[図 3-143](#) では、「リージョン」、「州」および「郡市区」です。（「顧客タイプ」は独立ディメンションです）。

図 3-143 KPI ビュー、「リスト」ボタンのディメンションが選択されていない状態



ただし、「リスト」ボタンを使用して「南部」リージョンを表示するように選択した場合、KPI に戻ってもこのディメンションは使用可能になりません。[図 3-144](#) に示すディメンションが表示されます。

図 3-144 KPI ビュー、「リスト」ボタンで「リージョン」ディメンションが選択されている状態

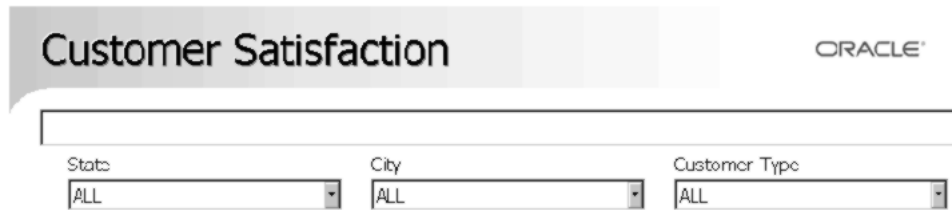


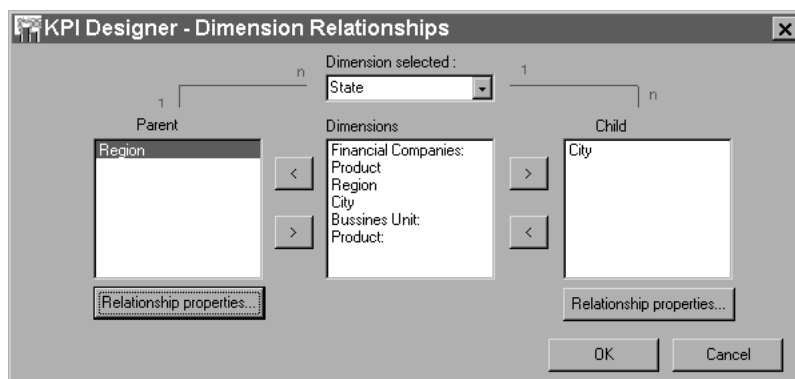
図 3-144 の例では、KPI 全体がすでに「南部」リージョンでフィルタリングされているため、「リージョン」ディメンションは使用可能でないことに注意してください。

「リスト」ボタンの設定

「リスト」ボタンを設定するには、KPI デザイナとビルダーの両方を使用します。KPI デザイナで手順 1 ～ 2 を実行し、BSC ビルダーで手順 3 ～ 6 を実行します。

1. KPI にディメンションを追加します。「リスト」ボタンに追加するディメンションが、タブ上のすべての KPI に存在することを確認します。また、ディメンションはすべての KPI 上で同じ順序（左から右）に設定されている必要があります。この 2 つの条件が確実に満たされるように、ディメンション定義ウィンドウで「リスト」ボタンのディメンションを共通のディメンション・グループおよびディメンション・セットにグループ化し、そのグループ全体を KPI に割り当てることができます。デフォルト値「比較」を持つディメンションをリストに含めることはできません。
2. 「リスト」ボタンのディメンションは、親子関連を介して関連付ける必要があります。独立ディメンションを「リスト」ボタンの構成に含めることはできません。たとえば、「リージョン」、「州」および「郡市区」には親子関連があるため、「リスト」ボタンの構成に含めることができます。しかし、「顧客タイプ」は 3 つの地理ディメンションから独立したディメンションであるため（どの顧客タイプも任意のリージョン、郡市区または州に含めることができるため）、「リスト」ボタンの構成に含めることはできません。ただし、「顧客タイプ」自体を「リスト」ボタンのディメンションにすることはできます。選択したディメンションが、図 3-145 のように KPI デザイナの「ディメンションの定義」で適切な親子関連を使用して定義されていることを確認してください。

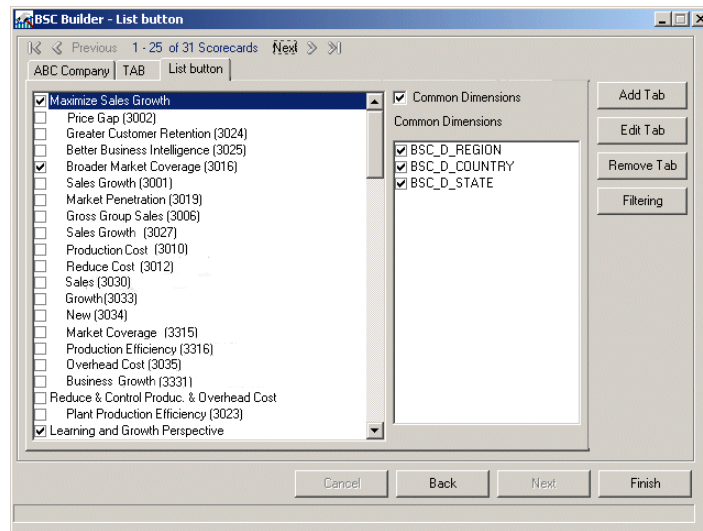
図 3-145 「ディメンション関連」ウィンドウ



3. KPI にディメンションを追加してディメンション間の関連を定義した後、ビルダーに戻って第 2 のウィンドウにナビゲートします。このウィンドウで各タブを定義し、各タブの KPI を選択できます。ウィンドウの右側にある「リスト・ボタン」のチェック・ボックスを選択します。
4. このチェック・ボックスを選択すると、図 3-146 のように、アクティブ化されていて「リスト」ボタンに使用可能なディメンションが表示されます。これらのディメンションは、次の基準に基づいて表示されます。つまり、ディメンションはタブ上のすべての KPI

に存在する必要があり、適切な親子関連を持つ必要があり、常に他のディメンションと同じ順序（左から右）で KPI に割り当てられている必要があります。

図 3-146 「タブ」ウィンドウ、「リスト・ボタン」がアクティブ化されている状態



注意： ディメンションは、指定の名称ではなくディメンション表名で記述されます。

5. チェック・ボックスを使用して、「リスト」ボタンの構成に表示するディメンションを選択します。子ディメンションを選択するには、先に親ディメンションを選択する必要があります。
6. この手順に従って、「リスト」ボタンの設定に必要なすべてのタブを設定します。

注意： KPI の分析オプションで異なるディメンション・セットが定義されている場合、ディメンションを変更する分析オプションのディメンション構成がすべて同一である必要があります。それ以外の場合、「リスト」ボタンは機能しません。

「リスト」ボタンに関する制限

- 「リスト」ボタンに使用可能にするディメンションは、親子関連として定義する必要があります。
- 独立ディメンションは、使用可能な唯一のディメンションでないかぎり、「リスト」ボタンのディメンションの一部にすることはできません。
- 親子ディメンションの親ディメンションは、「リスト」ボタンのディメンションの1つである必要があります。
- 親子関連は、多対多ではなく1対多である必要があります。たとえば、州 - 市関連は、1つの州に多数の市があり、1つの市は1つの州にのみ所属するため有効ですが、州 - 製品関連は、1つの製品を多数の州で販売でき、1つの州で多数の製品を販売できるため無効です。
- 「リスト」ボタンで使用されるディメンションは、KPI でデフォルトの「比較」ディメンションとして構成できません。ユーザーは、そのディメンションの「比較」を手動で選択できますが、そのディメンションを（ユーザーが最初にナビゲートする時点で）KPI のデフォルト・ビューにすることはできません。KPI デザインでは、ディメンションで「比較」が選択されると「リスト」ボタンが使用不可になります。

- 「リスト」ボタンのディメンションは、すべての KPI に共通し、すべての KPI で同じ順序で設定されている必要があります。たとえば、「リージョン」、「州」および「郡市区」が共通ディメンションの場合、「リスト」ボタンに使用可能にするには、すべての KPI 上でこの順序で設定されている必要があります。
- 「リスト」ボタンの関連は、KPI 上で左から右に定義する必要があります。たとえば、「リージョン」>「州」>「郡市区」は有効ですが、「リージョン」>「郡市区」>「州」は無効です。

スコアカード用ディメンション・フィルタの定義

「フィルタリング」ボタンを使用すると、各タブに表示するディメンション値を定義できます。タブ上のディメンションに適用されるフィルタは、そのタブでそのディメンションを使用する指標すべてに影響します。この機能は、タブに特定のディメンションのデータセットのみを表示する必要がある場合に役立ちます。たとえば、「南西部署」タブには、南西部署に属しているリージョン、製品または他のビジネス・ディメンションのみを表示できます。

フィルタの主な目的は、ユーザーが 1 つのタブに属している全指標について異なるディメンション値のセットを定義できるようにすることです。通常、異なる組織単位を表す様々なタブには、異なる製品または地理のセットを関連付けることができます。製品ディメンションによるフィルタリングの例として、「企業」タブには全製品を表示し、「醸造所部署」タブには関連部署に関連する製品（ライト・ビールなど）のみを表示し、「ソフト・ドリンク部署」タブにはソフト・ドリンク製品のみを表示できます。

「リスト」ボタンとタブ別フィルタの違い

「リスト」ボタン機能とタブ別フィルタ機能は似ていますが、同一ではありません。たとえば、「リスト」ボタンでフィルタリングできる値は 1 つのみですが、タブ別フィルタを使用するとディメンションごとに複数の値を選択できます。また、「リスト」ボタンの定義に適用される制限（タブの全 KPI に共通のディメンションが必要）は、タブ別フィルタ機能には適用されません。タブ別フィルタは、選択したディメンションが他の指標で共有されていなくても、そのディメンションを使用する全 KPI に適用できます。

注意： 通常、ディメンションをタブ別にフィルタリングすると、「リスト」ボタンの値が上書きされます。たとえば、すでにリージョン（特定のタブの全 KPI に共通のディメンション）でフィルタリングしている場合にリージョン別リストを定義すると、KPI デザイナにはフィルタ対象リージョンに関連付けられているデータのみが表示されます。

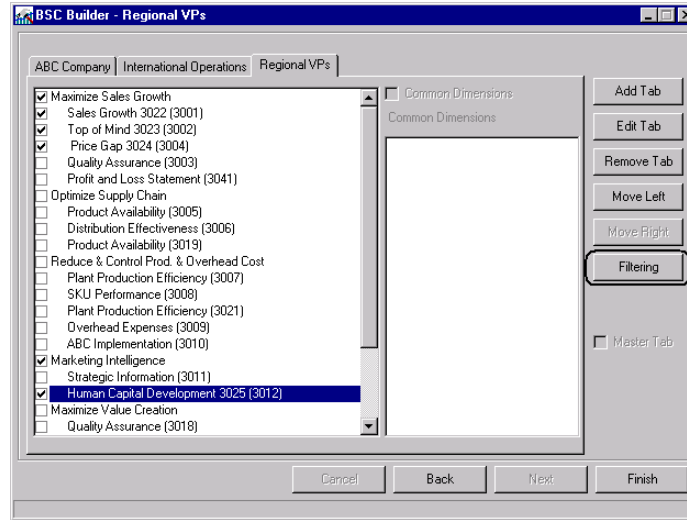
ディメンションをタブ別にフィルタリングするには、KPI デザイナ、メタデータ・オブティマイザおよび BSC ビルダーが必要です。手順 1 を KPI デザイナ、手順 2 をメタデータ・オブティマイザ、手順 3～6 を BSC ビルダー、手順 7 を BSC ビルダーで実行します。

1. 最初に、KPI デザイナを使用してすべての指標、ディメンションおよびディメンション関連を定義します。
2. 次に、メタデータ・オブティマイザを使用してディメンション表を構成し、これらの表に値を移入します。

注意： 後からフィルタまたは構造を変更した場合は、メタデータ・オブティマイザを再実行してディメンション表を再構成する必要があります。

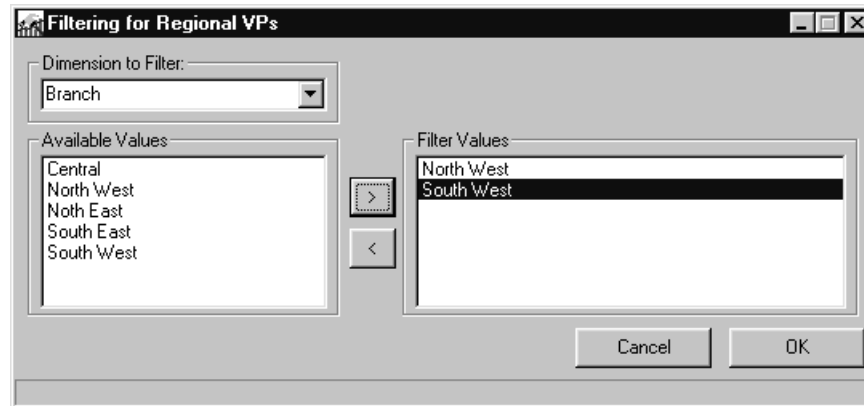
3. BSC ビルダーを再起動してメインの「タブ」ウィンドウにナビゲートします。[図 3-147](#)のように、フィルタ基準として使用するタブを選択します。

図 3-147 「フィルタリング」ボタンが選択されている状態の「リージョン VP」タブ



4. 「フィルタリング」ボタンを選択します。ダイアログ・ボックスが表示されます。

図 3-148 「リージョン VP」タブの「フィルタリング」ウィンドウ



5. プルダウン・リストからディメンションを選択して、そのディメンションの「使用可能値」リストを表示します。

注意： 子ディメンションをフィルタリングする場合は、その親を最初にフィルタリングする必要があります。たとえば、地区（リージョンの子）でフィルタリングするには、最初にリージョンでフィルタリングしてから地区でフィルタリングする必要があります。

6. 値を選択し、右矢印ボタンを選択します。選択した値が「フィルタ値」フレームに表示されます。値の選択を解除するには、「フィルタ値」ボックスで値を選択し、左矢印ボタンを選択します。一度にすべての値を選択するには、二重右矢印ボタンを選択します。一度にすべての値の選択を解除するには、二重左矢印ボタンを選択します。値の選択後に「OK」を選択します。
7. BSC ビルダーを終了して KPI デザイナを起動します。フィルタ基準として使用するタブを選択し、フィルタの適用先 KPI を選択します。この KPI には、フィルタ基準として選択したフィールドの関連データのみが表示されます。たとえば、フィルタ値として「国」を選択すると、KPI にはそのタブに関連した特定の国のディメンション値のみが表示されます。

その他のシステム・レベル・プロパティの構成

この項では、その他のシステム・レベル・プロパティを定義する方法について説明します。

一般システム・プロパティの定義

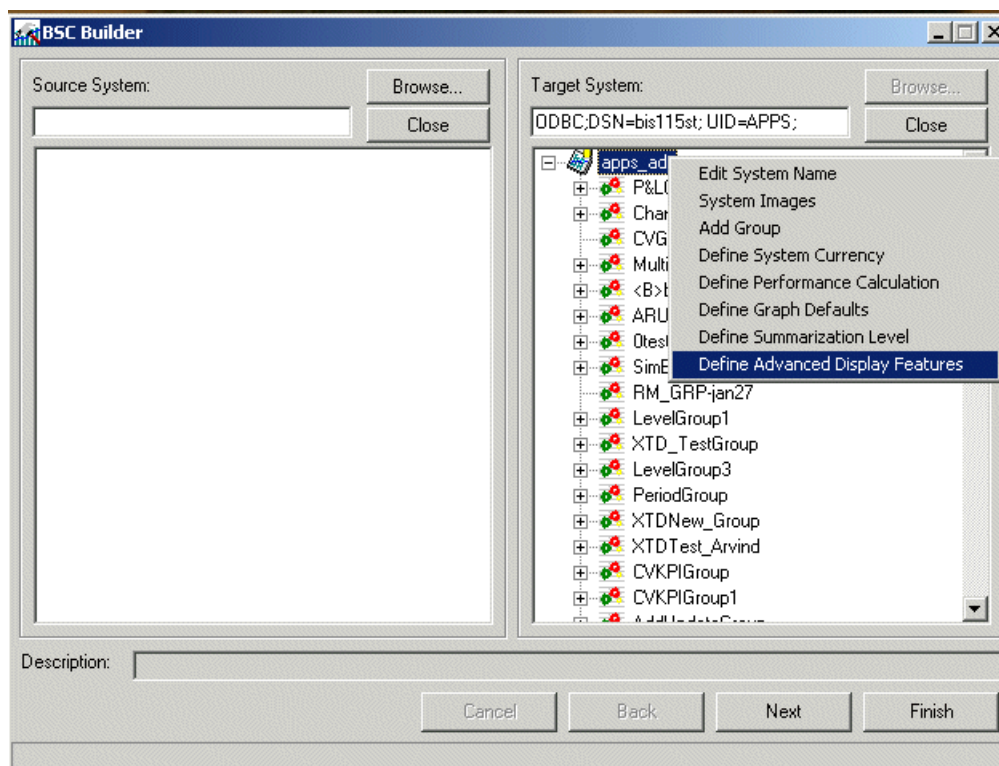
一般システム・プロパティを定義する場合は、システム名の編集、システム・イメージの構成およびシステム通貨の定義を行うことができます。

システム名の編集

「BSC ビルダー」ウィンドウの 1 行目に表示される既存の名称を編集し、BSC ビルダーからシステムを名称変更できます。

1. ターゲット・システム階層（右パネル）で、最上位レベルのノードを右クリックして選択します（図 3-149 を参照）。そのノードの名称が選択されます。

図 3-149 デフォルト・テンプレートおよびグループの名称変更



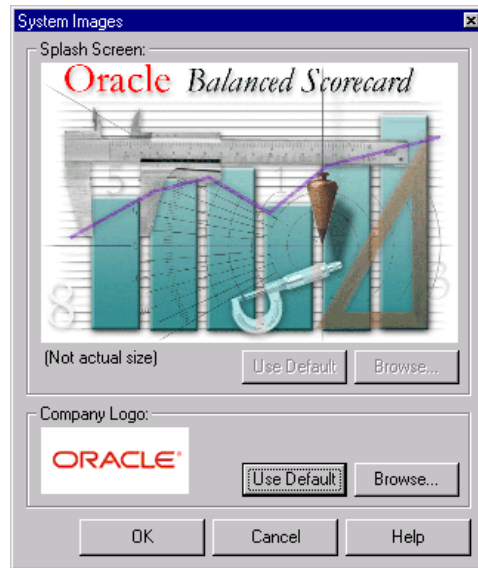
2. ポップアップ・メニューから「システム名の編集」を選択します。システム名の最後に、タイトルが編集可能であることを示すカーソルが表示されます。
3. 新規システム名を入力して「入力」を選択します。20 文字以内のシステム名を入力する必要があります。入力したシステム名がターゲット・システム階層に表示されます。

システム・イメージの構成

ビルダーを使用して、システムにシステム・イメージを組み込むことができます。設計モードとビューワの両方で表示する会社ロゴ・イメージをインポートできます。

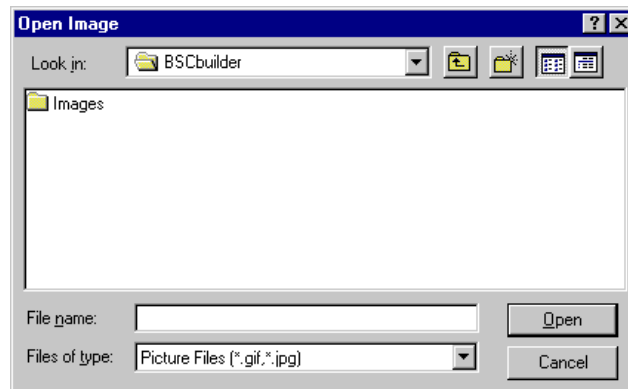
1. ビルダーでシステム・タイトルを選択します。システム・タイトルは、ビルダーでグループ名の真上に表示されます。
2. ポップアップ・メニューから「システム・イメージ」を選択します。図 3-150 のような「システム・イメージ」ウィンドウが表示されます。

図 3-150 「システム・イメージ」ウィンドウ



3. 会社のロゴを変更するには、「会社ロゴ」フレームで「ブラウズ」を選択し、「イメージのオープン」ウィンドウで有効なイメージ・ファイルを選択します。イメージ・ファイルは、次の図に示すように .jpg ファイルや .gif ファイルなどです。イメージに最適なサイズは幅 340 x 高さ 100 です。

図 3-151 イメージのオープン



注意： 会社ロゴ・イメージには、GIF または JPG ファイルを使用する必要があります。このバージョンでサポートされているイメージ・ファイル・タイプは、この 2 つのみです。

4. 「OK」を選択して変更内容を保存します。

注意： 会社のロゴが指定サイズよりも大きい場合、アプリケーションはグラフやビューで他の要素用に予約済の領域を使用して、ウィンドウ上のイメージに対応できます。

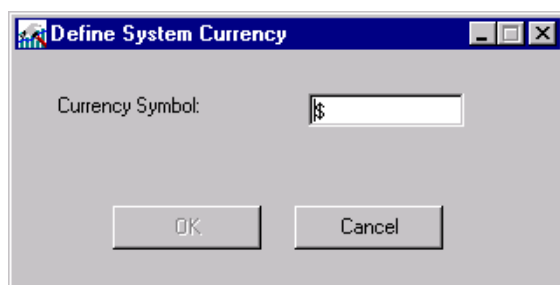
システム通貨の定義

バランス・スコアカードのビルダーで、システムに使用する通貨のタイプを定義できます。これは一般プロパティであるため、ここで定義した通貨記号はシステムで定義されるすべての指標およびメジャーに影響します。

1. 「システム通貨の定義」機能を選択します。
2. ポップアップ・ウィンドウ (図 3-152) に、システムに使用する通貨記号を入力します。

注意： 有効な通貨記号は、最大 4 文字で定義できます。

図 3-152 システム通貨の定義

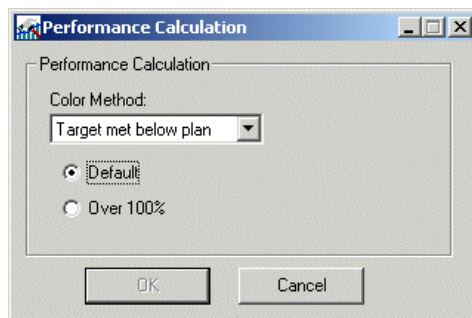


3. 「OK」を選択して変更内容を保存します。

パフォーマンス計算の定義

カラー・メソッド「計画を下回る許容可能」を、パフォーマンスが 100% を上回るように動作させる必要がある場合は、このメニューを使用します。

図 3-153 パフォーマンス計算



「計画を下回る許容可能」であるメジャーについて、100% を上回るパフォーマンスを表示するための代替方法

メソッドが「計画を下回る許容可能」の場合、設計者がパフォーマンスのパーセントを 100% を上回る値として表すことはできません。

円グラフに表示するスライス数の定義

グラフの値数が多すぎると、比較グラフを円グラフとして表示するのは困難な場合があります。したがって、円グラフの表示および解析機能を改善するために、表示するスライス数を指定できます。

設計レベルでは、すべての円グラフに表示するデフォルトのスライス数を設定できます。ユーザー・レベルでは、BSC ビューワに表示するスライス数を指定できます。

円グラフに表示するデフォルトのスライス数の設定

円グラフに表示するスライス数を定義する手順は、次のとおりです。

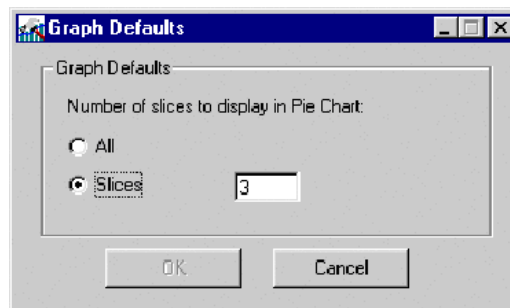
1. 「デザイナー」職責を使用して BSC ビルダーにログインします。
2. 「システム・プロパティ」メニューにナビゲートします。

図 3-154 「システム・プロパティ」メニュー



3. 「グラフ・デフォルトの定義」オプションを選択します。

図 3-155 「グラフ・デフォルト」オプション



4. 次のグラフ・デフォルト・オプションから 1 つ選択します。
 - **全て**: 円グラフには円のスライスがすべて表示されます。
 - **スライス**: 設計者は、円グラフに表示する最大スライス数を指定できます。

注意: このウィンドウで定義したオプションは、システム全体で円グラフのデフォルトとして機能しますが、設計者がこのデフォルトを指定する際には、システムで使用するディメンション値の数を予想できない場合があります。このため、BSC ビューワ・ユーザー向けに、表示する値の数を指定するためのオプションも用意されています。

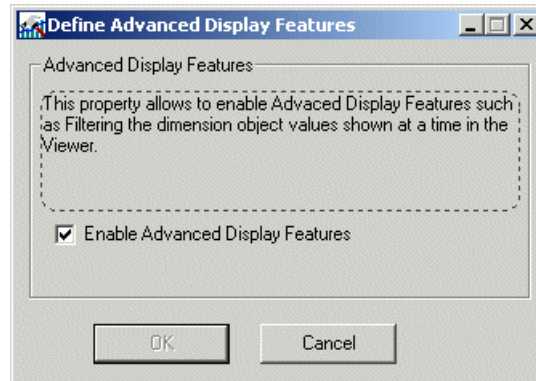
要約レベルの定義

要約レベルの定義の詳細は、4-14 ページの「[マテリアライズド・ビュー](#)」を参照してください。

「詳細表示機能」の有効化

BSC ビューワでディメンションに関して表示する値の数を制限する必要がある場合は、「詳細表示機能」を有効化します。このオプションを有効化すると、取得されるディメンション値の数は「FND: ビュー・オブジェクト最大フェッチ・サイズ」プロファイル・オプションにより決定されます。この機能は、多数のディメンション値を持つディメンションに特に役立ちます。

図 3-156 「詳細表示機能」のプロパティ



「詳細表示機能」を有効化する手順は、次のとおりです。

1. BSC アーキテクト -BSC ビルダーにログインします。
2. システム名のルート・レベルを右クリックして「システム・プロパティ」メニューにナビゲートします。
3. 「詳細表示機能」を選択します。
4. BSC ビューワに表示されるディメンション値の数を制限するには、「詳細表示機能」を有効化します。表示されるディメンション値の数は、「FND: ビュー・オブジェクト最大フェッチ・サイズ」プロファイル・オプションに基づいて決定されます。

この機能を有効化すると、自動的に「BSC: 詳細表示機能の有効化」プロファイル・オプションが「Yes」に設定されます。デフォルトでは、「BSC: 詳細表示機能の有効化」プロファイル・オプションは「No」に設定されます。

注意： ディメンション値機能が有効化されており、ディメンション値のセットが表示されている場合、以降に子として構成されるディメンションは、親ディメンションのステータスに応じて表示される場合と消える場合があります。たとえば、200 のリージョンが表示されて、その中のどのリージョンにも「郡市区」依存ディメンションのデータが含まれていない場合、「郡市区」ディメンションは参照不可になります。ただし、リージョン 203 などの新規リージョンが選択され、このリージョンに依存ディメンション「郡市区」のデータが含まれている場合は、「郡市区」ディメンションが表示され、それ以外の場合は値リストが非表示になります。

メタデータ・オブティマイザ

BSC の内部表は動的で、すべてのバランス・スコアカードごとに一意です。これは、そのシステムに必要なデータを反映させるように、ユーザー・フロントエンドの後で作成されるためです。フロントエンドが完成した後、データをバランス・スコアカードに送って実際に KPI を移入する必要があります。ただし、BSC に移入するには、先にデータを格納するための表を作成する必要があります。これらの表の構造は、バランス・スコアカードのフロントエンドのデータ要件に全面的に依存します。

メタデータ・オブティマイザは、バランス・スコアカードの KPI に指定されたメジャー（データセット）とディメンションをすべて評価してから、バランス・スコアカードにデータを移入するための入力表の構造を作成します。KPI デザイナの「データセット・プロパティ」機能を使用してメジャーがグループ化されている場合は、これらのメジャーを同じ入力表に含めることができます。

メタデータ・オブティマイザの参照可能ユーザー出力は、データを移入する必要のある一連の空の表です。メタデータ・オブティマイザによりデータベース内にシステム表も作成され、これらの表を入力表から移入するように BSC ローダーが構成されます。これにより、インポート構造がユーザー入力にあわせて最適化されます。メタデータ・オブティマイザにより作成された入力表にデータを入力した後、そのデータを BSC ローダーで BSC の表にロードする必要があります。

この章は次のトピックで構成されています。

- 4-2 ページ「[メタデータ・オブティマイザと設計プロセス](#)」
- 4-2 ページ「[メタデータ・オブティマイザの構成](#)」
- 4-5 ページ「[メタデータ・オブティマイザの実行](#)」
- 4-11 ページ「[表の移入](#)」
- 4-12 ページ「[概要](#)」
- 4-13 ページ「[実績データとベンチマーク・データに使用する個別の積上表](#)」

メタデータ・オブティマイザと設計プロセス

バランス・スコアカードの設計時に、BSC 設計者は最初に「BSC ビルダー」と「KPI デザイナ」を使用してフロントエンドを完成します。これらのウィザードを使用してデータセットを作成し、プロパティを設定した後、データ要件を定義します。メタデータ・オブティマイザでは、すべてのバランス・スコアカードの KPI が検査され、移入する必要がある入力表の構造が作成されます。次に、入力表に実績データとターゲット・データを移入する必要があります。BSC ロードターにより入力表が多数の小さいシステム表に拡張され、KPI の問合せ時に即時に回答できるようになります。エンド・ユーザーは、実際にシステム表を問い合わせることで BSC を介してデータにアクセスします。

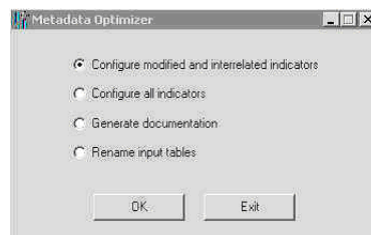
メタデータ・オブティマイザの構成

構成オプションの設定

メタデータ・オブティマイザの最初の画面は「構成オプション」画面です。この画面では、メタデータ・オブティマイザで実行される構成の有効範囲（変更済 KPI の構成、すべての KPI の構成、文書の生成または入力表の名称変更）を選択できます。

1. メタデータ・オブティマイザを起動します。オプション・ウィンドウが表示されます（図 4-1）。

図 4-1 メタデータ・オブティマイザの「構成オプション」ウィンドウ



2. 構成オプションを選択します。

変更済指標および関連指標の構成: 前回のメタデータ・オブティマイザ実行時以降に構造に変更があった KPI のみについて、入力表を作成して構成します。メタデータ・オブティマイザの初回実行時には、すべての KPI が変更済とみなされ、最初のオプション（変更済指標の構成）は表示されません。このオプションを選択すると、以前に（構成する KPI 用に）作成された入力表、履歴表およびシステム表がすべて削除されます。ただし、ディメンション表はメタデータ・オブティマイザの影響を受けません。

すべての指標の構成: 変更済かどうかに関係なく、システム内の全 KPI の入力表が作成され構成されます。以前にすべての KPI 用に作成された入力表、履歴表およびシステム表はすべて削除されます。メタデータ・オブティマイザの初回実行時には、すべての KPI が変更済とみなされます。ただし、まだ文書の生成や入力表の名称変更はできないため、このオプション（すべての指標の構成）しか表示されません。

文書の生成: メタデータで実行した前回の構成に基づいて、本番モードでシステム用のシステム文書が生成されます。

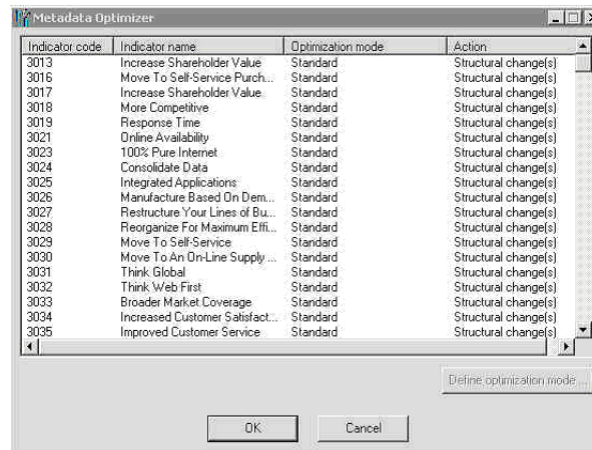
入力表の名称変更: システムで使用される入力表の構造を検討して名称変更できます。

3. 「OK」ボタンを選択して続行します。

保留中のアクションについて

指標の処理中には、各指標に対して保留中のアクションが表示されます。このウィンドウ (図 4-2) には、KPI に対して行われた変更内容 (存在する場合) が表示され、クライアントからの事前計算済データがある KPI を選択できます。

図 4-2 メタデータ・オプティマイザの「KPI 計算オプション」ウィンドウ



注意： このウィンドウには、変更済で前に選択したオプションに従ってメタデータ・オプティマイザにより再作成される KPI のみが表示されます。再作成する必要のない KPI は、BSC システムに存在していても、このウィンドウには表示されません。

KPI に対して実行される保留中のアクションには、次のタイプがあります。

- **構造変更。** 前回のメタデータ・オプティマイザ実行時以降に KPI に対して実行された構造変更を示します。このタイプの変更は、要約レベルまたは入力表 (あるいはその両方) の表構造が変更されるため、ユーザーがデータを再度リストアまたはロードする必要があることを意味します。構造変更には、ディメンション、メジャーまたはその他の KPI 属性の追加と削除が含まれます。
- **構造以外の変更。** 前回のメタデータ・オプティマイザ実行時以降に KPI に対して実行された構造以外の変更を示します。このタイプの変更は、指標の表の構造が変更されるのではなく、一部のデータの計算方法が変更されることを意味します。データを再ロードする必要はありませんが、ローダーでは正確な情報を取得するために再計算処理が必要です。構造以外の変更には、カラー・プロセスやデフォルトのオプションおよび活動期間の変更が含まれます。
- **削除。** 前回のメタデータ・オプティマイザ実行時以降に指標が削除されたことを示します。システムが本番モードになった後に削除された指標には、削除フラグが設定されます。このフラグは、システムに存在する不要になった要約レベルや表を削除するために使用されます。

最適化モードの定義

BSC の計算機能を考慮して、各 KPI を使用する最適化方法を事前に決定しておく必要があります。次のいずれかの最適化方法を選択できます。

- 「標準」。標準最適化方法では、すべてのデータ型（実績、計画およびその他のベンチマーク・データ）がロードされる入力表が作成されます。この入力表は、指標で使用される最下位のディメンション構成に生成されます。データの上位要約レベルは、各単一メジャーの積上メソッドを使用して情報を積み上げることで計算されます。
- 「事前計算済」。標準指標と事前計算済指標の違いは、システムで合計値を取得するための計算が実行されないことです。この種の情報は、ユーザーが各ディメンションに 0 コード（ゼロ）を使用して入力表に入力する必要があります。メタデータ・オブティマイザでは、指標に使用されるディメンションの組合せごとに、すべてのデータ型用の入力表が 1 つ生成されます。
- 「別レベルでのベンチマーク」。計画データとベンチマーク・データが実績データとは別の分割レベルまたは要約レベルにある場合は、「別レベルでのベンチマーク」最適化方法を使用できます。

メタデータ・オブティマイザでは、この最適化方法を使用して指標用に 2 つの入力表が 1 組生成されます。

- 第 1 の表は、実績データが集計される最下位要約レベルに生成されます。
- 第 2 の表はユーザーが定義する上位レベルに生成され、そこに計画データとその他のベンチマーク・データが収集されます。
- ベンチマーク・データ用に選択する組合せに応じて、システムでは第 3 の入力表が生成される場合があります。

各 KPI に適用可能な最適化モードを定義または更新する手順は、次のとおりです。

1. 「メタデータ・オブティマイザ」ウィンドウに表示される指標を選択し、「最適化モード」ボタンをクリックします。
2. 図 4-3 のように、「標準」、「事前計算済」または「別レベルでのベンチマーク」から最適化モードを選択します。「別レベルでのベンチマーク」を選択した場合は、指標のベンチマーク・データを取得できるすべての活動期間レベルとディメンション・レベルを選択します。この手順を、指標で使用可能な各ディメンション・セットの構成に対して繰り返します。「OK」を選択して作業内容を保存します。

図 4-3 「最適化モード」ボタンの定義

Define optimization mode

Indicator name: KPI 3001

Optimization mode:

- ☐ Standard
- ☐ Pre-calculated
- ☒ Benchmarks at different level

This option allows you to choose the lowest benchmark level for roll-up purposes. Select the dimensions for each dimension set, then uncheck the periodicities that do not apply for your benchmarks.

Dimension set: Dimension set 0

Dimension families:

- ☐ Region
- ☐ Branch
- ☒ Office
- ☐ Product Type
- ☒ Product

Periodicities:

- ☒ Daily
- ☒ Monthly
- ☒ Weekly
- ☒ Annually

Data sets:

- Sales
- Units

OK Cancel

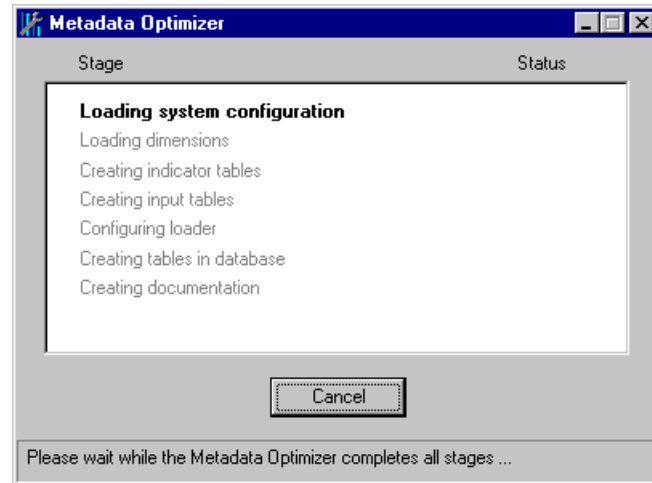
3. すべての指標の最適化モードを選択した後、「OK」ボタンをクリックして最適化プロセスを開始します。

メタデータ・オブティマイザの実行

メタデータ・オブティマイザ・プロセスの実行中に、構成対象である各指標の履歴データを含んだバックアップ表が作成されます。

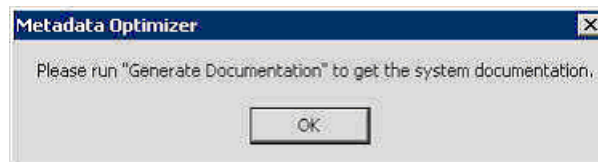
アプリケーションの実行が開始され、各ステージと完了ステータスを示す進捗ウィンドウが表示されます (図 4-4)。

図 4-4 メタデータ・オブティマイザの「進捗」ウィンドウ



最適化プロセスを完了すると、メタデータ・オブティマイザには、作成されたメタデータ結果ファイルの名称を示す確認が表示されてから、次に示すシステム文書を取得するために「文書の生成」コンカレント・プログラムを実行する必要があることを示すメッセージが表示されます。

図 4-5 「文書の生成」のメッセージ



増分結果文書 : mdresult[n].txt¹

メタデータ・オブティマイザを実行するたびに、そのオブティマイザ処理の要約で mdresult.txt ファイルが更新されます。このレポートは、処理済指標に対して行われた変更を表します。また、オブティマイザの実行前にシステムで使用されていた実表用に作成されたバックアップ表の名称も表示されます。

¹ [n] は、既存ファイルの上書きを防ぐために使用される連番です。

例 4-1 mdresult.txt ファイルの内容のサンプル

```

+-----+
Oracle Balanced Scorecard: Version : 4.8

Copyright (c) Oracle Corporation 2000. All rights reserved.

Module: Metadata Optimizer
+-----+

Time: February 24, 2000 12:42:12

Metadata Optimizer result:
-----

3001 Loans Portfolio - Ind
Structural change(s): Add or drop a dimension, data set, analysis group,etc.
Input table(s)
-----
BSC_I_47 (Monthly)
    PROCESS_CODE
    YEAR
    TYPE
    PERIOD
    RISKINDEX
BSC_I_48 (Monthly)
    PROCESS_CODE
    YEAR
    TYPE
    PERIOD
    T23456789012345678
    NAMELONGERTHAN20CHAR
    SALESPERIOD
    CPPRR
    SALESPROM
BSC_I_49 (Monthly)
    PROCESS_CODE
    YEAR
    TYPE
    PERIOD
    FININCOMES
    FINMARGIN
BSC_I_50 (Monthly)
    PROCESS_CODE
    YEAR
    TYPE
    PERIOD
    CREDITS
Old input table(s)
-----
BSC_I_47
BSC_I_48

Backup table(s)
-----
BSC_B_47_BAK (Monthly)
    PROCESS_CODE
    YEAR
    TYPE
    PERIOD
    RISKINDEX
BSC_B_48_BAK (Monthly)
    PROCESS_CODE
    YEAR
    TYPE
    PERIOD
    T23456789012345678
    NAMELONGERTHAN20CHAR
    SALESPERIOD

```

```

CPPRR
SALESPROM
BSC_I_49      BSC_B_49_BAK (Monthly)
               PROCESS_CODE
               YEAR
               TYPE
               PERIOD
               FININCOMES
               FINMARGIN
BSC_I_50      BSC_B_50_BAK (Monthly)
               PROCESS_CODE
               YEAR
               TYPE
               PERIOD
               CREDITS

3003 MEM01
New indicator.

3007 Market share - Ind
No changes were made.

```

その他に、作成された表と各表が参照する KPI が次の各ファイルに記述されます。実際の表は、データベースの OBSC[System Name] スキーマ ([System Name] は実際のシステム名) に作成されます。

表構造文書 : system[n].txt²

このファイルには、メタデータ・オブティマイザにより指標ごとに生成されたすべてのディメンション表、入力表およびシステム表の説明が含まれています。このレポートを使用すると、移入する必要があるすべての表（特に入力表）の構造を、特別な SQL コマンドを使用してデータベースを問い合わせずに確認できます。

このファイルの最初のセクションには、ディメンション表が記述されます。この種の表は名称が BSC_D で始まり、システムでデータの移入に使用されるディメンション値が含まれています。各表の記述の書式を次に示します（表 4-1）。

表 4-1 ディメンション表の記述

表	BSC_D ACCOUNT			
フィールド		型	サイズ	摘要
CODE		NUMBER		CODE
USER_CODE		VARCHAR2	5	USER CODE
NAME		VARCHAR2	15	NAME
CODE		NUMBER		CODE
USER_CODE		VARCHAR2	5	USER CODE
NAME		VARCHAR2	15	NAME
ACCOUNT_CODE		NUMBER		MACCOUNT.COD を参照
ACCOUNT_CODE_USR		VARCHAR@	5	MACCOUNT.COD_USR を参照

² [n] は、既存ファイルの上書きを防ぐために使用される連番です。

ディメンション表のフィールド

CODE: システム・コード。レコードがロードされる順番にシステムにより自動的に割り当てられます。

USER_CODE: 各レコードに割り当てられる英数字のユーザー・コード。たとえば、East = 1、South = 2、West = A などです。

NAME: 実際のディメンション値。

OTHER FIELDS SUCH AS REGION_CODE (前述を参照) : ディメンションの親。親と子の関連を確立します。例：テキサスとアラバマは「南部」リージョン、ニュージャージーとメリーランドは「東部」リージョンに関連付けられます。

このファイルの第2セクションでは、データの移入先となる各入力表が記述されます。次の表に、この種の表の記述の書式を示します (表 4-2)。

表 4-2 入力表の記述

表	BSC_I_1			
PERIODICITY:	Monthly			
フィールド		型	サイズ	摘要
SUBACCOUNT_CODE		VARCHAR	25	ユーザー・コード (BSC_D_SUBACCOUNT を参照)
YEAR		NUMBER	5	年: 2000、2001、...、実際の年
TYPE		NUMBER	3	タイプ: 0: 実績、1: 計画
PERIOD		NUMBER	5	期間: 1 ~ 12
AMOUNT		NUMBER		金額
DEPARTMENT_CODE		VARCHAR	25	ユーザー・コード (BSC_D_DEPARTMENT を参照)
EXPEN_TYPE_CODE		VARCHAR	25	ユーザー・コード (BSC_D_EXPENSE_TYPE を参照)
YEAR		NUMBRT	5	年: 1999、2000、...、実際の年
TYPE		NUMBER	3	タイプ: 0: 実績、1: 計画
PERIOD		NUMBER	5	期間: 1 ~ 12
EXPENSES		NUMBER		費用の摘要
HEADCOUNT		NUMBER		従業員数の摘要
SALES		NUMBER		売上の摘要

この種の表はデータ入力用に最適化されるため、トランスフォーメーションが選択されている場合は、通常、最下位レベルの活動期間またはディメンションのみが必要です (システムで積上を計算可能です)。

入力表のフィールド

TABLE: 表名。

PERIODICITY: この表に含まれる期間。

DIMENSION_CODE: それぞれの D 表の USER_CODE フィールドからの値。どのディメンション値がこのレコード内の値であるかを定義します。

YEAR: 4 桁の年。

TYPE: 0 = 実績、1 = 計画 (または、特にベンチマーク # 1)、2 = ベンチマーク # 2 など。

MONTH/PERIOD: 月または期間。

DAY: 該当する場合は日。

ALL OTHER VALUES BELOW THIS: 前述のように、最後の列に記述される実績値。

警告： Oracle Balanced Scorecard リリース 4.6 以上を使用して生成された表の場合は、週次と日次の入力表にそれぞれ月 - 週または月 - 日のかわりに期間を使用して、バランス・スコアカードに移入する入力データを提供する必要があります。

ただし、リリース 4.5 以前のバランス・スコアカードを使用して作成された週次および日次活動期間の表には、引き続き月 - 週（週次活動期間）および月 - 日（日次活動期間）の書式が使用されます。

すべての表に同じ新規書式である「期間」を使用するようにアップグレードする場合は、対応する指標に対してメタデータ・オブティマイザ・プロセスを再実行する必要があります。

入力表の名称変更

メタデータ・オブティマイザを実行して、すべてまたは変更済の指標を構成すると、システムではすべての指標の入力表が作成されます。この入力表のデータが、ローダーによりシステムの指標表に移入されます。詳細は、「表の移入」を参照してください。

メタデータ・オブティマイザを使用すると、顧客が実行したデータ収集プログラムで使用されている名称にあわせて入力表を名称変更できます。入力表を名称変更する手順は、次のとおりです。

1. メインの「メタデータ・オブティマイザ」ウィンドウで「入力表の名称変更」オプションを選択します。
2. システムで使用可能な入力表のリストが表示されます。

図 4-6



3. 名称変更する入力表を選択して「名称変更」をクリックします。入力表の詳細が表示されます。

The screenshot shows a 'Metadata Optimizer' window. It has a 'Table:' field with the value 'BSC_I_760' and a 'Periodicity:' field with the value 'Monthly (Bsc Gregorian)'. Below these are two list boxes: 'Key columns:' containing 'TRANSACTION_CODE' and 'Data columns:' containing 'FatsDivision' and 'Periodcompletion'. At the bottom is a 'New name:' text box and 'OK' and 'Cancel' buttons.

4. 入力表の構造や詳細を確認した後、新規の表名を入力して「OK」をクリックします。新規の名称で更新された入力表名のリストが表示されます。
5. 必要な入力表をすべて名称変更した後に「終了」をクリックします。

文書の生成

最適化プロセスが完了した後、構成に基づいて最新のシステム文書を取得するかどうかを選択できます。手順は次のとおりです。

1. メインの「メタデータ・オブティマイザ」ウィンドウで「文書の生成」オプションを選択します。
2. プロセスが開始され、完了すると生成された文書の位置を示すメッセージが表示されます。
3. 「OK」をクリックしてオブティマイザを終了します。

データ・フローまたはダイアグラム文書 : systree[n].xls³

systree[n].xls は、各処理済 KPI で使用される表および表相互の関連を示すダイアグラムを含んだ Microsoft Excel スプレッドシートです。表と指標（入力表など）の関連を確認する必要がある場合は、指標の番号ラベルが付いたタブをクリックし、各指標の表関連を示すダイアグラムにアクセスできます。システム内の一意の KPI ごとに個別のタブがあります。番号付きのタブをクリックすると、その番号に関連付けられている指標のワークシートが手前に表示されます。

表は行単位でグループ化されているため、どの表がどの機能に属しているかをすばやく識別できます。たとえば、すべての入力表（I 表）は、systree の 1 行目に表示されます。ユーザーが移入する必要があるのは、この種の表のみです。2 行目の B 表と 3 行目の T 表は、システム表です。最後の表セットである S 表もシステム表ですが、ビューワにより直接読み取られます。

I 表は、クライアントが system.txt ファイル内の指示に従って移入する必要があります。B、T および S 表は、システムで BSC ローダーを使用して自動的に移入されます。

³ [n] は、既存ファイルの上書きを防ぐために使用される連番です。

表の移入

メタデータ・オプティマイザからの出力ファイルを確認した後、表にデータを移入できます。システムにデータを移入するには、BSC ロードーを使用します。

表 4-3 生成される表

表	識別子	説明
入力表	I 表 : データベースでは接頭辞 BSC_I 付き	I 表は、クライアントが実績データを移入する必要がある入力表です。この種の表は、KPI デザイナを使用してビュー上で定義したデータ要件に基づいて、メタデータ・アーキテクトにより作成されます。この種の表は、BSC ロードーを使用して BSC のシステム表にロードされます。
ディメンション表	D 表 : データベースでは接頭辞 BSC_D 付き	D 表にはディメンション値が含まれています。たとえば、「リージョン」ディメンションの値は「西部」、「南部」、「北部」および「東部」などです。通常は、ディメンションごとに D 表が 1 つあります。
システム表	S 表 : データベースでは接頭辞 BSC_S 付き	システム表は、BSC ロードーにより入力表を計算して非正規化することで移入されます。この種の詳細表には、グラフを表示するときにビューで読み取られる計算済データが含まれています。
履歴表	B 表 : データベースでは接頭辞 BSC_B 付き	この種の表には、KPI の履歴データが含まれています。BSC にロードされたデータも B 表にロードされ、システムで使用できるように B 表に無限に保存されます。B 表のみは、ユーザーが手動で空にするか、メタデータ・アーキテクトにより KPI が再作成されるときに空にされます。
一時表	T 表 : データベースでは接頭辞 BSC_T 付き	データの格納と計算に使用される一時表です。

注意： 入力表にデータを移入する際には、データ型が固定であることに注意してください。実績データの場合はタイプ 0、計画またはベンチマーク #1 の場合はタイプ 1、ベンチマーク #2 の場合はタイプ 2、ベンチマーク #3 の場合はタイプ 3 です。

概要

通常、メタデータ・オブティマイザは、OBSC アーキテクト、OBSC 設定または OBSC マネージャのような他の OBSC アプリケーションと同時に実行しないでください。

BSC の計算機能

BSC システムでは、各 KPI のディメンション合計と活動期間積上を計算できます。たとえば、データはリージョン別に入力されるため、全リージョン（西部、東部、北部、南部など）の計算を実行できます。別のタイプの計算は、必要な最下位レベル・データが日次である場合の、月次データと四半期データの積上です。この場合、日次データは入力されますが、ユーザーは月次データと四半期データも参照する必要があるため、日次データが月次と四半期に積み上げられます。

通常の計算済 KPI

ほとんどの重要な経営指標は、BSC ロダーで要約できます。たとえば、金額はすべてのディメンションにまたがって合計できるため、売上高 KPI の場合は製品と州の両方について合計を計算できます。この場合、BSC では、各製品の合計、各州の合計および総合計が正確に計算されます。これは通常の計算済 KPI と呼ばれ、合計を正確に計算できます（表 4-4）。

表 4-4 通常の計算済 KPI

州	製品： ウィジェット	製品： ガジェット	製品： スピナー	製品： スロワー	合計
ジョージア	\$10	\$20	\$30	\$40	\$100
イリノイ	\$50	\$60	\$70	\$80	\$260
カリフォルニア	\$90	\$15	\$25	\$35	\$165
テキサス	\$45	\$55	\$65	\$75	\$240
合計	\$195	\$150	\$190	\$230	\$765

メタデータ・オブティマイザでは、KPI のデータ要件が評価され、その KPI にあわせて入力表が最適化されます。たとえば、KPI の活動期間が日次、月次および四半期の場合、メタデータ・オブティマイザでは日次活動期間の表のみが作成されます。これは、BSC では日次情報から月次データと四半期データを計算できるためです。手順は、ディメンションを要約する場合と同様です。KPI を計算できる場合、メタデータ・オブティマイザが必要とするのは各ディメンション値（ウィジェット、ガジェット、スピナー、スロワーなど）の値のみです。合計は自動的に計算されます。

BSC では、KPI トランスフォーメーションを実行できます。これにより、データを単に要約して数量、金額、通貨などの合計を計算できます。要約可能なデータを含む KPI の場合は、必ず「事前計算済？」列の選択を解除してください。

事前計算済 KPI

ただし、パーセント基準または率基準 KPI の場合、BSC では合計は計算されません。これは、パーセントの計算に最初に使用されたソース・データがなく、パーセントを加算しても合計を計算できないためです。たとえば、前述の例に「回転率」というパーセントを使用すると、表 4-5 に示すように、BSC では次の（誤った）合計が計算されます。

表 4-5 回転率を使用した事前計算済 KPI

州	製品： ウィジェット	製品： ガジェット	製品： スピナー	製品： スロワー	合計
ジョージア	10%	20%	30%	40%	100%
イリノイ	50%	60%	70%	80%	260%
カリフォルニア	90%	15%	25%	35%	165%
テキサス	45%	55%	65%	75%	240%
合計	195%	150%	190%	230%	765%

正しい合計を次に示します（表 4-6）。この結果は BSC 外部のデータから得られるため、BSC ではこの合計を計算できないことに注意してください。

表 4-6 正しい回転率

州	製品： ウィジェット	製品： ガジェット	製品： スピナー	製品： スロワー	合計	正
ジョージア	10%	20%	30%	40%	100%	25%
イリノイ	50%	60%	70%	80%	260%	65%
カリフォルニア	90%	15%	25%	35%	165%	41%
テキサス	45%	55%	65%	75%	240%	60%
合計	195%	150%	190%	230%	765%	
正	49%	38%	48%	58%		48%

このタイプの複雑なデータを含む KPI の場合は、「事前計算済？」ボックスを選択してください。メタデータ・オブティマイザでは、この種の KPI にあわせて入力表が最適化されません。つまり、その KPI の全データは、事前計算済の要約データを含めて入力表に入力する必要があります。この場合、クライアントまたはクライアント・システムは、データを正しく合計する必要があります。「事前計算済？」ボックスを選択すると、KPI の合計または積上は BSC により計算されません。メタデータ・オブティマイザの入力表で提供する必要があります。

実績データとベンチマーク・データに使用する個別の積上表

以前のリリースのメタデータ・オブティマイザでは、すべての指標に必要な最下位のディメンション・レベルと活動期間レベル（最大グラニクル・レベル）に基づいて、入力表が作成されていました。BSC ローダーでは、設計者により指定された階層に従って、実績データとターゲット（ベンチマーク）データの両方のデータが集計され、要約表が計算されます。

ターゲット用に別の入力表を作成するために、設計者またはシステム管理者は、指標で実績データとベンチマーク・データに異なる入力表を使用するかどうかを選択する必要があります。デフォルトでは、実績データとベンチマーク・データに同じ入力表が使用されます。

実績データとベンチマーク・データに個別の入力表を設定する場合は、次のようなルールが適用されます。

- 指標で実績データとベンチマーク・データに異なる入力表を使用するかどうかを選択できます。デフォルトでは、実績データとベンチマーク・データに同じ入力表が使用されます。
- ターゲットのディメンション・レベルをディメンション・セット別に指定できます。

たとえば、指標に次の 2 つのディメンション・セットがあるとします。

- ディメンション・セット 1: リージョン、支店および製品
- ディメンション・セット 2: リージョンおよび顧客

この場合は、両方のディメンション・セットに対してディメンション・レベルを定義できます。

- すべてのディメンション・ファミリーに対してディメンション・レベルを指定する必要があります。

たとえば、ディメンション・セット 1 の指標に 5 つのディメンション（リージョン、市、事務所、製品タイプおよび製品）があるとします。これらの関連に基づいて、2 つのファミリーが存在します。

- ディメンション・ファミリー 1: リージョン - 市 - 事務所
- ディメンション・ファミリー 2: 製品タイプ - 製品

この場合は、各ファミリーにレベルを 1 つ指定する必要があります。たとえば、リージョン - 製品または市 - 製品タイプを指定します。

- 活動期間レベルを1つ以上指定し、そのレベルのターゲットを指定する必要があります。
ディメンション・セットに指定したディメンション・レベルは、そのディメンション・セットに使用される全データセットに適用されます。たとえば、ディメンション・セット1の指標に2つのデータセット（売上と数量）が使用される場合は、ターゲットがリージョン・製品別であることと、売上と数量の両方に適用することを指定する必要があります。
- 各ベンチマークのディメンション・レベルは選択できません。ターゲットに割り当てるレベルが、他のすべてのベンチマークに適用されます。メタデータ・オブティマイザでは、すべての指標の要件に基づいて、ターゲット用の入力表の数が最適化されます。BSC ロードーは、ターゲット表用に積上を計算します。メジャーに対して指定したグループ計算（SUM または AVG など）は、実績データとターゲット・データに適用されます。

マテリアライズド・ビュー

マテリアライズド・ビューは、データを要約して表領域の使用量を削減します。アーキテクチャの関係で、大規模で複雑な実装を持つ顧客の場合は、マテリアライズド・ビューを使用すると記憶域と問合せパフォーマンスの要件のバランスが調整され、パフォーマンスが大幅に改善されます。

マテリアライズド・ビューをバランス・スコアカード・システムで使用可能にするには、次の方法があります。

1. 「BSC: 詳細要約レベル」 プロファイル・オプションを使用して要約レベルを設定します。
2. メタデータ・オブティマイザを実行します。「メタデータ・オブティマイザ」プログラムにより、次の操作が実行されます。
 - 要約レベルの定義が検査されます。要約表アーキテクチャからアップグレードしようとしている場合は警告が生成されます。
 - 各 KPI 用に作成されたマテリアライズド・ビューとビューを示す文書が生成されます。
 - 新規の表またはビュー・アーキテクチャにデータがロードされ、ユーザーがローダーを再オープンすると再計算プロセスが開始されます。

マテリアライズド・ビュー・アーキテクチャを使用可能にするように選択する場合は、次のことを考慮してください。

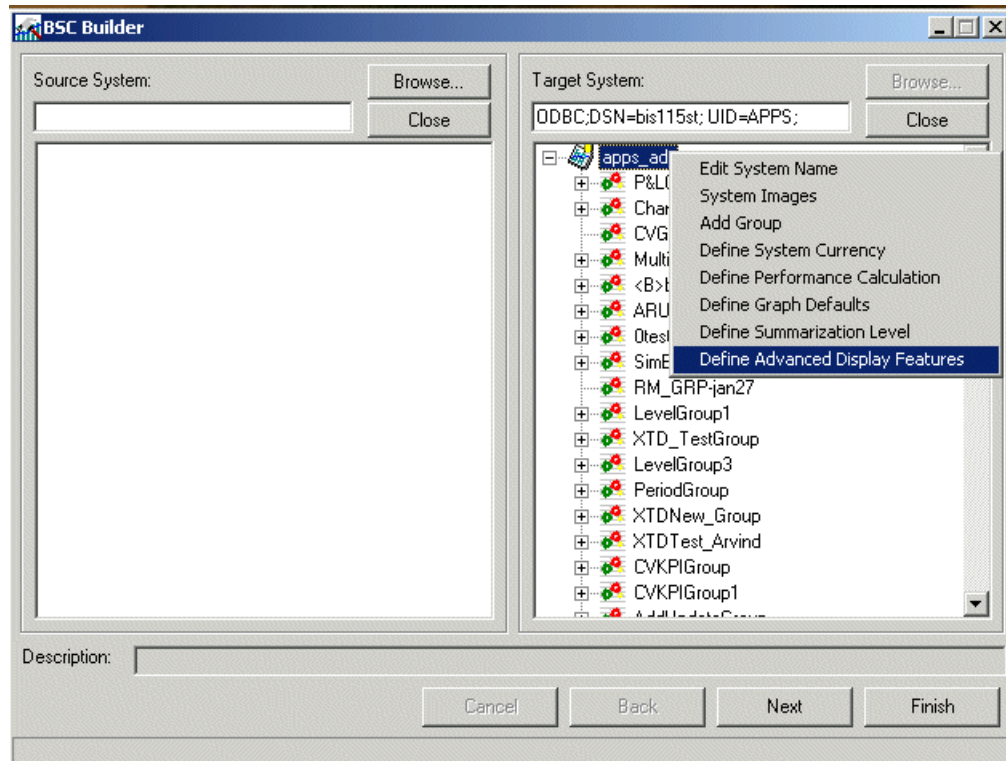
- マテリアライズド・ビュー・アーキテクチャに移行する前に、慎重に分析します。マテリアライズド・ビュー・アーキテクチャに変換した後は、**要約表アーキテクチャに戻れません**。これにより、データ整合性の問題が防止されます。
- マテリアライズド・ビュー・アーキテクチャに移行する必要はありません。バランス・スコアカードでは、引き続き要約表アーキテクチャがサポートされます。ただし、移行すると、要約表アーキテクチャには戻れなくなります。
- マテリアライズド・ビュー・アーキテクチャでは、ユーザーに対して透過的な自動データ・リカバリがサポートされます。システムにより要約表のデータのバックアップが作成され、新規のマテリアライズド・ビューにリストアされます。また、要約レベル間でもデータのバックアップとリストアが実行されます。要約レベルを変更するたびにデータを入力表にアップロードする必要はありません。

マテリアライズド・ビュー・アーキテクチャの有効化

マテリアライズド・ビュー・アーキテクチャを有効化する手順は、次のとおりです。

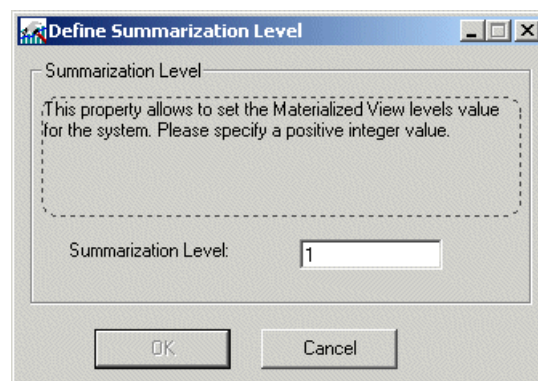
1. マテリアライズド・ビュー・アーキテクチャを有効化する前に、システム・データのバックアップを作成します。
2. BSC アーキテクト -BSC ビルダーにログインします。
3. システム名のルート・レベルを右クリックして「システム・プロパティ」メニューにナビゲートします。

図 4-7 「システム・プロパティ」メニュー：「BSC ビルダー」



4. 「要約レベルの定義」を選択します。

図 4-8 要約レベルのプロパティ



デフォルトでは、値は NULL です。値が NULL の場合は、要約表アーキテクチャが使用されます。値を 2 などの数値に変更すると、要約表の最初の 2 つのレベルがマテリアライズド・ビューに作成されます。残りの要約表はビューに変換されます。

5. 作成するマテリアライズド・ビューのレベル数に従って「詳細要約レベル」の値を指定します。許容値は0（ゼロ）以上の整数のみです。他の文字は指定できません。
6. 「OK」をクリックして作業内容を保存します。「詳細要約レベル」プロファイルを変更するとアーキテクチャが変更され、このプロファイル値に従って表がマテリアライズド・ビューおよびビューに変換されることを示す警告メッセージが表示されます。
この警告メッセージは、**マテリアライズド・ビュー・アーキテクチャへの変更を確認した後は、要約アーキテクチャに戻れない**ことを示します。
この操作を進める前に、システムのバックアップを作成しておくことをお勧めします。
7. メタデータ・オブティマイザを実行して、マテリアライズド・ビュー・アーキテクチャに移行します。
 - a. メタデータ・オブティマイザを全指標に対して実行するか、変更済指標と関連指標に対してのみ実行するかを選択します。
 - b. 該当する場合は、指標ごとに最適化モードを選択します。
要約レベルに変更があったことが検出された場合は、新規アーキテクチャを示す警告メッセージが表示されます。
新規のマテリアライズド・ビュー構造の生成が開始されます。
すべての指標は、増分変更が保留中かどうかに関係なく自動的にアップグレードされます。マテリアライズド・ビューのアップグレード・プロセスは、メタデータ・プロセスの追加ステップです。NULL以外の値に変更すると、プロセスが続行されます。
8. メタデータ・プロセスが完了した後、システムでデータをリフレッシュまたは再計算できるように BSC ローダーにログインします。
注意：メタデータ・プロセスが完了するまで待機してください。それ以外の場合は、プロセスを繰り返して実行しないと、データ整合性の問題が生じる可能性があります。
9. 該当する場合は新規データをロードします。
10. ビューワを介して指標を確認します。
注意：ローダーの実行中にビューワを使用してください。それ以外の場合は、プロトタイプ・データが表示されます。
11. マテリアライズド・ビュー・アーキテクチャに移行した後、「要約レベル」の値を変更して要約レベルを変更できます。ただし、要約アーキテクチャには戻れないため、要約レベルを0（ゼロ）またはNULLに設定することはできません。

メタデータ文書

マテリアライズド・ビューを有効化すると、メタデータ・ファイルには新規アーキテクチャの分析に使用可能な次の情報が含まれます。

- **ダイアグラム。Systree.xls 文書。**入力表から実表、マテリアライズド・ビューおよびビューへの関連とフローが含まれます。
- **表構造文書。System.doc ファイル。**各ディメンション・オブジェクト、入力表と実表、マテリアライズド・ビューおよびビューの構造が含まれます。この文書には、どの要約レベルが表、マテリアライズド・ビューおよびビューであるかが明確に記述されます。
- **増分結果文書。MDRESULT.txt ファイル。**詳細要約レベルの値に変更があったかどうかを示します。変更があった場合は、すべての指標に多数のマテリアライズド・ビューが含まれます。

また、この文書には、各指標に対して行われた増分変更すべてが継続的に記述されます。ディメンション・レベル数に変更がなく、その構造は **system.txt** 文書に記述されているため、この文書はマテリアライズド・ビューまたはビューで置き換えられた要約表には無関係です。

BSC ロードー

BSC ロードーを使用して、移入した入力表からビューワで使用する BSC の表にデータを送ります。BSC ロードーは、入力表に入力されたデータを使用して、システム表と呼ばれる複数のシステム・レベル表を導出します。このシステム表を使用して、ビューワに KPI データが表示されます。

各分析オプションは、一意の専用システム表を読み取ります。グラフのデータ・ポイントは事前計算済でシステム表に格納されているため、Oracle Balanced Scorecard は KPI グラフの変化に即時に応答できます。このようにして、BSC はリレーショナル・データベースの機能（柔軟性と問合せ能力）を OLAP タイプのデータ・キューブ（即時性、事前計算済の結果）と結合します。

この章は次のトピックで構成されています。

- 5-2 ページ「[BSC ロードーの使用](#)」
- 5-2 ページ「[ディメンションの保守](#)」
 - 5-6 ページ「[ディメンション・オブジェクト表へのデータのロード](#)」
 - 5-7 ページ「[ディメンション・オブジェクトのロード結果の表示](#)」
- 5-7 ページ「[BSC 入力表のロード](#)」
 - 5-10 ページ「[入力表へのデータのロード](#)」
 - 5-11 ページ「[入力表のロード結果の表示](#)」
 - 5-11 ページ「[入力表に関する無効なレコードの表示](#)」
- 5-13 ページ「[Excel ファイルからのディメンション・オブジェクトおよび入力表のデータのロード](#)」
 - 5-14 ページ「[ディメンション・オブジェクト表と入力表の自動ロード](#)」
- 5-15 ページ「[カレンダーの保守](#)」
- 5-16 ページ「[データの削除](#)」

BSC ロードーの使用

BSC ロードーを使用して、ディメンションの保守、入力表のロード、カレンダーの保守およびデータの削除を行います。

BSC ロードーへのログイン

BSC ロードーにログインする手順は、次のとおりです。

1. 「パフォーマンス管理管理者」職責を使用して、「データ・ロードー」を選択します。

ディメンションの保守

ディメンション・オブジェクトごとに更新されたディメンション値をロードして保守できます。

ディメンション値は、KPI データが分類されるドリルダウン・カテゴリです。たとえば、「リージョン」ディメンションの値は「東部」、「西部」、「南部」および「北部」などです。通常はディメンションの保守が BSC ロードの第 1 ステップですが、異なる場合もあります。

ディメンション値、入力表の順番によるロード

最初にシステムに実績データが移入されるときに、ディメンション表に適切なディメンション値をロードします。データ値には依存性があるため、ディメンション値は入力表で使用される前にロードする必要があります。これは、入力表には常に適切なディメンション値を参照するディメンション・コードが含まれ、そのディメンション・コードはディメンション表を使用してシステムに最初にロードする必要があるためです。

ディメンション表の保守

ロード後のディメンション値は比較的静的であり、ディメンションの保守は第 2 プロセスとなります。たとえば、「リージョン」ディメンションに会社の 4 つの社内リージョン（東部、西部、南部および北部）をディメンション値として取り込むことができます。社内構造が改変されないかぎり、これらのリージョン（ディメンション値）が頻繁に変更されることはありません。そのため、この種の値は 1 度移入すればよく、以降に BSC データを保守する際には影響を受けないため、更新する必要はありません。

ディメンション値の表示と更新

「ディメンションの保守」オプションを使用すると、ディメンション表を移入できます。

注意： ディメンション値を表にロードするときには、大 / 小文字区別の適切な値を入力する必要があります。

ディメンション値を表示して更新する手順は、次のとおりです。

1. 「ディメンションの保守」オプションを選択します。データベース内のディメンション・オブジェクト表がすべて表示されます。
2. リストからディメンション・オブジェクトを選択します。

検索機能を使用すると、必要なディメンション・オブジェクトをすばやく検索できます。検索基準を入力して「開始」ボタンをクリックします。指定した検索基準と一致するディメンション・オブジェクトのリストが表示されます。

図 5-1 「ディメンションの保守」：検索結果

ORACLE® Performance Management Designer

Home Logout Preferences Diagnostics

Administration

Loader Session Management

Maintain Dimension

Load Input Tables

Maintain Calendar

Delete Data

Maintain Dimensions

Search

Dimension Table Name %Area Go

Results: All Dimension Tables

View Results View Invalid Records

Select Item(s) and ... Load

Select All Select None

Select	Dimension table name	Dimension Name	Input table name	Loading mode	Data source type	Define data source type	Edit Content	View Content
☐	BSC_D_AREA	Area	BSC_DI_55	Add/Update	Database			
☐	BSC_D_BUSSINESS_AREA	Business Area	BSC_DI_254	Add/Update	Database			
☐	BSC_D_GEOGRAPHIC_AREA	Geographic Area	BSC_DI_6	Add/Update	Database			
☐	BSC_D_OUTPT_AREA	Output Area	BSC_DI_206	Add/Update	Database			
☐	BSC_D_PARTNER_AREA	Partner Area	BSC_DI_90	Add/Update	Database			
☐	BSC_D_SCHEDULING_AREA	Scheduling Area	BSC_DI_228	Add/Update	Database			
☐	BSC_D_SERVICE_AREA	Service Area	BSC_DI_212	Add/Update	Database			
☐	BSC_D_TECHNOLOGY_AREA	Technology Area	BSC_DI_143	Add/Update	Database			

Administration | Home | Logout | Preferences | Diagnostics

Copyright 2003 Oracle Corporation. All rights reserved. Privacy Statement

- ディメンション・オブジェクトを表示するには、「内容の表示」を選択します。
ディメンション・オブジェクトの内容全体を印刷するには、「印刷可能ページ」を使用します。
- ディメンション・オブジェクトを編集するには、「内容の編集」を選択します。

図 5-2 ディメンション・オブジェクトの編集

ORACLE® Performance Management Designer

Home Logout Preferences Diagnostics

Administration

Loader Session Management

Administration - Loader - Maintain Dimension > Edit Dimension

Dimension Table BSC_D_AREA

Select Item(s) and ... Delete

Select All Select None

Select	USER_CODE	NAME
☐	1	OPI West
☐	2	OPI Central
☐	3	OPI East
☐	4	Automotive

Add Another Row

Cancel Apply

Administration | Home | Logout | Preferences | Diagnostics

Copyright 2003 Oracle Corporation. All rights reserved. Privacy Statement

ディメンション値を追加、削除または変更できます。

新規のディメンション値を入力する場合は、BSC ロードからユーザー・コードや名称などの必須フィールドにすべて入力するように要求されます。ディメンション値を編集するか依存ディメンション・オブジェクトに追加する場合は、親コード名を入力する必要があります。これらの親コードは、ディメンション・オブジェクトの編集集中に追加の列として識別されます。たとえば、国はリージョンに依存する場合がありますため、BSC ロードでは各国の Region_Code_Name を入力するように要求されます。

注意： 各列の隣の値リストを開いて親ディメンション値を確認する操作が必要になる場合があります。

ディメンション・オブジェクト表へのディメンション値のロード

BSC ロダーでは、インポート機能を使用して、一度に複数のディメンション値をディメンション表にロードできます。

バランス・スコアカード管理者が他のソースからデータをインポートする手順は、次のとおりです。

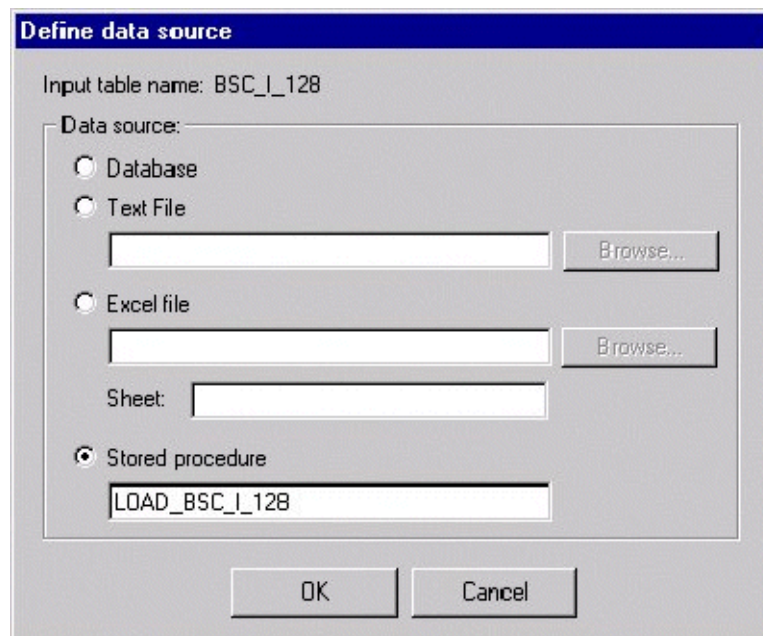
1. 外部ソースからのデータを準備します。この手順では、データのソースを識別し、対応するプロセスを実行して、そのデータを取得する必要があります。
2. データをインポートする各ディメンション・オブジェクト表のデータ・ソースを定義します。バランス・スコアカードでは、データについて3つの主要ソース・タイプを定義できます。
 - 「データベース」。ユーザーがデータを入力表にアップロードします。
 - 「外部ソース」。データはネットワーク経由で使用可能なテキスト・ファイルにあります。
 - 「ストアド・プロシージャ」。ユーザー定義ストアド・プロシージャを実行してデータを入力表にアップロードします。
3. ロード・プロセスを発行して、ディメンション・オブジェクト表のデータをアップロードします。ロード・プロセスでは、システム表へのアップロード前に、すべてのデータ検証が実行されます。データの検証後、BSC ロダーによりデータが処理され、システム構成に従って必要な要約、計算および見積がすべて実行されます。

ディメンション・オブジェクト表のデータ・ソースの定義

外部ソースからデータをアップロードする手順は、次のとおりです。

1. ディメンション・オブジェクトを検索します。
2. ディメンション・オブジェクトの隣の「データ・ソースの定義」アイコンをクリックします。
3. 「データ・ソースの定義」ページが表示された後、表のロードの実行モードを選択します。
 - 「追加 / 更新」。入力表に指定されているユーザー・コードに基づいてディメンション・オブジェクトの新規レコードを追加し、既存のレコードを新規名で更新します。
 - 「上書き」。ディメンション・オブジェクト表の以前のレコードを、入力表に入力したレコードで置き換えます。
4. データ・ソースとして「データベース」、「外部ソース」または「ストアド・プロシージャ」を選択します。

図 5-3 データ・ソースの定義



The dialog box titled "Define data source" has a blue header bar. Below the header, it says "Input table name: BSC_I_128". Underneath, there is a section labeled "Data source:" containing four radio button options: "Database", "Text File", "Excel file", and "Stored procedure". The "Stored procedure" option is selected. To the right of the "Text File" and "Excel file" options are "Browse..." buttons. Below the "Excel file" option is a "Sheet:" label followed by a text input field. Below the "Stored procedure" option is a text input field containing the text "LOAD_BSC_I_128". At the bottom of the dialog are "OK" and "Cancel" buttons.

- 「データベース」を選択した場合は、ロード・プロセスを発行する前に、データを入力表にロードする必要があります。
- 「外部ソース」を選択した場合は、ロード・プロセスの発行時にフラット・テキスト・ファイルを選択する必要があります。
- 「ストアド・プロシージャ」を選択した場合は、ストアド・プロシージャ名を入力します。このストアド・プロシージャは APPS スキーマに存在する必要があります。ロード・プロセスの発行時に実行されます。

注意： ストアド・プロシージャはユーザーが記述し、APPS スキーマ上でコンパイルする必要があります。ストアド・プロシージャ内にエラーが検出されると、対応するディメンション・オブジェクト表のデータはアップロードされません。

重要：

- この機能を使用してローダーを実行する前に、ストアド・プロシージャがデータベースに存在する必要があります。
 - ストアド・プロシージャにコンパイル・エラーがないことを確認する必要があります。エラーがあると、ローダーはエラーで終了します。
 - ストアド・プロシージャは、入力表またはディメンション表ごとに作成する必要があります。複数の入力表とディメンション表の情報を送るストアド・プロシージャでは、情報は対応する表にロードされますが、データはシステムに対して更新されません。
-

5. 「適用」をクリックして変更内容を保存します。

ディメンション・オブジェクト表へのデータのロード

ロードするディメンション表ごとに対応するデータ・ソースを定義した後の手順は、次のとおりです。

1. ディメンション・オブジェクト表を選択します。
2. 「ロード」をクリックします。

図 5-4 ディメンション表のロード

Input Table	Source Type	Source File	Loading Mode
BSC_DI_55	false	Database	Add/Update false
BSC_DI_254	false	External Source false	Add/Update false
BSC_DI_6	false	Stored Procedure true	Add/Update

3. 外部ソースからデータをロードする場合は、「ブラウズ」ボタンを使用してインポートするファイルを検索します。セミコロン (;) で区切られたテキスト・ファイルを選択する必要があります。表が BSC_D_STATE の場合の説明 (system.txt) を次の単純な表に示します。

インポートするファイルは次のようになります。

```
S1;California;1
S2;Florida;2
S3;Texas;2
```

インポートする SYSTEM.TXT ファイルは、NAME フィールドと _USR で終わるフィールドのみを、SYSTEM.TXT ファイルにリストされる順序で含んでいる必要があります。たとえば、後述のインポート・ファイルには、フィールド USER_CODE、NAME および REL_REG_USR の値のみをリストする必要があります。

表 5-1 サンプル・テキスト・ファイル

CODE	NUMBER	22(5)	コード
USER_CODE	VARCHAR2	5	ユーザー・コード
NAME	VARCHAR2	30	名称
REL_REG	NUMBER	22(5)	BSC_D_REGION.CODE を参照
REL_REG_USR	VARCHAR2	5	BSC_D_REGION.USER_CODE を参照

4. 「OK」をクリックしてデータをロードします。このプロセスが完了すると、ローダー・プロセスを即時に発行するか後で発行するようにスケジュールするかを選択を求めるメッセージが表示されます。

コンカレント要求を即時に発行するように選択すると、ローダーによりシステム表に対するデータの移入が開始されます。このプロセスが完了すると、確認メッセージが表示されます。

コンカレント要求を後で発行するように選択すると、選択した表セット用に作成されたプロセス ID が表示されます。このプロセス ID は、Oracle Forms を使用してコンカレント・マネージャ経由でローダー・プロセスを発行するときに使用します。コンカレント要求を介してローダー・プロセスをスケジュールおよび発行する方法の詳細は、[付録 B「コンカレント要求の予定作成」](#)を参照してください。

注意： I 表に置かれていたデータは、ロード・プロセスの実行後に削除されます。この種の表は、ロード・プロセスを再実行する前に再移入する必要があります。

ディメンション・オブジェクトのロード結果の表示

「ディメンション・オブジェクト・ロード処理結果の表示」には、ロードされた入力表ごとにロード結果情報が表示されます。

ステータスは次のいずれかです。

- 「無効なレコードが見つかりました」。ローダー検証に失敗した一部のレコードが見つかりました。ロード・プロセスを再発行する前に、入力データを検証し、問題のレコードを修正する必要があります。詳細は、「ディメンション・オブジェクトに関する無効なレコードの表示」を参照してください。
- 「入力表が空です」。処理するレコードが見つかりませんでした。
- 「ストアド・プロシージャが見つかりませんでした」。ストアド・プロシージャが見つかりませんでした。
- 「更新済」。ローダー・プロセス中にエラーは発生せず、データはディメンション・オブジェクト表に正常にアップロードされました。

ディメンション・オブジェクトに関する無効なレコードの表示

「無効なレコード」を選択すると、無効なレコードを示すダイアログ画面が表示されます。無効なレコードを表示できるのは次の 3 つの場合です。

- 親ディメンション値のユーザー・コードが親ディメンションの D 表に登録されていない入力表のレコード。例：入力表にリージョン R3 のレコードがあり、R3 が BSC_D_REGION のフィールド USER_CODE にない場合。
- ユーザー・コードまたは名称が重複している入力表に含まれるレコード。
- ユーザー・コード・サイズまたは名称サイズが列に収まらない入力表に含まれるレコード。

BSC 入力表のロード

ディメンション値が D 表にロードされた後、次のステップは各 I 表のデータ・ソースを定義することです。「BSC 表のロード」タブを使用して、I 表の入力データをシステム表にロードします。どの表がどの KPI に関するものであるかは、`systree.xls` ファイルで確認できます。

I 表は、Oracle データベースに移入するか、スプレッドシートまたはテキスト・ファイルとして使用することに注意してください。BSC ローダーでは、この 3 つのフォーマットがシステム表にロードされます。ただし、ロード前に次の情報を入力する必要があります。

- 各 I 表のフォーマット
- 各 I 表のソースの場所

図 5-5 入力表のロード

ORACLE®
Performance Management Designer

Home Logout Preferences Home Logout Preferences Preferences

Maintain Dimension
Load Input Tables
Maintain Calendar
Delete Data

Load Input Tables

Search

Table

Results: All Input Tables

Select Item(s) and ...

Select All | Select None

Select	Input table name	Calendar	Periodicity	Period	Data source type	Define data source type
☐	BSC_I_1	Bsc Gregorian	Monthly	1	Stored Procedure	
☐	BSC_I_10	Bsc Gregorian	Monthly	1	Database	
☐	BSC_I_11	Bsc Gregorian	Monthly	1	Database	
☐	BSC_I_12	Bsc Gregorian	Monthly	1	Database	
☐	BSC_I_13	Bsc Gregorian	Monthly	1	Database	
☐	BSC_I_14	Bsc Gregorian	Monthly	1	Database	
☐	BSC_I_15	Bsc Gregorian	Monthly	1	Database	
☐	BSC_I_16	Bsc Gregorian	Monthly	1	Database	
☐	BSC_I_17	Bsc Gregorian	Monthly	1	Database	
☐	BSC_I_18	Bsc Gregorian	Monthly	1	Database	

Select Item(s) and ...

Home | Logout | Preferences | Home | Logout | Preferences | Preferences

Copyright 2003 Oracle Corporation. All rights reserved. [Privacy Statement](#)

入力表のデータ・ソースの定義

バランス・スコアカードでは、外部ソースからデータをアップロードできます。

入力表のデータ・ソースを定義するプロセスは、ディメンション・オブジェクトのデータ・ソースを定義するプロセスに似ています。

- データをロードする入力表を検索します。
- ロードする入力表の隣の「データ・ソースの定義」アイコンをクリックします。

図 5-6 入力表のデータ・ソースの定義

- データ・ソースとして「データベース」、「外部ソース」、「ストアド・プロシージャ」を選択します。
 - 「データベース」を選択した場合は、ロード・プロセスを発行する前に、データを入力表にロードする必要があります。
 - ソースとして「テキスト・ファイル」または「Excel ファイル」を選択した場合は、ファイルを選択する必要があります。
 - 「ストアド・プロシージャ」を選択した場合は、ストアド・プロシージャ名を入力します。このストアド・プロシージャは APPS スキーマに存在する必要があり、ロード・プロセスの発行時に実行されます。

重要:

- この機能を使用してローダーを実行する前に、ストアド・プロシージャがデータベースに存在する必要があります。
 - ストアド・プロシージャにコンパイル・エラーがないことを確認する必要があります。エラーがあると、ローダーはエラーで終了します。
 - ストアド・プロシージャは、入力表ごとに作成する必要があります。複数の入力表の情報を送るストアド・プロシージャでは、情報は対応する表にロードされますが、データはシステムに対して更新されません。
 - 「適用」ボタンをクリックして変更内容を保存します。
-

入力表へのデータのロード

ロードする入力表ごとに対応するデータ・ソースを定義した後にデータをアップロードする手順は、次のとおりです。

1. 各行の隣のチェック・ボックスを選択して、ロードする入力表を選択します。
2. 表の上部にある「ロード」ボタンをクリックします。BSC ローダーの「入力表のアップロード」ページが表示されます。

図 5-7 入力表のアップロード

The screenshot shows the 'Upload Input Tables' page in the Oracle Performance Management Designer. On the left is a sidebar with links: 'Maintain Dimension', 'Load Input Tables' (highlighted), 'Maintain Calendar', and 'Delete Data'. The main area has a breadcrumb 'Load Input Tables > Upload Input Tables' and a title 'Upload Input Tables'. Below the title is a table with three columns: 'Input Table', 'Source Type', and 'Source File'. The table contains the following data:

Input Table	Source Type	Source File
BSC_I_1	Stored Procedure	
BSC_I_10	Database	
BSC_I_11	Database	
BSC_I_12	External Source	Browse...
BSC_I_13	External Source	Browse...

At the bottom of the table, there are 'Cancel' and 'Continue' buttons. The footer of the page includes 'Copyright 2003 Oracle Corporation. All rights reserved.' and a 'Privacy Statement' link.

外部ソースからデータをロードするように選択した場合は、「ブラウズ」ボタンを使用してインポートするファイルを検索します。セミコロン (;) で区切られたテキスト・ファイルを選択する必要があります。ディメンション表の場合と同じルールに従ってください。

重要：

- テキスト・ファイルは、メタデータ・オプティマイザを実行したマシン上で生成されたスコアカード文書に記述されている入力表と同数の列を含んでいる必要があります。
- すべてのディメンション列をテキスト・ファイルで指定する必要があります、NULL は使用できません。
- メジャーの NULL 値は、テキスト・ファイルでそのとおりに指定する必要があります。

3. 「OK」ボタンをクリックして、外部ソースからディメンション入力表へのデータのロードを開始します。このプロセスが完了すると、ローダー・プロセスを即時に発行するか後で発行するようにスケジュールするかを選択を求めるメッセージが表示されます。

コンカレント要求を即時に発行するように選択すると、ローダーによりシステム表に対するデータの移入が開始されます。このプロセスが完了すると、確認メッセージが表示されます。

コンカレント要求を後で発行するように選択すると、選択した表セット用に作成されたプロセス ID が表示されます。このプロセス ID は、Oracle Forms を使用してコンカレント・マネージャ経由でローダー・プロセスを発行するときに使用します。コンカレント要求を介してローダー・プロセスをスケジュールおよび発行する方法の詳細は、付録 B「コンカレント要求の予定作成」を参照してください。

重要：

- I 表に置かれていたデータは、ロード・プロセスの実行後に削除されます。この種の表は、ロード・プロセスを再実行する前に再移入する必要があります。
- BSC ロードーでは、入力表に指定されている各レコードでシステム内のすべての値が置換されます。

入力表のロード結果の表示

「ディメンション・オブジェクト・ロード処理結果の表示」には、ロードされた入力表ごとにロード結果情報が表示されます。

ステータスは次のいずれかです。

- 「無効なレコードが見つかりました」。ローダー検証に失敗した一部のレコードが見つかりました。ロード・プロセスを再発行する前に、入力データを検証し、問題のレコードを修正する必要があります。詳細は、「ディメンション・オブジェクトに関する無効なレコードの表示」を参照してください。
- 「入力表が空です」。処理するレコードが見つかりませんでした。
- 「ストアド・プロシージャが見つかりませんでした」。ストアド・プロシージャが見つかりませんでした。
- 「列数が入力表の定義と一致しません」。
- 「更新済」。ローダー・プロセス中にエラーは発生せず、データはディメンション・オブジェクト表に正常にアップロードされました。

入力表に関する無効なレコードの表示

「無効なレコード」を選択すると、無効なレコードを示すダイアログ画面が表示されます。無効なレコードを表示できるのは次の 4 つの場合です。

- 1 つのディメンション値がディメンション表に登録されていない入力表のレコード。
- 入力表のレコードに無効な年、タイプまたは期間が含まれている場合。指標と表の活動期間を確認してください。
- ユーザー・コードまたは名称が重複している入力表に含まれるレコード。
- ユーザー・コード・サイズまたは名称サイズが列に収まらない入力表に含まれるレコード。

事前計算済 KPI 表の移入に関する注意

単純な KPI と事前計算済 KPI では、I 入力表の移入に 1 つのみ違いがあります。事前計算済 KPI の場合は、合計を入力表にロードする必要があります。これは、合計ごとにコード 0（ゼロ）レコードの形式で実行されます。次の例に、通常の KPI の入力表を示します。

表 5-2 通常の KPI の入力表

STATE_CODE	YEAR	TYPE	PERIOD	SALES_VOLUME
1	1999	0	1	100
1	1999	0	2	150
1	1999	0	3	125
2	1999	0	1	200
2	1999	0	2	175
2	1999	0	3	180

前述の各州コードは、次の表に示すように、ディメンション表に定義されている州コードの1つを参照します。

表 5-3 ディメンション表

CODE	USER_CODE	NAME
1	1	ジョージア
2	2	イリノイ
3	3	カリフォルニア
4	4	テキサス

たとえば、入力表の1行目は、州コード1（ジョージア）の第1会計月（6月など）の売上高が100単位であることを示しています。その他の行も同様のデータを表します。

ただし、事前計算済 KPI の場合は、表に含まれる期間について項目（この場合は州）ごとにコード0（ゼロ）の形式で合計を表に追加する必要があります。たとえば、表 5-4 のように、同じ KPI の同じ入力表にさらに行を追加する必要があることに注意してください（これは、すべての州の期間別合計を表します）。

表 5-4 事前計算済 KPI の入力表

STATE_CODE	YEAR	TYPE	PERIOD	SALES_VOLUME
0	1999	0	1	300
0	1999	0	2	325
0	1999	0	3	305
1	1999	0	1	100
1	1999	0	2	150
1	1999	0	3	125
2	1999	0	1	200
2	1999	0	2	175
2	1999	0	3	180

注意： ファイル system.txt は、入力表のどの列に NULL コードが必要であるかを示します。

1 行目は、期間1の全州の合計を示します。コード0（ゼロ）は STATE_CODE 列にあります。2 行目は期間2の合計で、3 行目は期間3の合計です。項目フィールド（この場合は州）のコード0（ゼロ）が合計を表していることに注意してください。

注意： 「州」と「市」のような親子ディメンション（「州」は「市」の親）の場合は、コード0（ゼロ）を必要とするのは親表のみです。これは、親の合計が自動的に子の合計となるためです。たとえば、ジョージアの月別売上高合計には、ジョージア全市（アトランタ、コロンバス、サバナおよびメーコン）の月別合計が含まれます。

そのため、「市」表ですべての市についてコード 0（または合計）を入力する必要はありません。たとえば、次の例では、最初の 3 行は入力不要です（表 5-5）。

表 5-5 「市」表の例

STATE_CODE	YEAR	TYPE	PERIOD	SALES_VOLUME
0	1999	0	1	300
0	1999	0	2	325
0	1999	0	3	305
1	1999	0	1	100
1	1999	0	2	150
1	1999	0	3	125
2	1999	0	1	200
2	1999	0	2	175
2	1999	0	3	180

これらの行は全市の合計（月別）を表しますが、州と市には親子関連があるため、この合計はすでに「州」表にあります。「州」表には、合計を表すコード 0（ゼロ）が含まれます。

Excel ファイルからのディメンション・オブジェクトおよび入力表のデータのロード

バランス・スコアカードのローダーを使用すると、Excel ファイルからのデータをディメンション・オブジェクト表または入力表にアップロードできます。この機能は、BSC ローダー・クライアント・インストールを介して Balanced Scorecard version 5.1 でも使用可能です。Excel ファイルからデータをアップロードする手順は、次のとおりです。

1. バランス・スコアカード・クライアント側インストールから「バランス・スコアカード・マネージャ」を開きます。
2. 「ローダー」ボタンをクリックします。
3. 「ディメンションの保守」タブをクリックして、ディメンション・オブジェクトの保守機能を有効化します。入力表の場合は、「BSC 表のロード」タブをクリックします。
4. 必要に応じて、アップロードするディメンション表または入力表を選択します。
5. 「データ・ソースの定義」ボタンをクリックします。
6. 選択を「Excel ファイル」に変更し、Excel ファイル名とシート名を入力します。

注意： ローダーのクライアント・モードでは、「Excel ファイル」以外は選択できません。Excel ファイル以外のソースから入力表をロードする必要がある場合は、HTML データ・ローダー・モジュールを使用します。

7. 「OK」ボタンをクリックして変更内容を保存します。
8. このプロセスを繰り返して、必要な他のディメンションのデータ・ソースを定義します。
9. アップロードするディメンション・オブジェクト表または入力表を選択し、「ロード」ボタンをクリックしてプロセスを開始します。

注意： 選択した表がデータ・ソースとして「Excel ファイル」を使用しない場合は、警告メッセージが表示されます。

10. プロセスの完了後に、「結果」ボタンを使用してローダーの実行結果を確認します。

ディメンション・オブジェクト表と入力表の自動ロード

バランス・スコアカードのローダー機能を使用すると、各表のデータ・ソースにストアード・プロシージャを利用して、ディメンション・オブジェクト表と入力表に対する自動ロード処理をスケジュールできます。この方法は、多数のディメンション値を持つディメンションや、同じインスタンスまたは接続可能な他のインスタンス内の他の表から取得できる入力データの場合は、特に役立ちます。

自動ローダー処理をスケジュールする手順は、次のとおりです。

1. データを必要に応じて入力表またはディメンション表にロードするためのストアード・プロシージャを作成します。このストアード・プロシージャは、確実に正常に実行されるように、バランス・スコアカード・データベースの APPS スキーマにコンパイルする必要があります。
2. ローダーを開き、要件に従って入力表またはディメンション表のデータ・ソースを定義します。
3. データ・ソースの定義中に「ストアード・プロシージャ」オプションを選択し、選択した表のデータをアップロードするストアード・プロシージャの名称を入力します。
4. 単一ロード処理でスケジュールする入力表を選択し、「ロード」ボタンをクリックします。
5. ローダー要求の発行を即時に実行するか後で実行するかの確認を要求された時点で、後で発行するように選択します。
6. ローダーにより生成されたプロセス ID をメモします。
7. ローダーを終了し、「バランス・スコアカード管理者」職責を使用して Oracle Forms を開きます。
8. ローダーにより生成されたプロセス ID を使用して、新規要求として「入力表のロード」要求の発行」または「ディメンション表のロード」要求の発行」を発行します。
9. 定期スケジュールまたは単発処理の時間を指定します。
10. プロセスの完了時に結果を確認します。Excel ファイルまたはテキスト・ファイルからデータをロードする場合は、OBSC ローダーにより入力表の既存データが削除されてから、ストアード・プロシージャを使用してデータがロードされます。これは、選択した表にのみ適用されます。

注意： 別の定期ローダー処理をスケジュールする前に、このプロセス ID を 1 度以上実行する必要があります。それ以外の場合、プロセス ID は次の表の選択に再利用されます。

重要：

- この機能を使用してローダーを実行する前に、ストアード・プロシージャがデータベースに存在する必要があります。
 - ストアード・プロシージャにコンパイル・エラーがないことを確認する必要があります。エラーがあると、ローダーはエラーで終了します。
 - ストアード・プロシージャは、入力表またはディメンション表ごとに作成する必要があります。複数の入力表とディメンション表の情報を送るストアード・プロシージャでは、情報は対応する表にロードされますが、データはシステムに対して更新されません。
-

カレンダーの保守

この機能を使用すると、バランス・スコアカードで定義されている各カレンダーの当年度を更新できます。最初に OBSC アーキテクトでバランス・スコアカードを設計したユーザーが、会計年度と会計月を設定します。

カレンダーの当年度を変更する手順は、次のとおりです。

1. サイド・ナビゲーション・バーから「カレンダーの保守」オプションを選択します。

図 5-8 カレンダーの保守



2. 対応するカレンダーの隣の「当年度の変更」アイコンをクリックします。

次のメッセージが表示されます。

年度変更プロセスにより、すべての指標が新年度に更新されます。当年度は前年度になり、その計画データは消去されます。

続行しますか？

3. 「Yes」 ボタンを選択して会計年度を更新します。

注意：「当年度の変更」プロセスでは、カレンダーの当年度を翌年以降の年度に変更できます。過去の年度には変更できません。

4. 当年度が更新された後、当年度の計画データとベンチマーク・データをロードする必要があります。

データの削除

この機能を使用すると、選択した指標（複数可）で使用されているすべての表から全データを削除し、その指標の最終更新期間を会計年度の第 1 期間にリセットできます。

指標のデータを削除する手順は、次のとおりです。

1. サイド・ナビゲーション・メニューから「データの削除」オプションを選択します。

図 5-9 データの削除

The screenshot shows the Oracle Performance Management Designer interface. On the left is a sidebar with navigation links: Maintain Dimension, Load Input Tables, Maintain Calendar, and Delete Data (highlighted). The main content area is titled 'Delete Data' and includes a search bar for 'Indicator Name' with a 'Go' button. Below the search bar, it says 'Results: All Indicators'. There is a table with columns 'Select' and 'Id Indicator(s)'. The table lists several indicators, with '3037 Better Quality Products & Services' selected (checked checkbox). At the bottom of the table, there are 'Previous 10' and 'Next 10' navigation buttons. The page footer includes 'Administration | Home | Logout | Preferences | Diagnostics' and 'Copyright 2003 Oracle Corporation. All rights reserved.'.

2. バランス・スコアカード・システム内で構成されている全指標のリストが表示されます。
3. 必要に応じてデータを削除する指標を 1 つ以上選択し、「削除」ボタンをクリックします。
警告メッセージが表示され、選択した指標のみでなく関連指標のデータも削除するかどうかを確認されます。
選択した指標の全現行データが削除されます。OBSC システム・データのバックアップを作成してください。
続行しますか？
4. 「Yes」をクリックして指標データを削除します。ローダーにより、選択した指標およびすべての関連指標に関するデータの削除要求が発行されます。

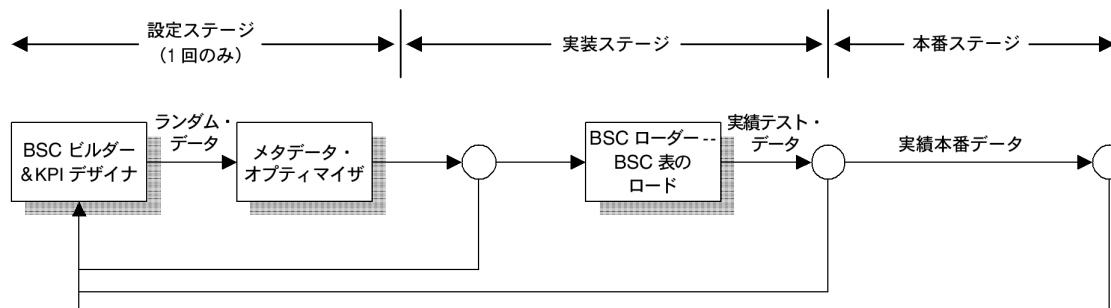
注意： 指標データを削除すると、システム内の他の指標も削除される場合があります。これは、様々な指標に同じ入力表が使用されることに基づく依存性が原因です。

BSC の移入と配置

Oracle Balanced Scorecard を移入して配置するには、次のステージを完了します。

- **設定ステージ:** このステージでは、「BSC ビルダー」ウィザードと「KPI デザイナ」ウィザードを使用してシステムを作成します。このステージではビューワにランダム・データが表示されます。メタデータ・オブティマイザの初回実行時に、システム内のすべての KPI に使用する入力表とその他のシステム表が作成されます。
 - 6-2 ページ「[BSC への実績データのロード](#)」
- **実装ステージ:** 実装ステージは、メタデータ・オブティマイザ・プロセスを（ウィザードではオプションであるディメンション表のみでなく）KPI に対して初めて実行した後に始まります。この時点で、ビューワにはランダム・データが表示されなくなります。ビューワにグラフとカラーを表示するには、入力表に実績テスト・データを移入し、BSC ローダーを使用してシステムにロードする必要があります。実装は、本番システムの配置を進める「プロトタイプ」または「テスト」フェーズです。
 - 6-2 ページ「[実装システムの作成（実績テスト・データを使用）](#)」
 - 6-2 ページ「[実装ステージでの KPI の更新](#)」
- **本番ステージ:** 本番ステージは、システムの移入後に始まります。この時点でシステムには本番データが格納されており、1 人以上のユーザーがアクセスします。
 - 6-3 ページ「[本番ステージでの KPI の変更（実績本番データを使用）](#)」

図 6-1 BSC 設計プロセスのステージ



重要： 各 KPI には、他の KPI とは異なる固有のステージを使用できます。たとえば、同じ BSC システムでも、ある KPI は本番ステージに進めて実績データを移入し、別の KPI は実装（テスト）ステージにとどめることができます。（この場合の BSC システムは、実装 KPI についてランダム警告カラーを提供しません）。

BSC への実績データのロード

BSC にデータをロードするには、メタデータ・オブティマイザと BSC ロードーが必要です。メタデータ・オブティマイザを実行し、ビューワのデータ要件に基づいてシステムの入力表の構造を決定します。メタデータ・オブティマイザで入力表の構造が作成された後、それをクライアントが移入する必要があります。このステップは、BSC の機能の外部で実行されます。入力表が正常に移入された後、BSC ロードーを実行して入力表のデータを BSC システム表にロードする必要があります。

実装システムの作成（実績テスト・データを使用）

1. BSC アーキテクトを使用して構造を確定して凍結した後に初めてメタデータ・オブティマイザを実行します。
2. 1 つ以上の KPI の入力表に実績テスト・データを移入します。
3. BSC ロードーを実行し、入力表のデータを BSC システム表にロードします。
4. その結果、1 つ以上の KPI に実績テスト・データが移入された実装システムとなります。

実装ステージでの KPI の更新

「BSC ビルダー」ウィザードと「KPI デザイナ」ウィザードを使用して、KPI を更新します。

1. メタデータ・オブティマイザを実行し、変更済 KPI と任意の関連 KPI に使用する入力表（および必要な場合はディメンション表）の新規セットを作成します。メタデータ・オブティマイザは、次のいずれかのオプションを使用して実行できます。
 - KPI の更新済サブセットのみの入力表の再構成
 - 全 KPI の入力表の再構成
 - ディメンション表のみの再構成

注意：

- メタデータ・オブティマイザでは、最初の 2 つのオプションを使用して構成される KPI については、関連する入力表とシステム表がすべて空になります。「ディメンション表の構成」を選択するとシステム・ディメンション表のみが作成され、それを BSC ロードで移入できます。
- 変更済 KPI のみの入力表を構成すると、KPI 間のデータセットとディメンションの依存性によっては、メタデータ・オブティマイザにより、KPI が直接変更されていなくても、共通のデータセットやディメンションを変更済 KPI と共有する KPI の表も空になる場合があります。KPI での変更の影響を受ける関連 KPI が存在する場合は、それがすべて表示されます。
- 入力表とシステム表を空にしてクライアントがデータを再ロードする必要があるのは、KPI の構造変更により異なる入力表構造が必要になる場合があるためです。

2. メタデータ・オブティマイザでは、入力表の再作成を必要とする全 KPI について、履歴データ表（B 表、つまり実表）のバックアップが作成されます。このバックアップから、KPI に履歴データを再移入するために必要な入力データを再作成できます。
3. 再作成された KPI 入力表を移入し、BSC ロードを再実行してデータを BSC システム表にロードします。

注意： KPI を変更し、入力表を作成し、入力表を移入して BSC ロードを実行するプロセスには、長時間かかることがあります。

本番ステージでの KPI の変更（実績本番データを使用）

BSC システムを現在は 1 人以上のユーザーが使用中でも、システムに対する変更（KPI やグループの追加、削除、変更またはレイアウトの変更）が必要になった場合は、Oracle Applications バックアップ・ユーティリティを使用してデータベースのバックアップを作成することをお勧めします。次の表に、KPI デザイナに対する構造変更と構造以外の変更をすべて示します。

注意：

- バックアップを作成するまでは、本番データベースの変更を行わないでください。
- 構造以外の変更によっては、管理者によるデータベースのバックアップ作成を必要としない場合があります。たとえば、カラー・メソッドなどの変更は、本番システム自体で直接実行できます。次の表に示す構造変更と構造以外の変更を参照してください。

表 6-1 KPI デザイナの変更

KPI デザイナのアクション	影響を受ける KPI	変更タイプ	理由
分析グループの追加	変更済 KPI のみ	構造変更	表列の変更
分析オプションの追加	変更済 KPI のみ	構造変更	表列の変更
ディメンション・グループのディメンションの追加または削除	そのディメンション・グループを使用する全 KPI	構造変更	表列の変更
データセットへの系列の追加	そのデータセットを使用する全ユーザー	構造変更	データ列名の変更

表 6-1 KPI デザインの変更（続き）

KPI デザインのアクション	影響を受ける KPI	変更タイプ	理由
シミュレーション・ツリー・ノードの追加または削除時に影響を受けるデータセットの選択	変更済 KPI のみ	構造変更	表列の変更
データセットの割当て	変更済 KPI のみ	構造変更	表列の変更
データセット内のソース・グループの割当て	そのソース・グループを使用する全ユーザー	構造変更	入力表構造におけるフィールドのグループ化方法の変更
データセット内のソースの割当て	そのデータセットを使用する全ユーザー	構造変更	列構造の変更
シミュレーション・ツリー・ノードのデータセットの変更	変更済 KPI のみ	構造変更	表列の変更
ディメンション関連の変更	そのディメンションを使用する全 KPI	構造変更	表列の変更
活動期間の定義	変更済 KPI のみ	構造変更	表列の変更
データセットの削除	そのデータセットを使用する全ユーザー	構造変更	データ列名の変更
分析グループの削除	変更済 KPI のみ	構造変更	表列の変更
分析オプションの削除	変更済 KPI のみ	構造変更	表列の変更
ディメンションの削除	そのディメンションを使用する全 KPI	構造変更	表列の変更
ディメンション・グループの削除	そのディメンション・グループを使用する全 KPI	構造変更	表列の変更
ディメンション・オプションの割当てにおけるディメンション・セットの削除	変更済 KPI のみ	構造変更	表列の変更
データセット内の系列の削除	そのデータセットを使用する全ユーザー	構造変更	データ列名の変更
データセット内のデータ・プロパティの編集（新規ソースを含むフォーミュラの定義）	そのデータセットを使用する全ユーザー	構造変更	列構造の変更
ディメンション・プロパティの編集：ディメンション表のキーの変更	そのディメンションを使用する全 KPI	構造変更	表列の変更
ディメンション・プロパティの編集：ディメンション表名の変更	そのディメンションを使用する全 KPI	構造変更	表列の変更
ディメンション・オプションの割当てにおけるディメンション・セット内のディメンション・プロパティの編集（ディメンション・グループの追加）	変更済 KPI のみ	構造変更	表列の変更
ディメンション・オプションの割当てにおけるディメンション・セット内のディメンション・プロパティの編集（ディメンション・グループの削除）	変更済 KPI のみ	構造変更	表列の変更
データセット内のソース・プロパティの編集（名称の変更）	そのソースを使用する全ユーザー	構造変更	フィールド名の変更
予算ベンチマークの追加	変更済 KPI のみ	構造以外：カラー・プロセス構成	カラー・プロセス構成の変更
結果ノードに影響するシミュレーション・ツリー・ノードのフォーミュラの変更	変更済 KPI のみ	構造以外：カラー・プロセス構成	カラー・プロセス構成の変更
カラー・トリガーの定義	変更済 KPI のみ	構造以外：カラー・プロセス構成	カラー・プロセス構成の変更

表 6-1 KPI デザイナーの変更（続き）

KPI デザイナーのアクション	影響を受ける KPI	変更タイプ	理由
データセット内のデータ・プロパティの編集（カラー・メソッドの変更）	そのデータセットを使用する全ユーザー	構造以外：カラー・プロセス構成	指標のデフォルト画面の変更
データセット内のデータ・プロパティの編集（新規ソースを含まないフォーミュラの定義、ただし分析オプションのデフォルトの変更）	そのデータセットを使用する全ユーザー	構造以外：カラー・プロセス構成	指標カラーの変更
ディメンション・グループ内のディメンション・プロパティの編集（オプションの初期化）	そのディメンション・グループを使用する全 KPI	構造以外：カラー・プロセス構成	指標のデフォルト画面の変更
データセット内の系列プロパティの編集（デフォルト・カラーの変更）	そのデータセットを使用する全ユーザー	構造以外：カラー・プロセス構成	指標のデフォルト画面の変更
シミュレーション・ノード・プロパティの編集：デフォルト・カラー以外のシミュレーション・ツリー・ノード・カラーの変更	変更済 KPI のみ	構造以外：カラー・プロセス構成	カラー・プロセス構成の変更
デフォルト活動期間の変更	変更済 KPI のみ	構造以外：カラー・プロセス構成	カラー・プロセス構成の変更
予算ベンチマークの削除	変更済 KPI のみ	構造以外：カラー・プロセス構成	カラー・プロセス構成の変更
活動期間オプションにおける年度、前年度の変更	変更済 KPI のみ	構造以外：BSC ロード構成	見積の変更
データセット内のソース・プロパティの編集（積上の変更）	そのソースを使用する全ユーザー	構造以外：BSC ロード構成	合計計算方法の変更

次の表に、BSC ビルダーに対する構造変更と構造以外の変更をすべて示します。

表 6-2 BSC ビルダーの変更

BSC ビルダーのアクション	影響を受ける KPI	変更タイプ	理由
新規 KPI の追加	新規 KPI	構造変更	表列の変更
KPI のコピー	コピー対象の KPI	構造変更	表列の変更
テンプレートの作成	全 KPI	構造変更	新規テンプレート
KPI の削除	削除対象の KPI	構造変更	表列の変更
KPI のドラッグ・アンド・ドロップ	新規 KPI	構造変更	表列の変更
タブでの KPI の選択	選択対象の KPI	構造以外：カラー・プロセス構成	カラー・プロセス構成の変更
「リスト」ボタンの選択または選択の解除	タブ上の全指標	構造以外：カラー・プロセス構成	カラー・プロセス構成の変更
「リスト」ボタンのディメンションの選択または選択の解除	タブ上の全指標	構造以外：カラー・プロセス構成	カラー・プロセス構成の変更
KPI の編集	変更済 KPI	フィールドの文書化	名称、摘要の変更

セキュリティ管理者

セキュリティ管理者を介して、職責（タスクまたはジョブの有効範囲）別にアクセス権限を制御および変更し、情報をフィルタリングできます。

この章では、次の作業について説明します。

- スコアカードへのアクセス権の付与と制限
- グローバル・リスト値を使用したデータ・フィルタの割当て
- ユーザー職責、タブおよび KPI 別のセキュリティ・レベルの設計

この章は次のトピックで構成されています。

- 7-2 ページ「[セキュリティ管理者の概要](#)」
 - 7-2 ページ「[職責の定義](#)」
 - 7-2 ページ「[スコアカードへのアクセス権の付与](#)」
 - 7-3 ページ「[グローバル・リスト値](#)」
 - 7-3 ページ「[KPI のセキュリティ](#)」
- 7-4 ページ「[セキュリティ管理者の使用](#)」

セキュリティ管理者の概要

バランス・スコアカードのセキュリティは、職責の概念に基づいています。職責とユーザーは Oracle Applications を介して定義されており、Oracle Enterprise データベースに接続している場合、バランス・スコアカードではアクセスのみができます。

バランス・スコアカードには、7つのシード済職責が用意されています。

- **パフォーマンス管理デザイナー**: この職責を持つユーザーは、Self-Service Web アプリケーションを介して BSC にサインオンできます。
- **パフォーマンス管理管理者**: これは、BSC データ管理者に割り当てられる職責です。この職責を使用して、バランス・スコアカードでデータの保守とロードを行います。
- **パフォーマンス管理セキュリティ管理者**: これは、BSC 管理者に割り当てられる職責です。セキュリティ管理者を使用して、各バランス・スコアカードへのアクセス権を職責別に維持管理します。
- **バランス・スコアカード・マネージャ**: この職責を持つユーザーは、バランス・スコアカードのアーキテクト・モジュールを介して BSC にサインオンできます。また、BSC システム・プロパティを変更し、指標を構成できます。
- **バランス・スコアカード・デザイナー**: この職責を持つユーザーは、バランス・スコアカードのアーキテクト・モジュールと BSC HTML モジュールを介して BSC にサインオンできます。また、BSC システム・プロパティを変更し、指標を構成できます。この職責は、プロトタイプ・データのみを表示するために有効化されます。
- **バランス・スコアカード管理者**: これは、BSC 管理者に割り当てられる職責です。
- **パフォーマンス管理ユーザー**: この職責を使用して、ビューワ・モジュールと、そこに割当済の全スコアカードおよび指標にアクセスします。

組織内のすべてのバランス・スコアカードのロールやジョブに必要な数の職責を定義できます。Oracle Applications を介してユーザーと職責を定義する方法の詳細は、『Oracle Applications ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

職責の定義

セキュリティ権限を割り当てる前に、職責、つまり制御の範囲を定義する必要があります。通常、職責は CEO、CFO またはプロダクト・マネージャなどの役職名と同じです。職責の定義は、Oracle Applications 環境で行います（詳細は、『Oracle Applications ユーザーズ・ガイド』を参照）。

BSC におけるセキュリティはすべて職責に基づくため、職責は慎重に選択してください。組織内の主要な職責カテゴリをすべて網羅するわかりやすいタイトルを選択することをお勧めします。定義した職責は、タブ、リスト値および KPI 別にセキュリティ権限を割り当てるための基礎として使用されます。

スコアカードのセキュリティと指標のセキュリティは、Oracle Applications で定義済の職責とユーザーに基づきます。この機能を使用できるのは、Enterprise データベースに接続している場合のみです。

スコアカードへのアクセス権の付与

BSC セキュリティ管理者を使用して、特定のスコアカードへのアクセス権を付与または制限できます。スコアカードは、組織の特定のロールにあわせてカスタマイズされている場合があります。各スコアカードが組織の特定のロールにあわせてカスタマイズされ、固有の指標とレイアウトが使用されている場合があります。各システムには多数のスコアカードが含まれている場合がありますが、各スコアカードが個別のシステムではないことに注意してください。

組織のバランス・スコアカードには、任意の数のスコアカードを個別に含めることができます。ユーザーには、ジョブの職責に基づいて特定のタブへのアクセス権を付与できます。また、ユーザーには、各自の個人用スコアカードに表示されるデータを KPI 別にフィルタリングするためのオプションを提供できます。

たとえば、社内 BSC が 6 つのスコアカードを使用して定義されているとします。スコアカードのうち 5 つは、それぞれが 1 つずつ合計で 5 つの機能領域用です。第 1 のスコアカードは、会社全体のバランス・スコアカードです。5 つの機能領域は、会計、マーケティング、運用、営業および品質です。

BSC セキュリティ管理者のスコアカード割当機能を使用すると、ユーザー・アクセスを制限できます。これにより、マーケティング担当役員のログイン時には「マーケティング」タブのみが表示され、営業担当役員のログイン時には「営業」スコアカードのみが表示されます。この場合、実際には各ユーザーに個人用バランス・スコアカードを提供することになります。CEO や他の役員は会社全体のタブへのアクセス権を持つのみでなく、必要に応じて 5 つの機能別スコアカードの一部またはすべてにアクセスできます。

グローバル・リスト値

BSC セキュリティ管理者を使用して、スコアカード・レベルと指標レベルのセキュリティを提供するのみでなく、ユーザーに「リスト」ボタンを使用してディメンションとディメンション値の両方をフィルタリングする機能を提供します。

ディメンション値のフィルタリング（グローバル・リスト値）

「リスト」機能を使用すると、ユーザーは指定したディメンションの任意のディメンション値でバランス・スコアカードをフィルタリングできます。ディメンションがタブ上の全 KPI で共有されている場合は、そのディメンションをスコアカードのデータ・フィルタとして使用できます。

たとえば、「リージョン」がタブ上の全 KPI の共通ディメンションで、各ディメンションが同じ位置に構成されていれば、「リージョン」ディメンションをスコアカードのメイン・パネルに配置できます。このスコアカードへのアクセス権を持つユーザーは、個別のリージョン（東部、西部、南部、北部）および存在する他のリージョン値ごとに警告カラーを表示できます。

ディメンション値のセキュリティ（項目値）

ディメンション値のセキュリティでは、ユーザーに対して 1 つのスコアカードの 1 つのディメンション値を表示するように制限します。たとえば、複数の営業マネージャがおり、それぞれ 1 つのリージョンを担当している場合は、BSC セキュリティ管理者を使用して、西部リージョンの営業マネージャにはそのリージョンのデータのみ（つまり、西部リージョンのスコアカードと、地区 A のようにそのスコアカード上の特定の値のみ）を表示し、北部リージョンの営業マネージャには北部リージョンの情報のみを表示するように制限できます。この制限が有効化されている場合、ユーザーのメイン・パネルに表示される警告カラーは、そのユーザーがアクセス権を持つディメンションに関してのみ計算されます。ユーザーが表示できるのは、自分がアクセス権を付与されているディメンションのみです。

ディメンション・レベルのセキュリティをアクティブ化するには、システムで「リスト」機能を有効にする必要があります。

KPI のセキュリティ

最後に、スコアカードのみでなく、特定の職責とスコアカードでアクセス可能な KPI も、職責ごとに管理できます。指標セキュリティ機能を使用すると、各スコアカードに表示される情報をユーザーごとに管理できます。製品ライン・マネージャには、品質保証 KPI の方が売上成長 KPI よりも深い関連性を持つ場合があります。CFO など、他の職責には売上成長の方が深い関連性を持つ場合があります。BSC 管理者の指標セキュリティ機能を使用すると、マネージャの職責の有効範囲にあわせて各タブを調整できます。

セキュリティ管理者の使用

セキュリティ管理者を使用して、次の作業を実行します。

セキュリティ管理者へのログイン

1. 4つの新規職責の1つを使用してセキュリティ管理者にログインします。
2. セキュリティ・モジュールにアクセスするには、次の職責から1つ選択します。
 - パフォーマンス管理デザイナー
 - パフォーマンス管理セキュリティ管理者
 - セキュリティ

セキュリティ・モジュールの概要

セキュリティ・モジュールでは、各職責に付与されているアクセス権が次のレベルを含む階層構造で表示されます。

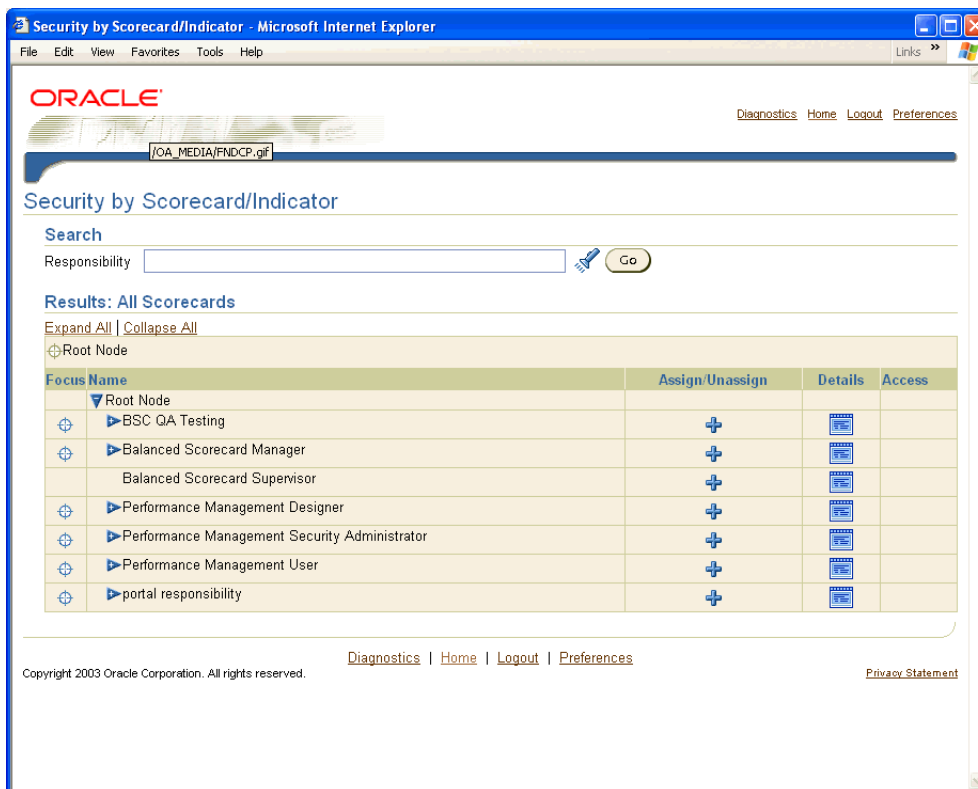
- 職責: 組織の特定のロールを表します。各職責は1つ以上のスコアカードにアクセスできます。
- スコアカード: 1つ以上の指標に関連付けられています。
- 指標

この階層には、バランス・スコアカードで定義済の各職責に付与されている有効なアクセス権のみが表示されます。システムに存在しても職責に割り当てられていないスコアカードと指標は、このページに表示されません。

設計者は各職責の内容を、その職責の下位の全スコアカードを表す第1レベルに拡張し、次に職責がアクセス権を持つ各スコアカードに属している指標を表す第2レベルに拡張できます。

拡張または縮小するには、セキュリティ管理者ユーザーは各職責またはスコアカード・レベルで使用可能な青い「拡張」および「縮小」アイコンをクリックします。

図 7-1 スコアカード別または指標別セキュリティ



「セキュリティ」画面で使用可能な機能

セキュリティ階層ツリーでは、次の3つの主要機能を使用できます。

- **割当 / 割当解除:** この機能は次のレベルで使用可能です。
 - 職責。特定の職責にスコアカードへのアクセス権を付与したり、取り消すことができます。職責レベルで「追加」アイコンをクリックする必要があります。
 - スコアカード。特定の職責にスコアカード内の指標へのアクセス権を付与したり、取り消すことができます。
- **詳細:** 「詳細」機能を使用すると、各レベルの現在のステータスの概要を表示できます。この機能は次のレベルで使用可能です。
 - 職責。職責に割り当てられているスコアカードごとに、その概要と有効日時およびアクセス・レベルが表示されます。
 - スコアカード。対応する職責に付与されているスコアカードへのアクセス・レベル（ディメンション値のセキュリティ）の概要が表示されます。
- **アクセス:** 「アクセス」機能を使用できるのはスコアカード・レベルのみです。職責にスコアカードへのアクセス権が付与されていれば、ユーザーは有効日を定義できます。また、この機能を使用すると、セキュリティ管理者ユーザーはスコアカードへのアクセス・レベル（ディメンション値）を定義できます。

スコアカードへのアクセス権の管理

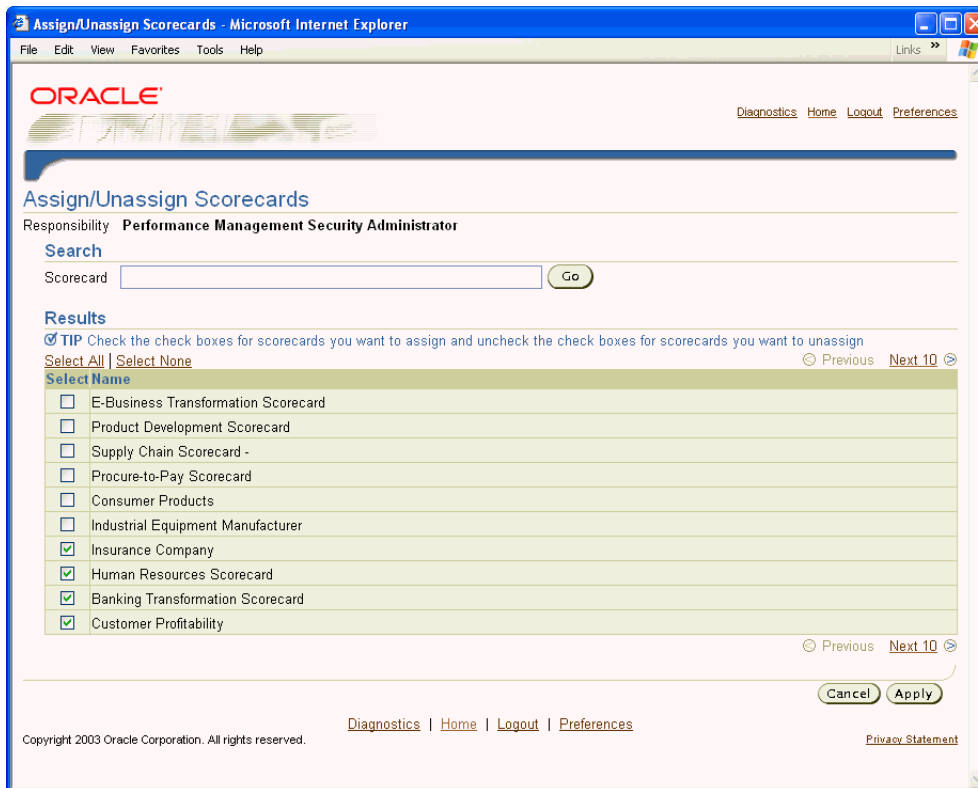
セキュリティ管理者の主な用途の1つは、特定のスコアカードへのアクセス権を管理および定義することです。アクセス権は、役職の機能、業務の有効範囲または専門知識に従って定義できます。たとえば、ビジネス単位マネージャは特定の製品の可用性、数量およびマージンの各スコアカードを参照する必要がありますが、担当する製品、リージョンまたは管理範囲に関連性のないタブを参照する必要はありません。

スコアカードへのアクセス権の付与と取消し

スコアカードへのアクセス権を職責に付与したり取り消す手順は、次のとおりです。

1. アクセス権を付与する職責を検索します。このページで使用可能な検索機能を使用すると、任意の職責をすばやく検索できます。
2. 「割当 / 割当解除」アイコンをクリックします。「スコアカードの割当 / 割当解除」ページが表示されます。
3. 選択した職責にアクセス権を付与するスコアカードを選択し、アクセス権を取り消すスコアカードのチェック・ボックスの選択を解除します。

図 7-2 「スコアカードの割当 / 割当解除」



4. 特定のスコアカードを検索するには、このページに用意されている検索機能を使用できます。指定した検索基準に該当するスコアカードのみが戻されます。
5. 該当するスコアカードを選択した後、「適用」ボタンをクリックして変更内容を保存します。「セキュリティ」ページに戻ります。

注意： 「前」および「次」ボタンを使用してナビゲートする間に、すべてのページで選択した内容が保存されます。

アクセス有効日の設定

セキュリティ機能を使用すると、セキュリティ管理者ユーザーは各スコアカードのアクセス有効日を設定できます。アクセス有効日を設定する手順は、次のとおりです。

- 「開始日」に日付を入力します。これは、アクセス権の設定が有効になる日付を表します。これは必須プロパティであり、職責にスコアカードを初めて割り当てる日付に設定します。

図 7-3 スコアカードの「アクセス - 有効日」

Access-Valid Dates

* Start Date: 12-Sep-2003

End date:

「終了日」に日付を入力します。これは、この職責に関するスコアカードの失効日を表します。値を入力しなければ、失効日がなく職責はいつまでもアクセスできることを表します。この値はオプションで、スコアカードに失効日が必要な場合にのみ入力する必要があります。

注意：

- 職責への割当て時には、デフォルトでスコアカードの失効日は設定されません。
- セキュリティ管理者がスコアカードへのアクセス権を取り消す場合は、終了日を現在の日付に設定します。

スコアカードへのアクセス・レベルの設定

「アクセス・レベル」機能を使用して、特定のスコアカードの全指標に共通するディメンションを選択し、そのディメンションをフィルタとして使用します。たとえば、「東部リージョン」などの値へのアクセスを制限するように選択すると、スコアカード・データがフィルタリングされ、スコアカード・ビューの警告カラーは「東部リージョン」ディメンション値の値を示すように計算されます。

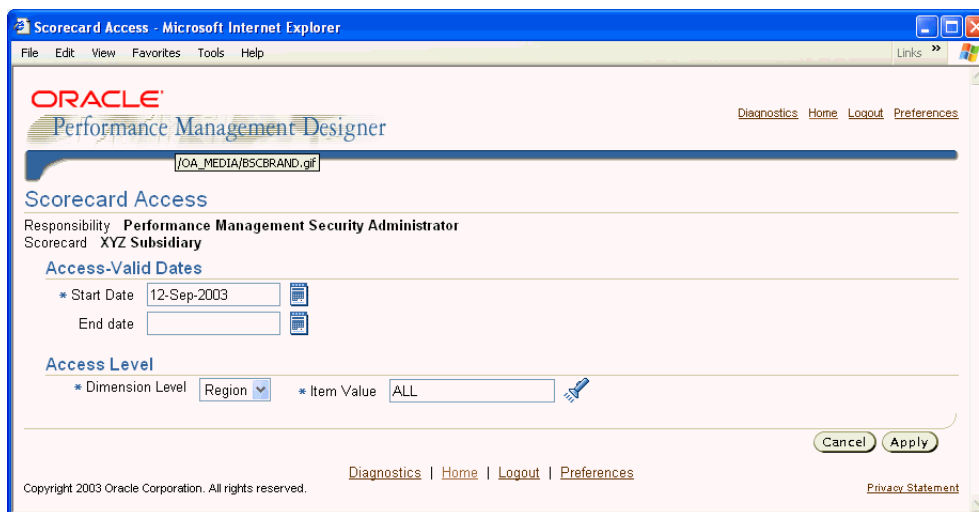
ユーザーが使用可能な共通ディメンションは、「BSC アーキテクト」ウィザードを使用して定義します。「リスト」ボタンの使用方法の詳細は、「リスト」ボタンの使用に関する説明を参照してください。

ユーザーがアクセス権を持つ実績ディメンション値を定義するには、「セキュリティ」階層ツリーのスコアカード・レベルで「アクセス」アイコンを使用します。

項目値の設定 ユーザーに1つのディメンション項目についてデータを1つのみ表示するようにスコアカード・データをフィルタリングする必要がある場合は、「項目値」機能を使用します。たとえば、西部リージョンの営業マネージャ用にスコアカードを作成する場合は、「リージョン」ディメンション・オブジェクトについて「西部」の項目値のみを表示できます。これにより、営業マネージャは西部リージョンのみの営業実績を表示できます。

1. 「ディメンション・レベル」プルダウン・メニューから共通ディメンションを選択します。「項目値」プルダウン・メニューに、このディメンションのディメンション値がすべて表示されます。

図 7-4 「スコアカード・アクセス」：項目値の設定



2. 「項目値」プルダウン・メニューからディメンション値を選択します。ユーザーのバラン ス・スコアカードがフィルタリングされ、このディメンション値のデータのみが表示されます。メイン・パネルの警告カラーは選択した共通ディメンション値に基づいて計算され、ユーザーはディメンション・レベルから他のドリルダウン値にはアクセスできません。

3. 検索機能を使用して特定の値を検索します。検索基準と一致する値のリストが表示されます。選択できる値は1つのみです。

注意： 選択できる値はディメンションごとに1つのみです。

4. 値の設定後に「適用」をクリックします。

指標へのアクセスの管理

スコアカードへのアクセス権を職責別に設定するのみでなく、重要な経営指標へのアクセス権を管理できます。スコアカード内の指標へのアクセス権を職責に付与したり取り消す手順は、次のとおりです。

1. アクセス権を付与する職責を検索します。このページで使用可能な検索機能を使用すると、任意の職責をすばやく検索できます。
2. 指標が属しているスコアカードを検索し、指標レベルを拡張して、すでにアクセス権が付与されている指標を表示します。
3. 指標が属しているスコアカードの隣にある「割当 / 割当解除」アイコンをクリックします。「指標の割当 / 割当解除」ページが表示されます。
4. 選択した職責にアクセス権を付与する指標を選択し、アクセス権を取り消す指標のチェック・ボックスの選択を解除します。このページに用意されている検索機能を使用すると、特定の指標を検索できます。

図 7-5 「指標の割当 / 割当解除」

The screenshot displays the Oracle Balanced Scorecard interface for managing indicator assignments. At the top, the Oracle logo is visible. The page title is 'Assign/Unassign Indicators'. Below the title, the user's responsibility is listed as 'Performance Management Security Administrator' and the scorecard as 'XYZ Subsidiary'. A search bar is provided for finding indicators. The results section shows a table with three indicators: 'Excellence', 'Revenue', and 'Time to Market', each with a checked checkbox. At the bottom, there are 'Cancel' and 'Apply' buttons. The footer includes copyright information for Oracle Corporation and a link to the Privacy Statement.

5. 該当する指標を選択した後、「適用」ボタンをクリックして変更内容を保存します。「セキュリティ」ページに戻ります。

注意： 「前」および「次」ボタンを使用してナビゲートする間に、すべてのページで選択した内容が保存されます。

スコアカード・アクセス詳細

パフォーマンス管理セキュリティ管理者は、「スコアカード・アクセス詳細」を使用して、指定した職責のスコアカード・アクセス詳細を確認できます。そのためには、対応する職責の隣の「詳細」アイコンをクリックします。

「スコアカード・アクセス詳細」ページに、次の情報の要約が表示されます。

- 職責に付与されているスコアカード
- 「リスト」ボタンまたは各スコアカードのスコアカード・グローバル値
- アクセス有効期間。職責が各スコアカードにアクセスできる開始日と終了日です。

図 7-6 スコアカード・アクセス詳細



Oracle Applications のセキュリティ

BSC のインストールには Self-Services Web Applications 環境と Oracle Applications を使用するため、BSC のセキュリティ要素は Oracle Applications を介して定義できます。これには、ユーザーや職責など、BSC 管理者で使用する多数のエンティティが含まれます。

職責の定義とユーザーへの割当てには、Oracle Applications Forms を使用します。ユーザーがアクセスできるタブと KPI に関する職責別セキュリティの定義には、BSC 管理者を使用します。Oracle Applications Forms へのアクセスについては、『Oracle Applications Administration Guide』を参照してください。

注意： エンタープライズ・データベース・インストール環境の場合、システム管理者のデフォルトのユーザー名とパスワードは、それぞれ SYSADMIN と SYSADMIN です。

Oracle Applications における職責とユーザーの定義

1. バランス・スコアカードの「職責」ウィンドウでシステム管理者としてログインします。
2. Oracle Applications で 1 つ以上の職責を作成します。BSC には、「BSC マネージャ」および「BSC 管理者」という 2 つのシード済職責があります。組織内のロールに基づいて他の職責を作成できます。たとえば、最高経営責任者の場合は次のようになります。

アプリケーション: バランス・スコアカード

職責キー: BSC_CEO

図 A-1 Oracle Applications、「職責」ウィンドウ

3. 各ユーザーに 1 つ以上の職責を割り当てます。次の例では、ユーザーにはマネージャ、管理者および最高経営責任者という 3 つの職責が割り当てられています。このユーザーは、この 3 つの職責のいずれかでログインできます。ユーザーごとに作成したパスワードをメモしてください。このパスワードは、セキュリティの定義後にそのユーザーが BSC ビューワに再びアクセスする際に必要になります。

エンド・ユーザーにアクセス権を付与するには、単に対応するエンド・ユーザー職責にアクセス権を付与します。ユーザーが設計者または管理者のタスクを実行する必要がない場合、「バランス・スコアカード・マネージャ」または他のバランス・スコアカード職責にアクセス権を付与する必要はありません。

図 A-2 Oracle Applications、「ユーザー」ウィンドウ

User Name: PPERDOMO
Description: pperdomo
Password:
Password Expiration:
Days
Accesses
None
Effective Dates:
From: 28-DEC-2001
To:
Responsibilities:
Securing Attributes:
Effective Dates:
Responsibility: Application: Description: Security Group: From: To:
Balanced Scorecard Super: Balanced Scorecard: Standard: 28-DEC-2001:
Balanced Scorecard Mana: Balanced Scorecard: Standard: 28-DEC-2001:
BSC_CEO: Balanced Scorecard: Balanced Scorecard: Standard: 29-SEP-2001:

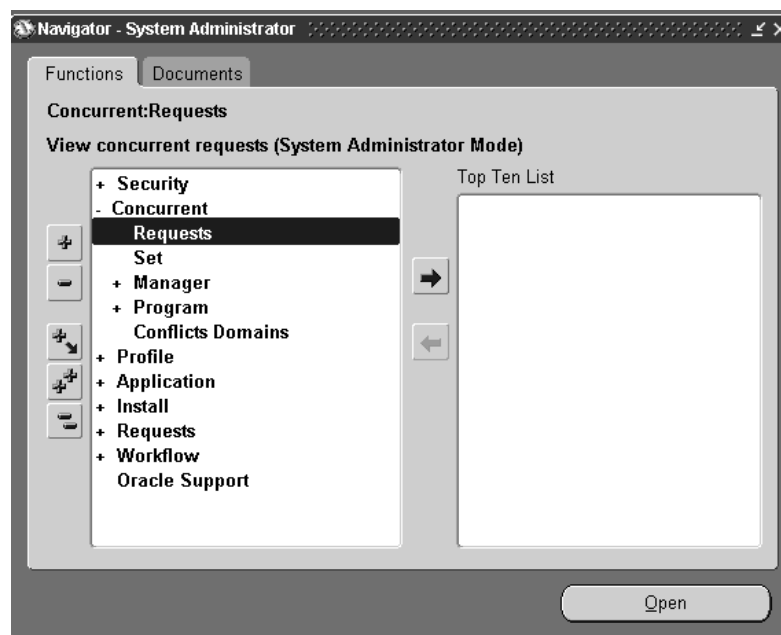
- 作成した職責ごとにセキュリティ・アクセスを定義します。ユーザーと職責の定義を完了した後、「パフォーマンス管理セキュリティ管理者」職責でバランス・スコアカードのセキュリティ・モジュールにアクセスし、職責ごとにスコアカードと指標へのアクセス権を付与します。詳細は、[第7章「セキュリティ管理者」](#)を参照してください。

これで、各ユーザーはパスワードを入力して BSC ビューワにログインし、各自の職責に従って定義されたタブと KPI を表示できます。

コンカレント要求の予定作成

BSC 表をロードするには、Oracle Applications 環境を使用し、ロード予定をコンカレント要求として作成できます。Oracle Applications にシステム管理者権限でログインして「管理者」職責を選択した後、次の図のようにナビゲータを通じて「コンカレント要求」画面にアクセスします。

図 B-1 Oracle Applications のナビゲータ



この機能を使用すると、新規要求の予定を作成したり、ステータス・ログをチェックして表のロードが正常に完了したかどうかを確認できます。また、次の図に示すように、要求の優先順位を設定したり要求の出力を表示できます。

図 B-2 Oracle Applications、「要求」ウィンドウ

Requests						
Refresh Data		Find Requests		Submit a New Request...		
Request ID	Name	Parent	Phase	Status	Requestor	Priority
564	Submit Request to Load		Running	@@Normal	SYSADMIN	50
563	Submit Request to Load		Completed	Normal	SYSADMIN	50
562	Submit Request to Load		Completed	Normal	SYSADMIN	50
561	Verify Concurrent Manag		Completed	Cancelled	SYSADMIN	0
560	Terminate Concurrent M:		Completed	Normal	SYSADMIN	0
559	Activate Concurrent Man		Completed	Normal	SYSADMIN	0
558	Activate Concurrent Man		Completed	Normal	SYSADMIN	0
557	Terminate Concurrent M:		Completed	Normal	SYSADMIN	0
556	Restart Concurrent Mana		Completed	Normal	SYSADMIN	0
555	Submit Request to Load		Completed	Normal	SYSADMIN	50
Hold Request		View Details...		View Output		
Cancel Request		Diagnostics		View Log...		

BSC アプリケーションの実行時に、要求 ID が割り当てられます。ユーザーは、この ID を「要求」ウィンドウで確認できます。

マルチ・ユーザー機能

戦略を実装してバランス・スコアカード・システムを設計するには、組織から複数のチームとユーザーが参加する必要があります。このシステムが組織でどの程度の成功を収めるかは、設計プロセスの開始時からスコアカードの定量化と実装に関与するユーザーのレベルに左右されます。バランス・スコアカード・ツールを使用すると、複数のユーザーやチームのスコアカード設計プロセスへの積極的な参加が促進されます。

設計プロセスを開始する前に、スコアカードの将来設計と戦略が組織の全レベルで共有されていることを確認する必要があります。これにより、統合後の作業とイニシアチブが調整され、複数のビジネス単位がシステム設計に参加できます。バランス・スコアカード・システムの設計時にはチーム間の調整とアカウントビリティがクリティカルな要素であり、この目標はマルチ・ユーザー機能を使用して達成できます。

複数のチームやユーザーが、バランス・スコアカードのアーキテクト、マネージャ、設定およびビューワ・ツールを使用して同時に設計作業に参加できます。これらのツールを使用すると、複数の異なる組織レベルまたはグループ用のスコアカードの作成と実装が容易になります。

マルチ・ユーザー機能が特に役立つのは、バランス・スコアカード・システムが本番モードに移行する前の設計フェーズ中です。ただし、システムがエンド・ユーザーに配布された後も、バランス・スコアカード実装のすべてのステージで同時に複数のユーザーが作業できます。

マルチ・ユーザー環境での作業

バランス・スコアカード・システムの将来設計と戦略が明確になった後、同時に複数のユーザーがシステムの複数のスコアカード、重要な設計指標およびその他の指標の詳細を設計できます。

アーキテクトでの変更はビューと同期化されるため、設計中またはバランス・スコアカード・システムが配置された後に、同時に複数のユーザーがアーキテクトおよびビュー・ツールで作業できます。

バランス・スコアカードのマルチ・ユーザー機能は、データの整合性と一貫性を維持し、システムで同時に変更が発生した場合や複数のユーザーが同じ情報にアクセスしようとした場合に、ユーザー間で競合が発生しないように設計されています。

複数のユーザーやチームが同じ環境で作業できるため、マルチ・ユーザー機能ではユーザーによるシステム・レベルでの変更が制限されないことに注意する必要があります。これは、他のユーザー構成に影響する可能性のあるシステム・レベルの変更を適用する際には、ユーザー全員が注意する必要があることを意味します。

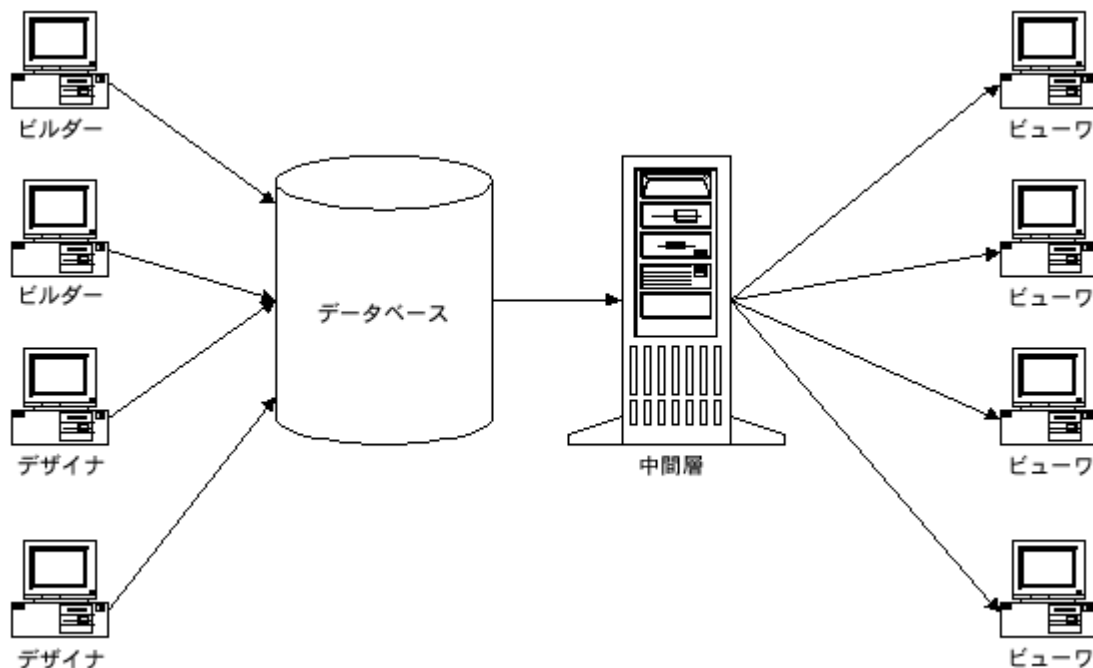
注意： マルチ・ユーザー機能は、データ整合性の保証、モジュール間で行われた変更の同期化、他のユーザーに対する適用済変更の通知を受け持ちますが、セキュリティは処理せず、複数のユーザーによる変更を防止しません。このため、実際の設計ステージに進む前に、設計アプローチのアウトラインを作成し、設計ルールについて同意することがきわめて重要です。

アーキテクトにおける複数ユーザーとの作業

図 C-1 のように、同時に複数のユーザーがアーキテクトまたはマネージャ・ツールで作業してシステムに変更を適用すると、その変更はデータベースからビューで作業中のユーザーに伝播します。

マルチ・ユーザー・アーキテクトは、アーキテクトおよびマネージャ・モジュールのユーザーとビューのユーザーに変更を伝達するための同期化論理を処理します。ユーザーの観点からは、システムに変更が適用されると、その変更を通知するアラート・メッセージを受け取ります。

図 C-1 マルチ・ユーザー・アーキテクト



複数ユーザー間の変更の同期化

バランス・スコアカード・ツールには、同時ユーザーが同じモジュールまたは別のモジュールで作業する間の整合性を維持できるように複数のメカニズムが用意されています。これらのメカニズムは、複数のユーザーが同じコンポーネントに変更を適用しようとした場合の、データ整合性の維持とユーザー間の競合回避を受け持ちます。この項では、これらのメカニズムについて説明します。

複数のユーザーがアーキテクトまたはマネージャで作業する際のロック・メカニズム

ロック・メカニズムは、複数のユーザーが特定の変更を同じオブジェクトまたはエンティティに同時に適用しようとした場合に、データの整合性と一貫性を保証します。ロックにより、異なるシステム・レベルへのアクセス権を持つユーザーが制御されます。たとえば、ユーザーがコンポーネントにアクセスすると、システムは以降の他のユーザーをロックするため、最初のユーザーが変更をコミットする間、他のユーザーはそのコンポーネントにアクセスできません。あるユーザーがアクセスを試みたコンポーネントをすでに別のユーザーがロックしている場合、新規ユーザーには問題のコンポーネントがすでに他のユーザーによりロックされていることを示すメッセージが送信されます。

バランス・スコアカードでは、ユーザーが「適用」または「終了」ボタンをクリックするたびに、指定のトランザクション（作成、削除または更新）に対してオブジェクトまたはオブジェクト・セットがロックされます。変更の適用後はロックが解除されます。

バランス・スコアカードでは、変更が適用される前に、そのオブジェクトが有効かどうかを検証されます。オブジェクトが無効な場合、ユーザーはオブジェクトをリフレッシュして変更を再適用する必要があります。これは、システムからオブジェクトを削除する場合に特に有効です。

変更をビューワに移入する際の同期化メカニズム

アーキテクト、マネージャまたはパフォーマンス管理デザイナー・モジュールで変更が適用されてコミットされるたびに、その変更がビューワに伝播します。ビューワで作業中のユーザーには、システムに変更が適用されたことを示すメッセージが送信されます。

変更を指標に適用する際のパブリッシュ・メカニズム

バランス・スコアカード・システムがエンド・ユーザーに配置された後に重要な経営指標を変更する場合は、その指標のステータスを本番モードからプロトタイプ・モードに変更できます。

重要な経営指標はすでにエンド・ユーザーのパフォーマンス測定に使用されているため、指標に変更を適用する場合は注意する必要があります。指標の変更には時間もかかることに注意してください。通常は、メタデータ・オブティマイザにより新規の表が再生成され、ほとんどの場合は新規データが必要になります。

バランス・スコアカードのパブリッシュ・メカニズムにより、設計者は重要な経営指標の変更中は、その指標をビューワで使用不可にすることができます。設計者は指標に変更を適用した後、その指標をパブリッシュしてエンド・ユーザーに使用可能にする必要があります。

設計者が指標を使用不可にすると、ビューワのエンド・ユーザーには指標がまだパブリッシュされていないことを示すメッセージが送信されます。設計者が指標をパブリッシュすると、エンド・ユーザーは再びビューワで指標にアクセスできます。

マルチ・ユーザーへの変更内容の通信

システムに変更が適用されると、すべての同時ユーザーに、システム、スコアカードまたは指標が変更されたことを示すメッセージが送信されます。

このメッセージは、ユーザーがシステムに対するその他の変更をリフレッシュ、保存または適用しようとする则表示されます。メッセージは、適用される変更のタイプと使用中のコンポーネントに応じて異なります。

最も一般的なメッセージとその状況については後述します。

様々なレベルにおけるアプリケーションのロック

複数のユーザーが、バランス・スコアカード設計ツールとビューワの様々なレベルで同時に作業できます。ただし、アクセスできるユーザーが1人のみというモジュールがあります。たとえば、あるユーザーがメタデータ・オブティマイザを使用している場合、他のユーザー全員がそのモジュールから締め出されます。

次の表に、複数のユーザーによるモジュールへのアクセスを制御するルールを示します。

表 C-1 複数ユーザーのアクセス・ルール

インスタンス	ビルダー	デザイナー	メジャー・デザイナー	ディメンション・デザイナー	KPI デザイナ	メタデータ・オブティマイザ	ローダー	セキュリティ	ビューワ
ビルダー	可	可	可	可	可	ロック	ロック	可	可
デザイナー	可	可	可	可	可	ロック	ロック	可	可
メジャー・デザイナー	可	可	可	可	可	ロック	ロック	可	可
ディメンション・デザイナー	可	可	可	可	可	ロック	ロック	可	可
KPI デザイナ	可	可	可	可	可	ロック	ロック	可	可
メタデータ・オブティマイザ	ロック	ロック	ロック	ロック	ロック	ロック	ロック	ロック	ロック
ローダー	ロック	ロック	ロック	ロック	ロック	ロック	ロック	ロック	可
セキュリティ	可	可	可	可	可	ロック	ロック	可	可
ビューワ	可	可	可	可	可	ロック	可	可	可

BSC 設定に関する注意： 通常、設定ツールはシステム名の登録やデータベースの移行のようなシステム管理に使用されるため、マルチ・ユーザーの論理は適用されません。設定ツールはシステム管理権限を持つユーザーのみが使用し、可能な移行中にはユーザー全員がそのことを認知してシステムから出る必要があります。移行中は、ユーザーによるシステムの使用を禁止してください。

システム、スコアカードおよび KPI レベルのマルチ・ユーザー論理

ユーザーは、主に次の3つのレベルでバランス・スコアカード・システムを操作し、変更を適用し、ロックできます。

- システム・レベル
- タブ・レベル
- 重要な経営指標レベル

この項では、各レベルの全般的な論理について説明します。

システム・レベル

システム・レベルでの変更は、システム全体に影響するグローバル変更です。たとえば、スコアカードの定義、グローバル・エンティティ（ディメンション、メジャー、ベンチマークまたは会計年度など）の構成、およびシステムのステータスに影響する他のすべての変更が含まれます。

ユーザーがシステム・レベルで変更を行うと、他のユーザーにはシステムに変更があったことが通知されます。

スコアカード・レベル

スコアカード・レベルでの変更は、同じモジュールまたは異なるモジュールの同一スコアカードに影響する変更です。複数のユーザーが同じスコアカードに対して同時に変更を適用することはできません。

ユーザーが特定のスコアカードに対する変更の適用を開始すると、そのユーザーが変更を適用して保存するまで、第2のユーザーは一時的にロックされます。変更が適用されて保存された後、第1のユーザーはスコアカードをリリースし、第2のユーザーは他の変更作業を継続できます。

注意： 第1のユーザーが変更を保存する間は、ロックが数秒間のみ適用されたままになっています。マルチ・ユーザー環境では、他のユーザーが作業を継続できるように、ユーザー全員ができるだけ即時に各自の変更を保存する必要があります。たとえば、ユーザーが作業を開始し、ウィンドウを閉じるのを1時間忘れていると、そのウィンドウは1時間ロックされたままになり、スコアカードやシステムもロックされる場合があります。この種のロックは他のユーザー全員に影響します。

スコアカード・レベルでの変更は、ユーザーが適用済の変更を保存またはコミットした直後に反映されます。変更が保存されると、同じスコアカードで作業中の他のユーザーに、スコアカードに変更があったことを示すメッセージが送信され、スコアカードがリフレッシュされ、他のユーザーはスコアカードで作業を継続できます。

スコアカード・レベルでの変更の場合、一般的な例は指標の追加、スコアカードの編集、レイアウトの変更、グループの追加、スコアカードの指標の割当てまたは割当て解除などがあります。変更をスコアカードに適用して保存できるのは、そのスコアカードのロックを制御する第1ユーザーのみです。

スコアカード・レベルでの変更に予想される動作については、「マルチ・ユーザー環境におけるモジュール別のグローバル動作」を参照してください。

注意： マルチ・ユーザー機能は、システムをロックすることでデータ整合性を保証して競合を回避します。このため、スコアカードに変更を同時に適用することはできませんが、ユーザーがスコアカードに変更を適用する操作は制限されません。これは、他のユーザーにより不要な変更が適用されないように、システム設計を開始する前に、スコアカード・オーナーを定義するなどの事前調整作業が必要になることを意味します。

重要な経営指標レベル

重要な経営指標レベルでの変更は1度に1人のユーザーに限定されるため、データの不整合や指標定義の競合などの問題が回避されます。同じ指標に複数のユーザーが同時にアクセスすることはできません。

ユーザーが指標を変更するときには、そのユーザーが変更をコミットして指標を完全に終了するまで、他のユーザー全員に対してその指標がロックされます。

指標には、システム全体に影響するグローバルなディメンション定義があります。ユーザーが変更を適用するときにはコンポーネントがロックされ、コンポーネントがリリースされるまで、他のユーザーが同時に変更を適用することはできません。この項では、この種の定義の論理について個別に説明します。

ディメンション定義

ディメンションはシステムに対してグローバルな定義のため、ディメンション定義または既存のディメンション定義に適用される変更は、複数の指標に影響する可能性があります。

ディメンションに変更が適用されると、そのディメンションを使用する指標で作業中の他のユーザーには、指標に変更があったことを示すメッセージが送信されます。

ディメンションの変更は、システムやスコアカードのステータスにも影響する場合があります。たとえば、スコアカードに「リスト」ボタンがある場合に、ユーザーがボタンの定義に影響するディメンションを変更すると、そのスコアカードで作業中の他のユーザーには、スコアカードに変更があったことを示すメッセージが送信されます。

表 C-2 ディメンション定義のマルチ・ユーザー・ロック

トランザクション	タイムスタンプ	ロック
ディメンション・オブジェクト		
ディメンション・オブジェクトの作成	タイムスタンプのチェックなし	ロックなし。
ディメンション・オブジェクトの更新		
一般プロパティ データ・ソース プロパティの表示	チェック対象:ディメンション・オブジェクトのタイムスタンプ 影響先:ディメンション・オブジェクト、KPI のディメンション・セットおよび KPI のタイムスタンプ	ディメンション・オブジェクトがロックされます。 ディメンション・オブジェクトが使用されている KPI ディメンション・セットがロックされます。これは、ユーザーが KPI ディメンション・セット・レベルでも格納されているプロパティ（ソース表、キー列名など）を更新する場合のみです。
ディメンション・オブジェクトの削除	チェック対象:ディメンション・オブジェクトのタイムスタンプ	ディメンション・オブジェクトがロックされます。
ディメンション		
ディメンションの作成	タイムスタンプのチェックなし	ディメンション用に選択したディメンション・オブジェクトがロックされます。
ディメンションの更新	チェック対象:ディメンションのタイムスタンプ	ディメンションがロックされます。
	影響先:ディメンション、KPI のディメンション・セットおよび KPI のタイムスタンプ	ディメンション用に選択したディメンションがロックされます。 ディメンションが使用されている KPI ディメンション・セットがロックされます。これは、ディメンション名の更新時には不要ですが、ディメンションとの間でディメンションを追加または削除する場合や、ディメンション内のディメンションの順序を変更する場合には必須です。
ディメンションの削除	チェック対象:ディメンションのタイムスタンプ	ディメンションがロックされます。

表 C-2 ディメンション定義のマルチ・ユーザー・ロック（続き）

トランザクション	タイムスタンプ	ロック
グループ内のディメンションの更新	チェック対象:ディメンションのタイムスタンプ 影響先:ディメンション、KPI のディメンション・セットおよび KPI のタイムスタンプ	ディメンションがロックされます。 ディメンションが使用されている KPI ディメンション・セットがロックされます。すべてのプロパティが KPI ディメンション・セット・レベルでも格納されます。
ディメンションからのディメンションの削除	チェック対象:ディメンションのタイムスタンプ 影響先:ディメンション、KPI のディメンション・セットおよび KPI のタイムスタンプ	ディメンションがロックされます。 ディメンションが使用されている KPI ディメンション・セットがロックされます。これは、KPI ディメンション・セット・レベルで反映させる必要があります。
ディメンション関連		
ディメンション関連の更新 詳細の編集	チェック対象:ディメンションのタイムスタンプ 影響先:ディメンション・オブジェクト、親ディメンション、子ディメンション、KPI のディメンション・セット、KPI のタイムスタンプ	ディメンション・オブジェクトがロックされます。 選択した関連に含まれるディメンション・オブジェクトがロックされます。 削除された関連のディメンション・オブジェクトがロックされます。 影響を受ける KPI のディメンション・セットがロックされます。 関連が削除されると、その関連が使用されていた KPI に影響します。 関連が作成されると、その関連で両方のディメンションを使用中の KPI に影響します。

メジャー定義

メジャーも、システムに対してグローバルな定義です。別の指標で使用されているメジャーは削除できませんが、カラー・メソッド、書式、フォーミュラなど、他の指標とスコアカードのデフォルトに影響する可能性のある重要なメジャー・プロパティは変更できます。

指標のカラー・メソッドなどのメジャー・プロパティを変更すると、スコアカードのステータスに影響する可能性があります。変更がスコアカードに影響する場合は、スコアカードに変更があったことを示すメッセージがユーザーに送信されます。

BSC でのメジャーは、最大 2 つのデータ・ソースを持つことができます。1 つのデータ・ソースは、データ列と 1 対 1 の関連を持ちます。

表 C-3 メジャー定義のマルチ・ユーザー・ロック

トランザクション	タイムスタンプ	ロック
メジャーの作成	タイムスタンプのチェックなし。 影響先: 選択したデータ・ソース および同じデータ・ソースを使用 する他のメジャーのタイムスタ ンプ。そのメジャーを使用する KPI も影響を受けます。	既存のメジャーが選択された場 合は、そのメジャーがロックさ れます。
メジャーの更新 (メジャー) ■ 一般プロパティ ■ データ・ソース ■ 拡張プロパティ ■ フォーミュラ	チェック対象: メジャーのタイム スタンプ。 影響先: メジャー、選択したデー タ・ソースおよび同じデータ・ ソースを使用する他のメジャーの タイムスタンプ。そのメジャーを 使用する KPI も影響を受けます。	メジャーがロックされます。選択 したデータ・ソースがロックさ れます。
メジャーの削除	チェック対象: メジャーのタイム スタンプ。使用中のメジャーは削 除できません。	メジャーがロックされます。

KPI デザイン

ユーザーが指標のメジャー定義を変更すると、ウィンドウがロックされ、他のユーザーはそのメジャーには同時に変更を適用できなくなります。最初のユーザーがメジャーの変更を完了してメジャー定義ページを閉じると、そのメジャーがリリースされてリフレッシュされ、他のユーザーが変更可能になります。

ベンチマーク定義

ベンチマークは、システムに対してグローバルな定義です。ユーザーがベンチマーク定義を作成、削除または変更すると、システム・レベルで変更が発生し、全スコアカードの全指標のベンチマークのグローバル・リストに影響します。

不整合を回避するために、最初のユーザーがベンチマーク定義を開くと、そのベンチマーク定義はロックされ、他のユーザーはベンチマークに変更を適用できません。第2のユーザーがベンチマーク定義にアクセスできるのは、最初のユーザーが変更をコミットしてウィンドウを閉じた後のみです。

原因と結果の定義

原因と結果の定義は、システムに対してグローバルな定義です。ユーザーが原因と結果の関連を変更すると、その変更は特定のスコアカードに定義されている全指標に影響します。

最初のユーザーが原因と結果の定義にアクセスすると、ウィンドウがシステム・レベルでロックされ、そのユーザーがウィンドウをリリースするまで、他のユーザーは同時に変更を適用できません。

警告カラー定義

異なる指標に使用されていれば、同時に複数のユーザーがカラー・トリガー定義ウィンドウにアクセスできます。ただし、このウィンドウでユーザーが警告カラーをカスタマイズできるセクションは、1度に1人のユーザーに限定されています。

警告カラーはシステム内の全指標のステータスを表すため、警告カラーのカスタマイズはグローバル定義です。したがって、最初のユーザーが警告カラー定義にアクセスすると、ウィンドウがロックされ、そのユーザーが変更をコミットしてウィンドウを終了するまで、他のユーザーは警告カラーを変更できません。

ユーザーが警告カラーを変更すると、その警告カラーはリフレッシュされ、他のユーザーは次回にシステムにログインするかウィンドウをリフレッシュすると、スコアカードに変更があったことを示すメッセージを受け取ります。

グローバル・ボタン定義

「メッセージ機能」や「カスタム・ヘルプ」など、一部のボタンにはシステム・ステータスに影響するグローバル・プロパティがあります。ユーザーがグローバル・プロパティを持つボタンのプロパティで作業中は、プロパティが保存されるまでボタン・ウィンドウがロックされ、他のユーザーは定義に変更を適用できません。

会計年度定義

会計年度定義は、グローバル定義です。複数のユーザーが同時に会計年度定義を入力または変更することはできません。他のグローバル定義と同様に、最初のユーザーが定義にアクセスするとウィンドウがロックされます。変更が適用されて最初のユーザーがウィンドウを終了するまで、他のユーザーはこのプロパティを変更できません。

マルチ・ユーザー環境におけるモジュール別のグローバル動作

システム・レベルのトランザクション

スコアカードの追加や削除、指標の作成、グループの作成、ディメンションの定義など、多数のトランザクションがシステム全体に影響します。通常、2人のユーザーがシステム・レベルの変更を同時に適用することはできません。たとえば、あるユーザーがスコアカードを追加すると同時に別のユーザーがスコアカードを削除することはできません。

通常は、複数のユーザーがシステム・レベルの変更を同時に行うことはありません。ただし、この制限に注意する必要があります。

次の項では、最も重要なトランザクションの概要を示し、同時ユーザーがこの種のトランザクションで作業する際に動作がどのように変化するかについて説明します。各表には、典型的な状況と、それぞれの状況がユーザーに及ぼす影響を示します。

モジュール別トランザクション

この項では、BSC ビルダー、KPI デザイナ、メジャー・デザイナー、ディメンション・デザイナー、メタデータ・オブティマイザ、ビューワおよび BSC マネージャの各モジュールで使用可能な各トランザクションに予想される動作について説明します。

BSC ビルダー

BSC ビルダーのユーザーは、KPI デザイナ、パフォーマンス管理デザイナー、ビューワおよび管理者の他のユーザーと同時に作業できます。また、BSC ビルダーの他の同時ユーザーとも同時に作業できます。

BSC ビルダーには2つのレベルがあり、各レベルは BSC ビルダーの2つのメイン・ウィンドウの1つに表示されます。第1のウィンドウは、指標の作成、指標名の定義および指標グループの定義など、システム・レベルの変更を行うために使用します。第2のウィンドウは、システム・レベルの変更とスコアカード・レベルの変更に使用します。たとえば、スコアカードの作成、削除、移動（システム・レベルの変更）、スコアカードとフィルタに対する指標の割当て、「リスト」ボタンの定義（スコアカード・レベルの変更）などです。

マルチ・ユーザー環境では、次の表（表 C-4）に示すトランザクションにより、最初のユーザーが BSC ビルダーで変更を完了して保存するまで一時ロックが作成されます。つまり、第2のユーザーは、他のユーザーによる変更と同時に変更を適用しようとするで一時的にロックされます。ほとんどの場合、この種のロックの期間は数秒間で、同時ユーザーが同じ機能で同時に作業しようとした場合にのみ発生します。

表 C-4 マルチ・ユーザー環境のトランザクション

ビルダーでのユーザー・アクション	変更適用中の動作 *
グループの追加 グループ・プロパティの編集	■ 同じ「ビルダー」ウィンドウで変更の適用を試みる他のユーザーが一時的にロックされます。たとえば、そのユーザーが指標の追加、削除または機能の編集を同時に試みる場合です。 ■ システム・レベルでリフレッシュされます。
グループの削除	■ グループの削除中はスコアカードが一時的にロックされます。 ■ システム・レベルでリフレッシュされます。
指標の追加	■ 同時に指標の追加を試みるユーザーが一時的に（数秒間）ロックされます。 ■ 指標の削除や機能の編集など、同じ「ビルダー」ウィンドウで発生する他の機能が一時的にロックされます。 ■ システム・レベルでリフレッシュされます。
指標の削除 指標の移動	■ 同じ「ビルダー」ウィンドウで変更の適用を試みる他のユーザーが一時的にロックされます。 ■ すべてのウィンドウで KPI へのアクセスまたは割当てを試みる他のユーザーがロックされます。 ■ 指標を使用中のスコアカードの変更を試みる他のユーザーがロックされます。 ■ システム・レベルでリフレッシュされます。
指標のコピー（同一システムまたはソース・システムから）	■ ソース・システムとターゲット・システム内の指標がロックされます。 ■ ソース・システムとターゲット・システム内のディメンションとメジャーがロックされます。 ■ 同じ「ビルダー」ウィンドウで作業中の他のユーザーがロックされます。 ■ システム・レベルでリフレッシュされます。
指標の編集	■ 他のユーザーに対して同じ指標の編集がロックされます。
システム、グループまたは指標の編集	■ 同じ「ビルダー」ウィンドウで変更の適用を試みる他のユーザーが一時的にロックされます。
スコアカードの追加	■ スコアカードの追加、削除または移動を同時に試みる他のユーザーがロックされます。 ■ システム・レベルとスコアカード・レベルでリフレッシュされます。
スコアカードの削除	■ スコアカードの追加、削除または移動を同時に試みる他のユーザーがロックされます。 ■ システム・レベルとスコアカード・レベルでリフレッシュされます。 ■ スコアカードで「リスト」ボタンが定義されている場合は、ディメンションもロックされる場合があります。
スコアカードの移動	■ スコアカードの追加、削除または移動を同時に試みる他のユーザーがロックされます。 ■ 移動中のスコアカードの隣にあるスコアカードがロックされます。 ■ ディメンション・フィルタも移動するため、スコアカードで使用されているディメンションも一時的にロックされる場合があります。 ■ システム・レベルとスコアカード・レベルでリフレッシュされます。
スコアカードの編集	■ 同じスコアカードの編集を同時に試みる他のユーザーがロックされます。 ■ システム・レベルとスコアカード・レベルでリフレッシュされます。
スコアカードに対するグループの割当てまたは割当解除	■ 指標の割当中はスコアカードが一時的にロックされます。 ■ スコアカードがリフレッシュされます。
「リスト」ボタンの定義または変更	■ 変更の保存中は、スコアカードが変更に対してロックされます。 ■ スコアカードがリフレッシュされます。
フィルタの定義	■ 最初のユーザーがフィルタのウィンドウをリリースするまでスコアカードがロックされます。 ■ スコアカードがリフレッシュされます。

KPI デザイナ

KPI デザイナのユーザーは、KPI デザイナの他の同時ユーザーのみでなく、ビルダー、ビューワおよび管理者のユーザーと同時に作業できます。

BSC ビルダーの場合と同様に、ユーザーは KPI デザイナでもディメンション、ベンチマークおよび会計年度定義の変更など、システム・レベルの複数の変更を行うことができます。システム・レベルの変更の場合、同時ユーザーが同時に同じ機能を使用したり同じタイプの変更を保存することはできません。

ユーザーは、KPI デザイナで他のタイプの変更を行うこともできます。たとえば、活動期間や計算の定義の変更など、特定の指標にのみ影響する変更を行うことができます。このような変更の場合は、指標レベルでロックが発生します。したがって、同じ指標に複数のユーザーが同時にアクセスすることはできませんが、異なるユーザーが異なる指標を同時に変更することはできます。

次の表（表 C-5）に、KPI デザイナで実行されるアクションについて、主なトランザクションと予想される動作の要約を示します。

表 C-5 主なトランザクションと予想される動作：KPI デザイナ

KPI デザイナでのユーザー・アクション	変更適用中の動作
スコアカード・ビューの変更 スコアカード・ビューの有効化 / 無効化 線の追加および削除 グループ位置の変更	■ 最初のユーザーが変更を保存してスコアカードをリフレッシュするまで、スコアカードは他のユーザーに対してロックされます。
戦略マップ・ビューの変更 戦略マップの有効化 / 無効化 KPI の追加 KPI の削除 KPI プロパティの変更 線の追加および削除 区分線の追加および削除 区分ラベルの追加および削除 ズーム・アウトおよびズーム・イン フォント・サイズの拡大および縮小	■ 最初のユーザーが変更を保存してスコアカードをリフレッシュするまで、スコアカードは他のユーザーに対してロックされます。
ディメンションの定義またはディメンション・プロパティの変更	■ 「ディメンション」ウィンドウが他のユーザーに対してロックされ、影響を受ける指標がリフレッシュされます。
「リスト」ボタンまたはフィルタに影響するディメンションの変更	■ 「ディメンション」ウィンドウがロックされ、影響を受けるスコアカードと指標がリフレッシュされます。
メジャーの追加または変更	■ データベースの変更を試みる他のユーザーがロックされ、指標がリフレッシュされます。
分析グループの追加 分析グループの編集 分析グループの削除 分析オプションの追加 分析オプションの削除 分析プロパティの編集 活動期間の定義 活動期間プロパティの変更 計算の定義 計算のデフォルトの変更 すべてのプロパティとフォーミュラを使用するシミュレーション・ツリーの定義	■ これらの定義は指標により発生し、複数のユーザーが同じ指標を同時に入力することはできないため、ユーザーは異なる指標の分析、活動期間および計算を同時に定義できます。

表 C-5 主なトランザクションと予想される動作 : KPI デザイナ (続き)

KPI デザイナでのユーザー・アクション	変更適用中の動作
ベンチマークの定義または変更	ベンチマーク定義が他のユーザーに対してロックされ、システム変更がリフレッシュされます。
原因と結果の定義	原因と結果の定義がロックされ、指標とシステムがリフレッシュされます。
警告カラーのカスタマイズなしのカラー・トリガーの定義	指標がロックされます。
警告カラーのカスタマイズによるカラー・トリガーの定義	ウィンドウが他のユーザーに対してロックされ、スコアカードとシステムがリフレッシュされます。
グローバル・ユーザー・ボタンの定義 メッセージ機能 カスタム・ヘルプ	プロパティ定義ウィンドウがロックされます。
ユーザー・ボタンの定義 - Excel にエクスポート - リンク・オプション - 見積 - ユーザー・ウィザード	指標がロックされます。
会計年度の定義	会計年度定義の変更を試みる他のユーザーがロックされ、システム・レベルでリフレッシュされます。
キー項目の定義	他の指標のキー項目の定義を試みる他のユーザーがロックされ、ディメンション定義がロックされます。このアクションにより、指標とスコアカードがリフレッシュされます。

* 最初のユーザーが実行するアクションが完了する間に、別のユーザーが同時に同じウィンドウへのアクセスを試みる場合にのみ、ロックが数秒間だけ発生します。ほとんどの場合、ユーザーはこのロックに気づきません。

ユーザー・メッセージ

通常は、システムに対して変更を行うと、そのシステム、スコアカードまたは KPI が変更された時点で作業中の他のユーザー全員にメッセージが送信されます。システム・レベルまたはスコアカード・レベルの変更の場合、通常はユーザーがスコアカードをリフレッシュするか指標を終了するときに、このメッセージが表示されます。指標レベルの変更の場合は、ユーザーが KPI で作業中に表示されます。

本番モードの指標に関する KPI デザイナでの特別な考慮事項

指標が本番モードのときに、ユーザーがその指標に構造変更を適用すると、指標はプロトタイプ・モードに戻ります。このステータス変更は、ビューで作業中のユーザーのためにスムーズに行われる必要があります。したがって、KPI デザイナでは、ユーザーは変更の適用中に指標をパブリッシュするか使用不可にできます。

すでに本番モードになっている指標の変更を試みると、KPI デザイナでは指標をビューのユーザー用にパブリッシュするかどうかの確認が要求されます。変更済指標をパブリッシュすると、ビューのユーザーがその指標を使用できるようになります。ただし、指標をパブリッシュしなければ、ビューのユーザーには変更のため KPI がパブリッシュされなかったことを示すメッセージが送信されます。

メタデータ・オブティマイザ

メタデータ・オブティマイザ・モジュールは、KPI デザイナや BSC ビルダーのような他のモジュールに適用される構成に応じて、シングル・ユーザー・モードで動作します。メタデータ・オブティマイザは、ローダーやセキュリティなどの他のモジュールに影響します。このため、メタデータ・オブティマイザにデータを入力できるユーザーは 1 度に 1 人のみです。メタデータ・オブティマイザの実行中は、他のアプリケーションがすべてロックされます。同様に、他のモジュールがオープンされている間は、だれもメタデータ・オブティマイザを使用できません。

メタデータ・オブティマイザの使用中またはデータの移行中にセッションがロックされると、「システムはビューワ・セッションによってロックされています」というメッセージを受け取ります。このエラーが発生するのは、これらのプロセスの実行中にオープンできるセッションは1つのみであるため、これによりデータ整合性が保証されます。

次の拡張機能により、これらのプロセスの実行中に OBSC セッションをより効率的に管理できます。

- 非アクティブ状態が 20 分続いたビューワ・セッションは、システムにより自動的にクローズされます。
- バランス・スコアカード・マネージャは、特定のシステムでのすべての現行セッションを確認してクローズできます。

ユーザーがビューワ・セッションをクローズしてログオフしても、そのセッションは実際にはクローズされません。引き続きアクティブで、他のビューワ・ユーザーにより再利用されます。この動作によりシステムのパフォーマンスが向上します。そのため、バランス・スコアカード・マネージャは、メタデータ・オブティマイザを使用したりデータを移行する前に、セッションをクローズまたは強制終了する必要があります。

バランス・スコアカード・マネージャがセッションを強制終了し、BSC ビューワで作業中のユーザーがメタデータまたは移行プロセスに影響するタスクを実行すると、「セッションは終了しました。ポータルから再ログインしてください。」というメッセージが表示されます。メタデータまたは移行プロセスが完了するまでは、再アクセスできなくなります。

現行セッションと強制終了するセッションの確認

特定のシステムの現行セッションを確認して強制終了する手順は、次のとおりです。

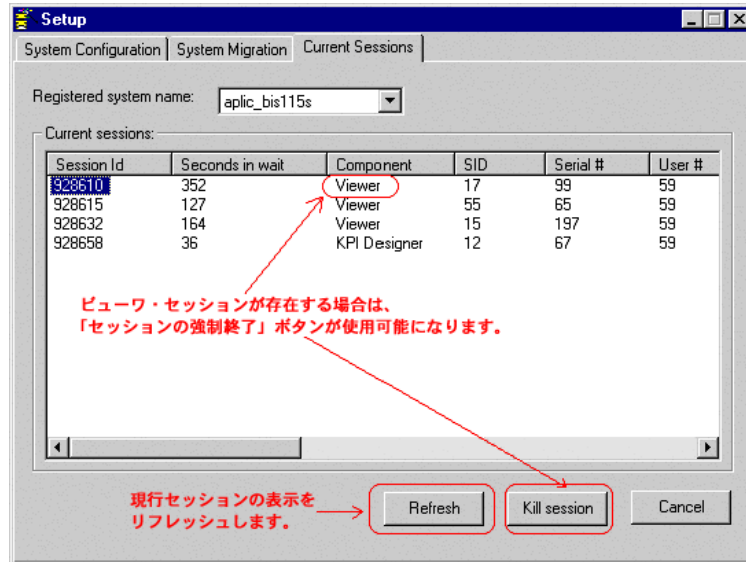
1. OBSC 設定で「現行セッション」タブにナビゲートします。
2. 現行セッションを確認する OBSC システムを選択します。
3. 選択したシステムに有効なユーザー名とパスワードを入力します。入力できるのは「バランス・スコアカード・マネージャ」職責が割り当てられているユーザーのみです。これは、OBSC ビューワ・セッションを強制終了する権限が付与されている唯一の職責です。
4. 選択した OBSC システムにログオンします。

複数の職責が割り当てられているユーザー名を入力する場合、そのユーザーは「バランス・スコアカード・マネージャ」職責を選択する必要があります。

「バランス・スコアカード・マネージャ」職責を選択しない場合、またはその職責が割り当てられていない場合は、このプログラムを実行する権限がないことを警告するエラー・メッセージが表示されます。

接続モードの現行セッションが表示されます。現行セッションは、ビューワ・セッション (HTML) またはデザイナ・セッションです。デザイナ・セッションは、ビルダー、KPI デザイナ、メタデータ、ローダー、移行などのセッションです。ビューワ・セッションは強制終了できることに注意してください。デザイナ・セッションは強制終了できません。

図 C-2 バランス・スコアカード・セッション



5. ビューワ・セッションを強制終了するには、セッションを選択して「セッションの強制終了」ボタンを選択します。「現行セッション」リストがリフレッシュされ、選択したセッションが削除されます。
6. 「リフレッシュ」ボタンを使用して、OBSC システムの「現行セッション」リストをリフレッシュします。このボタンは、システムの検討中に新規セッションが追加された場合に役立ちます。

セッションのクローズ

現行セッションをクローズする手順は、次のとおりです。

1. 「取消」ボタンを選択します。これにより OBSC 設定モジュールがクローズします。
2. 登録済システム名から別のシステムを選択し、そのシステムの現行セッションを確認します。
3. OBSC 設定モジュールの他のタブにナビゲートします。

ローダー

ローダーはビューワと同時に動作できますが、ローダーの実行中は他のモジュールがすべてロックされます。ローダーに変更が適用されるか新規データがロードされる間に、ビューワ・ユーザーはシステム、スコアカードまたは指標に変更があったことを示すメッセージを受け取ります。

通常、ローダーのすべてのトランザクションにより、トランザクションが完了する間にシステム・レベルの一時ロックが生成されます。次の表（表 C-6）に、ローダーで実行されるアクションについて、主なトランザクションと予想される動作の要約を示します。

表 C-6 主なトランザクションと予想される動作：ローダー

ローダーでのユーザー・アクション	変更適用中の動作 *
ディメンション値の更新、追加または変更	■ システム・レベルでリフレッシュされます。
入力表のロード	■ ロードの影響を受けるシステム、スコアカードおよび指標がリフレッシュされます。
年度の変更	■ システム・レベルでリフレッシュされます。

管理者でのセキュリティ

セキュリティ・モジュールは、メタデータ・オブティマイザを除く他のすべてのモジュールと同時に動作できます。次の表（表 C-7）に、セキュリティ・モジュールで実行されるアクションについて、主なトランザクションと予想される動作の要約を示します。

表 C-7 主なトランザクションと予想される動作：セキュリティ・モジュール

セキュリティ・モジュールでの ユーザー・アクション	変更適用中の動作 *
ユーザー情報の更新、追加または変更	■ このアクションにはロックは適用されません。
職責別のスコアカードの割当て	■ 該当なし。
スコアカード別の職責への指標の割当て	■ このアクションに使用されるスコアカードが一時的にロックされます。

ビューワにおける複数ユーザーとの作業

ビューワで作業中の複数のユーザーは、システムを使用してナビゲートする間に、アーキテクトまたはマネージャ・ツールで発生するすべての変更を警告されます。

基本的に、ビューワの動作は、ユーザーが使用中のシステム、スコアカードまたは指標に適用される変更のタイプを示すメッセージを生成することです。

システム、スコアカードおよび指標レベルでの変更は、すべてのビューワ・ユーザーに影響します。

システム・レベルの変更には、スコアカードの作成または削除、ディメンションの変更、指標の追加または削除と、システムのすべての指標の構造に影響する可能性がある他のすべての変更が含まれます。システム・レベルの変更が発生すると、システムに変更があったことと変更のリフレッシュ方法を示すメッセージがユーザーに送信されます。

スコアカード・レベルの変更（スコアカードの追加、新規指標の割当て、フィルタの変更など）が発生すると、スコアカードに変更があったことを示すメッセージがユーザーに送信されます。この場合、ユーザーはスコアカードがリフレッシュされる前にメッセージを受け取る必要があります。

指標レベルの変更（分析、活動期間および計算オプションの変更など）が発生すると、指標に変更があったことと変更がリフレッシュされたことを示すメッセージがユーザーに送信されます。

すでに本番モードになっている指標が変更され（「本番モードの指標に関する KPI デザイナでの特別な考慮事項」を参照）、その変更を行ったユーザーが指標をパブリッシュしないことを決めると、ビューワのユーザーは指標がパブリッシュされておらず使用不可になることを示すメッセージを受け取ります。

バランス・スコアカード・ポートレット

バランス・スコアカード・ポートレットは、PHP および Oracle Portal に使用できます。この付録では、PHP または Oracle Portal で BSC ポートレットを構成するための必須ステップすべてについて説明します。この付録は次のトピックで構成されています。

- D-2 ページ「[Oracle Portal を使用した Oracle Applications の構成](#)」
- D-2 ページ「[BSC ポートレットの構成](#)」
 - D-3 ページ「[PHP でのポートレットのカスタマイズ](#)」
 - D-4 ページ「[Oracle Portal でのポートレットのカスタマイズ](#)」
 - D-6 ページ「[BSC 指標グラフ・ポートレット](#)」
 - D-9 ページ「[「BSC 指標リスト」ポートレットのカスタマイズ](#)」
 - D-10 ページ「[「BSC カスタム・ビュー」ポートレットのカスタマイズ](#)」
- D-11 ページ「[新規および既存の職責への BSC ポートレットの追加](#)」

Oracle Portal を使用した Oracle Applications の構成

ポートレットで作業するには、Oracle Portal を使用して Oracle Applications を構成してから、BSC ポートレットを構成する必要があります。Oracle Portal を使用して Oracle Applications を構成する方法の詳細は、Metalink のノート 146469.1 を参照してください。

このドキュメントは、Oracle Applications リリース 11i のシステム管理者を対象としています。

BSC ポートレットの構成

Oracle Portal を使用して Oracle Applications を構成した後、BSC ポートレットを構成できます。

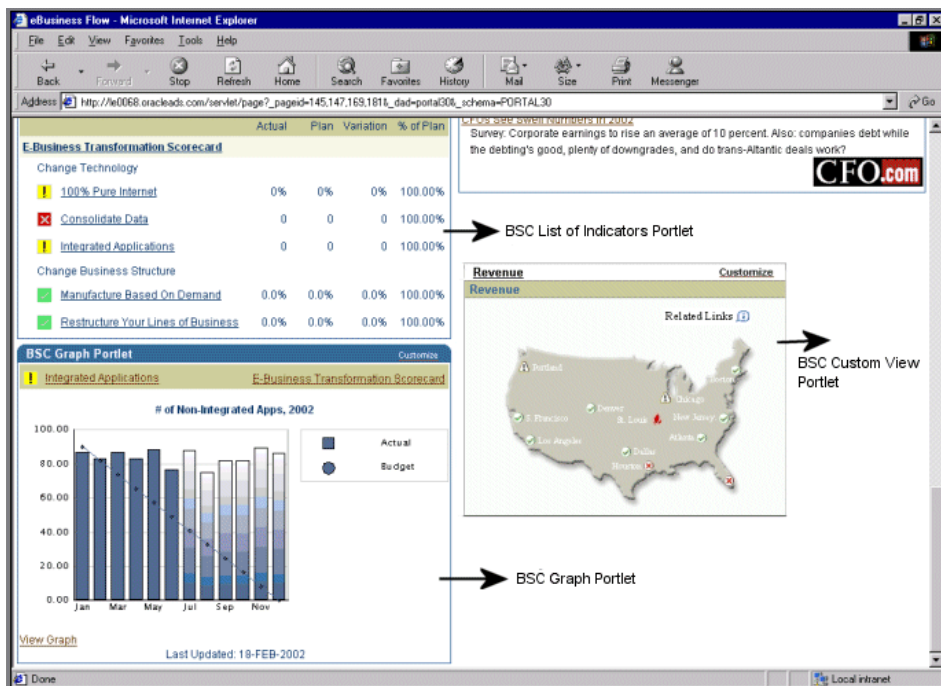
最初に、PHP または Oracle Portal でポートレットをカスタマイズします。

- D-3 ページ「[PHP でのポートレットのカスタマイズ](#)」
- D-4 ページ「[Oracle Portal でのポートレットのカスタマイズ](#)」

次に、使用する特定のポートレットをカスタマイズします。詳細は、次のいずれかのトピックを参照してください。

- D-6 ページ「[BSC 指標グラフ・ポートレット](#)」
- D-9 ページ「[「BSC 指標リスト」ポートレットのカスタマイズ](#)」
- D-10 ページ「[「BSC カスタム・ビュー」ポートレットのカスタマイズ](#)」

図 D-1 バランス・スコアカード・ポートレット



次の項では、前述の各ポートレットと、各ポートレットを個人のホーム・ページ（PHP）から構成する方法について説明します。

PHP でのポートレットのカスタマイズ

初めてポートレットを構成する場合の手順は次のとおりです。

1. 「ポータル・ホーム・ページ」で、新規ページを作成する場合は「ページの作成および変更」ボタンを選択し、既存の個人用ページに新規の指標グラフ・ポートレットを追加するのみの場合は、「ページの内容および表示の変更」ボタンを選択します。
2. カスタマイズ・オプションを使用して、新規ページの作成、既存のページの編集、ページの名称変更や削除、ページの順序変更ができます。初めてページを作成する場合は、「新規」を選択して新規のページ名を入力します。
3. ページの作成後に、「編集」ボタンを選択してポートレットの表示を定義または変更します。4つのアイコンが、それぞれ4つの可能なオプションを表します。
 - 内容の編集
 - 表示の編集
 - 行の追加
 - 列の追加

ポータルおよびポートレットのカスタマイズ方法の詳細は、Oracle Self Service Web Applications のマニュアルを参照してください。

4. これらのオプションにより、ページの書式を設計できます。ポータル・ページに指標グラフを追加するには、「内容の編集」ボタンを選択します。
5. この時点で、さらに列を追加したり、ポータル・ページに組み込むポートレットのタイプの選択を開始できます。使用可能なバランス・スコアカード・ポートレットから、必要な数のポートレットを選択できます。
6. ポートレットの追加を完了した後、「完了」または「OK」ボタンを選択して「ポータル」ページに戻ります。

注意： Oracle Portal または PHP で使用されるボタンの位置や名称には少し違いがありますが、手順は同じです。

7. 初めての場合は、まだポートレットの特定の内容を選択していないため、「ポートレットはカスタマイズされていません」というメッセージが表示される場合があります。これは、選択するポートレットのタイプによっては、特定のポートレットをビューまたは特定の指標でカスタマイズする必要があることを示します。

指標を選択するには、ポートレット・フレームの右側にある「カスタマイズ」リンクをクリックします。

次の図に、指標グラフ・ポートレットについて表示されるカスタマイズ・ページの例を示します。

図 D-2 カスタマイズ・ページ

Desktop: Customize Portlet

Customize List of Indicators Portlet

You can change the view in your Portlet by changing the settings below.

Responsibility

The following Responsibility is used to access scorecards and indicators in the portlet.

Responsibility: Balanced Scorecard Manager

TIP You may change the Responsibility only if no indicators are selected.

Selected Indicators

You can add or remove indicators for the portlet. To add an indicator, please use the Add button. To remove, use the Delete icon next to that indicator.

Add

Scorecard	Indicator	Delete
(No items found.)		

Portlet Settings

You can change settings such as portlet name. To selectively display group names or indicator details, please use the check boxes below.

Portlet Name: BSC List of Indicators Portlet

☐ Display Group Names

☐ Display Indicator Details

Oracle Portal でのポートレットのカスタマイズ

Oracle Portal でポートレットを構成する手順は、次のとおりです。

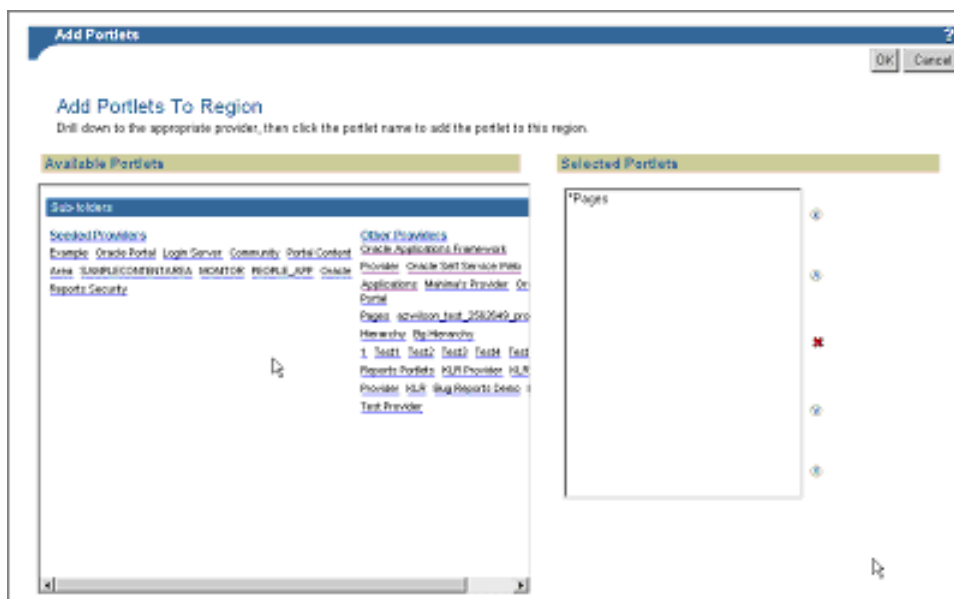
1. 「ポータル・ページ」で「ページのカスタマイズ」をクリックします。

図 D-3 ページのカスタマイズ



2. 「ページのカスタマイズ」で「ポートレットの追加」をクリックします。
「リージョンにポートレットを追加」ページが表示されます。

図 D-4 「リージョンにポートレットを追加」 ページ



3. BSC ポートレットを追加するには、「Oracle Applications Framework」をクリックします。

注意：「Oracle Self Service Web Applications」ではなく「Oracle Applications Framework」を選択してください。Balanced Scorecard リリース 5.0.0 累積パッチの適用後は、Oracle Self Service Web Applications 用のポートレットはサポートされません。詳細は、Metalink の「About Balanced Scorecard Release 5.0.0」を参照してください。

4. ポートレット・リストから、使用可能な BSC ポートレット（「BSC グラフ・ポートレット」、「BSC 指標のリスト・ポートレット」または「BSC カスタム・ビュー・ポートレット」）を選択します。
5. 必要に応じてポートレットをカスタマイズします。

注意：初めてポートレットをカスタマイズする場合は、「ポートレットはカスタマイズされていません」というメッセージが表示される場合があります。これはポートレットに内容がないためです。このメッセージを無視してポートレットのカスタマイズを続行してください。

そのためには「カスタマイズ」をクリックします。次の図に、指標グラフ・ポートレットについて表示されるカスタマイズ・ページの例を示します。

図 D-5 「ポートレットのカスタマイズ」ウィンドウ

BSC 指標グラフ・ポートレット

図 D-6 のように、指標グラフ・ポートレットがポータル・ホームページに表示されるように構成できます。

図 D-6 ポータル・ホーム・ページ

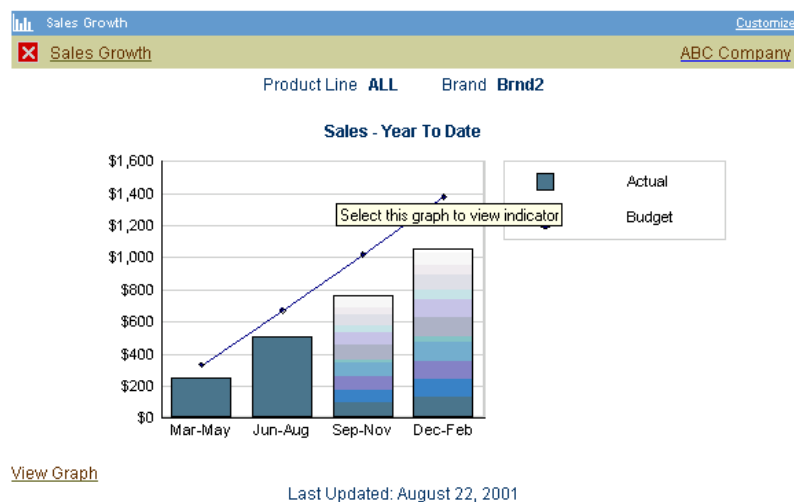


このタイプのポートレットについて注意すべき特徴は次のとおりです。

- エンド・ユーザーの場合、アクセス可能な各スコアカード内の指標により、1 つ以上の指標グラフ・ポートレットをポータル・ページでカスタマイズできます。
- グラフ・ポートレットには必ず、デフォルト設定（デフォルト・メジャー、デフォルト系列、デフォルト計算およびデフォルト・ディメンション）された指標グラフが表示されます。使用可能な任意の指標を選択できますが、指標のデフォルトをポートレット用には変更できません。
- ポートレット・フレームの左側にあるポートレットの 1 つ目のタイトルは、ポートレット名に相当します。この名称は、カスタマイズ・ページの「ポートレット名」で変更できます。
- ポートレット・フレームの右側にある 2 つ目のタイトルは、カスタマイズ・リンクです。このリンクをクリックすると、BSC グラフ・ポートレットをカスタマイズできます。
- ポートレット・フレームの左側にある 2 行目のタイトルは、指標名を示します。これは、アプリケーションの指標グラフに移動できるアクティブ・リンクです。ポートレットでは、親のデフォルト・メジャーのみが表示されるため、依存メジャーまたはデータ系列などの詳細を参照する場合はリンクをクリックします。
- 指標名の横に、指標のカラーを示す警告カラーが表示されます。

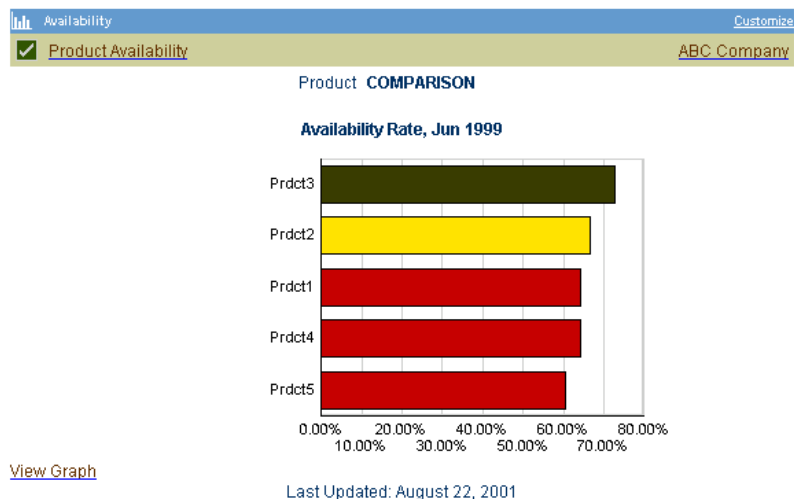
- ポートレット・フレームの右側にある 2 行目のタイトルは、スコアカード名に相当します。このリンクをクリックして、メイン・スコアカード・ビューに移動できます。
- ディメンションの下中央にある 2 目のタイトルは、親のデフォルト・オプションと、デフォルトでグラフに定義されている計算を示します（次の例 [図 D-7] では、「売上」がメジャーで「年累計」が計算です）。

図 D-7 BSC グラフ・ポートレット：年累計



様々な項目を評価する指標（比較グラフ）の場合、このタイトルには比較対象の期間が含まれます。

図 D-8 BSC グラフ・ポートレット：比較



- 「詳細」リンクが表示される場合がありますが、これはグラフ・ポートレットにグラフの値セットのみが表示されていることを示します。これは通常、デフォルトで表示されるディメンション値のみが表示される比較グラフまたは損益指標において表示されます。ポートレット内のトレンド・グラフまたは比較グラフで他の値を表示するためのリンクはすべて、クリックするとフル・アプリケーション・モードの「指標」ページに移動します。
- 「指標の表示」リンクをクリックすると、アプリケーションの指標グラフにナビゲートできます。

- 今回のバージョンのポートレット・カスタマイズでは、シミュレーション・ツリーを表す指標は使用できません。
- バランス・スコアカードでユーザーの職責について定義されたセキュリティ権限により、グラフの表示が影響されます。たとえば、INDICATOR 内の特定のディメンション値のみ表示されるように、ユーザーの職責が定義されている場合、ポートレットについて選択されたグラフでは、これらの値のみ表示されます。したがって、システム構成の段階で、ユーザーに対して定義されたセキュリティ権限を理解しておく必要があります。

既存の指標ポートレットをカスタマイズする手順は次のとおりです。

1. 職責を選択します。

ユーザーの職責により、ユーザーがアクセスできるスコアカードがフィルタリングされます。複数の職責が割り当てられている場合、職責を変更するには、ドロップダウン・リストから選択します。職責を選択すると、ユーザーが選択するスコアカードおよび指標のリストが変更されます。

2. スコアカードを選択します。

職責によっては、1つ以上のスコアカードが割り当てられている場合があります。複数のスコアカードが割り当てられている場合、スコアカードを変更するには、ドロップダウン・リストから選択します。スコアカードを選択すると指標が変更され、ポートレットに表示する指標を選択する必要があります。

3. 指標を選択します。

選択したスコアカード、およびそのスコアカード内でユーザーに割り当てられている指標権限に応じて、その特定のスコアカードに対して選択する指標のリストが表示されます。選択できるのは1度に1つのみであり、同じまたは別のスコアカードから他の指標を選択する必要がある場合は、表示する新規スコアカードおよび新規指標を選択するプロセスを繰り返します。

4. ポートレットを設定します。

このセクションでは、ポートレット・フレームの1行目に表示されるタイトルに相当するポートレット名を変更できます。初めて指標を選択した場合のデフォルト名は、常に指標名となります。このタイトルを変更する場合、指標または目標の名称が他の行に表示されていないことを確認してから、その名称をそのまま維持するか、指標または目標の意味を補足するテキストを追加できます。

Oracle Portal から BSC ポートレットをカスタマイズする際の特別な考慮事項

Oracle Portal テクノロジを使用してバランス・スコアカード・ポートレットを構成することもできます。

Oracle Portal で OBSC ポートレットを構成する手順は、次のとおりです。

1. ポートレットを組み込むタブを選択します。
2. 「カスタマイズ」ボタンをクリックします。
3. ポートレットをリージョンに追加するには、「ポートレットの追加」アイコンをクリックします。
4. 「一般アプリケーション・ポートレット」ボタンを選択します。
5. 3つのOBSCポートレット（「BSC 指標のリスト・ポートレット」、「BSC グラフ・ポートレット」または「BSC カスタム・ビュー・ポートレット」）から1つ選択し、「ポートレットの追加」ボタンと「OK」ボタンを順番に選択します。
6. ポートレット・ウィンドウで「カスタマイズ」ボタンを選択し、選択したポートレットのタイプに従って必要なフィールドに入力して、ポートレット設定をカスタマイズします。

この後の項では、各バランス・スコアカード・ポートレットをカスタマイズする手順について個別に説明します。

「BSC 指標リスト」ポートレットのカスタマイズ

「BSC 指標リスト」ポートレットには、次の特性があります。

- このポートレットには、監視対象となる重要な目標または指標のリストを表示できます。カスタマイズ手順については、**Oracle Portal** におけるバランス・スコアカードのグラフ、指標リストおよびカスタム・ビュー・ポートレットのカスタマイズに関する説明を参照してください。
- 「BSC 指標リスト」ポートレットに表示される「指標のリスト」は、常に特定のスコアカードに属します。
- このポートレットには「スコアカード」リンクがあり、クリックするとバランス・スコアカード・アプリケーションと表示された指標を含むスコアカードに移動できます。
- リストの各指標にはアクティブ・リンクがあり、BSC アプリケーションの「指標」ページに移動できます。
- リストの各指標の名称の隣に、その指標または目標のパフォーマンスのステータスを示すカラーが表示されます。バランス・スコアカードでは、1つの指標または目標が常に、カラー・ドライバであるデフォルト・メジャーを指すことに注意してください。指標のステータスを導くデフォルト・オプションの詳細を取得するには、ポートレットで使用可能な「指標」リンクをクリックします。
- 通常、リストでは、目標または指標の前にグループ名が表示されます。このグループ名は、指標または目標が属している視点、テーマまたはグループ・カテゴリを示します。これはオプション・フィールドであり、ポートレットの構成中に表示または非表示にするように選択できます。
- すべての詳細を表示するように構成されているポートレットには、目標または指標ごとに「実績」、「計画」、「変動」、「%（計画）」という4つの列が表示されます。これらの詳細を表示するかどうかは、ポートレットを構成するユーザーが使用可能なオプションです。

「指標のリスト」ポートレットをカスタマイズする手順は次のとおりです。

1. 「ポータル」ページに「BSC 指標のリスト・ポートレット」タイプを追加します。
2. 「BSC 指標リスト」ポートレットで「カスタマイズ」ボタンを選択します。
3. 「追加」ボタンを選択し、職責に該当するスコアカードを選択します。最初に職責を選択し、アクセスできるスコアカードをフィルタリングする必要があります。
4. 選択したスコアカードから、ポートレットに組み込む目標または指標を選択します。
5. 「ポートレット設定」セクションで、各目標または指標について表示する詳細レベルを指定します。
6. 指標の定義完了後に「終了」ボタンをクリックします。

「ポートレット設定」

この画面では、戦略目標や指標を削除または追加し、選択した指標または目標ごとにグループ名と「実績」、「計画」、「変動」、「%（計画）」などの詳細を表示するかどうかを選択できます。

「BSC カスタム・ビュー」ポートレットのカスタマイズ

図 D-9 カスタム・ビュー・ポートレット



これは、前述した従来の BSC ポートレットに最近追加されたポートレットです。このタイプのポートレットを使用すると、BSC システム内で構成されたカスタム・ビューに、このビューのすべてのグラフと機能を取り込むことができます。バランス・スコアカードで使用可能なカスタム・ビューは、次の点できわめて強力であることに注意してください。

1. 任意のグラフィック・アプリケーションで作成されたグラフ設計やイメージを、BSC にカスタム・ビューとしてインポートできます。
2. 1 つのカスタム・ビューに複数のリンクを組み込むことができます。これにより、ユーザーは新規ビューや他の複数の関連ビューにドリルダウンできます。
3. 1 つのカスタム・ビューに複数の起動パッドを使用し、各起動パッドに目標、指標またはビューの関連情報への複数のリンクを含めることができます。たとえば、関連レポートや他のビジネス・インテリジェンス・ワークブックへのリンク、またはビューや目標に関する有効な情報を提供するその他のリンクを含めることができます。
4. カスタム・ビューには、カスタム・メジャーや事前シード済メジャーを含む目標を表示でき、各目標やメジャーには、そのビューに含まれる各目標の実績対計画をわかりやすく示す警告カラーを表示できます。

これらの機能はいずれも、バランス・スコアカード・アプリケーションで構成できるのみでなく、BSC タイプのポートレットとしても定義できます。

各タイプのポートレットの構成については後述します。

注意： ポートレットとして定義する必要のあるカスタム・ビューのサイズが、ポータルとポートレットでは検証されないことに注意してください。そのため、作成するビューを設計者またはシステム管理者と調整し、ポータルに適したビューを区別する必要があります。この調整を行わないと、選択したビューが大きすぎた場合に、構成された他のポートレットの画面上の位置に影響する可能性があります。

「カスタム・ビュー」ポートレットをカスタマイズする手順は次のとおりです。

1. 「ポータル」 ページに「バランス・スコアカード・カスタム・ビュー・ポートレット」 タイプを追加します。
2. 「カスタム・ビュー」 ポートレットで「カスタマイズ」 ボタンを選択します。
3. 職責を選択します。
4. 職責で使用可能なスコアカードを選択します。
5. ポートレットに表示するカスタム・ビューを選択します。
6. ビューの選択を完了した後に「終了」 ボタンをクリックします。

注意：「カスタム・ビュー」ポートレットで使用可能なビューはすべて、サイズに関係なくバランス・スコアカード・システムで設計されたカスタム・ビューです。カスタム・ビューの作成を担当するシステム管理者または設計者には、ポートレットとしての使用に適したカスタム・ビューを表す特殊マークまたは名称を作成することをお勧めします。それ以外の場合、ポートレットとして選択されたカスタム・ビューが大きすぎると、「ポータル」ページ上のスペースに問題が生じ、他のポートレットの表示位置に影響する可能性があります。この場合、「カスタム・ビュー」ポートレットが画面全体を占めて、他のポートレットが画面領域の外に移動する場合があります。エンド・ユーザーは、「ポータル」ページに組み込む前に、どのポートレットが適切であるかを確認してください。

指標ポートレットのカスタマイズに関する特別な考慮事項

ポートレットをカスタマイズする場合、次の点に注意してください。

- スコアカードまたは指標を選択していない状態で指標ポートレットを初めてカスタマイズする場合、ポートレットは空で、ポートレットをカスタマイズするかどうかを確認するメッセージが表示されます。
- 指標ポートレットがすでにカスタマイズされている場合、指標の構成の一部が変更されている、またはこの指標に対するユーザーのアクセス権限が変更されていることを示す別のメッセージが表示される場合があります。
- さらに、ネットワークあるいはサーバーの問題に関連したエラー・メッセージ、またはシステム環境に関連した偶発的なエラーが表示される場合があります。この場合は、ページの再ロードをお勧めしますが、それでも問題が解消されない場合はシステム管理者に連絡してください。
- 指標リストから使用不可として表示される指標は、シミュレーション・ツリーのみです。この場合、このタイプの指標を選択するためのラジオ・ボタンは使用不可になります。

バランス・スコアカードについて

バランス・スコアカード・ビューワのリリース番号を BSC ビューワで確認するには、「Oracle Balanced Scorecard について」リンクをクリックします。

新規および既存の職責への BSC ポートレットの追加

BSC がインストールされている場合、「バランス・スコアカード・マネージャ」および「バランス・スコアカード・デザイン」職責には、BSC ポートレットへのアクセス権があります。

システム管理者は、新規および既存の職責について、作成する各職責の特定のメニューにポートレットへのアクセス権を付与する必要があります。システム管理者が付与する必要があるのは、カスタム・ポートレットへのアクセス権のみです。グラフ・ポートレットまたは指標リスト・ポートレットへのアクセス権を付与する必要はありません。

特定の BSC 職責メニューにポートレットへのアクセス権を追加する手順は、次のとおりです。

1. 職責用のメニューを識別します。
2. Oracle Applications にシステム管理者としてログオンします。
3. ポートレット・アクセス権を追加する職責のメイン・メニューを検索します。職責のメイン・メニューがポートレットの追加先となるため、そのメニュー名を知る必要があります。
 - a. 「機能」ボックスで「セキュリティ」→「職責」→「定義」の順番に選択します。
 - b. ポートレットを追加する職責を検索します。
 - c. メニュー名をメモします。これは、手順 2 でポートレット・アクセス権を付与するために確認しておく必要のある職責のデフォルト・メニューです。
 - d. 「職責」ウィンドウを閉じます。

図 D-10 職責用のメニューの検索

4. 職責のメイン・メニューにポートレットを追加します。
5. 「機能」ボックスで「アプリ」→「メニュー」を選択します。
6. メニューを問い合わせます。
7. アクセス権を付与するポートレットごとにレコードを追加します。次の表に、各バランス・スコアカード・ポートレットの「プロンプト」、「機能」および「説明」の値を示します。

表 D-1 バランス・スコアカード・ポートレットの「プロンプト」、「機能」および「説明」

プロンプト	機能	説明
BSC グラフ・ポートレット	BSC グラフ・ポートレット	Oracle Portal のバランス・スコアカードグラフ・ポートレット
BSC 指標のリスト・ポートレット	BSC 指標のリスト・ポートレット	Oracle Portal のバランス・スコアカード指標のリスト・ポートレット
BSC カスタム・ビュー・ポートレット	BSC カスタム・ビュー・ポートレット	バランス・スコアカード・カスタム・ビュー・ポートレット

8. 「付与」チェック・ボックスを選択します。
9. 変更内容を保存します。

索引

B

BSC 設定, 2-2
BSC ローダー, 5-1

K

KPI プロパティ、設定、戦略マップ・ビュー, 3-45
KPI、実装ステージでの更新, 6-2
KPI、シミュレーション・ツリー, 3-53
KPI、損益, 3-53, 3-63
KPI、単一棒, 3-53
KPI、複数棒, 3-53
KPI、本番ステージでの変更, 6-3

O

OBSC 管理者, 7-1
OBSC システムの構成, 2-3
OBSC システムの削除, 2-5
OBSC システムの作成, 2-3
OBSC システムの追加, 2-4
OBSC システムの変更, 2-5
OBSC セッションの管理, 2-9
OBSC 設定, 2-1
OBSC の移入と配置, 6-1
OBSC の設計プロセス, 4-2

あ

アクセス、スコアカード, 7-2
アクセス、タブ, 7-2

い

イメージ、構成, 3-183

か

会計年度と会計月、設定, 3-116
活動期間, 3-102
カラー・トリガー, 3-119, 3-121
カラー・トリガー、シミュレーション・ツリー KPI,
3-61
カラー・メソッド、定義, 3-121

き

共有 KPI、構成, 3-138

く

グラフ、トレンド、警告カラーの計算, 3-121
グラフ、比較、警告カラーの計算, 3-121
グループ・プロパティ, 3-50
グループ、削除, 3-50
グローバル・リスト値, 7-3

け

警告カラー、シミュレーション・ツリー、計算, 3-121
警告カラー、トレンド・グラフ、計算, 3-121
警告カラー、比較グラフ、計算, 3-121
警告カラー、ユーザー・カスタマイズ, 3-122
計算済 KPI, 4-3, 4-12
計算、デフォルトとしての「年累計」, 3-114
原因と結果の関連、定義, 3-117
原因と結果の分析, 3-117

さ

サービス名, 2-5

し

システム・イメージ、構成, 3-183
システム構成, 2-3
システム摘要, 2-5
システム表, 4-11
システム名, 2-5
事前計算済 KPI, 4-3, 4-12
実装 OBSC システム、作成, 6-2
実装ステージ, 6-1, 6-2
指標、シミュレーション・ツリー, 3-53
指標、損益, 3-53, 3-63
指標、単一棒, 3-53
指標、複数棒, 3-53
シミュレーション・ツリー、警告カラー、計算, 3-121
職責、ユーザー、定義, 7-2

す

ステージ、OBSC の配置, 6-1

せ

セキュリティ、KPI, 7-3
セキュリティ、ディメンション値, 7-3
設定ステージ, 6-1
戦略マップ・ビュー, 3-43

そ

ソースからターゲット・システムへの移行, 2-6

つ

月と年度、設定, 3-116

て

ディメンション値のセキュリティ, 7-3
ディメンション値のフィルタリング, 7-3
ディメンション・プロパティ、全て, 3-120
ディメンション・プロパティ、比較, 3-120
データセット、定義、シミュレーション・ツリー KPI,
3-59
データ・ソース名, 2-5
データベースの設定, 2-3
データベース・リンクの作成, 2-6
テスト実装 OBSC システム、作成, 6-2

と

登録済システム名, 2-3
登録済システム名、削除, 2-5
登録済システム名、追加, 2-4
登録済システム名、変更, 2-5
登録名、プロパティの変更, 2-3
トレンド・グラフ、警告カラーの計算, 3-121

に

入力表, 4-11

ね

年度と月、設定, 3-116

は

バランス・スコアカードの各要素のソース・システム,
3-55

ひ

比較グラフ、警告カラー、計算, 3-121
ビュー、KPI、構成, 3-41
ビュー、戦略マップ, 3-43
表, 4-11

ふ

フィルタリング、ディメンション値, 7-3
フィルタリング、「リスト」ボタンとタブ別フィルタの
違い, 3-180
プロトタイプ・カラー, 3-122
分析オプション, 3-89
分析オプション、デフォルト、定義, 3-120
分析グループ、作成, 3-89

へ

ベンチマーク, 3-114

ほ

本番ステージ, 6-1, 6-3

ま

マスター KPI、構成, 3-138

め

メタデータ・オブティマイザ, 3-1, 4-1
メタデータ・オブティマイザ、構成, 4-2

ゆ

ユーザー職責、定義, 7-2
ユーザー・ボタン, 3-128

り

「リスト」ボタン、制限, 3-179
「リスト」ボタン、設定, 3-178